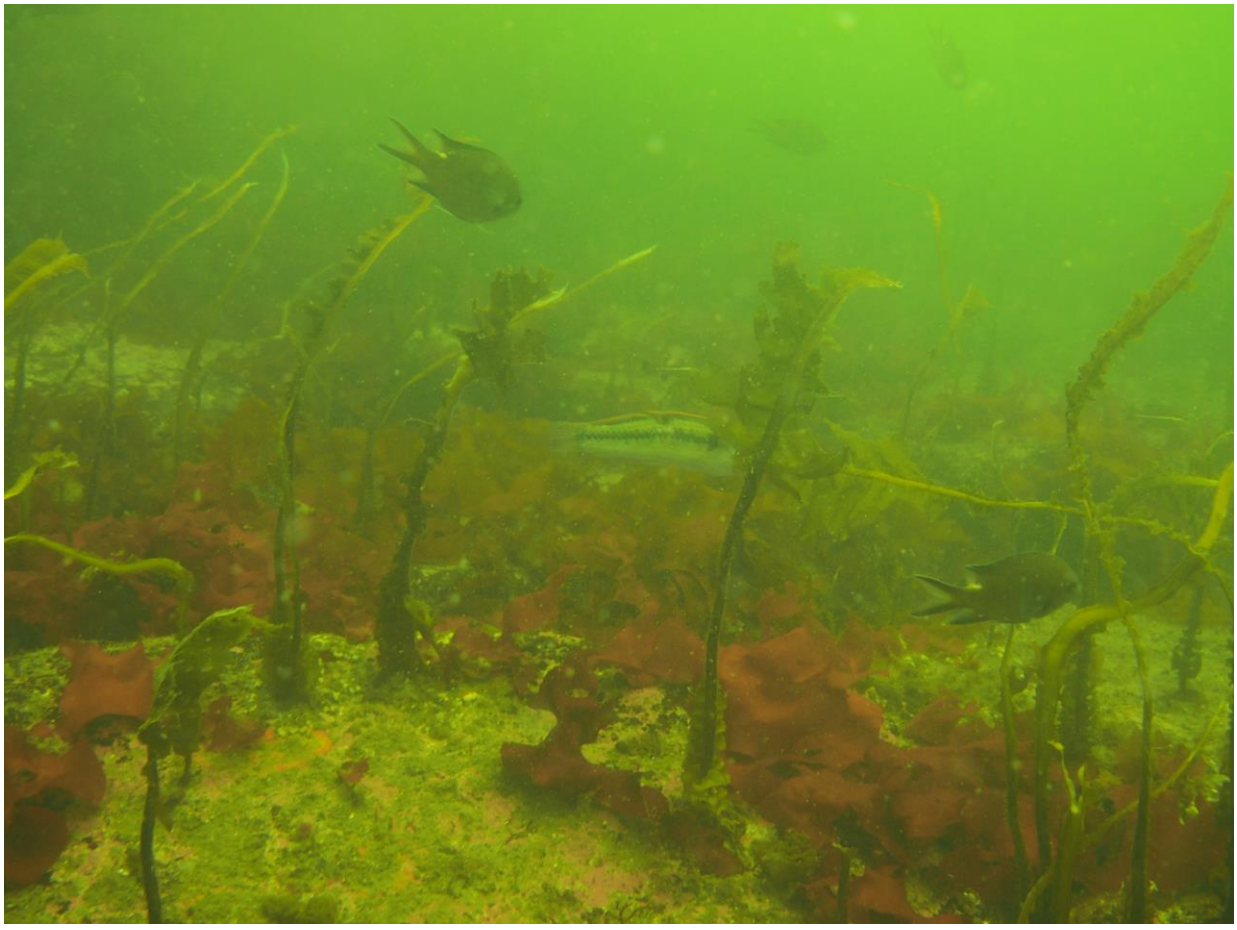
平成３０年度

処分場自然共生調査（海生生物生育状況調査）

報　告　書



平成 30 年 9 月

株式会社エヌ・イー　サポート　大阪支店

目　　次

1 調査概要 1

1-1 調査名称---------- 1
1-2 目　的---------- 1
1-3 調査場所---------- 1
1-4 調査内容---------- 1
1-5 履行期間---------- 1
1-6 請負者---------- 1

2 調査方法 4

2-1 事前周知・手続き等---------- 4
2-2 坪刈りによる付着動植物調査---------- 4
2-3 目視による付着動植物調査---------- 7
2-4 遊泳魚類等調査---------- 8
2-5 水質調査---------- 9
2-6 藻場分布調査---------- 10

3 調査結果 14

3-1 調査実施日---------- 14
3-2 坪刈りによる付着動植物調査---------- 15
3-2-1 植物（海藻） ---------- 15
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 15
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 16
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 17
3-2-2 動物（付着動物） ---------- 19
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 19
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 19
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 19
3-3 目視による付着動植物調査---------- 26
3-3-1 植物（海藻） ---------- 26
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 26
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 29
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 32
3-3-2 動物（付着動物） ---------- 36
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 36
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 39
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 42
3-3-3 ブロック側面、裏面の状況（付着動植物） ---------- 48
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 48
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 52
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 56

3-4 遊泳魚類等調査---------- 58
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 58
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 60
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 62
3-5 水質調査---------- 66
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 66
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 71
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 76
3-6 藻場分布調査---------- 81
3-6-1 代表地点における目視観察結果 ---------- 81
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 81
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 82
3-6-2 代表地点における定量採取結果 ---------- 84
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 84
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 86
3-6-3 藻場分布状況 ---------- 88
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 88
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 131
4 結果のまとめ 172
4-1 付着動植物の状況---------- 172
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 172
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 180
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 187
4-2 遊泳魚類等の状況---------- 197
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 197
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 197
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 198
4-3 水質等の状況---------- 199
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 199
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 200
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 201
4-4 藻場分布の状況---------- 202
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 202
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 204
4-5 まとめ(要約)---------- 206
(1) 神戸沖埋立処分場 ---------- 206
(2) 大阪沖埋立処分場 ---------- 207
(3) 泉大津沖埋立処分場 ---------- 208

・資料編
・写真集

1 調査概要

1-1 調査名称

自然共生調査（海生生物生育状況調査）

1-2 目　的

本調査は、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場および泉大津沖埋立処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認することを目的として実施した。

1-3 調査場所

神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場および泉大津沖埋立処分場の護岸(図 1-1)

1-4 調査内容

調査内容を表 1-1 に示す。

表 1-1　調査内容

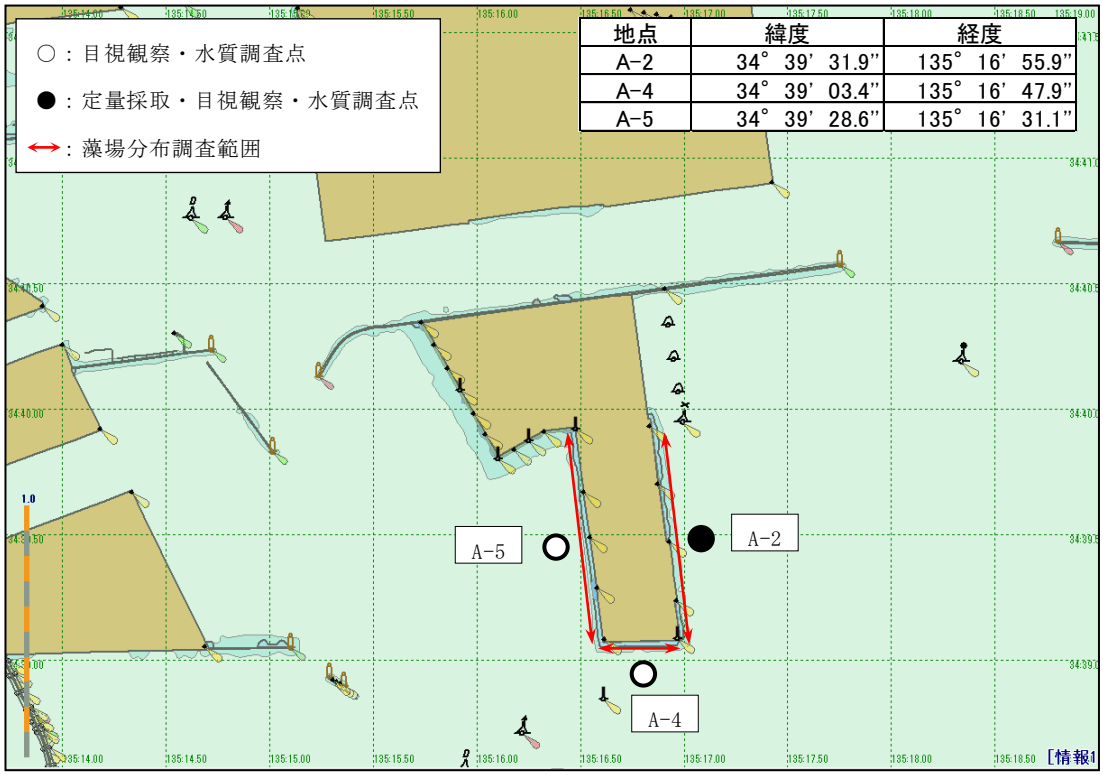
名　称	項　　目	単位	数量	摘　　要
計画・準備				
	計画準備	式	1	
調査実施				
	坪刈りによる付着動植物調査	地点	4	神戸、大阪 各 1 地点、泉大津 2 地点　1 回
	目視による付着動植物調査	地点	10	神戸、大阪 各 3 地点、泉大津 4 地点　1 回
	遊泳魚類等調査	地点	10	神戸、大阪 各 3 地点、泉大津 4 地点　1 回
	水質調査	地点	9	神戸、大阪、泉大津 各 3 地点　1 回
	藻場分布調査	km	7.5	神戸 3.8km、大阪 3.7km　1 回
解析評価				
	調査結果等の解析評価	式	1	
	報告書の作成	式	1	

1-5 履行期間

自：平成 30 年 4 月 19 日　～　至：平成 30 年 9 月 30 日

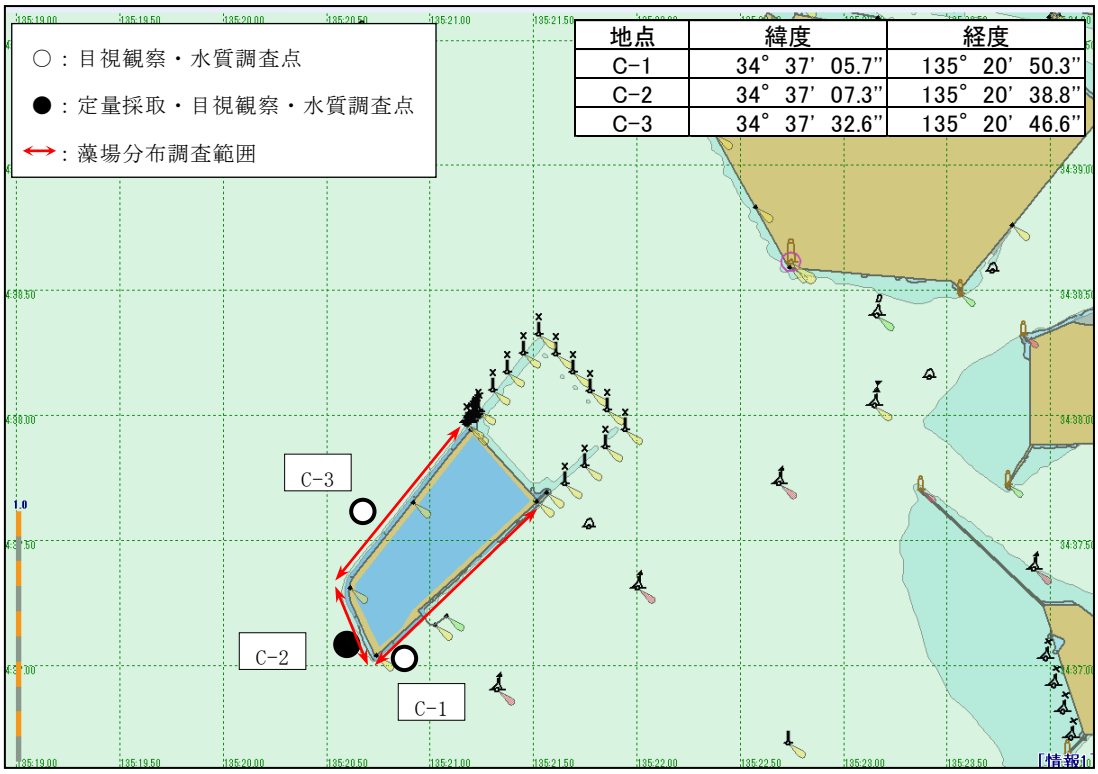
1-6 請負者

株式会社エヌ・イー　サポート　大阪支店



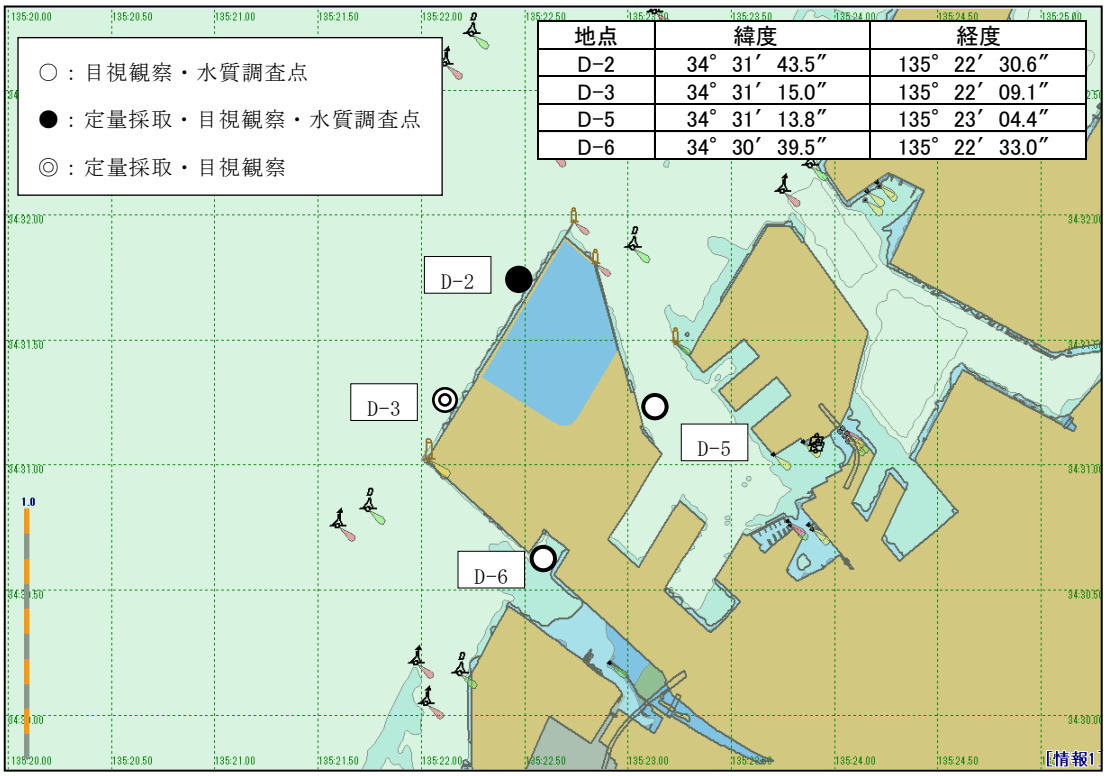
地点	緯度	経度
A-2	34° 39’ 31.9”	135° 16’ 55.9”
A-4	34° 39’ 03.4”	135° 16’ 47.9”
A-5	34° 39’ 28.6”	135° 16’ 31.1”

図 1-1（1）　調査位置図（神戸沖埋立処分場）



地点	緯度	経度
C-1	34° 37’ 05.7”	135° 20’ 50.3”
C-2	34° 37’ 07.3”	135° 20’ 38.8”
C-3	34° 37’ 32.6”	135° 20’ 46.6”

図 1-1（2）　調査位置図（大阪沖埋立処分場）



地点	緯度	経度
D-2	34° 31′ 43.5″	135° 22′ 30.6″
D-3	34° 31′ 15.0″	135° 22′ 09.1″
D-5	34° 31′ 13.8″	135° 23′ 04.4″
D-6	34° 30′ 39.5″	135° 22′ 33.0″

図 1-1（3）　調査位置図（泉大津沖埋立処分場）

2 調査方法

2-1 事前周知・手続き等

関係機関に対して、調査実施に係る内容説明の周知を行った。また同時に、海上保安部（阪神港長宛）に対する港内作業許可申請、兵庫県および大阪府に対して特別採捕許可の申請を行った。

2-2 坪刈りによる付着動植物調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 1 点（A-2)、大阪沖埋立処分場 1 点（C-2)、泉大津沖埋立処分場：2 点（D-2、D-3）の計 4 点において、坪刈りによる動植物の定量採取を行った。

各調査地点で鉛直方向の上層（平均海面±0m)、中層（平均海面-2m)、下層（平均海面-4m）の 3 層で、50cm×50cm の方形枠を設置し、水中カメラを用いて撮影後、採取した。現地で 1mm 目のフルイでふるい分けを行った後、試料容器に分取し持ち帰り、植物については種の同定、種類別湿重量の測定、動物については種の同定、種類別個体数の計測、種類別湿重量の測定を行った。

表 2-1　坪刈りによる付着動植物調査　調査方法等

調査方法等		調査地点
植物（種の同定・種類別湿重量） 動物（種の同定・種類別個体数・湿重量）	坪刈り水深（各点、3 層） 上層：平均海面±0m 中層：平均海面－2m 下層：平均海面－4m	神戸沖埋立処分場：1 点（A-2） 大阪沖埋立処分場：1 点（C-2） 泉大津沖埋立処分場:2 点（D-2、D-3）

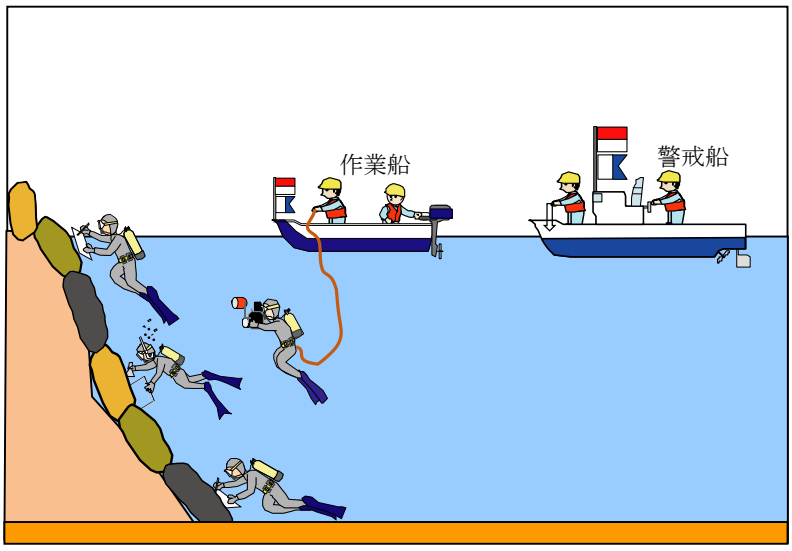


図 2-1　坪刈り、目視等潜水調査　実施状況模式図

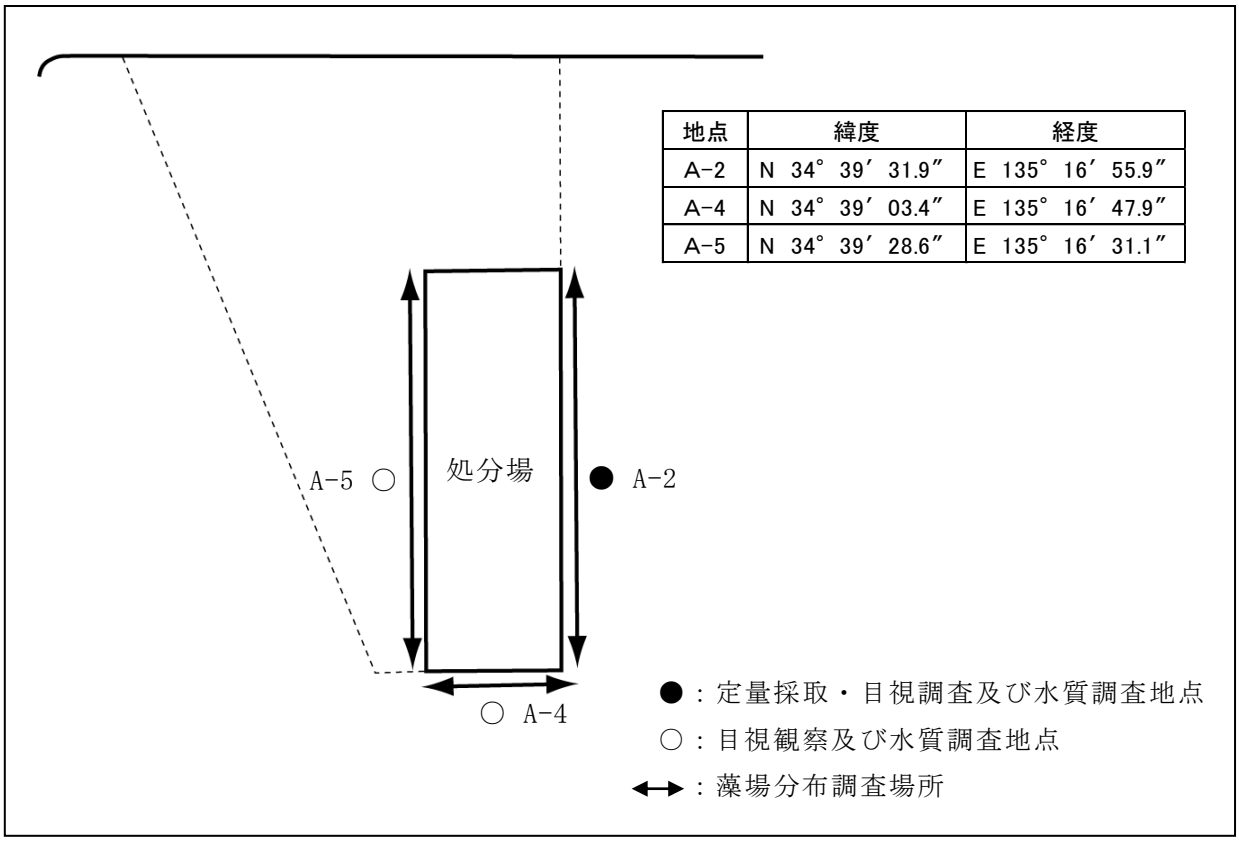


図 2-2(1)　現地調査地点等位置図（神戸沖埋立処分場）

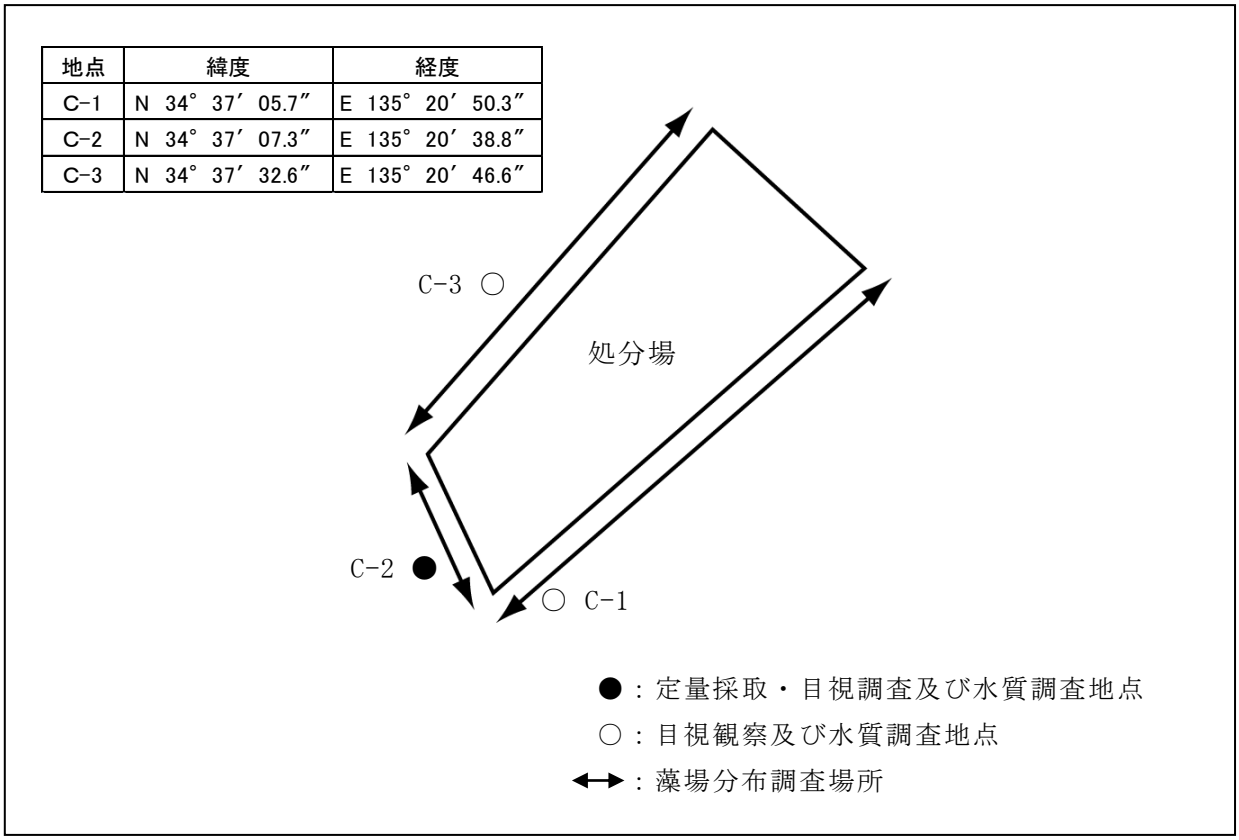
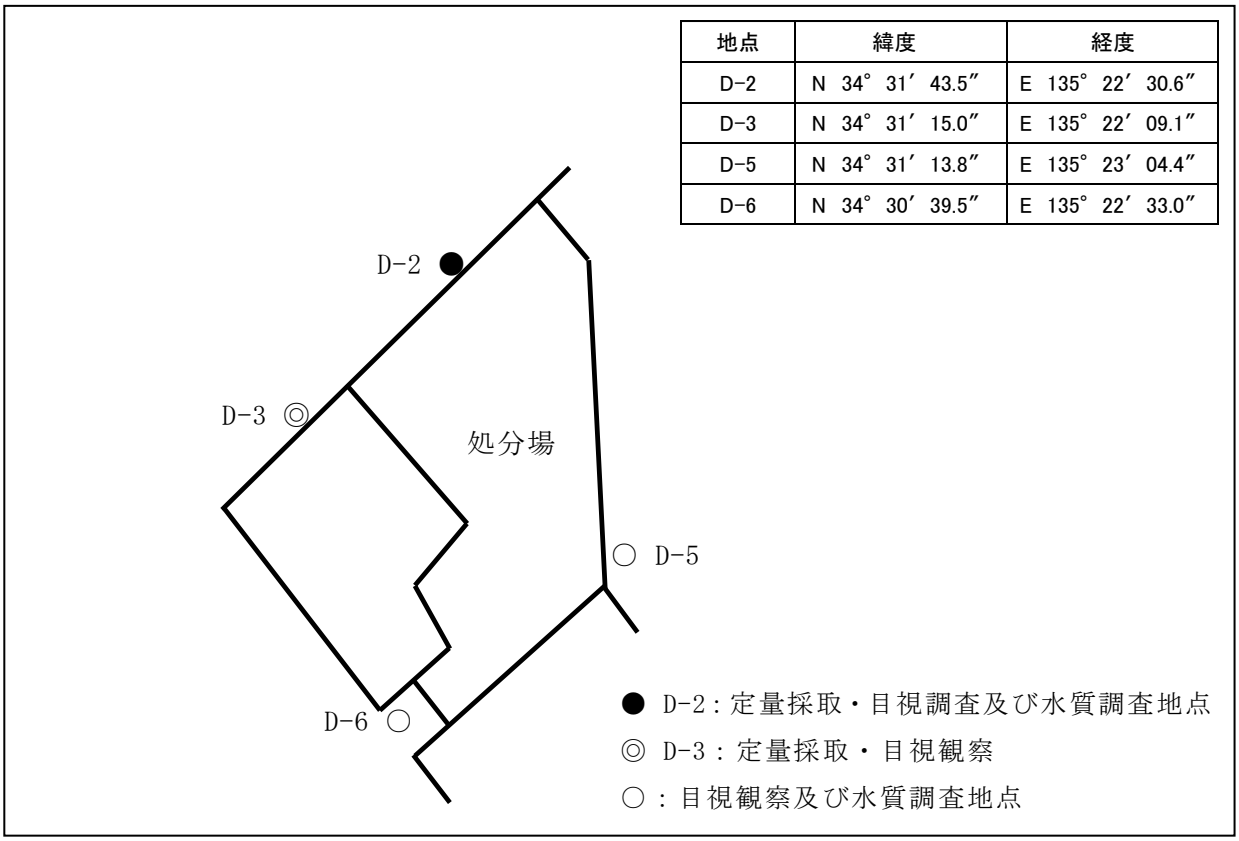


図 2-2(2)　現地調査地点等位置図（大阪沖埋立処分場）



地点	緯度	経度
D-2	N 34° 31′ 43.5″	E 135° 22′ 30.6″
D-3	N 34° 31′ 15.0″	E 135° 22′ 09.1″
D-5	N 34° 31′ 13.8″	E 135° 23′ 04.4″
D-6	N 34° 30′ 39.5″	E 135° 22′ 33.0″

図 2-2(3)　現地調査地点等位置図（泉大津沖埋立処分場）

2-3 目視による付着動植物調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点(A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点(C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）の計 10 点において、目視観察による動植物の観察を行った。

各調査地点で平均水面+1m から 1m 間隔で海底面まで、水深 1m 毎に 50×50cm の方形枠を設置し、枠内の植物（種類別被度)、動物（種類別被度または個体数）の観察を行った。泉大津沖埋立処分場の 2 地点（D-5、D-6）については、エコ岸壁が設置されていたため、遊水室内の上面、側面、下面に分けて全体面の観察を実施した。また、観察箇所については写真撮影による記録を行った。

表 2-2　目視観察よる付着動植物調査　調査方法等

調査方法等		調査地点
目視観察 植物（種類別被度） 動物(種類別被度または個体数)	観察水深帯（各点、1 測線） 平均水面＋1m から 1m 間隔で海底面までを対象	神戸沖埋立処分場：3 点 (A-2、A-4、A-5) 大阪沖埋立処分場：3 点 (C-1、C-2、C-3) 泉大津沖埋立処分場：4 点 (D-2、D-3、D-5、D-6)

2-4 遊泳魚類等調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点(A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点(C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）の計 10 点において、目視観察による遊泳魚類、イカ・タコ類の観察を行った。

各調査地点の護岸周辺に生息している魚類、イカ・タコ類を対象として、潜水目視観察を行い、種類別個体数の記録を行った。なお、個体数は CR 法（表 2-4）によって概略的に把握した。

表 2-3　遊泳魚類等調査　調査方法等

調査方法等		調査地点
潜水目視観察による種類別個体数（CR 法※による）の記録	護岸周辺に生息する魚類	神戸沖埋立処分場：3 点 （A-2、A-4、A-5） 大阪沖埋立処分場：3 点 （C-1、C-2、C-3） 泉大津沖埋立処分場：4 点 （D-2、D-3、D-5、D-6）

※：CR 法　目視観察により確認できた生物の量を段階的に cc（非常に多い）～rr（非常に少ない）の表記で示す目視観察調査結果の記録方法。

表 2-4　CR 法による個体数区分

記　号	個体数区分
rr	1～2 個体
r	3～10 個体
c	11～50 個体
cc	51 個体以上

2-5 水質調査

図 2-2 に示した、神戸沖埋立処分場 3 点(A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 点(C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 3 点（D-2、D-5、D-6）の計 9 点において、多項目水質計による水質調査を行った。

調査船を GPS 測位により所定の位置に誘導した後、調査船上より透明度板を垂下して透明度を計測した。その後、多項目水質計を用いて水温、塩分、ＤＯ、光量子束密度の鉛直測定（海面～海底まで 1m 間隔、海面下 0.5m、海底面上 1m）を行った。

また、調査時の一般気象・海象、水色の記録を行った。

水質調査の調査項目及び方法を表 2-5 に示した。

表 2-5　水質調査　調査方法等

調査項目	調査方法等		調査地点
水温・塩分・ＤＯ	多項目水質計による鉛直測定	海面～海底まで 1m 間隔、 海面下 0.5m 及び海底面+1.0m 透明度は船上から観測	神戸沖埋立処分場：3 点 (A-2、A-4、A-5) 大阪沖埋立処分場：3 点 (C-1、C-2、C-3) 泉大津沖埋立処分場：3 点 (D-2、D-5、D-6)
光量子束密度			
透明度	透明度板による測定		

表 2-6　水質調査　使用機器

項　　目	使用機器
水温・塩分 溶存酸素（ＤＯ） 光量子束密度	多項目水質計　AAQ176 （JFE アドバンテック社製　）

2-6 藻場分布調査

図 2-3 に示した､神戸沖埋立処分場では陸揚げ桟橋の範囲と北護岸を除く護岸(3.8km)、大阪沖埋立処分場では東護岸を除く護岸（3.7km）を調査対象として、藻場分布調査を実施した。

調査範囲の護岸に沿って、水中スクーター等を使用して移動しながら藻場の分布状況、構成種の目視観察を行った。

図 2-3、表 2-8 に示した各調査対象護岸で代表的な地点（各 6 地点）で、地点付近の藻場構成種の目視観察と水中写真撮影を行うとともに、方形枠（50 ㎝×50 ㎝）内の植物を採取し、持ち帰って種類別湿重量の測定を行った。

藻場分布の分析項目及び分析内容を表 2-7 に示す。

これらの結果と付着動植物調査の結果から、護岸延長を 50m 毎、平均海面から法尻までを 1m 間隔で区切ったメッシュ状の藻場分布図を作成した。

表 2-7　藻場分布調査　調査方法等

調査方法等	分析内容等	調査地点（範囲）
藻場構成種の目視観察を各処分場 6 点(測線）で実施。測線間については、水中スクーターを使用して藻場分布範囲の目視確認を行った。坪刈り調査は、各処分場あたり、6 地点で実施した。	種の同定 種類別湿重量の測定	神戸沖埋立処分場： 周囲 3.8km 大阪沖埋立処分場： 周囲 3.7km

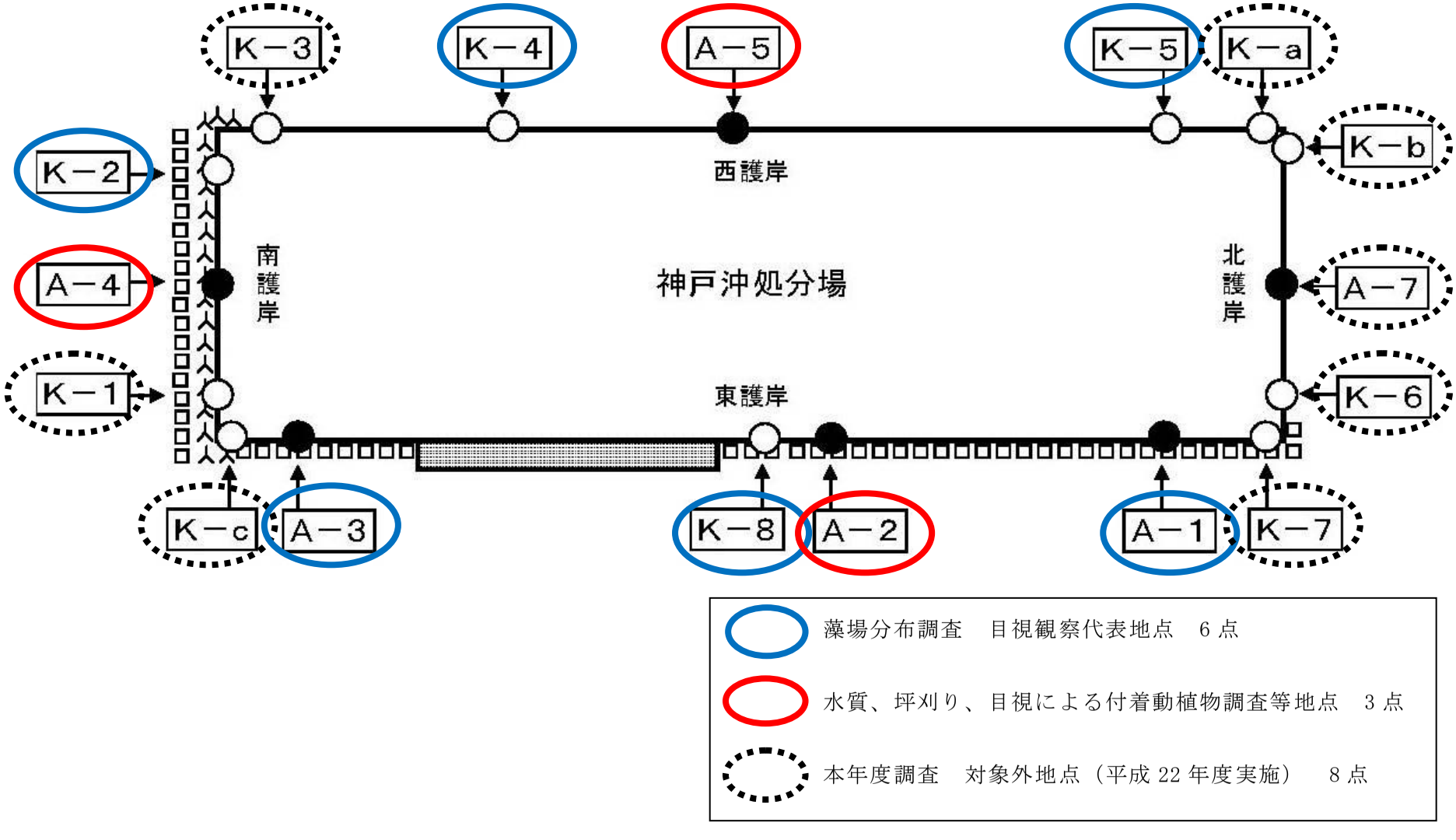


図 2-3（1）　藻場分布調査　目視観察　代表地点位置図　神戸沖埋立処分場

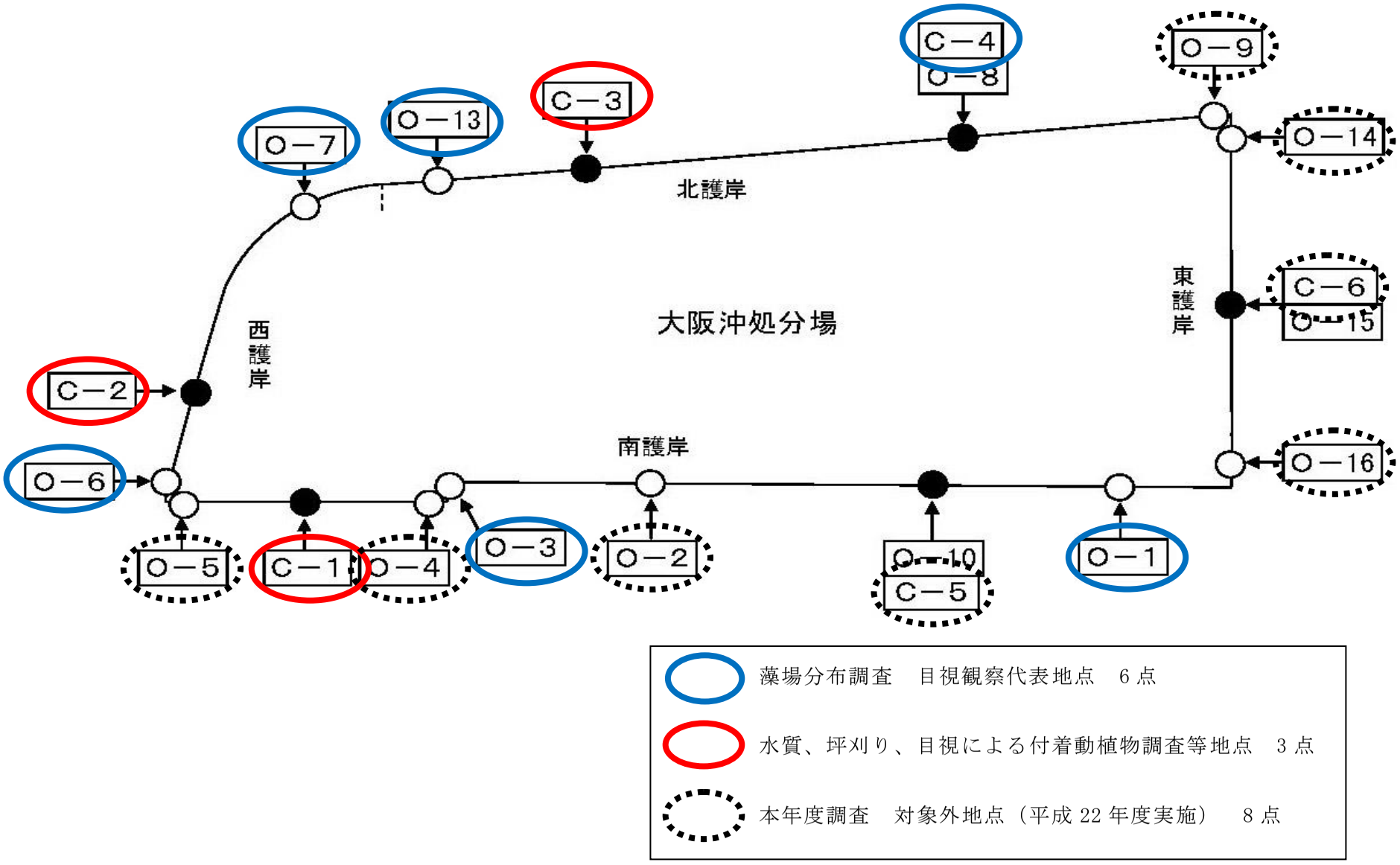


図 2-3（2）　藻場分布調査　目視観察　代表地点位置図　大阪沖埋立処分場

表 2-8 (1)　藻場分布調査　目視観察代表地点等位置　緯度経度　【神戸沖埋立処分場】

地点	緯度	経度	備考
A－1	N 34° 39′ 53.7″	E 135° 16′ 51.7″	藻場分布調査　代表地点
A－2	N 34° 39′ 31.9″	E 135° 16′ 55.9″	水質、付着動植物等調査地点
A－3	N 34° 39′ 10.3″	E 135° 16′ 59.9″	藻場分布調査　代表地点
A－4	N 34° 39′ 03.4″	E 135° 16′ 47.9″	水質、付着動植物等調査地点
A－5	N 34° 39′ 28.6″	E 135° 16′ 31.1″	水質、付着動植物等調査地点
A－7	N 34° 39′ 58.2″	E 135° 16′ 39.1″	本年度調査対象外
K－1	N 34° 39′ 02.9″	E 135° 16′ 58.0″	本年度調査対象外
K－2	N 34° 39′ 03.4″	E 135° 16′ 36.2″	藻場分布調査　代表地点
K－3	N 34° 39′ 04.8″	E 135° 16′ 34.9″	本年度調査対象外
K－4	N 34° 39′ 09.4″	E 135° 16′ 33.4″	藻場分布調査　代表地点
K－5	N 34° 39′ 53.5″	E 135° 16′ 26.3″	藻場分布調査　代表地点
K－6	N 34° 39′ 59.2″	E 135° 16′ 50.2″	本年度調査対象外
K－7	N 34° 39′ 58.0″	E 135° 16′ 52.1″	本年度調査対象外
K－8	N 34° 39′ 31.6″	E 135° 16′ 55.4″	藻場分布調査　代表地点
K－a	N 34° 39′ 54.8″	E 135° 16′ 26.9″	本年度調査対象外
K－b	N 34° 39′ 58.2″	E 135° 16′ 28.9″	本年度調査対象外
K－c	N 34° 39′ 05.5″	E 135° 17′ 00.4″	本年度調査対象外

表 2-8 (2)　藻場分布調査　目視観察代表地点等位置　緯度経度　【大阪沖埋立処分場】

地点	緯度	経度	備考
C－1	N 34° 37′ 05.7″	E 135° 20′ 50.3″	水質、付着動植物等調査地点
C－2	N 34° 37′ 07.3″	E 135° 20′ 38.8″	水質、付着動植物等調査地点
C－3	N 34° 37′ 32.6″	E 135° 20′ 46.6″	水質、付着動植物等調査地点
C－4	N 34° 37′ 47.0″	E 135° 20′ 59.0″	藻場分布調査　代表地点
C－5	N 34° 37′ 29.2″	E 135° 21′ 20.1″	本年度調査対象外
C－6	N 34° 37′ 48.8″	E 135° 21′ 21.5″	本年度調査対象外
O－1	N 34° 37′ 35.6″	E 135° 21′ 28.7″	藻場分布調査　代表地点
O－2	N 34° 37′ 18.2″	E 135° 21′ 05.8″	本年度調査対象外
O－3	N 34° 37′ 11.9″	E 135° 20′ 59.3″	藻場分布調査　代表地点
O－4	N 34° 37′ 10.9″	E 135° 20′ 57.1″	本年度調査対象外
O－5	N 34° 37′ 01.9″	E 135° 20′ 45.2″	本年度調査対象外
O－6	N 34° 37′ 02.9″	E 135° 20′ 42.4″	藻場分布調査　代表地点
O－7	N 34° 37′ 19.0″	E 135° 20′ 34.8″	藻場分布調査　代表地点
O－9	N 34° 37′ 56.6″	E 135° 21′ 09.7″	本年度調査対象外
O－13	N 34° 37′ 25.8″	E 135° 20′ 39.4″	藻場分布調査　代表地点
O－14	N 34° 37′ 56.5″	E 135° 21′ 12.6″	本年度調査対象外
O－16	N 34° 37′ 40.2″	E 135° 21′ 30.6″	本年度調査対象外

3 調査結果

3-1 調査実施日

各現地調査は、関係機関との調整、港内作業および特別採捕の許可を受け（表 3-2)、表 3-1 に示す平成 30 年 6 月 2 日（神戸沖埋立処分場)、平成 30 年 6 月 3 日（大阪沖埋立処分場）および平成 28 年 5 月 26 日（泉大津沖埋立処分場）に実施した。

表 3-1　現地調査実施日

調査箇所	調査実施日
神戸沖埋立処分場	平成 30 年 6 月 2 日（土）
大阪沖埋立処分場	平成 30 年 6 月 3 日（日）
泉大津沖埋立処分場	平成 30 年 5 月 26 日（土）

表 3-2　現地調査に関する港内作業および特別採捕許可

種　別	調査箇所	海　域	許可者	許可日	許可番号等
港内作業許可	大阪沖	阪神港大阪区	阪神港長	平成 30 年 5 月 21 日	大第 288 号
	神戸沖	阪神港神戸区	阪神港長	平成 30 年 4 月 25 日	神第 204 号
	泉大津沖	阪神港堺泉北区	阪神港長	平成 30 年 5 月 9 日	堺第 133 号
特別採捕許可	大阪沖	大阪市地先	大阪府知事	平成 30 年 5 月 18 日	水 第1053-19 号 特 第 30-19 号
	泉大津沖	泉大津市地先			
	神戸沖	神戸市地先	兵庫県知事	平成 30 年 5 月 9 日	30 加特第 4 号

3-2 坪刈りによる付着動植物調査

3-2-1 植物（海藻）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-3 に神戸沖埋立処分場（A-2）における坪刈り調査の結果を示した。上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する海藻類を採取し、同定および湿重量の計測を行った。図 3-1 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

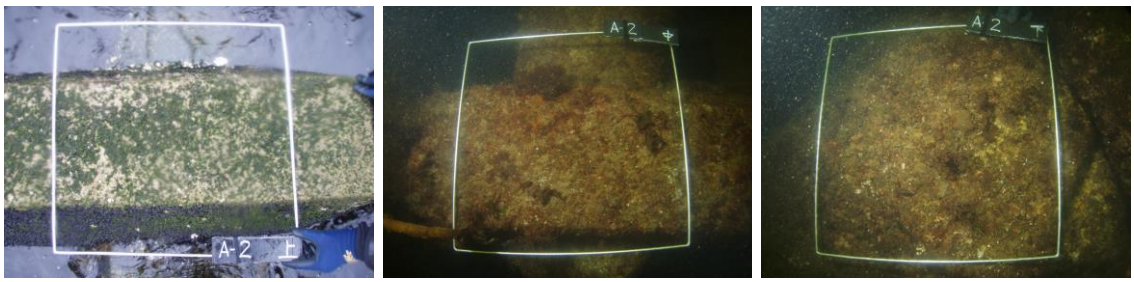
神戸沖では、7～14 種の海藻が出現し、中層、下層の種類数が多かった。湿重量では 16.44～142.41（g/0. 25 ㎡）の海藻が採取され、アオサ属の繁茂する上層で最も多くなっていた。

種別では上層ではアオサ属、中層ではシダモク、下層ではムカデノリが最も多く確認され、藻場を形成する大型褐藻として、中層でシダモク、タマハハキモクがみられた。

表 3-3　坪刈り調査結果　神戸沖埋立処分場（A-2　海藻）

							調査地点	神戸沖		
							枠番号	A-2-上	A-2-中	A-2-下
No.	門	綱	目	科	種名	/ 項目		湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属		0.71		
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属		134.49	+	+
3	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Chaetomorpha sp.	ｼﾞｭｽﾞﾓ属				
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属		7.21	+	0.09
5	緑色植物	緑藻	ﾐﾙ	ﾐﾙ	Codium fragile	ﾐﾙ				
6	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾌｸﾛﾉﾘ				0.05
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ				
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum filicinum	ｼﾀﾞﾓｸ			54.88	
9	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			0.55	
10	紅色植物	紅藻	ｳｼｹﾉﾘ	ｳｼｹﾉﾘ	Pyropia suborbiculata	ﾏﾙﾊﾞｱﾏﾉﾘ		+		
11	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidiophycus freshwateri	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ		+		
12	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ			0.02	+
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾉﾓｯｶ	Caulacanthus ustulatus	ｲﾉﾀﾞﾝﾂｳ		+		
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ				
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus giganteus	ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ				
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus ocellatus	ﾂﾉﾏﾀ				
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属				0.42
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiacica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			0.82	15.68
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ			1.93	
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ			0.04	
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属				
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ	Hypnea sp.	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ属			0.02	
23	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾜﾉｶﾜ	Peyssonneliaceae	ｲﾜﾉｶﾜ科				
24	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ				
25	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ			0.22	
26	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ｳﾂﾅｷﾞｿｳ	Champia parvula	ｳﾂﾅｷﾞｿｳ				
27	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ				
28	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Rhodymenia intricata	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ				
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ属			+	0.02
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属			+	
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻﾈ属				0.14
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科				+
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia senticulosa	ｼｮｳｼﾞｮｳｹﾉﾘ				
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属			+	0.04
35	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia linearis	ﾎｿｺﾞﾈﾓ				
36	藍色植物	藍藻	ー	ー	Cyanophyceae	藍藻綱		+	+	
							種類数	7	14	10
							湿重量(g)合計	142.41	58.48	16.44

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上　層　　中　層　　下　層

図 3-1　坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-4 に大阪沖埋立処分場（C-2）における坪刈り調査の結果を示した。上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する海藻類を採取し、同定および湿重量の計測を行った。図 3-2 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

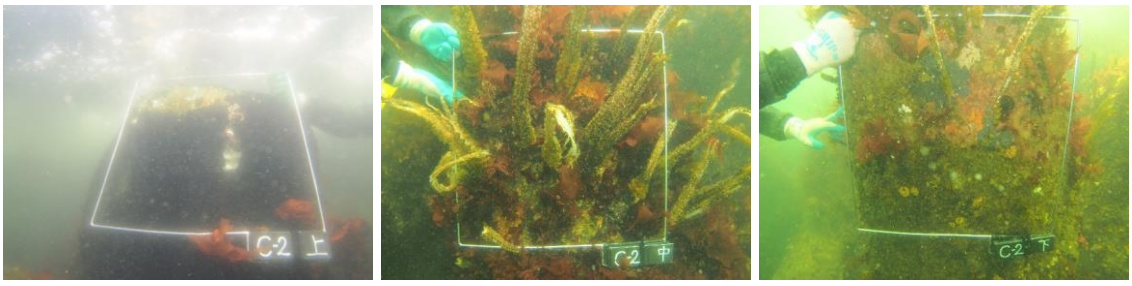
大阪沖では、10～19 種の海藻が確認され、中層、下層の種類数が多かった。湿重量では 90.94～1,210.95（g/0．25 ㎡）の海藻が採取され、ワカメの繁茂する中層で最も多くなっていた。

種別では上層ではフダラク、中層、下層ではワカメが最も多く、藻場を形成する大型褐藻として、上層から下層までワカメが、中層でタマハハキモクがみられた。

表 3-4　坪刈り調査結果　大阪沖埋立処分場（C-2）

						調査地点	大阪沖		
						枠番号	C-2-上	C-2-中	C-2-下
No.	門	綱	目	科	種名	項目	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属	+		
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属	0.34	+	
3	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Chaetomorpha sp.	ｼﾞｭｽﾞﾓ属			+
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	+		+
5	緑色植物	緑藻	ﾐﾙ	ﾐﾙ	Codium fragile	ﾐﾙ			
6	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾌｸﾛﾉﾘ			+
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ	0.62	917.86	60.91
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum filicinum	ｼﾀﾞﾓｸ			
9	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		10.39	
10	紅色植物	紅藻	ｳｼｹﾉﾘ	ｳｼｹﾉﾘ	Pyropia suborbiculata	ﾏﾙﾊﾞｱﾏﾉﾘ	+		
11	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidiophycus freshwateri	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ			
12	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ			0.14
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾉﾓｯｶ	Caulacanthus ustulatus	ｲﾉﾘﾀﾞﾝﾂｳ			
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ			
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus giganteus	ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ		0.13	
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus ocellatus	ﾂﾉﾏﾀ		1.64	
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属	2.60	+	1.47
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiacica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		1.53	
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ	104.90	234.83	23.72
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ	33.68	0.37	
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属			
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ	Hypnea sp.	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ属			
23	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾜﾉｶﾜ	Peyssonneliaceae	ｲﾜﾉｶﾜ科		*	*
24	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽｷｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽｷｺﾞ		17.51	0.35
25	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ	16.75	26.49	3.23
26	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ	Champia parvula	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ		0.02	
27	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ			
28	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Rhodymenia intricata	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ			
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ属		0.13	+
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属		+	0.01
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻﾈ属	+	0.02	1.11
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科		+	+
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia senticulosa	ｼｮｳｼﾞｮｳｹﾉﾘ			
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属		0.03	+
35	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia linearis	ﾎｿｺｻﾞﾈﾓ		+	
36	藍色植物	藍藻	ｰ	ｰ	Cyanophyceae	藍藻綱			
種類数							10	19	15
湿重量(g)合計							158.89	1210.95	90.94

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上　層　　中　層　　下　層

図 3-2　坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-5 に泉大津沖埋立処分場の 2 点（D-2、D-3）における坪刈り調査の結果を示した。上層（平均海面±0m）、中層（平均海面-2m）、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する海藻類を採取し、同定および湿重量の計測を行った。図 3-3 には調査箇所の状況（海藻類採取前）を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、10～15 種の海藻が確認され、上層、下層で種類数が多かった。湿重量では 72.16～856.91（g/0．25 ㎡）の海藻が採取され、ワカメが繁茂していた中層で最も多くなっていた。

種別では上層ではフダラク、中層ではワカメ、下層ではタオヤギソウが最も多く、藻場を形成する大型褐藻としてはワカメが中層および下層で繁茂していた。

表 3-5（1）　坪刈り調査結果　泉大津沖埋立処分場（D-2）

							調査地点	泉大津沖		
							枠番号	D-2-上	D-2-中	D-2-下
No.	門	綱	目	科	種名	/ 項目		湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属		0.01	+	+
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属		0.10	+	
3	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Chaetomorpha sp.	ｼﾞｭｽﾞﾓ属				
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属		+	0.21	+
5	緑色植物	緑藻	ﾐﾙ	ﾐﾙ	Codium fragile	ﾐﾙ				
6	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾌｸﾛﾉﾘ				
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ			810.00	159.67
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum filicinum	ｼﾀﾞﾓｸ				
9	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊﾓｸ				
10	紅色植物	紅藻	ｳｼｹﾉﾘ	ｳｼｹﾉﾘ	Pyropia suborbiculata	ﾏﾙﾊﾞｱﾏﾉﾘ				
11	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidiophycus freshwateri	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ				
12	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ		0.05		
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲｿﾓｯｶ	Caulacanthus ustulatus	ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ				
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ				
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus giganteus	ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ				
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus ocellatus	ﾂﾉﾏﾀ				
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属				
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiacica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			7.98	10.01
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ		64.95	2.32	9.27
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ		2.23	2.49	21.50
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属				4.24
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ	Hypnea sp.	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ属				+
23	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾜﾉｶﾜ	Peyssonneliaceae	ｲﾜﾉｶﾜ科				
24	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ				2.23
25	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ		3.23	30.77	60.27
26	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ	Champia parvula	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ		0.10		
27	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ				221.04
28	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Rhodymenia intricata	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ		1.35		
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌｻﾂｶﾞｻﾈ属				
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属		+	+	+
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻﾈ属		+		+
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科		+		
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia senticulosa	ｼｮｳｼﾞｭｳｹﾉﾘ		0.12		
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属		0.02	3.14	0.04
35	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia linearis	ﾎｿｺｻﾞﾈﾓ				
36	藍色植物	藍藻	―	―	Cyanophyceae	藍藻綱		+		
種類数								15	10	14
湿重量(g)合計								72.16	856.91	488.27

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

上　層　　中　層　　下　層

図 3-3（1）　坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

・地点 D-3

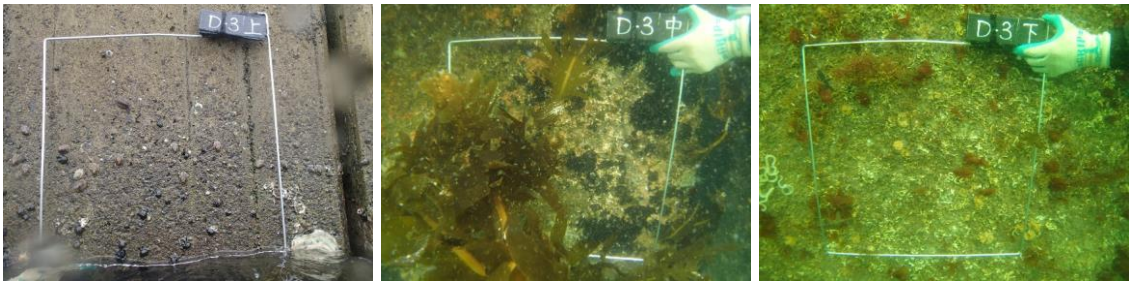
D-3 の地点では、4～9 種の海藻が確認され、中層で最も種類数が多くなっていた。湿重量では 0.45～122.66（g/0．25 ㎡）の海藻が採取され、ワカメが繁茂していた中層で最も多くなっていた。

種別では上層ではミル、中層ではワカメ、下層ではタオヤギソウが多く、藻場を形成する大型褐藻として、中層、下層でワカメがみられた。

表 3-5（2）　坪刈り調査結果　泉大津沖埋立処分場（D-3）

							調査地点	泉大津沖		
							枠番号	D-3-上	D-3-中	D-3-下
No.	門	綱	目	科	種名	/ 項目		湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属		+		
2	緑色植物	緑藻	ｱｵｻ	ｱｵｻ	Ulva sp.	ｱｵｻ属			+	
3	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Chaetomorpha sp.	ｼﾞｭｽﾞﾓ属				
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属		0.08	0.12	
5	緑色植物	緑藻	ﾐﾙ	ﾐﾙ	Codium fragile	ﾐﾙ		0.37	1.77	
6	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾌｸﾛﾉﾘ				
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ			119.82	11.73
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum filicinum	ｼﾀﾞﾓｸ				
9	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ				
10	紅色植物	紅藻	ｳｼｹﾉﾘ	ｳｼｹﾉﾘ	Pyropia suborbiculata	ﾏﾙﾊﾞｱﾏﾉﾘ				
11	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidiophycus freshwateri	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ				
12	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ				0.12
13	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾝﾉﾓｯｶ	Caulacanthus ustulatus	ｲﾝﾀﾞﾝﾂｳ				
14	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ				7.16
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus giganteus	ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ			0.94	
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus ocellatus	ﾂﾉﾏﾀ				
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属				
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia asiacica	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ				
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ				
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ				
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属				
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ	Hypnea sp.	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ属			+	
23	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾜﾉｶﾜ	Peyssonneliaceae	ｲﾜﾉｶﾜ科				
24	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ				
25	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ				
26	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ	Champia parvula	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ				
27	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ				70.60
28	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Rhodymenia intricata	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ				
29	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌｻﾂｶﾞｻﾈ属				
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属			+	
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Pterothamnion sp.	ﾖﾂｶﾞｻﾈ属				
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科			+	+
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia senticulosa	ｼｮｳｼﾞｮｳｹﾉﾘ				
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属			0.01	
35	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia linearis	ﾎｿｺｻﾞﾈﾓ				
36	藍色植物	藍藻	―	―	Cyanophyceae	藍藻綱		+		
種類数								4	9	5
湿重量(g)合計								0.45	122.66	89.61

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。



上　層　　中　層　　下　層

図 3-3（2）　坪刈り調査箇所（坪刈り前）の状況

3-2-2 動物（付着動物）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-6 に神戸沖埋立処分場（A-2）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m)、中層（平均海面-2m)、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し分析した結果、25～61 種の付着動物が出現し、個体数では 309～22,706（個体/0.25 ㎡)、湿重量では 35.68～608.77（g/0. 25 ㎡）の付着動物が採取され、個体数、湿重量ともにムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

種別（個体数）では上層ではムラサキイガイ、中層ではマルエラワレカラ、下層では Cirratulus 属（ミズヒキゴカイ科）が最も多く確認された。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-7 に大阪沖埋立処分場（C-2）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m)、中層（平均海面-2m)、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し分析した結果、46～71 種の付着動物が出現し、個体数では 9,489～90,351（個体/0.25 ㎡)、湿重量では 171.06～9,252.90（g/0. 25 ㎡）の付着動物が採取され、個体数、湿重量ともにムラサキイガイが多数出現した上層で最も多くなっていた。

種別（個体数）では上層ではムラサキイガイ、中層ではキヌマトイガイ、下層ではクマノアシツキが最も多く確認された。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-8 に泉大津沖埋立処分場の 2 点（D-2、D-3）における坪刈り調査分析結果（付着動物）を示した。

上層（平均海面±0m)、中層（平均海面-2m)、下層（平均海面-4m）の 3 層で 50×50cm の枠内に生育する付着動物を採取し、分析した。

D-2 の地点では、29～69 種の付着動物が出現し、個体数は 334～3,833（個体/0.25 ㎡)、湿重量では 27.46～119.74（g/0. 25 ㎡）の範囲にあった。個体数ではキヌマトイガイが多く出現した中層が、湿重量ではエゾカサネカンザシゴカイ、コシダカガンガラが多く出現したやはり中層が最も多くなっていた。

D-3 の地点では、43～50 種の付着動物が出現し、個体数は 1,312～23,213(個体/0.25 ㎡)、湿重量では 67.69～400.08（g/0. 25 ㎡）の範囲にあった。個体数ではクマノアシツキが多く出現した中層が、湿重量ではエゾカサネカンザシゴカイが多く出現したやはり中層が最も多くなっていた。

表 3-6（1）　坪刈り調査結果　神戸沖埋立処分場（A-2　付着動物）

						調査地点	神戸沖					
						枠番号	A-2-上		A-2-中		A-2-下	
No.	門	綱	目	科	種名 /	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱			*	1.35	*	8.61
2	刺胞動物	ヒドロ虫	ヤワクラゲ	ウミサカブキガヤ	Campanulariidae	ウミサカブキガヤ科						
3	刺胞動物	花虫	イソギンチャク	-	Actiniaria	イソギンチャク目	6	0.27	4	0.11		
4	刺胞動物	花虫	イシサンゴ目	シオガマサンゴ科	Rhizangiidae	シオガマサンゴ科						
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	Polycladida	多岐腸目						
6	紐形動物	-	-	-	NEMERTINEA	紐形動物門	103	0.95	27	0.17	2	0.02
7	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケサズリガイ	Acanthopleura japonica	ヒザラガイ						
8	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケサズリガイ	Chitonidae	ケサズリガイ科						
9	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ	Mopalia retifera	ヒゲヒザラガイ					1	0.19
10	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	Acanthochitona achates	ヒメケハダヒザラガイ			5	0.78		
11	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	Acanthochitona defilippii	ケハダヒザラガイ						
12	軟体動物	多板	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	Acanthochitona sp.	Acanthochitona属						
13	軟体動物	腹足	カサガイ	ヨメカカサガイ	Cellana toreuma	ヨメカカサ						
14	軟体動物	腹足	カサガイ	ユキノカサガイ	Lottia tenuisculpta	ユモレビコカモガイ						
15	軟体動物	腹足	カサガイ	ユキノカサガイ	Patelloida saccharina	ウノアシ						
16	軟体動物	腹足	古腹足	ニシキウズガイ	Omphalius rusticus	コシダカンカラ						
17	軟体動物	腹足	盤足	タマキビ	Littorina brevicula	タマキビ	6	0.01				
18	軟体動物	腹足	盤足	タマキビ	Peasiella habei	ユビトウラウズガイ	29	+				
19	軟体動物	腹足	盤足	リソツボ	Alvania sp.	Alvania属						
20	軟体動物	腹足	盤足	リソツボ	Stosicia annulata	コマツボ						
21	軟体動物	腹足	盤足	リソツボ	Rissoidae	リソツボ科			46	0.01		
22	軟体動物	腹足	盤足	カリバガササガイ	Crepidula onyx	シマメノウフネガイ					4	2.77
23	軟体動物	腹足	盤足	ムカデガイ	Serpulorbis imbricatus	オオヘビガイ					1	0.41
24	軟体動物	腹足	翼舌	イトカケガイ	Gyroscala lamellosa	ネジガイ						
25	軟体動物	腹足	翼舌	イトカケガイ	Epitoniidae	イトカケガイ科						
26	軟体動物	腹足	翼舌	ハナゴウナ	Sticteulima lentiginosa	コマフクリムシ						
27	軟体動物	腹足	新腹足	アッキガイ	Bedeva birileffi	カコメガイ						
28	軟体動物	腹足	新腹足	アッキガイ	Thais bronni	レイシガイ						
29	軟体動物	腹足	新腹足	アッキガイ	Thais clavigera	イボニシ						
30	軟体動物	腹足	新腹足	アッキガイ	Muricidae	アッキガイ科						
31	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Mitrella bicincta	ムギガイ					4	0.01
32	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Mitrella burchardi	コウダカマツムシ						
33	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Zafra mitriformis	ノミニナモドキ						
34	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Zafra pumila	ノミニナ						
35	軟体動物	腹足	新腹足	フトコロガイ	Columbellidae	フトコロガイ科			74	0.03	4	0.01
36	軟体動物	腹足	異旋	クルマガイ	Architectonicidae	クルマガイ科						
37	軟体動物	腹足	異旋	トウカタガイ	Parthenina affectuosa	ヨコスジギリ						
38	軟体動物	腹足	異旋	トウカタガイ	Pyramidellidae	トウガタガイ科	1	+	5	+	3	0.01
39	軟体動物	腹足	頭楯	ミドリガイ	Smaragdinella sieboldi	タテジワミドリガイ						
40	軟体動物	腹足	側鰓	ウミフクロウ	Pleurobranchaea japonica	ウミフクロウ						
41	軟体動物	腹足	側鰓	ウミフクロウ	Pleurobranchaeidae	ウミフクロウ科						
42	軟体動物	腹足	側鰓	カメノコフシエラガイ	Pleurobranchidae	カメノコフシエラガイ科						
43	軟体動物	腹足	基眼	カラマツガイ	Siphonaria japonica	カラマツガイ	5	2.05				
44	軟体動物	腹足	基眼	カラマツガイ	Siphonaria sirius	キクノハナガイ						
45	軟体動物	腹足	基眼	カラマツガイ	Siphonariidae	カラマツガイ科						
46	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Modiolus nipponicus	ヒバリガイ	10	0.18	6	0.04		
47	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Musculista senhousia	ホトトギスガイ	1,235	13.41				
48	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Musculus cupreus	タマエガイ			3	0.01		
49	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Mytilus galloprovincialis	ムラサキイガイ	14,973	456.19	9	0.05		
50	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Xenostrobus atratus	クロヅチ						
51	軟体動物	二枚貝	イガイ	イガイ	Mytilidae	イガイ科						
52	軟体動物	二枚貝	カキ	イタボガキ	Crassostrea gigas	マガキ						
53	軟体動物	二枚貝	カキ	イタボガキ	Saccostrea kegaki	ケガキ						
54	軟体動物	二枚貝	カキ	イタボガキ	Ostreidae	イタボガキ科						
55	軟体動物	二枚貝	マルスダレガイ	イワホリガイ	Claudiconcha japonica	セミアサリ						
56	軟体動物	二枚貝	マルスダレガイ	イワホリガイ	Petricola mirabilis	チチミイワホリガイ						
57	軟体動物	二枚貝	マルスダレガイ	イワホリガイ	Petricola sp. cf. lithophaga	ウスカラシオツガイ						
58	軟体動物	二枚貝	マルスダレガイ	イワホリガイ	Petricola sp.	Petricola属						
59	軟体動物	二枚貝	オオノガイ	キヌマトイガイ	Hiatella orientalis	キヌマトイガイ			283	2.30	10	0.13
60	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ウロコムシ	Halosydna brevisetosa	ミロクウロコムシ						
61	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ウロコムシ	Harmothoe praeclara	ヤスリウロコムシ					1	0.03
62	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ウロコムシ	Lepidonotus elongatus	ヤチウロコムシ			8	0.21		
63	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ウロコムシ	Polynoidae	ウロコムシ科			6	+	5	0.08
64	環形動物	多毛	サシバゴカイ	サシバゴカイ	Eulalia sp.	Eulalia属			7	0.08	3	+
65	環形動物	多毛	サシバゴカイ	サシバゴカイ	Phyllodocidae	サシバゴカイ科			7	0.25	2	+
66	環形動物	多毛	サシバゴカイ	タンザクゴカイ	Chrysopetalidae	タンザクゴカイ科						
67	環形動物	多毛	サシバゴカイ	オトヒメゴカイ	Podarkeopsis brevipalpa	タレメオトヒメゴカイ						
68	環形動物	多毛	サシバゴカイ	オトヒメゴカイ	Hesionidae	オトヒメゴカイ科			4	+		
69	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Autolytus sp.	Autolytus属					2	+
70	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Sphaerosyllis sp.	Sphaerosyllis属						
71	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Syllis amica	ヒトデシリス						
72	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Trypanosyllis taeniaformis	ムラサキシマシリス						
73	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Typosyllis aciculata orientalis	カスリシリス			38	0.22		
74	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Typosyllis adamanteus kurilensis	シロマダラシリス	655	7.48	15	0.13	12	0.09
75	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Typosyllis alternata	ムアシリス						
76	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Typosyllis fasciata	モノシリス			86	0.49	1	0.01
77	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Typosyllis nipponica	ミドリシリス					6	0.04
78	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Typosyllis sp.	Typosyllis属			43	1.07	18	0.31
79	環形動物	多毛	サシバゴカイ	シリス	Syllinae	Syllinae亜科			31	0.19	3	0.07
80	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Ceratonereis mirabilis	フタマタゴカイ			6	0.04		
81	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Neanthes caudata	ヒメゴカイ					2	0.04
82	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Nectoneanthes latipoda	オウギゴカイ						
83	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Nereis heterocirrata	ヒゲブトゴカイ	3	0.27				
84	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Nereis multignatha	マサゴゴカイ			8	0.11		
85	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Nereis neoneanthes	ヤスリゴカイ			4	0.02		
86	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Perinereis cultrifera	クマドリゴカイ			3	0.19		
87	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Perinereis cultrifera floridana	ヒトツブゴゴカイ	126	16.70				
88	環形動物	多毛	サシバゴカイ	ゴカイ	Platynereis bicanaliculata	ツルヒゲゴカイ			4	0.09		
89	環形動物	多毛	イソメ	イソメ	Eunice kobiensis	アカイソメ					2	+
90	環形動物	多毛	イソメ	セグロイソメ	Arabella iricolor	セグロイソメ						
91	環形動物	多毛	イソメ	ノリコイソメ	Schistomeringos rudolphi	ルドルフイソメ					3	+
92	環形動物	多毛	スピオ	スピオ	Polydora sp.	Polydora属			34	0.27	3	0.01
93	環形動物	多毛	スピオ	ミズヒキコガイ	Cirratulus sp.	Cirratulus属			33	2.60	122	7.85
94	環形動物	多毛	スピオ	ミズヒキコガイ	Cirriformia sp.	Cirriformia属			3	0.02	5	0.04
95	環形動物	多毛	スピオ	ミズヒキコガイ	Cirratulidae	ミズヒキコガイ科					33	1.26
96	環形動物	多毛	ハボウキコガイ	クマノアシツキ	Acrocirrus validus	クマノアシツキ			900	2.78	21	0.10
97	環形動物	多毛	オフェリアコガイ	オフェリアコガイ	Polyophthalmus pictus	カスリオフェリア			10	0.18		
98	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Loimia sp.	Loimia属			4	0.09		
99	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Thelepus sp.	Thelepus属			34	1.34		
100	環形動物	多毛	フサゴカイ	フサゴカイ	Terebellidae	フサゴカイ科					3	0.11

表 3-6（2）　坪刈り調査結果　神戸沖埋立処分場（A-2　付着動物）

						調査地点	神戸沖					
						枠番号	A-2-上		A-2-中		A-2-下	
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
101	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Sabellidae	ｹﾔﾘﾑｼ科			1	+		
102	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Hydroides ezoensis	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ			79	3.78	6	0.46
103	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Pomatoleios kraussii	ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ						
104	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirobranchus giganteus	ｲﾊﾞﾗｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ			3	0.25	2	0.06
105	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirorbella sp.	Spirorbella属						
106	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Serpulidae	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			3	0.06		
107	節足動物	ｳﾐｸﾞﾓ	-	-	PYCNOGONIDA	ｳﾐｸﾞﾓ綱			2	0.01		
108	節足動物	顎脚	無柄	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Chthamalus challengeri	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	4,155	108.62				
109	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus improvisus	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	26	1.84	4	0.07		
110	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus trigonus	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			3	0.22		
111	節足動物	軟甲	端脚	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Ampithoe sp.	Ampithoe属	27	0.05	184	0.70		
112	節足動物	軟甲	端脚	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	Grandidierella sp.	Grandidierella属	5	+				
113	節足動物	軟甲	端脚	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	Aoroides sp.	Aoroides属	4	+	9	0.03		
114	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ	Monocorophium sp.	Monocorophium属			104	0.14		
115	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	Ericthonius pugnax	ｷﾘﾖｺｴﾋﾞ						
116	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	Jassa sp.	Jassa属	22	0.04	12	0.02		
117	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Elasmopus sp.	Elasmopus属						
118	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melita sp.	Melita属						
119	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melitidae	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ科						
120	節足動物	軟甲	端脚	ﾁﾋﾞﾖｺｴﾋﾞ	Gitanopsis sp.	Gitanopsis属						
121	節足動物	軟甲	端脚	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ	Stenothoe sp.	Stenothoe属						
122	節足動物	軟甲	端脚	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	Hyale sp.	Hyale属	25	0.04				
123	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella equilibra	ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ						
124	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella penantis	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	81	0.20	2,332	6.52		
125	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella scaura	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ	8	0.03	83	0.18		
126	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella simia	ｶﾏﾃﾜﾚｶﾗ					1	+
127	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella sp.	Caprella属	7	+	383	0.10		
128	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	Janiridae	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ科			5	0.02		
129	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Dynoides dentisinus	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ	53	0.16				
130	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Paracerceis japonica	ﾂﾉｵｳﾐｾﾐ						
131	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ｱﾌﾞｾｳﾃﾞｽ	Apseudidae	ｱﾌﾞｾｳﾃﾞｽ科						
132	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	Zeuxo sp.	Zeuxo属			10	0.02	6	+
133	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｴﾋﾞ	Hippolytidae	ﾓｴﾋﾞ科						
134	節足動物	軟甲	十脚	ｶﾆﾀﾞﾏｼ	Porcellanidae	ｶﾆﾀﾞﾏｼ科						
135	節足動物	軟甲	十脚	ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	Pagurus sp.	Pagurus属			6	0.05	2	0.01
136	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	Cancer sp.	Cancer属			10	0.05		
137	節足動物	軟甲	十脚	Menippidae	Sphaerozius nitidus	ｽﾍﾟｽﾍﾟｵｳｷﾞｶﾞﾆ						
138	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｶﾞﾆ	Pugettia quadridens	ﾖﾂﾊﾓｶﾞﾆ						
139	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｶﾞﾆ	Pugettia sp.	Pugettia属			229	0.97		
140	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	Pilumnus minutus	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ						
141	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	Pilumnus sp.	Pilumnus属						
142	節足動物	軟甲	十脚	-	Megalopa of Brachyura	ｶﾆ亜目のﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生			3	+		
143	節足動物	昆虫	ﾊｴ	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ	Tipulidae	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ科	25	0.01				
144	節足動物	昆虫	ﾊｴ	ﾕｽﾘｶ	Chironomidae	ﾕｽﾘｶ科	1,116	0.27	2	+		
145	触手動物	蕊虫	ﾎｳｷﾑｼ	ﾎｳｷﾑｼ	Phoronis sp.	Phoronis属			11	0.20		
146	触手動物	苔虫	管口	ｸﾀﾞｺｹﾑｼ	Tubuliporidae	ｸﾀﾞｺｹﾑｼ科						
147	触手動物	苔虫	楯口	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ	Vesiculariidae	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ科						
148	触手動物	苔虫	唇口	ｲﾀｺｹﾑｼ	Calloporidae	ｲﾀｺｹﾑｼ科						
149	触手動物	苔虫	唇口	ﾌｻｺｹﾑｼ	Bugulidae	ﾌｻｺｹﾑｼ科					*	0.02
150	触手動物	苔虫	唇口	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ科						
151	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Watersipora subovoidea	ﾁｺﾞｹﾑｼ			*	0.09	*	0.74
152	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Schizoporellidae	ﾋﾗｺｹﾑｼ科						
153	触手動物	苔虫	唇口	ｳｽｺｹﾑｼ	Microporellidae	ｳｽｺｹﾑｼ科						
154	触手動物	苔虫	唇口	ｱﾐｺｹﾑｼ	Reteporidae	ｱﾐｺｹﾑｼ科						
155	触手動物	苔虫	唇口	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Cryptosulidae	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ科						
156	触手動物	苔虫	唇口	ｺﾌﾟｺｹﾑｼ	Celleporinidae	ｺﾌﾟｺｹﾑｼ科						
157	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ﾋﾒﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	Asterina pectinifera	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ					3	1.85
158	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	Asterias amurensis	ｷﾋﾄﾃﾞ			2	3.35	1	5.62
159	棘皮動物	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ	Ophiactidae	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ科			3	0.02	2	0.01
160	棘皮動物	ｳﾆ	ﾎﾝｳﾆ	ｻﾝｼｮｳｳﾆ	Temnopleurus toreumaticus	ｻﾝｼｮｳｳﾆ						
161	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｸﾞﾐﾓﾄﾞｷ	Phyllophoridae	ｸﾞﾐﾓﾄﾞｷ科						
162	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ	Sclerodactylidae	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ科						
163	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ｳｽﾎﾞﾔ	Didemnidae	ｳｽﾎﾞﾔ科						
164	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ﾅﾂﾒﾎﾞﾔ	Ascidiidae	ﾅﾂﾒﾎﾞﾔ科					3	1.02
165	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	Perophoridae	ﾏﾒﾎﾞﾔ科						
166	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	Pyuridae	ﾏﾎﾞﾔ科						
167	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styela clava	ｴﾎﾞﾔ					2	1.60
168	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styelidae	ｼﾛﾎﾞﾔ科			11	2.66	5	2.09
169	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA(colony)	ﾎﾔ綱(群体ﾎﾞﾔ類)			*	0.05		
170	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA	ﾎﾔ綱			4	1.01		
						種類数	25		61		41	
						個体数・湿重量(g)合計	22,706	608.77	5,248	35.79	309	35.68

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-7（1）　坪刈り調査結果　大阪沖埋立処分場（C-2　付着動物）

						調査地点	大阪沖					
						枠番号	C-2-上		C-2-中		C-2-下	
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	DEMOSPONGIAE	尋常海綿綱	*	0.02	*	1.22	*	9.64
2	刺胞動物	ﾋﾄﾞﾛ虫	ﾔﾜｸﾗﾀﾞ	ｳﾐｻｶﾌﾞｷｶﾞﾔ	Campanulariidae	ｳﾐｻｶﾌﾞｷｶﾞﾔ科						
3	刺胞動物	花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	-	Actiniaria	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目					1	+
4	刺胞動物	花虫	ｲｼｻﾝｺﾞ目	ｼｵｶﾞﾏｻﾝｺﾞ科	Rhizangiidae	ｼｵｶﾞﾏｻﾝｺﾞ科						
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	Polycladida	多岐腸目			5	0.11		
6	紐形動物	-	-	-	NEMERTINEA	紐形動物門	53	1.80	53	1.67	15	0.23
7	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｸｻｽﾞﾘｶﾞｲ	Acanthopleura japonica	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	4	74.97				
8	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｸｻｽﾞﾘｶﾞｲ	Chitonidae	ｸｻｽﾞﾘｶﾞｲ科						
9	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Mopalia retifera	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ						
10	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Acanthochitona achates	ﾋﾒｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ			11	1.41		
11	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Acanthochitona defilippii	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ						
12	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Acanthochitona sp.	Acanthochitona属			5	0.24		
13	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ﾖﾒｶﾞｶｻｶﾞｲ	Cellana toreuma	ﾖﾒｶﾞｶｻ	22	22.16				
14	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ﾕｷﾉｶｻｶﾞｲ	Lottia tenuisculpta	ﾕﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ						
15	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ﾕｷﾉｶｻｶﾞｲ	Patelloida saccharina	ｳﾉｱｼ						
16	軟体動物	腹足	古腹足	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ	Omphalius rusticus	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ						
17	軟体動物	腹足	盤足	ﾀﾏｷﾋﾞ	Littorina brevicula	ﾀﾏｷﾋﾞ						
18	軟体動物	腹足	盤足	ﾀﾏｷﾋﾞ	Peasiella habei	ﾕﾋﾞﾄｳﾗｳｽﾞｶﾞｲ						
19	軟体動物	腹足	盤足	ﾘﾝｽﾞﾎﾞ	Alvania sp.	Alvania属			4	0.01		
20	軟体動物	腹足	盤足	ﾘﾝｽﾞﾎﾞ	Stosicia annulata	ｺﾞﾏﾌﾞﾎﾞ						
21	軟体動物	腹足	盤足	ﾘﾝｽﾞﾎﾞ	Rissoidae	ﾘﾝｽﾞﾎﾞ科						
22	軟体動物	腹足	盤足	ｶﾘﾊﾞｶﾞｻｻﾞｲ	Crepidula onyx	ｼﾏﾒﾉｳﾌｽｶﾞｲ						
23	軟体動物	腹足	盤足	ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ	Serpulorbis imbricatus	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ						
24	軟体動物	腹足	翼舌	ｲﾄｶｹｶﾞｲ	Gyroscala lamellosa	ﾈｼﾞｶﾞｲ						
25	軟体動物	腹足	翼舌	ｲﾄｶｹｶﾞｲ	Epitoniidae	ｲﾄｶｹｶﾞｲ科						
26	軟体動物	腹足	翼舌	ﾊﾅｺﾞｳﾅ	Sticteulima lentiginosa	ｺﾞﾏﾌｸﾘﾑｼ						
27	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Bedeva birileffi	ｶｺﾒｶﾞｲ						
28	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Thais bronni	ﾚｲｼｶﾞｲ			15	20.22		
29	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Thais clavigera	ｲﾎﾞﾆｼ						
30	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Muricidae	ｱｯｷｶﾞｲ科						
31	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Mitrella bicincta	ﾑｷﾞｶﾞｲ			91	5.96	9	0.47
32	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Mitrella burchardi	ｺｳﾀﾞｶﾏﾂﾑｼ						
33	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Zafra mitriformis	ﾉﾐﾆﾅﾓﾄﾞｷ						
34	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Zafra pumila	ﾉﾐﾆﾅ						
35	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Columbellidae	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ科			46	0.10	413	0.40
36	軟体動物	腹足	異旋	ｸﾙﾏｶﾞｲ	Architectonicidae	ｸﾙﾏｶﾞｲ科						
37	軟体動物	腹足	異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	Parthenina affectuosa	ﾖｺｽｼﾞｷﾞﾘ						
38	軟体動物	腹足	異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	Pyramidellidae	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ科					14	0.08
39	軟体動物	腹足	頭楯	ﾐﾄﾞﾘｶﾞｲ	Smaragdinella sieboldi	ﾀﾃｼﾞﾜﾐﾄﾞﾘｶﾞｲ						
40	軟体動物	腹足	側鰓	ｳﾐﾌｸﾛｳ	Pleurobranchaea japonica	ｳﾐﾌｸﾛｳ						
41	軟体動物	腹足	側鰓	ｳﾐﾌｸﾛｳ	Pleurobranchaeidae	ｳﾐﾌｸﾛｳ科			7	1.81		
42	軟体動物	腹足	側鰓	ｶﾒﾉｺﾌｼｴﾗｶﾞｲ	Pleurobranchidae	ｶﾒﾉｺﾌｼｴﾗｶﾞｲ科						
43	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonaria japonica	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ						
44	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonaria sirius	ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ						
45	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonariidae	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ科	12	8.27				
46	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Modiolus nipponicus	ﾋﾒﾘｶﾞｲ	23	0.83	18	1.81	11	1.44
47	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Musculista senhousia	ﾎﾄﾄｷﾞｽｶﾞｲ	1	+			2	+
48	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Musculus cupreus	ﾀﾏｴｶﾞｲ			58	2.14	220	8.99
49	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Mytilus galloprovincialis	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	80.139	9.095.75	369	2.60	283	2.62
50	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Xenostrobus atratus	ｸﾛｸﾞﾁ						
51	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Mytilidae	ｲｶﾞｲ科	120	0.16				
52	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Crassostrea gigas	ﾏｶﾞｷ						
53	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Saccostrea kegaki	ｹｶﾞｷ						
54	軟体動物	二枚貝	ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	Ostreidae	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科						
55	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲｳﾁﾘｶﾞｲ	Claudiconcha japonica	ｾﾐｱｻﾘ			3	0.21	1	+
56	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲｳﾁﾘｶﾞｲ	Petricola mirabilis	ﾁﾁﾞﾐｲﾜﾎﾘｶﾞｲ						
57	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲｳﾁﾘｶﾞｲ	Petricola sp. cf. lithophaga	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ			7	0.18		
58	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲｳﾁﾘｶﾞｲ	Petricola sp.	Petricola属			1	0.44		
59	軟体動物	二枚貝	ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	Hiatella orientalis	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	391	2.15	2.132	44.71	1.760	28.78
60	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｳﾛｺﾑｼ	Halosydna brevisetosa	ﾐﾛｳﾛｺﾑｼ			11	0.62	5	0.75
61	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｳﾛｺﾑｼ	Harmothoe praeclara	ﾔｽﾘｳﾛｺﾑｼ						
62	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｳﾛｺﾑｼ	Lepidonotus elongatus	ﾔﾁｳﾛｺﾑｼ	27	3.22				
63	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｳﾛｺﾑｼ	Polynoidae	ｳﾛｺﾑｼ科	24	2.45	30	2.19	6	0.07
64	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	Eulalia sp.	Eulalia属		+			1	+
65	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	Phyllodocidae	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ科	35	0.61	40	0.71	17	0.41
66	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ﾀﾝｻﾞｸｺﾞｶｲ	Chrysopetalidae	ﾀﾝｻﾞｸｺﾞｶｲ科						
67	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	Podarkeopsis brevipalpa	ﾀﾚﾒｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	3	0.36	28	0.37	13	0.07
68	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	Hesionidae	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ科						
69	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Autolytus sp.	Autolytus属			47	0.87	11	0.14
70	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Sphaerosyllis sp.	Sphaerosyllis属	4	+				
71	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Syllis amica	ﾋﾄﾃﾞｼﾘｽ					5	+
72	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Trypanosyllis taeniaformis	ﾑﾗｻｷｼﾝﾏｼﾘｽ					11	0.13
73	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis aciculata orientalis	ｶｽﾘｼﾘｽ			3	+		
74	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis adamanteus kurilensis	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ	147	0.99	99	1.12	30	0.34
75	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis alternata	ﾑｱｼｼﾘｽ			4	+	50	0.55
76	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis fasciata	ﾓﾉｼﾘｽ	100	1.31	170	1.35	97	0.40
77	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis nipponica	ﾐﾄﾞﾘｼﾘｽ	18	0.37	7	0.10		
78	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis sp.	Typosyllis属						
79	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Syllinae	Syllinae亜科	13	0.21	23	0.23	8	0.07
80	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Ceratonereis mirabilis	ﾂﾀﾏﾀｺﾞｶｲ						
81	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Neanthes caudata	ﾋﾒｺﾞｶｲ	20	0.39				
82	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nectoneanthes latipoda	ｵｳｷﾞｺﾞｶｲ						
83	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis heterocirrata	ﾋｹﾞﾌﾞﾄｺﾞｶｲ						
84	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis multignatha	ﾏｻｺﾞｺﾞｶｲ						
85	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis neoneanthes	ﾔｽﾘｺﾞｶｲ						
86	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Perinereis cultrifera	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ	12	0.40				
87	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Perinereis cultrifera floridana	ﾋﾄﾂﾌﾞｺﾞｶｲ						
88	環形動物	多毛	ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Platynereis bicanaliculata	ﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ						
89	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｲｿﾒ	Eunice kobiensis	ｱｶｲｿﾒ			2	3.35		
90	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｾｸﾞﾛｲｿﾒ	Arabella iricolor	ｾｸﾞﾛｲｿﾒ			3	0.44		
91	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ﾉﾘｺｲｿﾒ	Schistomeringos rudolphi	ﾙﾄﾞﾙﾌｲｿﾒ			11	0.07		
92	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ｽﾋﾞｵ	Polydora sp.	Polydora属	20	0.64	22	0.46		
93	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirratulus sp.	Cirratulus属					2	0.35
94	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirriformia sp.	Cirriformia属		+			3	0.04
95	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirratulidae	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科			217	12.42	42	2.52
96	環形動物	多毛	ﾊﾎﾞｳｷｺﾞｶｲ	ｸﾏﾉｱｼﾂｷ	Acrocirrus validus	ｸﾏﾉｱｼﾂｷ	219	1.22	298	1.16	5.304	45.08
97	環形動物	多毛	ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	Polyophthalmus pictus	ｶｽﾘｵﾌｪﾘｱ			11	0.21		
98	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Loimia sp.	Loimia属			6	0.26	11	1.84
99	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Thelepus sp.	Thelepus属			131	24.54	90	16.35
100	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Terebellidae	ﾌｻｺﾞｶｲ科					2	+

表 3-7（2）　坪刈り調査結果　大阪沖埋立処分場（C-2　付着動物）

						調査地点	大阪沖					
						枠番号	C-2-上		C-2-中		C-2-下	
No.	門	綱	目	科	種名	項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
101	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Sabellidae	ｹﾔﾘﾑｼ科					8	0.03
102	環形動物	多毛	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Hydroides ezoensis	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ			238	14.13	6	0.34
103	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Pomatoleios kraussii	ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ						
104	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirobranchus giganteus	ｲﾊﾞﾗｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ						
105	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirorbella sp.	Spirorbella属			1	+		
106	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Serpulidae	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			8	0.12		
107	節足動物	ｳﾐｸﾞﾓ	-	-	PYCNOGONIDA	ｳﾐｸﾞﾓ綱						
108	節足動物	顎脚	無柄	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Chthamalus challengeri	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ						
109	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus improvisus	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	3,478	31.76	16	0.41	57	0.71
110	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus trigonus	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ					4	0.19
111	節足動物	軟甲	端脚	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Ampithoe sp.	Ampithoe属			110	0.32	17	0.09
112	節足動物	軟甲	端脚	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	Grandidierella sp.	Grandidierella属						
113	節足動物	軟甲	端脚	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	Aoroides sp.	Aoroides属	892	0.22	175	0.07	186	0.10
114	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｸﾞﾀﾑｼ	Monocorophium sp.	Monocorophium属			285	0.20	130	0.07
115	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	Ericthonius pugnax	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ			6	0.02		
116	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	Jassa sp.	Jassa属	374	0.30	586	0.66	112	0.07
117	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Elasmopus sp.	Elasmopus属						
118	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melita sp.	Melita属			3	0.03		
119	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melitidae	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ科	53	0.13	30	0.10		
120	節足動物	軟甲	端脚	ﾁﾋﾞﾖｺｴﾋﾞ	Gitanopsis sp.	Gitanopsis属			5	0.02		
121	節足動物	軟甲	端脚	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ	Stenothoe sp.	Stenothoe属			147	0.16	19	0.02
122	節足動物	軟甲	端脚	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	Hyale sp.	Hyale属	308	1.13			11	0.01
123	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella equilibra	ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ			2	+		
124	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella penantis	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	101	0.21	1,941	3.00	129	0.20
125	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella scaura	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ	40	0.08	3	+	37	0.03
126	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella simia	ｶﾏﾃﾜﾚｶﾗ		+			3	+
127	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella sp.	Caprella属	14	0.02	1,439	0.99	558	0.31
128	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	Janiridae	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ科	12	0.02			6	+
129	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Dynoides dentisinus	ｼﾘｹﾝｳﾐﾐｾﾐ						
130	節足動物	軟甲	等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	Paracerceis japonica	ﾂﾉｵｳﾐﾐｾﾐ						
131	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ｱﾌﾞｾｳﾃﾞｽ	Apseudidae	ｱﾌﾞｾｳﾃﾞｽ科					1	+
132	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	Zeuxo sp.	Zeuxo属	1	+	326	0.22	123	0.09
133	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｴﾋﾞ	Hippolytidae	ﾓｴﾋﾞ科						
134	節足動物	軟甲	十脚	ｶﾆﾀﾞﾏｼ	Porcellanidae	ｶﾆﾀﾞﾏｼ科			7	0.03	1	+
135	節足動物	軟甲	十脚	ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	Pagurus sp.	Pagurus属					4	0.03
136	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	Cancer sp.	Cancer属						
137	節足動物	軟甲	十脚	Menippidae	Sphaerozius nitidus	ｽﾍﾟｽﾍﾟｵｳｷﾞｶﾞﾆ						
138	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｶﾞﾆ	Pugettia quadridens	ﾖﾂﾊﾓｶﾞﾆ		+			1	0.02
139	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｶﾞﾆ	Pugettia sp.	Pugettia属	18	0.12	61	1.67	249	0.98
140	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	Pilumnus minutus	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ			10	1.67	7	0.16
141	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	Pilumnus sp.	Pilumnus属						
142	節足動物	軟甲	十脚	-	Megalopa of Brachyura	ｶﾆ亜目のﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生			1	+		
143	節足動物	昆虫	ﾊｴ	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ	Tipulidae	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ科	1	+				
144	節足動物	昆虫	ﾊｴ	ﾕｽﾘｶ	Chironomidae	ﾕｽﾘｶ科	3,643	0.56	2	+		
145	触手動物	蓑虫	ﾎｳｷﾑｼ	ﾎｳｷﾑｼ	Phoronis sp.	Phoronis属	9	0.07	66	0.68	37	0.28
146	触手動物	苔虫	管口	ｸﾀﾞｺｹﾑｼ	Tubuliporidae	ｸﾀﾞｺｹﾑｼ科			*	1.28		
147	触手動物	苔虫	楯口	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ	Vesiculariidae	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ科						
148	触手動物	苔虫	唇口	ｲﾀｺｹﾑｼ	Calloporidae	ｲﾀｺｹﾑｼ科						
149	触手動物	苔虫	唇口	ﾌｻｺｹﾑｼ	Bugulidae	ﾌｻｺｹﾑｼ科		+			*	0.01
150	触手動物	苔虫	唇口	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ科			*	1.31	*	24.27
151	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Watersipora subovoidea	ﾁｺﾞｹﾑｼ			*	2.52	*	4.66
152	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Schizoporellidae	ﾋﾗｺｹﾑｼ科			*	1.16	*	0.17
153	触手動物	苔虫	唇口	ｳｽｺｹﾑｼ	Microporellidae	ｳｽｺｹﾑｼ科						
154	触手動物	苔虫	唇口	ｱﾐｺｹﾑｼ	Reteporidae	ｱﾐｺｹﾑｼ科			*	0.03	*	6.45
155	触手動物	苔虫	唇口	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Cryptosulidae	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ科			*	+	*	0.02
156	触手動物	苔虫	唇口	ｺﾌﾞｺｹﾑｼ	Celleporinidae	ｺﾌﾞｺｹﾑｼ科						
157	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ﾋﾒﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	Asterina pectinifera	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ						
158	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	Asterias amurensis	ｷﾋﾄﾃﾞ						
159	棘皮動物	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ	Ophiactidae	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ科		+	6	0.03	2	+
160	棘皮動物	ｳﾆ	ﾎﾝｳﾆ	ｻﾝｼｮｳｳﾆ	Temnopleurus toreumaticus	ｻﾝｼｮｳｳﾆ		+				
161	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｸﾞﾐﾓﾄﾞｷ	Phyllophoridae	ｸﾞﾐﾓﾄﾞｷ科			23	2.97	10	1.17
162	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ	Sclerodactylidae	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ科						
163	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ｳｽﾎﾞﾔ	Didemnidae	ｳｽﾎﾞﾔ科		+			*	1.56
164	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ﾅﾂﾒﾎﾞﾔ	Ascidiidae	ﾅﾂﾒﾎﾞﾔ科		+				
165	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	Perophoridae	ﾏﾒﾎﾞﾔ科					*	0.69
166	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	Pyuridae	ﾏﾎﾞﾔ科			4	1.37	18	5.78
167	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styela clava	ｴﾎﾞﾔ						
168	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styelidae	ｼﾛﾎﾞﾔ科					15	419.57
169	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA(colony)	ﾎﾔ綱(群体ﾎﾞﾔ類)			*	0.58	*	0.11
170	脊索動物	ﾎﾔ	-	-	ASCIDIACEA	ﾎﾔ綱					6	1.09
種類数							46		71		68	
個体数・湿重量(g)合計							90,351	9,252.90	9,489	171.06	10,194	591.04

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

表 3-8（1）　坪刈り調査結果　泉大津沖埋立処分場（D-2、D-3　付着動物）

					調査地点	泉大津沖											
					枠番号	D-2-上		D-2-中		D-2-下		D-3-上		D-3-中		D-3-下	
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	–	–	DEMOSPONGIAE	*	0.55	*	2.15					*	3.84	*	1.87
2	刺胞動物	ﾋﾄﾞﾛ虫	ﾔﾜｸﾗﾗｹﾞ	ｳﾐｻｶｶﾞﾐｶﾞﾔ	Campanulariidae			*	+	*	+	*	+	*	+	*	+
3	刺胞動物	花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	–	Actiniaria			75	2.42	3	+	5	0.89	68	14.26	7	0.13
4	刺胞動物	花虫	ｲﾝｻﾞﾝｺﾞ目	ｼﾝｶｲﾏｻﾝｺﾞ科	Rhizangiidae			1	+								
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	–	Polycladida			5	0.10	4	0.04					21	0.25
6	紐形動物	–	–	–	NEMERTINEA	1	+	69	2.03	7	0.05	3	0.08	2	+	23	0.41
7	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｸｻｽﾞﾘｶﾞｲ	Acanthopleura japonica	2	2.96					3	4.71				
8	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｸｻｽﾞﾘｶﾞｲ	Chitonidae							8	0.17				
9	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Mopalia retifera	2	0.26										
10	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Acanthochitona achates	3	0.97					6	1.64				
11	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Acanthochitona defilippii	1	0.73										
12	軟体動物	多板	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	Acanthochitona sp.	1	0.08	4	0.78								
13	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ﾖﾒｶﾞｶｻｶﾞｲ	Cellana toreuma	3	3.35					21	14.05				
14	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ﾕｷ/ｶｻｶﾞｲ	Lottia tenuisculpta	16	0.98					87	1.60				
15	軟体動物	腹足	ｶｻｶﾞｲ	ﾕｷ/ｶｻｶﾞｲ	Patelloida saccharina							5	0.17				
16	軟体動物	腹足	古腹足	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ	Omphalius rusticus	1	4.21	5	21.75								
17	軟体動物	腹足	盤足	ﾀﾏｷﾋﾞ	Littorina brevicula							51	0.82	1	+		
18	軟体動物	腹足	盤足	ﾀﾏｷﾋﾞ	Peasiella habei							8	0.02				
19	軟体動物	腹足	盤足	ﾘｿｿﾎﾞ	Alvania sp.												
20	軟体動物	腹足	盤足	ﾘｿｿﾎﾞ	Stosicia annulata					2	+						
21	軟体動物	腹足	盤足	ﾘｿｿﾎﾞ	Rissoidae												
22	軟体動物	腹足	盤足	ｶﾘﾊﾞｶﾞｻｶﾞｲ	Crepidula onyx			9	1.11	2	0.11						
23	軟体動物	腹足	盤足	ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ	Serpulorbis imbricatus					3	2.44						
24	軟体動物	腹足	翼舌	ｲﾄｶｹﾌﾞｲ	Gyroscala lamellosa			14	0.31								
25	軟体動物	腹足	翼舌	ｲﾄｶｹﾌﾞｲ	Epitoniidae			5	0.10	1	0.04						
26	軟体動物	腹足	翼舌	ﾊﾅｺﾞｳｹ	Sticiteulima lentiginosa							3	0.02				
27	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Bedeva birileffi									1	0.55		
28	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Thais bronni			6	0.89	1	7.86						
29	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Thais clavigera	13	2.33	11	6.49			6	2.24				
30	軟体動物	腹足	新腹足	ｱｯｷｶﾞｲ	Muricidae	3	0.16	28	2.63					2	0.40		
31	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Mitrella bicincta			78	5.42	9	0.43					18	0.66
32	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Mitrella burchardi			9	0.63								
33	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Zafra mitriformis					7	0.03					6	0.02
34	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Zafra pumila					3	+						
35	軟体動物	腹足	新腹足	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	Columbellidae			23	0.01	8	+						
36	軟体動物	腹足	異旋	ｸﾙﾏｶﾞｲ	Architectonicidae					2	0.21						
37	軟体動物	腹足	異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	Parthenina affectuosa			4	+	2	+						
38	軟体動物	腹足	異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	Pyramidellidae												
39	軟体動物	腹足	頭楯	ﾐﾄﾞﾘｶﾞｲ	Smaragdinella sieboldi					2	0.01						
40	軟体動物	腹足	側鰓	ｳﾐﾌｸﾛｳ	Pleurobranchaea japonica					3	5.94						
41	軟体動物	腹足	側鰓	ｳﾐﾌｸﾛｳ	Pleurobranchaeidae												
42	軟体動物	腹足	側鰓	ｶﾒﾉｺｺﾝｴﾗｶﾞｲ	Pleurobranchidae											2	37.94
43	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonaria japonica	3	0.16										
44	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonaria sirius							6	1.30				
45	軟体動物	腹足	基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	Siphonariidae	3	0.98					20	1.00				
46	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Modiolus nipponicus			10	0.34	2	0.04						
47	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Musculista senhousia	1	+	1	+								
48	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Musculus cupreus					2	0.06	1	0.04	1	0.02		
49	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Mytilus galloprovincialis	111	9.23	46	0.21	2	0.07	568	20.45	272	60.08	6	0.71
50	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Xenostrobus atratus							1	+				
51	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	Mytilidae												
52	軟体動物	二枚貝	カキ	ｲﾜｶﾞｶﾞｷ	Crassostrea gigas							1	14.22				
53	軟体動物	二枚貝	カキ	ｲﾜｶﾞｶﾞｷ	Saccostrea kegaki							3	0.63				
54	軟体動物	二枚貝	カキ	ｲﾜｶﾞｶﾞｷ	Ostreidae							7	0.86				
55	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	Claudiconcha japonica												
56	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	Petricola mirabilis							1	+				
57	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	Petricola sp. cf. lithophaga												
58	軟体動物	二枚貝	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	Petricola sp.			10	0.25								
59	軟体動物	二枚貝	ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷｽﾏﾄｲｶﾞｲ	Hiatella orientalis			910	15.02	119	0.69			65	0.82	469	13.22
60	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｳﾛｺﾑｼ	Halosydna brevisetosa									6	0.38		
61	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｳﾛｺﾑｼ	Harmothoe praeclara												
62	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｳﾛｺﾑｼ	Lepidonotus elongatus							1	0.18				
63	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｳﾛｺﾑｼ	Polynoidae			16	0.30	11	0.15			67	16.24		
64	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	Eulalia sp.			1	0.03			46	1.19	37	0.98		
65	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	Phyllodocidae			8	0.14	13	0.10	3	0.08			2	0.17
66	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ﾀﾝｻﾞｸｺﾞｶｲ	Chrysopetalidae			1	0.01			1	+			4	0.09
67	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	Podarkeopsis brevipalpa												
68	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	Hesionidae			51	0.31	10	0.07			284	1.81	11	0.14
69	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Autolytus sp.												
70	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Sphaerosyllis sp.												
71	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Syllis amica												
72	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Trypanosyllis taeniaformis												
73	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis aciculata orientalis												
74	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis adamanteus kurilensis	4	0.03	38	0.27	9	0.02	3	0.05	118	0.42		
75	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis alternata												
76	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis fasciata			14	0.13	16	0.08	2	0.02	149	0.70	11	0.21
77	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis nipponica			14	0.31								
78	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Typosyllis sp.												
79	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｼﾘｽ	Syllinae	4	0.03	31	0.32	3	+	5	0.02	7	0.04	4	+
80	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Ceratonereis mirabilis												
81	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Neanthes caudata									36	0.98	11	0.33
82	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nectoneanthes latipoda											8	0.58
83	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis heterocirrata												
84	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis multignatha	3	0.02	98	1.87			3	0.04	1,077	44.55	84	4.40
85	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Nereis neoneanthes									23	5.39		
86	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Perinereis cultrifera			14	0.39	3	0.29	7	0.09	122	4.24	12	0.33
87	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Perinereis cultrifera floridana							4	0.25				
88	環形動物	多毛	ｻﾝﾊﾞｺﾞｶｲ	ｺﾞｶｲ	Platynereis bicanaliculata												
89	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｲｿﾒ	Eunice kobiensis			6	0.36	2	0.28					33	3.38
90	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ｾｸﾞﾛｲｿﾒ	Arabella iricolor							1	0.06				
91	環形動物	多毛	ｲｿﾒ	ﾉﾘｺｲｿﾒ	Schistomeringos rudolphi												
92	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ｽﾋﾞｵ	Polydora sp.			27	0.34	3	0.13	2	+	29	0.95		
93	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirratulus sp.												
94	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirriformia sp.					3	0.02			6	0.43	7	0.84
95	環形動物	多毛	ｽﾋﾞｵ	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ	Cirratulidae			95	1.87	13	2.05	1	0.03	25	0.26	45	1.15
96	環形動物	多毛	ﾊﾓﾘｳｷｺﾞｶｲ	ｸﾏﾉｱﾝﾂｷ	Acrocirrus validus			18	0.03	5	+			18,077	72.24	23	0.16
97	環形動物	多毛	ｵﾌｪﾘｱﾌﾟｶｲ	ｵﾌｪﾘｱﾌﾟｶｲ	Polyophthalmus pictus			7	0.04	2	0.04						
98	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Loimia sp.			5	0.24					14	1.25	13	0.18
99	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Thelepus sp.									18	1.32		
100	環形動物	多毛	ﾌｻｺﾞｶｲ	ﾌｻｺﾞｶｲ	Terebellidae			4	0.05					25	0.13		

表 3-8（2）　坪刈り調査結果　泉大津沖埋立処分場（D-2、D-3　付着動物）

調査地点						泉大津沖											
枠番号						D-2-上		D-2-中		D-2-下		D-3-上		D-3-中		D-3-下	
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
101	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｹﾔﾘﾑｼ	Sabellidae	ｹﾔﾘﾑｼ科			72	5.21					19	0.38	106	3.96
102	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Hydroides ezoensis	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	7	0.06	391	22.66	323	17.99	1	0.02	1,529	112.15	417	33.16
103	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Pomatoleios kraussii	ﾔｯｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ					3	0.06						
104	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirobranchus giganteus	ｲﾊﾞﾗｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ											28	1.20
105	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Spirorbella sp.	Spirorbella属												
106	環形動物	多毛	ｹﾔﾘﾑｼ	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	Serpulidae	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科									12	0.17		
107	節足動物	ｳﾐｸﾞﾓ	–	–	PYCNOGONIDA	ｳﾐｸﾞﾓ綱					1	+						
108	節足動物	顎脚	無柄	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Chthamalus challengeri	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ							158	0.40				
109	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Amphibalanus improvisus	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	3	0.04	321	2.83	364	1.65	2	0.03	926	9.65		
110	節足動物	顎脚	無柄	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	Balanus trigonus	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ									2			
111	節足動物	軟甲	端脚	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	Ampithoe sp.	Ampithoe属	17	0.07	175	0.64			1	+	28	0.05	9	0.02
112	節足動物	軟甲	端脚	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	Grandidierella sp.	Grandidierella属												
113	節足動物	軟甲	端脚	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	Aoroides sp.	Aoroides属			13	0.03	14	0.02					14	0.03
114	節足動物	軟甲	端脚	ﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ	Monocorophium sp.	Monocorophium属			13	0.02	6	0.01			19	0.02		
115	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏﾓﾘﾖｺｴﾋﾞ	Ericthonius pugnax	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ												
116	節足動物	軟甲	端脚	ｶﾏﾓﾘﾖｺｴﾋﾞ	Jassa sp.	Jassa属	19	0.03	124	0.09	115	0.11	60	0.04				
117	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Elasmopus sp.	Elasmopus属											10	0.03
118	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melita sp.	Melita属												
119	節足動物	軟甲	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	Melitidae	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ科												
120	節足動物	軟甲	端脚	ﾁﾋﾞﾖｺｴﾋﾞ	Gitanopsis sp.	Gitanopsis属												
121	節足動物	軟甲	端脚	ﾀﾃﾉｺｴﾋﾞ	Stenothoe sp.	Stenothoe属	1	+					40	0.02				
122	節足動物	軟甲	端脚	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	Hyale sp.	Hyale属	4	0.01					19	0.02				
123	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella equilibra	ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ			10	0.01								
124	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella penantis	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	78	0.12	329	0.58					9	0.01	81	0.06
125	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella scaura	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ												
126	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella simia	ｶﾏﾃﾜﾚｶﾗ					2	+					1	+
127	節足動物	軟甲	端脚	ﾜﾚｶﾗ	Caprella sp.	Caprella属	14	0.01	350	0.24					3	+	26	0.04
128	節足動物	軟甲	等脚	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	Janiridae	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ科			18	0.03								
129	節足動物	軟甲	等脚	ﾕﾌﾜﾞﾑｼ	Dynoides dentisinus	ｼﾘｹﾝｳﾐﾐｽ	14	0.09					138	0.24				
130	節足動物	軟甲	等脚	ﾕﾌﾜﾞﾑｼ	Paracerceis japonica	ﾂﾉｵｳﾐﾐｽ					1	+			5	0.15	2	+
131	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ｱﾌﾟｾｳﾃﾞｽ	Apseudidae	ｱﾌﾟｾｳﾃﾞｽ科												
132	節足動物	軟甲	ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	Zeuxo sp.	Zeuxo属	2	+	200	0.20	20	0.02						
133	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｴﾋﾞ	Hippolytidae	ﾓｴﾋﾞ科			2	+	3	0.01						
134	節足動物	軟甲	十脚	ｶﾆﾀﾞﾏｼ	Porcellanidae	ｶﾆﾀﾞﾏｼ科												
135	節足動物	軟甲	十脚	ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	Pagurus sp.	Pagurus属					4	0.03					9	0.05
136	節足動物	軟甲	十脚	ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	Cancer sp.	Cancer属												
137	節足動物	軟甲	十脚	Menippidae	Sphaerozius nitidus	ｽﾍﾟｽﾞｵｳｷﾞｶﾞﾆ									39	17.57		
138	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｸﾞﾆ	Pugettia quadridens	ﾖﾂﾔﾓｸﾞﾆ									3	0.11	4	0.08
139	節足動物	軟甲	十脚	ﾓｸﾞﾆ	Pugettia sp.	Pugettia属			7	0.03	16	0.05						
140	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	Pilumnus minutus	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ			10	2.25								
141	節足動物	軟甲	十脚	ｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	Pilumnus sp.	Pilumnus属									28	0.55		
142	節足動物	軟甲	十脚	–	Megalopa of Brachyura	ｶﾆ亜目のﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生												
143	節足動物	昆虫	ﾊｴ	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ	Tipulidae	ｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ科												
144	節足動物	昆虫	ﾊｴ	ﾕｽﾘｶ	Chironomidae	ﾕｽﾘｶ科												
145	触手動物	蕨虫	ﾎｳｷﾑｼ	ﾎｳｷﾑｼ	Phoronis sp.	Phoronis属			4	0.20					2	0.10	66	1.19
146	触手動物	苔虫	管口	ｸﾀﾞｺｹﾑｼ	Tubuliporidae	ｸﾀﾞｺｹﾑｼ科												
147	触手動物	苔虫	櫛口	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ	Vesiculariidae	ﾌｸﾛｺｹﾑｼ科			*	+								
148	触手動物	苔虫	唇口	ｲﾀｺｹﾑｼ	Calloporidae	ｲﾀｺｹﾑｼ科									*	+		
149	触手動物	苔虫	唇口	ﾌｻｺｹﾑｼ	Bugulidae	ﾌｻｺｹﾑｼ科			*	0.41	*	1.21			*	3.25	*	8.11
150	触手動物	苔虫	唇口	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ	Scrupocellariidae	ﾄｹﾞｺｹﾑｼ科			*	0.30	*	1.18			*	5.34	*	5.06
151	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Watersipora subovoidea	ﾁｺﾞｹﾑｼ			*	1.98	*	6.65			*	+		
152	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	Schizoporellidae	ﾋﾗｺｹﾑｼ科			*	+							*	0.02
153	触手動物	苔虫	唇口	ｳｽｺｹﾑｼ	Microporellidae	ｳｽｺｹﾑｼ科			*	0.70	*	1.96			*	2.33	*	1.62
154	触手動物	苔虫	唇口	ｱﾐｺｹﾑｼ	Reteporidae	ｱﾐｺｹﾑｼ科			*	+	*	0.87			*	+	*	6.68
155	触手動物	苔虫	唇口	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ	Cryptosulidae	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ科					*	0.01						
156	触手動物	苔虫	唇口	ｺﾌﾞｺｹﾑｼ	Celleporinidae	ｺﾌﾞｺｹﾑｼ科					*	0.19						
157	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ﾋﾒﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	Asterina pectinifera	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ					4	7.27					5	20.85
158	棘皮動物	ﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	Asterias amurensis	ｷﾋﾄﾃﾞ											7	29.26
159	棘皮動物	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ	Ophiactidae	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ科			3	0.02	11	0.16			22	0.23	8	0.70
160	棘皮動物	ｳﾆ	ﾎﾝｳﾆ	ｻﾝｼｮｳｳﾆ	Temnopleurus toreumaticus	ｻﾝｼｮｳｳﾆ					1	1.02					3	7.46
161	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｸﾞﾐﾓﾄﾞｷ	Phyllophoridae	ｸﾞﾐﾓﾄﾞｷ科			8	4.29							21	1.41
162	棘皮動物	ﾅﾏｺ	樹手	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ	Sclerodactylidae	ｽｸﾚﾛﾀﾞｸﾃｨﾗ科			3	4.49	2	2.26						
163	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ｳｽﾎﾞﾔ	Didemnidae	ｳｽﾎﾞﾔ科					*	2.68						
164	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ﾅﾂﾒﾎﾞﾔ	Ascidiidae	ﾅﾂﾒﾎﾞﾔ科					11	3.68					1	0.05
165	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	ﾏﾒﾎﾞﾔ	Perophoridae	ﾏﾒﾎﾞﾔ科												
166	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	Pyuridae	ﾏﾎﾞﾔ科			2	2.63	4	1.26						
167	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styela clava	ｴﾎﾞﾔ												
168	脊索動物	ﾎﾔ	ﾏﾎﾞﾔ	ｼﾛﾎﾞﾔ	Styelidae	ｼﾛﾎﾞﾔ科									35	15.24	6	3.15
169	脊索動物	ﾎﾔ	–	–	ASCIDIACEA(colony)	ﾎﾔ綱(群体ﾎﾞﾔ類)									*	0.50		
170	脊索動物	ﾎﾔ	–	–	ASCIDIACEA	ﾎﾔ綱			7	0.25								
種類数							29		69		61		43		50		49	
個体数・湿重量(g)合計							334	27.46	3,833	119.74	1,182	71.60	1,312	67.69	23,213	400.08	1,644	191.36

注1：単位は個体数・湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

3-3 目視による付着動植物調査

3-3-1 植物（海藻）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-9 に神戸沖埋立処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における植物の目視観察結果を示した。図 3-4 には、調査測線における代表的な箇所を示した。

・地点 A-2

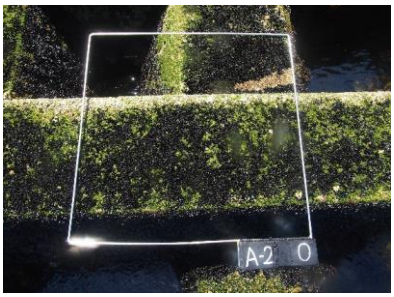
A-2 の地点では、各水深帯で 1～12 種、全体で 20 種の海藻類が目視観察によって確認された。-1～-3m で種類数が多くなる傾向がみられた。また、-2～-3m で、ワカメ、シダモク、タマハハキモクといった藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-9（1）　植物　目視観察結果　（　神戸沖埋立処分場　A-2　）

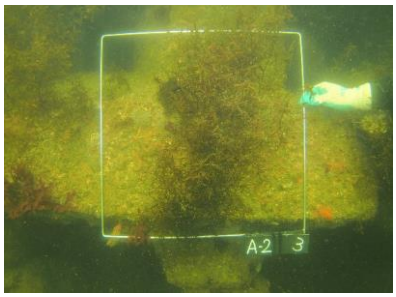
調査日：平成30年6月2日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオノリ属	+	+										
		アオサ属		20	+	+	+	+						
		シオグサ属			+	+								
黄色植物	褐藻	フクロノリ					+	+						
		ワカメ					5							
		シダモク				5	10							
		タマハハキモク				+								
紅色植物	紅藻	ヒメテングサ		+										
		マクサ			+	+	+	+	+					
		ススカケベニ										+	+	
		ツノマタ属			+									
		ムカデノリ				+	+							
		フダラク			+	5								
		ツルツル				+								
		ムカデノリ科			+	+	+	+	+	+	+			
		オキツノリ				+	+							
		ベニスナゴ							+	+	+			
		カバノリ			5	+	+	+	+	5	+			
		イギス目			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
藍色植物	藍藻	藍藻綱	+											
出現種類数			2	3	8	12	10	6	5	4	4	2	2	1

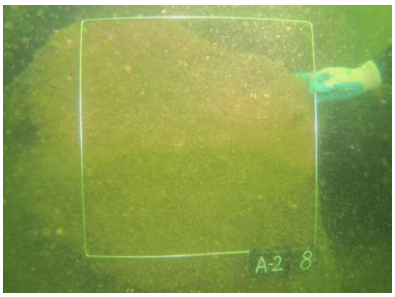
備考１）　出現種の各数値は被度(%)を示す。
　　２）　+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0m



平均水面-3.0m



平均水面-8.0m

図 3-4（1）　代表的な調査箇所の状況（A-2）

・地点 A-4

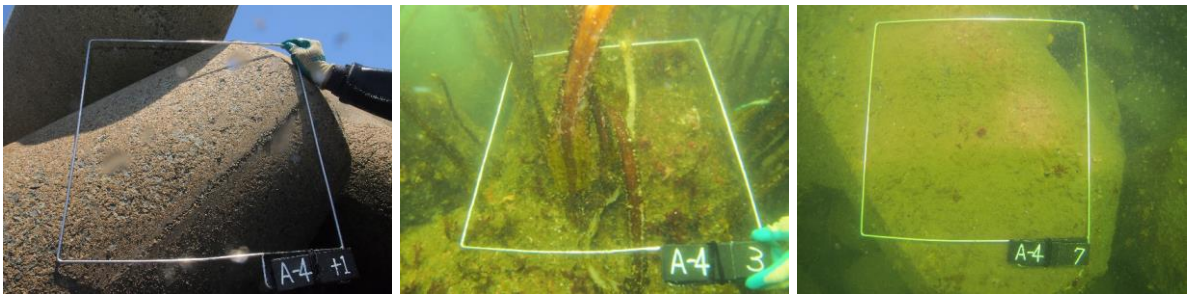
A-4 の地点では、各水深帯で 0～8 種、全体で 13 種の海藻類が目視観察よって確認された。+1m および-10m では海藻類は確認できず、-1～-4m で種類数が多くなる傾向がみられた。また、-1～-5m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認された。

表 3-9（2）　植物　目視観察結果　（　神戸沖埋立処分場　A-4　）

調査日：平成30年6月2日

門	綱	平均水面からの高さ(m) / 基質 / 種名	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
			ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ砂泥
緑色植物	緑藻	アオサ属		+	+	+	+	+						
		シオグサ属		+	+	+								
黄色植物	褐藻	ワカメ			5	10	20	5	+					
紅色植物	紅藻	マクサ					+		+	+				
		ススカケベニ									+	+		
		フダラク			5									
		ツルツル			+									
		ムカデノリ科			+	+	+	+						
		オキツノリ			+			+						
		ベニスナゴ							+	+				
		カバノリ				+	+	+	+	+	+	+		
		イギス目			+	+	+	+	5	5	+	+	+	
藍色植物	藍藻	藍藻綱		+										
出現種類数			0	3	8	6	6	6	5	4	3	3	1	0

備考１）　出現種の各数値は被度(%)を示す。
　　２）　+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面+1.0m　　平均水面-3.0m　　平均水面-7.0m

図 3-4（2）　代表的な調査箇所の状況（A-4）

・地点 A-5

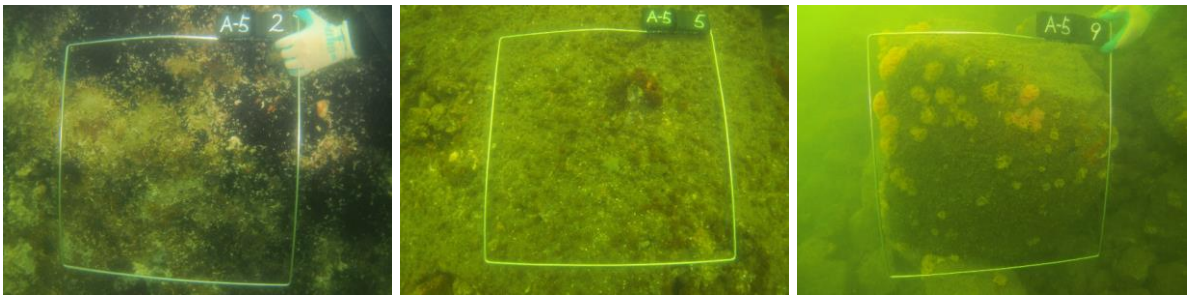
A-5 の地点では、各水深帯で 0～9 種、全体で 12 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、±0m と-11m では海藻類は確認できず、-2～-4m で種類数が多くなる傾向がみられた。藻場構成種（大型褐藻）の生育は確認されなかった。

表 3-9（3）　植物　目視観察結果　（　神戸沖埋立処分場　A-5　）

調査日：平成30年6月2日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫巨礫	砂泥
緑色植物	緑藻	アオノリ属			+	+									
		アオサ属			+	+	+	+							
		シオグサ属			+	+	+	+							
黄色植物	褐藻	フクロノリ					+	+	+						
紅色植物	紅藻	サンゴモ科						+	+	+	+	+	+	+	
		マクサ			+	+		+							
		ススカケベニ						5							
		ツルツル				+	+								
		ムカデノリ科				+	+	+	+	+					
		ベニスナゴ					+	5	+	+					
		カバノリ					+								
		イギス目				+	5	5	5	10	5	+	+	+	
出現種類数			0	0	4	7	8	9	5	4	2	2	2	2	0

備考１）　出現種の各数値は被度(%)を示す。
　　２）　+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-2.0m　　平均水面-5.0m　　平均水面-9.0m

図 3-4（3）　代表的な調査箇所の状況（A-5）

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-10 に大阪沖埋立処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における植物の目視観察結果を示した。図 3-5 には、調査測線における代表的な箇所を示した。

・地点 C-1

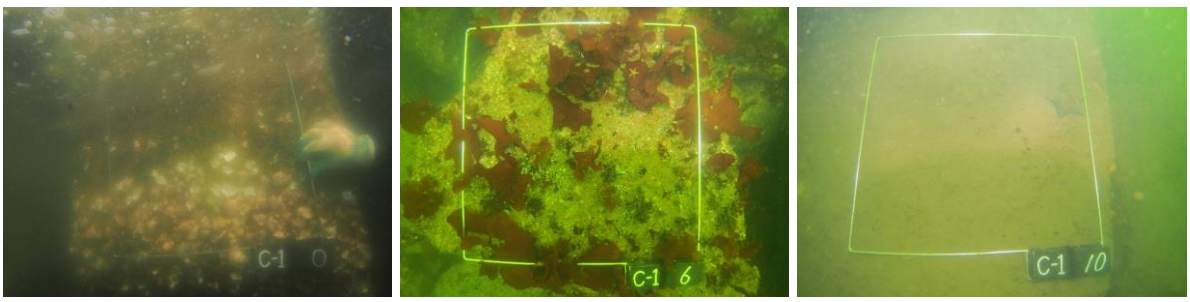
C-1 の地点では、各水深帯で 0～9 種、全体で 14 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-5～-7m で種類数が多くなっていた。また、-2～-3m と-5m でワカメ、-5m でシダモクといった藻場構成種（大型褐藻）が確認され、特に-2m ではワカメが繁茂していた。

表 3-10（1）　植物　目視観察結果　（　大阪沖埋立処分場　C-1　）

調査日：平成30年6月3日

門	綱	種名＼基質	+1 ｹｰｿﾝ	±0 ｹｰｿﾝ	-1 ｹｰｿﾝ	-2 ｹｰｿﾝ	-3 ｹｰｿﾝ	-4 ｹｰｿﾝ	-5 巨礫	-6 巨礫	-7 巨礫	-8 巨礫	-9 巨礫	-10 巨礫
緑色植物	緑藻	アオノリ属		+	+									
		アオサ属			+	+	+		+					
		シオグサ属			+	+								
黄色植物	褐藻	フクロノリ						+		+				
		ワカメ				30	5		+					
		シダモク							+					
紅色植物	紅藻	サンゴモ科							+	5	+	+	+	+
		ススカケベニ								+	5	+	+	
		ムカデノリ								+	+			
		フダラク						+	+					
		ツルツル							+	+	+			
		ベニスナゴ							5	20	20			
		カバノリ				+	+	+	+	+	+	5		
		イギス目				+	+	+	+	+	+	+	+	+
出現種類数			0	1	3	5	4	4	9	8	7	4	3	2

備考１）　出現種の各数値は被度(%)を示す。
　　２）　+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m　　平均水面-6.0m　　平均水面-10.0m

図 3-5（1）　代表的な調査箇所の状況（C-1）

・地点 C-2

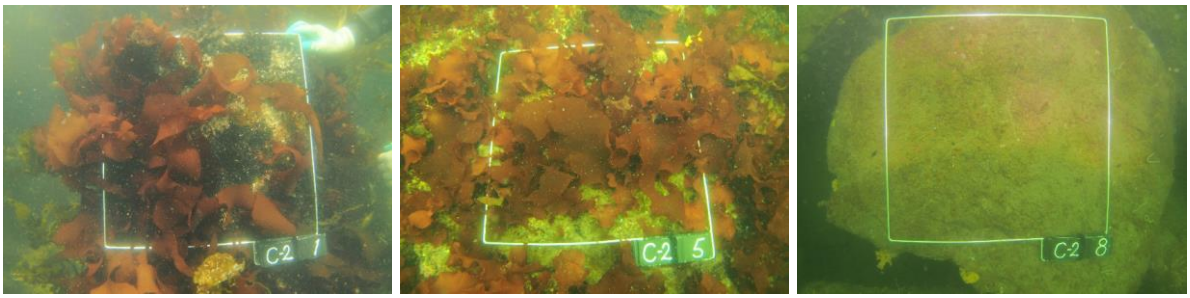
C-2 の地点では、各水深帯で 0～7 種、全体で 14 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-1～-4m で種類数が多くなっていた。-1m でフダラク、-5～-6m でベニスナゴの被度が高くなっていた。また、-1～-4m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認された。

表 3-10（2）　植物　目視観察結果　（　大阪沖埋立処分場　C-2　）

調査日：平成30年6月3日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオノリ属		+										
		アオサ属		+	+	+	+							
		シオグサ属		+	+									
黄色植物	褐藻	フクロノリ					+	+						
		ワカメ			5	20	10	5						
紅色植物	紅藻	サンゴモ科						+	20	20	20	10	+	+
		マクサ							+					
		ススカケベニ								+	+	+	+	
		ツノマタ属			5	5	20	+						
		フダラク			30	20	20							
		ツルツル			+	+								
		ベニスナゴ						+	40	50	10			
		カバノリ				5	+	+	5	+	+			
		イギス目			+	+	+	+	+	+	+	+	+	
出現種類数			0	3	7	7	7	7	5	5	5	3	3	1

備考１）出現種の各数値は被度(%)を示す。
２）+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-1.0m　　平均水面-5.0m　　平均水面-8.0m

図 3-5（2）　代表的な調査箇所の状況（C-2）

・地点 C-3

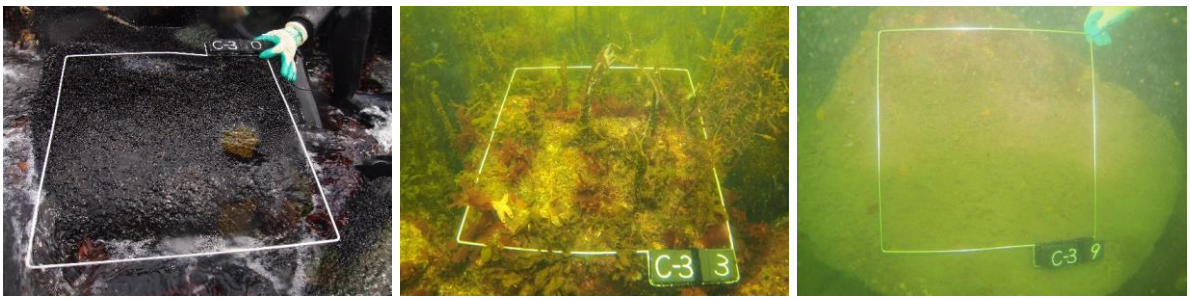
C-3 の地点では、各水深帯で 0～10 種、全体で 15 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m では海藻は確認されず、-1～-3m で種類数が多くなる傾向がみられた。また、-1～-3m ではワカメ、-3m ではシダモク、-1～-2m ではタマハハキモクといった藻場構成種（大型褐藻）が確認された。

表 3-10（3）　植物　目視観察結果　（　大阪沖埋立処分場　C-3　）

調査日：平成30年6月3日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑色植物	緑藻	アオサ属		+	+	+	+							
		シオグサ属		+	+	+								
黄色植物	褐藻	フクロノリ					+							
		ワカメ			5	5	10							
		シダモク					5							
		タマハハキモク			10	+								
紅色植物	紅藻	サンゴモ科			+	+	5	+	5	20	10	5	5	5
		マクサ					+	+	+					
		ススカケベニ										+	+	
		フダラク			5	+	+							
		ツルツル			+	5	+							
		イワノカワ科							20	5	5	5	+	
		ベニスナゴ						+	10	+	10			
		カバノリ			+	5	5	+	+					
		イギス目			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
出現種類数			0	2	9	9	10	5	6	4	4	4	4	2

備考１）　出現種の各数値は被度(%)を示す。
　　２）　+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m　　平均水面-3.0m　　平均水面-9.0m

図 3-5（3）　代表的な調査箇所の状況（C-3）

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-11 に泉大津沖埋立処分場の 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における植物の目視観察結果を示した。図 3-6 には、調査測線における代表的な箇所を示した。

・地点 D-2

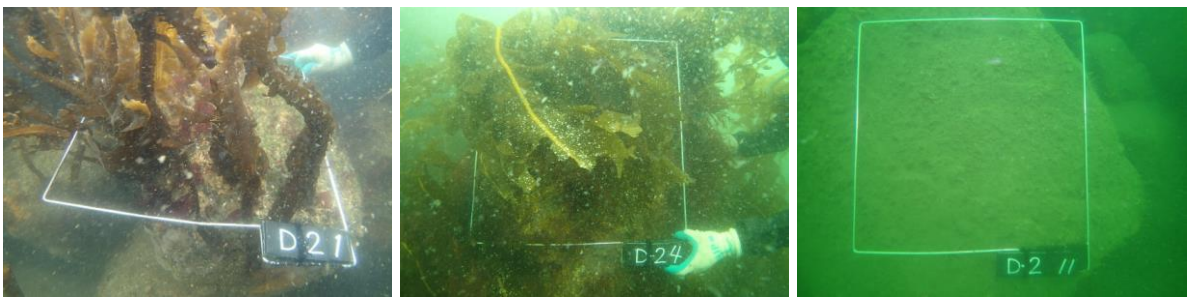
D-2 の地点では、各水深帯で 0～10 種、全体で 15 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1m、-12～-13m では海藻は確認されず、-1～-6m で種類数が多くなる傾向がみられた。-1m でアオサ属、-4m と-6m でフダラク、-5～-6m ではタオヤギソウの被度が高くなっていた。また、-1～-6m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメの繁茂が観察された。

表 3-11（1）　植物　目視観察結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-2　）

調査日：平成30年5月26日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
緑色植物	緑藻	アオノリ属				+	+										
		アオサ属		+	30	+	+										
		シオグサ属		+	+		+										
黄色植物	褐藻	ワカメ			20	50	20	20	5	+							
紅色植物	紅藻	マクサ			5	+	+										
		ススカケベニ								+	+	+	+	+	+		
		スギノリ属			+												
		ムカデノリ		+	+	+	10	+									
		フダラク		+	5	5											
		ツルツル			+			+		+							
		ベニスナゴ							+	+							
		カバノリ			+	+	10	30	20	30	5	+					
		コスジフシツナギ			+												
		タオヤギソウ						20	30	30	20	+	+				
		イギス目					+			+	+	+	+	+	+		
出現種類数			0	4	10	7	8	5	4	7	4	4	3	2	2	0	0

備考１）出現種の各数値は被度(%)を示す。
２）+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-1.0m　　平均水面-4.0m　　平均水面-11.0m

図 3-6（1）　代表的な調査箇所の状況（D-2）

・地点 D-3

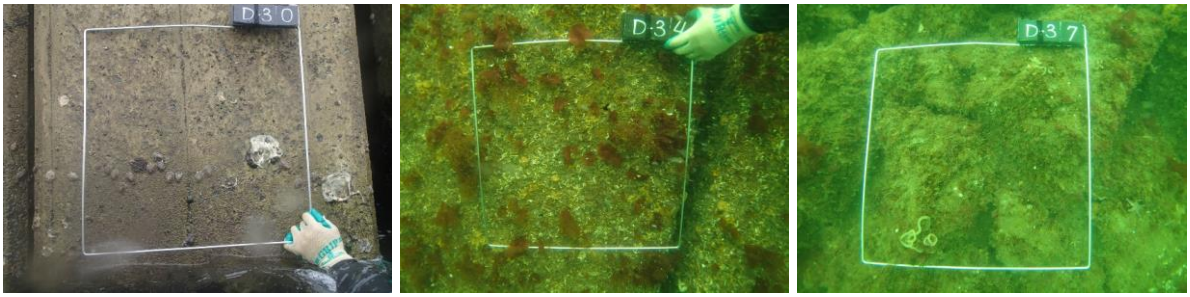
D-3 の地点では、各水深帯で 0～7 種、全体で 9 種の海藻類が目視観察によって確認された。+1～±0 m、-13m では海藻が確認されず、-2～-4m で種類数が多くなっていた。また、-1～-5m、-7m で藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認され、特に-2 m ではワカメの繁茂が観察された。

表 3-11（2） 植物 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-3 ）

調査日：平成30年5月26日

門	綱	平均水面からの高さ(m) ／ 基質 ／ 種名	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
			ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
緑色植物	緑藻	アオサ属			5	+	+										
		シオグサ属			5	+		+									
		ミル				+											
黄色植物	褐藻	ワカメ			+	30	+	+	+		+						
紅色植物	紅藻	マクサ				+	+	+	+	+							
		ススカケベニ			+	+	+	5	5	+	5	+	+	+			
		カバノリ					+				5	+					
		タオヤギソウ						+	+	+	5	+					
		イギス目				+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
出現種類数			0	0	4	7	6	6	5	4	5	4	2	2	1	1	0

備考１） 出現種の各数値は被度(%)を示す。
２） +表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m　　平均水面-4.0m　　平均水面-7.0m

図 3-6（2） 代表的な調査箇所の状況（D-3）

・地点 D-5

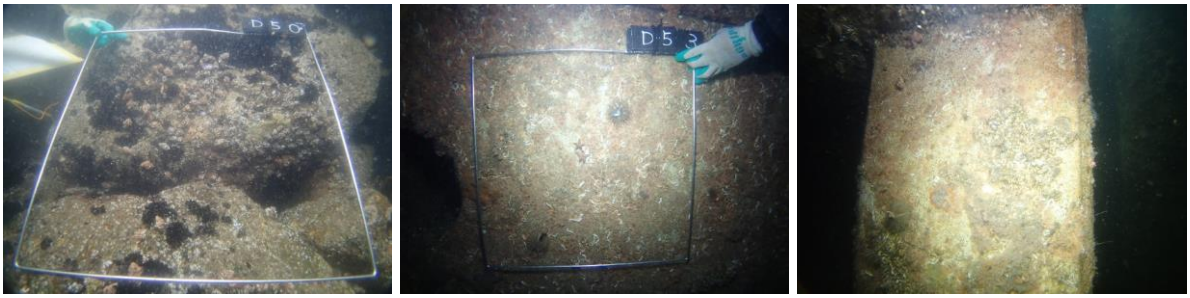
D-5 の地点では、藻類は確認されなかった。

表 3-11（3）　植物　目視観察結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-5　）

調査日：平成30年5月26日

			エコ岸壁							
			壁面					遊水室		
		平均水面からの高さ(m)	+1	±0	-1	-2	-3			
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
出現種なし										
出現種類数			0	0	0	0	0	0	0	0

備考１）出現種の各数値は被度(%)を示す。
２）+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面±0.0m　　平均水面-3.0m　　遊水室側面

図 3-6（3）　代表的な調査箇所の状況（D-5）

・地点 D-6

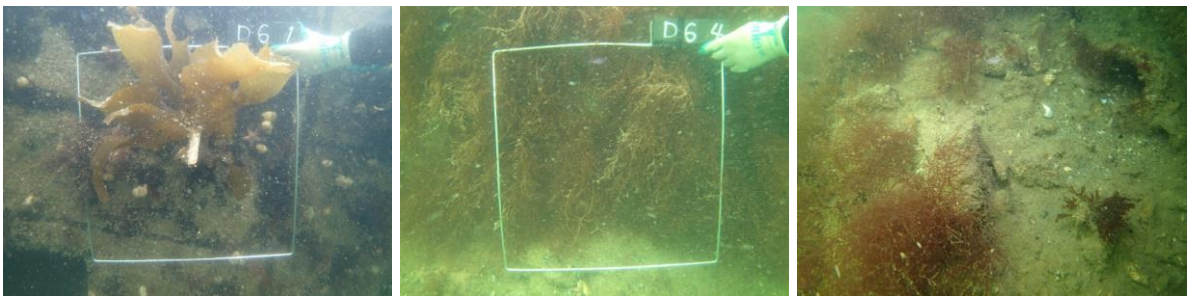
D-6 の地点では、各水深帯で 0～9 種類、全体で 14 種類の海藻類が目視観察によって確認された。+1m と遊水室の上室の上面、側面、下室の上面では海藻が確認されず、-2m で最も種類数が多くなっていた。-4～5m ではタオヤギソウの被度が高くなっていた。また、-1m と-4m では藻場構成種（大型褐藻）であるワカメが確認された。

表 3-11（4）　植物　目視観察結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-6　）

調査日：平成30年5月26日

			エコ岸壁													
			壁面							遊水室						
		平均水面からの高さ(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室			
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	石網（網欠損）	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
緑色植物	緑藻	アオノリ属			+	+									
		アオサ属		+	+	+	+					+			
		シオグサ属		+	+	+	+								
黄色植物	褐藻	ワカメ			10			+							
紅色植物	紅藻	イソダンツウ		+											
		ススカケベニ				+	+	+	10						+
		ムカデノリ			10	+						+			+
		フダラク													+
		ツルツル					+					+			
		ムカデノリ科			+	+									
		カバノリ				+	5	+	+						+
		コスジフシツナギ		+											
		タオヤギソウ				+	20	60	40					+	5
		イギス目		+	+	+									
出現種類数			0	5	7	9	6	4	3	0	0	3	0	1	5

備考１）　出現種の各数値は被度(%)を示す。
　　２）　+表示は被度が5%未満であることを示す。



平均水面-1.0m　　平均水面-4.0m　　遊水室下室下面

図 3-6（4）　代表的な調査箇所の状況（D-6）

3-3-2 動物（付着動物）

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-12 に神戸沖埋立処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、各水深帯で 1～9 種、全体で 21 種の付着動物が目視観察によって確認され、-5m で種類数が最も多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m で二枚貝のムラサキイガイの被度が高くなっていた。

表 3-12（1）　動物　目視観察結果　（　神戸沖埋立処分場　A-2　）

調査日：平成30年6月2日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク		+										
		シオガマサンゴ科							+					
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(172)											
		タマキビ	(3)											
		裸鰓目							(1)			(1)		
		カラマツガイ		(1)										
	二枚貝	ムラサキイガイ		40	+									
		イタボガキ科		+										
		キクザルガイ科							+	+				
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科				+	+	+						
		カンザシゴカイ科			+	5	5	5	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	+										
		サンカクフジツボ			+	+	+	+	+	+	+	+		
触手動物	箒虫	Phoronis属				+	+	+						
	苔虫	苔虫綱			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ						(1)	(1)					
		キヒトデ			(3)	(1)	(1)	(2)	(1)			(1)		
	ナマコ	マナマコ						(1)						
脊索動物	ホヤ	エボヤ					+							
		ホヤ綱（群体性）									+			
		ホヤ綱（単体性）							+	+				
出現種類数			3	5	5	6	7	8	9	5	4	5	2	1

備考１）　出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。
　　２）　+表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 A-4

A-4 の地点では、各水深帯で 2～9 種、全体で 21 種の付着動物が目視観察によって確認され、-2～-5m で種類数が多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0～-1m で二枚貝のムラサキイガイの被度が極めて高くなっていた。また、キヒトデが-1～-10m の広い範囲でみられた。

表 3-12（2） 動物 目視観察結果 （ 神戸沖埋立処分場 A-4 ）

調査日：平成30年6月2日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ 砂泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+		+							
刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク		+										
軟体動物	腹足	ヨメガカサ		(1)										
		コモレビコガモガイ		(5)										
		アラレタマキビ	(104)											
		オオヘビガイ				+								
		裸鰓目					(1)							
		カラマツガイ		(5)										
	二枚貝	ムラサキイガイ		60	40	+								
		イタボガキ科		+	+									
		キクザルガイ科							+					
環形動物	多毛	ミズヒキゴカイ科						+	+	+				
		カンザシゴカイ科		+	+	5	+	+	+	+	+	+	+	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	+										
		サンカクフジツボ					+	+	+	+	+	+	+	
触手動物	箒虫	Phoronis属				+	+	+	+					
	苔虫	苔虫綱			+	5	+	+	+	+	+	+	+	
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ								(1)		(1)		
		キヒトデ			(1)	(3)	(5)	(8)	(3)	(3)	(1)	(1)	(1)	(1)
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）				5	+	+	+					
		ホヤ綱（単体性）				+	+	+	+	+	+	+		
出現種類数			2	8	6	8	9	8	9	7	5	6	4	2

備考１） 出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。

２） +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 A-5

A-5 の地点では、各水深帯で 0～10 種、全体で 19 種の付着動物が目視観察によって確認された。+1 m 、-11m では付着生物は確認されず、-3m で種類数が最も多くなっていた。±0m で巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、±0m ではイワフジツボ、±0～-2m で二枚貝のムラサキイガイ、-2～-3m でカンザシゴカイ科、-9m で苔虫綱の被度が高くなっていた。中でも、ムラサキイガイについては-1m での被度が極めて高くなっていた。また、イトマキヒトデ、キヒトデが-3～-9m の広い範囲でみられた。

表 3-12（3） 動物 目視観察結果 （ 神戸沖埋立処分場 A-5 ）

調査日：平成30年6月2日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫巨礫	砂泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱						+							
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱				+	+								
	花虫	イソギンチャク目		+	+										
		シオガマサンゴ科											+	+	
軟体動物	腹足	アラレタマキビ		(16)											
	二枚貝	ムラサキイガイ		20	70	30	+								
		イタボガキ科		5		+		+	+	+					
環形動物	多毛	ケヤリムシ科								+	+	+			
		カンザシゴカイ科		+	+	10	10	5	+	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	イワフジツボ		30											
		サンカクフジツボ						+	+	+	+	+	+	+	
触手動物	箒虫	Phoronis属				+	+								
	苔虫	苔虫綱			+	+	+	+	+	+	+	5	10	5	
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ					(1)	(1)	(1)		(1)		(1)		
		キヒトデ					(1)	(2)	(3)	(1)		(1)	(1)		
	ウニ	サンショウウニ					(1)				(1)				
	ナマコ	マナマコ										(1)			
脊索動物	ホヤ	エボヤ				+	+	+		+	+	+	+		
		ホヤ綱（群体性）			+	+	+			+					
出現種類数			0	6	5	8	10	8	6	8	7	7	7	4	0

備考１） 出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。

２） +表示は被度が5%未満であることを示す。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-13 に大阪沖埋立処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、各水深帯で 1～10 種、全体で 22 種の付着動物が目視観察によって確認され、-3m で種類数が最も多くなっていた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、±0～-2m では二枚貝のムラサキイガイ、±0m では二枚貝のイタボガキ科とイワフジツボの被度が高くなっていた。中でも、ムラサキイガイについては、-1～-2m の被度が非常に高くなっていた。また、キヒトデが-3～-10m の広い範囲でみられた。

表 3-13（1）　動物　目視観察結果　（　大阪沖埋立処分場　C-1　）

調査日：平成30年6月3日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱				+	+	+		+				
刺胞動物	花虫	タテジマイソギンチャク		+			+							
		イソギンチャク目			+	+								
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(6)										
		アラレタマキビ	(36)											
		シマメノウフネガイ								(1)	(2)			
		裸鰓目										(1)		
		カラマツガイ		(8)										
	二枚貝	ムラサキイガイ		10	70	60	+							
		イタボガキ科		20										
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		+	+	+	5	5	+	+	+	+	+	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ		20										
		サンカクフジツボ							+	+	+	+		
触手動物	箒虫	Phoronis属					+	+						
	苔虫	苔虫綱			+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ												(1)
		キヒトデ					(1)	(6)	(7)	(5)	(6)	(9)	(3)	(4)
	ウニ	サンショウウニ						(1)						
	ナマコ	マナマコ							(1)					
脊索動物	ホヤ	エボヤ				+	+							
		ホヤ綱（群体性）				+	+	5						
		ホヤ綱（単体性）				+	+	+						
出現種類数			1	7	4	8	10	8	5	6	5	5	3	4

備考１）　出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。

２）　+表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 C-2

C-2 の地点では、各水深帯で 2～8 種、全体で 20 種の付着動物が目視観察によって確認され、-3～-4m で種類数が最も多くなっていた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m では巻貝のカラマツガイが多く見られ、±0～-1m では二枚貝のムラサキイガイの被度が極めて高くなっていた。

表 3-13（2） 動物 目視観察結果 （ 大阪沖埋立処分場 C-2 ）

調査日：平成30年6月3日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱				+	+	5	+	+				
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱										+	+	
	花虫	タテジマイソギンチャク		+										
		イソギンチャク目					+							
		シオガマサンゴ科									+	+		
軟体動物	腹足	コモレビコガモガイ		(7)										
		アラレタマキビ	(136)											
		オオヘビガイ					+	+	+	+				
		シマメノウフネガイ										(1)		(1)
		カラマツガイ		(12)										
		キクノハナガイ		(3)										
	二枚貝	ムラサキイガイ		80	60									
		イタボガキ科		+				+						
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			+	5	5	5	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+											
触手動物	箒虫	Phoronis属				+	+	+						
	苔虫	苔虫綱			+	+	+	5	+	5	+	+	+	+
棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ					(1)		(2)	(1)				
	ウニ	サンショウウニ						(1)						
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）			+	+	+	+	+					
出現種類数			2	6	4	5	8	8	6	5	3	5	3	2

備考１） 出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。

２） +表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 C-3

C-3 の地点では、各水深帯で 1～7 種、全体で 13 種の付着動物が目視観察によって確認され、-3m で種類数が最も多くなっていた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、±0m では二枚貝のムラサキイガイの被度が非常に高く、-1～-3m ではカンザシゴカイ科、-6～-7m では苔虫綱の被度が高くなっていた。また、キヒトデが-2～-10m の広い範囲でみられた。

表 3-13（3） 動物 目視観察結果 （ 大阪沖埋立処分場 C-3 ）

調査日：平成30年6月3日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+		+	+						
刺胞動物	花虫	シオガマサンゴ科												+
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(28)											
		オオヘビガイ				+	+		+	+				
		カラマツガイ		(1)										
		キクノハナガイ		(1)										
	二枚貝	ムラサキイガイ		90	5									
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			10	20	20	+	+	+	+	+	+	
触手動物	箒虫	Phoronis属				+		+						
	苔虫	苔虫綱				5	5	5	+	10	10	+	+	+
棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ				(1)	(1)		(1)	(1)	(2)		(1)	(2)
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）				+	+	+		+	+			
		ホヤ綱（単体性）					+	+	+					
出現種類数			1	3	3	6	7	6	5	5	4	2	3	3

備考１） 出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。

２） +表示は被度が5%未満であることを示す。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-14 に泉大津沖埋立処分場の 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における動物の目視観察結果を示した。図 3-7 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、各水深帯で 0～13 種、全体で 32 種の付着動物が目視観察によって確認された。-12～-13m では付着動物は確認されず、±0m で種類数が最も多くなっていた。+1m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m ではイワフジツボの被度が高かった。-2m でヒドロ虫綱、-2～-6m で苔虫綱、-3m で尋常海綿綱、-3～-5m でカンザシゴカイ科の被度が高くなっていた。また、イトマキヒトデ、キヒトデが-4～-11m の広い範囲でみられた。

表 3-14（1）　動物　目視観察結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-2　）

調査日：平成30年5月26日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 転石	巨礫	泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			5	+	10			+		+		+	+		
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱			+	10	+	+	+	+							
	花虫	タテジマイソギンチャク		+		+											
		イソギンチャク目			+												
		シオガマサンゴ科													+		
軟体動物	多板	ヒメケハダヒザラガイ		(2)													
	腹足	ベッコウガサ		(1)													
		マツバガイ		(2)													
		ヨメガカサ		(8)													
		コモレビコガモガイ		(8)													
		ウノアシ		(5)													
		コシダカガンガラ								(2)							
		アラレタマキビ	(244)														
		オオヘビガイ						+	+								
		シマメノウフネガイ										(1)	(2)	(1)			
		レイシガイ							(2)								
		イボニシ		(3)	(3)												
		裸鰓目						(1)	(1)								
		カラマツガイ		(3)													
		キクノハナガイ		(1)	(1)												
	二枚貝	イタボガキ科		5													
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			+	+	10	10	10	+	+	+	+	+			
節足動物	顎脚	イワフジツボ	+	10													
		クロフジツボ		+													
		サンカクフジツボ					+	+	+	+	+	+	+	+	+		
触手動物	箒虫	Phoronis属			+	+	+										
	苔虫	苔虫綱			+	10	20	10	20	10	+	+	+	+	+		
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ						(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(2)				
		キヒトデ							(1)	(1)			(3)	(2)	(2)		
	ナマコ	マナマコ								(1)							
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）			+	+	+		+								
		ホヤ綱（単体性）					+							+			
出現種類数			2	13	9	7	8	7	10	9	4	6	6	7	5	0	0

備考１）出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。
２）+表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 D-3

D-3 の地点では、各水深帯で 0～11 種、全体で 25 種の付着動物が目視観察によって確認された。-13m では付着動物は確認されず、-3m で最も種類数が多かった。+1～±0m で巻貝のアラレタマキビの個体数が非常に多く、±0m ではヨメガカサ、コモレビコガモガイといった巻貝が多くみられた他、イワフジツボの被度が高かった。-1～-2m では二枚貝のムラサキイガイの被度が非常に高く、-2～-6m でカンザシゴカイ科、-3～-6m、-10m、-12m で苔虫綱の被度が高くなっていた。また、-2～-12m の広い範囲でキヒトデがみられた。

表 3-14（2）　動物　目視観察結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-3　）

調査日：平成30年5月26日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱				+	+					+	+				
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱					+	+									
	花虫	タテジマイソギンチャク		+	+												
		イソギンチャク目				+	+										
		シオガマサンゴ科												+		+	
軟体動物	腹足	ヨメガカサ		(11)													
		コモレビコガモガイ		(14)													
		ウノアシ		(2)	(3)												
		アラレタマキビ	(212)	(96)													
		オオヘビガイ								+							
		シマメノウフネガイ											(1)	(1)			
		レイシガイ				(3)	(4)	(3)									
		イボニシ		(3)													
		カラマツガイ		(4)													
	二枚貝	ムラサキイガイ			70	50	+										
		イタボガキ科		+													
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科			+	10	10	20	20	20	+	+	+	+	+	+	
節足動物	顎脚	イワフジツボ		30													
		サンカクフジツボ									+	+	+	+			
触手動物	箒虫	Phoronis属					+	+									
	苔虫	苔虫綱			+	+	10	10	10	10	+	+	5	10	5	10	
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ						(1)		(1)							
		キヒトデ				(2)	(3)	(2)	(2)	(2)	(4)	(2)	(3)	(1)	(1)	(1)	
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）				+	+	+	+	+							
		ホヤ綱（単体性）					+	+	+								
出現種類数			1	9	5	8	11	9	5	6	4	5	6	6	3	4	0

備考１）出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。
２）+表示は被度が5%未満であることを示す。

・地点 D-5

D-5 の地点では、各水深帯で 1～12 種、全体で 16 種の付着動物が目視観察によって確認され、-1～-3m 付近や遊水室の各面で種類数が多くなる傾向がみられた。±0m では巻貝のイボニシが、-1m では同じく巻貝のレイシガイが多くみられた。また、±0m では二枚貝のムラサキイガイ、±0～-3m ではカンザシゴカイ科、-1～-3m では苔虫綱の被度が高くなっていた。なお、遊水室内の上面ではムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、Phoronis 属、苔虫綱の、側面では苔虫綱の被度が高かった。上面、下面ではレイシガイが多数みられた。

表 3-14（3） 動物 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-5 ）

調査日：平成30年5月26日

			エコ岸壁							
			壁面					遊水室		
		平均水面からの高さ(m)	+1	±0	-1	-2	-3			
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱			+	+	+	+	+	+
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱			+	+	+	+	+	+
	花虫	イソギンチャク目			+	+	+			
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(3)							
		シマメノウフネガイ					(1)			
		レイシガイ			(84)	(7)	(3)	c	r	c
		イボニシ		(36)						
	二枚貝	ムラサキイガイ		30	+			30	+	+
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		10	20	20	10	10	5	5
触手動物	箒虫	Phoronis属			+			30	5	+
	苔虫	苔虫綱			20	30	30	20	40	+
棘皮動物	ヒトデ	イトマキヒトデ			(1)			r	r	r
		キヒトデ			(1)	(1)		r	r	r
	ウニ	サンショウウニ			(1)	(1)	(1)	r	rr	r
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）			+	+				
		ホヤ綱（単体性）				+	+	+	+	
出現種類数			1	3	12	10	9	11	11	10

備考１） 出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。

２） +表示は被度が5%未満であることを示す。

３） 遊水室で個体数計数が可能な出現種はCR法による概数を把握し、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体,r:3～10個体,c:11～50個体,cc:51個体以上

・地点 D-6

D-6 の地点では、各水深帯で 3～12 種、全体で 17 種の付着動物が目視観察によって確認され、-2m 付近や遊水室の上室の上面、側面などで種類数が多くなる傾向がみられた。+1m では巻貝のアラレタマキビの個体数が多く、イワフジツボの被度が高くなっていた。また、±0～-1m で二枚貝のムラサキイガイの被度が非常に高く、-1m でイソギンチャク目とヨーロッパフジツボ、-1～-3m で苔虫綱、-2～-4m でカンザシゴカイ科、-3～-4m でホヤ綱（単体性）の被度が高くなっていた。なお、遊水室内の上室ではイソギンチャク目、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、Phoronis 属、苔虫綱の被度が高く、下室の上面、側面では苔虫綱の被度が極めて高くなっていた。

表 3-14（4）　動物　目視観察結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-6　）

調査日：平成30年5月26日

			エコ岸壁													
			壁面							遊水室						
		平均水面からの高さ(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	上室			下室			
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	石網（網欠損）	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
海綿動物	尋常海綿	尋常海綿綱								+	+		+		
刺胞動物	ヒドロ虫	ヒドロ虫綱								+	+		+	+	
	花虫	イソギンチャク目			10	+	+			30	10	5	+	+	+
軟体動物	腹足	アラレタマキビ	(48)												
		タマキビ	(4)												
		レイシガイ		(2)		(1)				r	r	r	r	r	r
	二枚貝	ホトトギスガイ		+											
		ムラサキイガイ		60	50	+				10	10	+	+	+	
環形動物	多毛	カンザシゴカイ科		+	+	10	10	10	+	10	+	40	5	+	+
節足動物	顎脚	イワフジツボ	20												
		ヨーロッパフジツボ			10	+					+				
		サンカクフジツボ			+	+	+	+	+						
触手動物	箒虫	Phoronis属				+	+	+	+		20				
	苔虫	苔虫綱			10	10	10	+	+	20	30		50	60	
棘皮動物	ヒトデ	キヒトデ		(1)	(1)	(2)		(2)	(1)	r	r	r	r	r	r
脊索動物	ホヤ	ホヤ綱（群体性）			+	+		+	+	+	+		+		
		ホヤ綱（単体性）			+	+	10	10	+	10	+	+			+
出現種類数			3	5	9	11	6	7	7	10	12	6	9	7	5

備考１）出現種の各数値は被度(%)を、( )内の値は個体数を示す。

２）+表示は被度が5%未満であることを示す。

３）遊水室で個体数計数が可能な出現種はCR法による概数を把握し、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体,r:3～10個体,c:11～50個体,cc:51個体以上

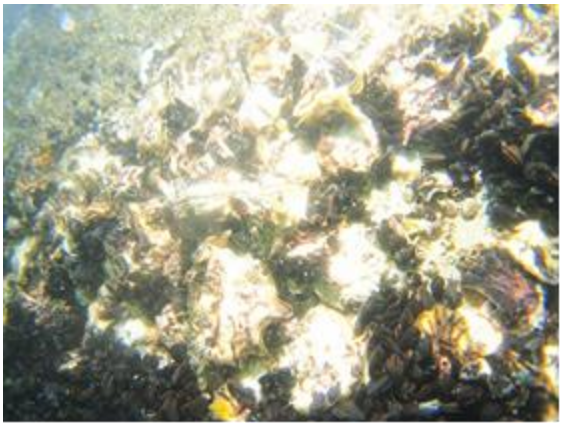
イソギンチャク目

ヨメガカサ

コモレビコガモガイ

アラレタマキビ

レイシガイ



ムラサキイガイ・イタボガキ科

図 3-7（1）　目視調査における主な付着動物の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）

カンザシゴカイ科

イワフジツボ

苔虫綱

イトマキヒトデ

キヒトデ

ホヤ綱（単体性）

図 3-7（2）　目視調査における主な付着動物の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）

3-3-3 ブロック側面、裏面の状況（付着動植物）

各処分場において護岸にブロックを用いている神戸沖埋立処分場の 2 点(A-2、A-4)、大阪沖埋立処分場の 2 点 (C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場の 1 点 (D-2) においては、ブロック側面、裏面の状況を、目視および写真撮影により確認した。

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-15 に神戸沖埋立処分場の 2 点 (A-2、A-4) におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。図 3-8 には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 A-2

±0m では各面でアオサ属、二枚貝のムラサキイガイなどが、-1～-3m ではシダモク、カンザシゴカイ科、苔虫綱、キヒトデなどが確認された。全体的に、上面、側面、裏面での付着生物相の大きな変化は認められなかった。

表 3-15（1） 動植物 目視観察結果 （ 神戸沖埋立処分場 A-2 ）

A－2	平均水面(m)	±0	-1	-2	-3
	位置　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ
主要種※	上面	アオサ属 ムラサキイガイ	キヒトデ	―	シダモク
	右側面	アオサ属 カラマツガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科 キヒトデ	シダモク カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱
	左側面	アオサ属 カラマツガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱
	裏面	アオサ属 カラマツガイ ムラサキイガイ イタボガキ科 イワフジツボ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	シダモク カンザシゴカイ科 苔虫綱	ムカデノリ カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱 キヒトデ

※主要種:上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出
側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注１）緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

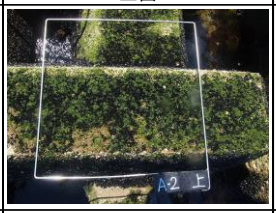
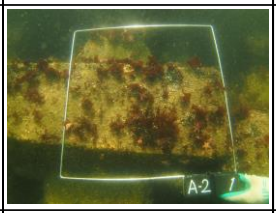
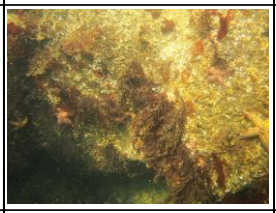
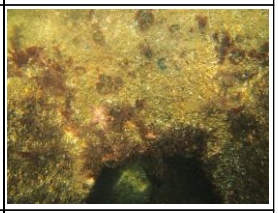
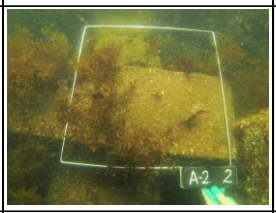
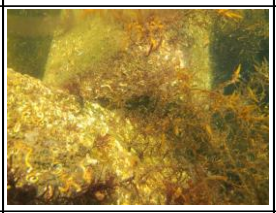
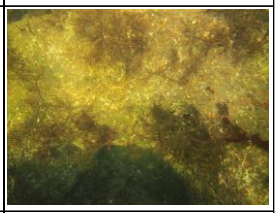
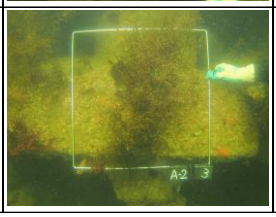
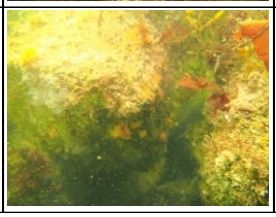
平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
±0				
-1				
-2				
-3				

図 3-8（1）　ブロック各位置の付着動植物の状況　（　神戸沖埋立処分場　A-2　）

・地点 A-4

+1m では各面に小型の巻貝のアラレタマキビが多くみられた。±0 m では各面にムラサキイガイが多く付着していた。-1m では上面を除く各面に藻場構成種（大型褐藻）であるワカメや紅藻のフダラクがよく繁茂し、各面にはムラサキイガイが多くみられた。-2～-5m では各面でワカメが繁茂し、上面ではキヒトデが、他の 3 面では尋常海綿綱、イワガキ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、キヒトデ、ホヤ綱などがよくみられた。また、-4～-5m の裏面ではマナマコの生息を確認した。-6m 以深では、各面に苔虫綱、キヒトデなどがみられた。

表 3-15（2）　動植物　目視観察結果　（　神戸沖埋立処分場　A-4　）

A－4	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
	位置　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ砂泥
主要種※	上面	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ カラマツガイ ムラサキイガイ	ムラサキイガイ	**ワカメ** キヒトデ	**ワカメ** キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	－	－	－	－
	右側面	コモレビコガモガイ アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキイガイ	**ワカメ** イソギンチャク目 ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	**ワカメ** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	**ワカメ** カンザシゴカイ科 キヒトデ	**ワカメ** カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ ホヤ綱(単体性)	**ワカメ** イワガキ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ ホヤ綱(単体性)	キヒトデ	苔虫綱 キヒトデ	苔虫綱	－	－
	左側面	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	**ワカメ** **フダラク** ムラサキイガイ	**ワカメ** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	**ワカメ** カンザシゴカイ科 キヒトデ ホヤ綱(群体性)	**ワカメ** イワガキ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ ホヤ綱(単体性)	**ワカメ** イワガキ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ ホヤ綱(単体性)	キヒトデ	苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	－
	裏面	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	**ワカメ** **フダラク** ムラサキイガイ	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 キヒトデ ホヤ綱(群体性)	**ワカメ** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	**ワカメ** イワガキ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ マナマコ	**ワカメ** イワガキ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ マナマコ	苔虫綱 キヒトデ	苔虫綱	苔虫綱	－	－

※主要種:上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出
側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注１）緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

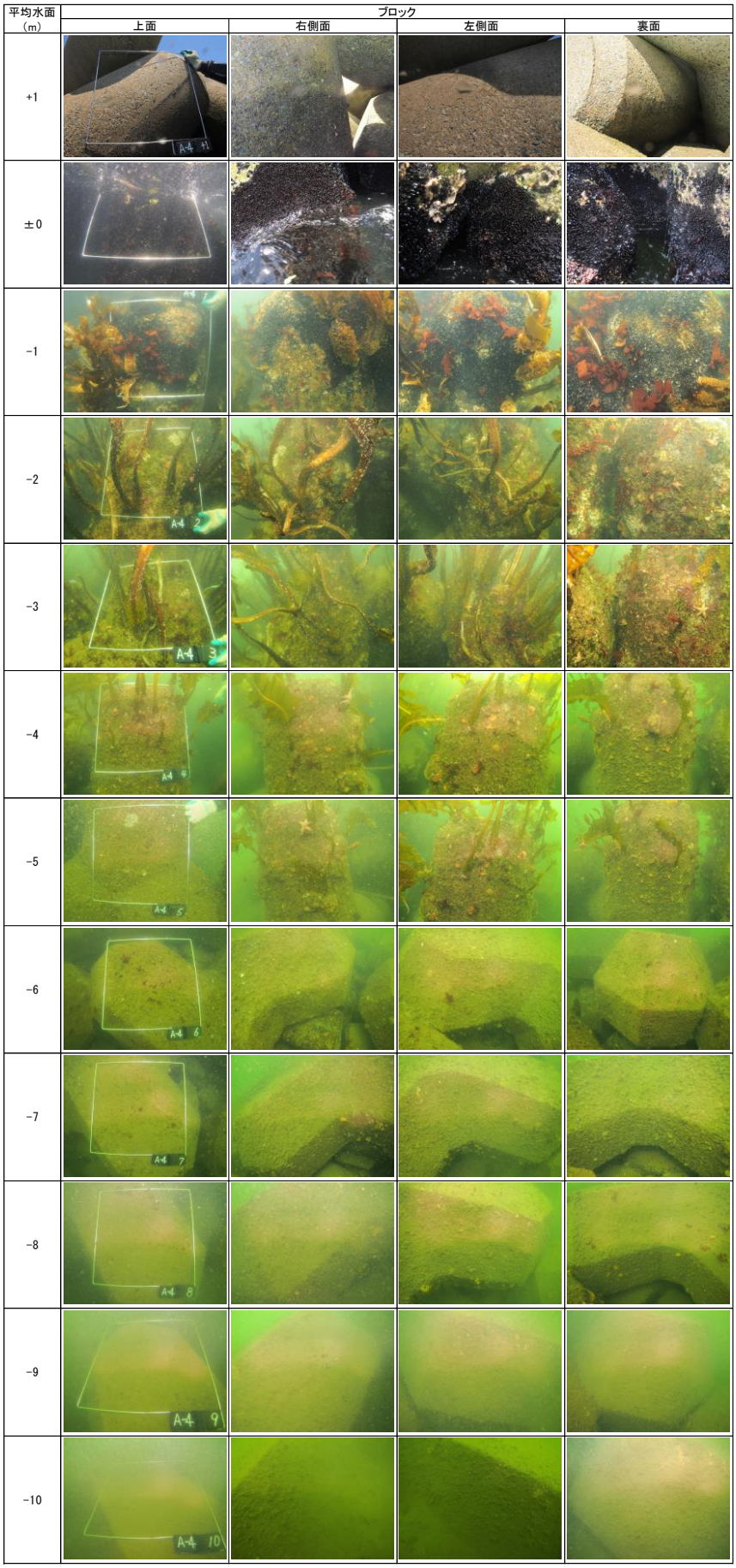


図 3-8（2）　ブロック各位置の付着動植物の状況　（　神戸沖埋立処分場　A-4　）

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-16 に大阪沖埋立処分場の 2 点（C-2、C-3）におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。図 3-9 には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 C-2

+1m では各面で巻貝のアラレタマキビが多く生息していた。±0～-3m では各面に紅藻のフダラクが繁茂しており、-3～-4m の各面では紅藻のツノマタ属が生育していた。±0～-1m では二枚貝のムラサキイガイが多くみられ、±0m の上面ではコモレビコガモガイ、カラマツガイ、キクノハナガイなどの小型の巻貝類が多くみられた。-2m 以深では、上面以外の 3 面で尋常海綿綱、カンザシゴカイ科、苔虫綱、ホヤ綱（群体性）などが確認された。藻場構成種（大型褐藻）としては、-1～-4m の多くの面でワカメが繁茂し、-3m の裏面でシダモクが確認された。

表 3-16（1）　動植物　目視観察結果　（　大阪沖埋立処分場　C-2　）

C－2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
	位置　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ
主要種※	上面	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ カラマツガイ キクノハナガイ ムラサキイガイ	**フダラク** ムラサキイガイ	**ワカメ** **フダラク**	**ワカメ** **ツノマタ属** **フダラク**	-
	右側面	アラレタマキビ	**フダラク** ムラサキイガイ	**ワカメ** **フダラク** ムラサキイガイ	**ワカメ** **フダラク** キヒトデ ホヤ綱(群体性)	**ワカメ** **フダラク** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	**ワカメ** **ツノマタ属** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科
	左側面	アラレタマキビ	**フダラク** ムラサキイガイ	**ワカメ** **フダラク** ムラサキイガイ	**ワカメ** **フダラク** 苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	**ワカメ** **ツノマタ属** **フダラク** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	**ツノマタ属** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科
	裏面	アラレタマキビ	**フダラク** ムラサキイガイ	**ワカメ** **フダラク** ムラサキイガイ キヒトデ ホヤ綱(群体性)	**ワカメ** **フダラク** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	**ワカメ** **シダモク** **ツノマタ属** **フダラク** カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	**ツノマタ属** カンザシゴカイ科 苔虫綱

※主要種:上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出
側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注１）緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

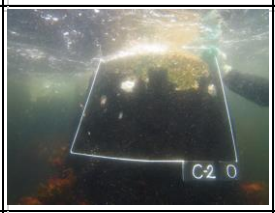
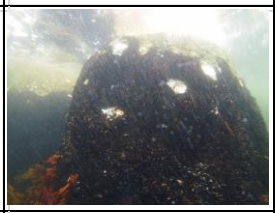
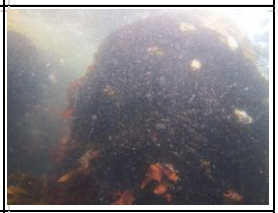
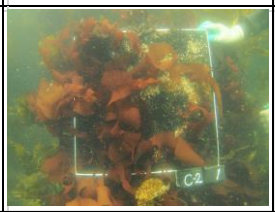
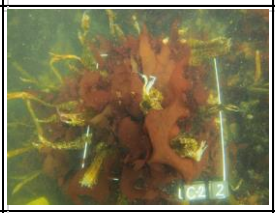
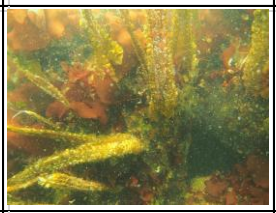
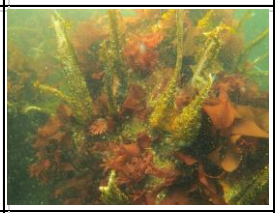
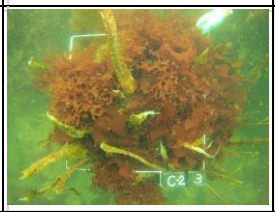
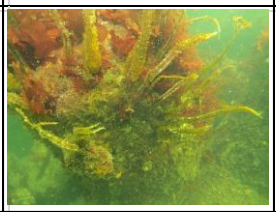
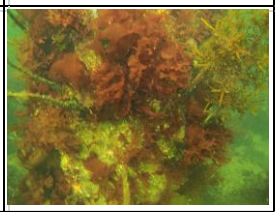
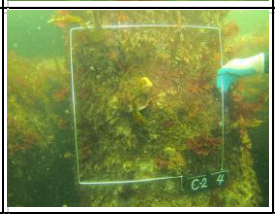
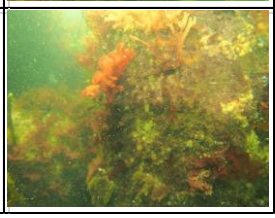
平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				

図 3-9（1）　ブロック各位置の付着動植物の状況　（　大阪沖埋立処分場　C-2　）

・地点 C-3

+1m では各面で巻貝のアラレタマキビが多く生息していた。±0m の各面ではムラサキイガイが多くみられ、左側面では巻貝のイボニシが生息していた。-1～-3m の上面を除く他の 3 面では紅藻のフダラク、カバノリがよく繁茂し、-1m 以深では、各面でカンザシゴカイ科が多く付着していた。-2～-4m の上面を除く他の 3 面では尋常海綿綱、カンザシゴカイ科、苔虫綱、キヒトデ、ホヤ綱などが確認された。藻場構成種（大型褐藻）としては、-1m の右側面と左側面、-3m の右側面以外の 3 面、-4m の左側面でワカメが、-3m の右側面、-4m の左側面でシダモクが、-1m の左側面以外の 3 面でタマハハキモクが確認された。

表 3-16（2）　動植物　目視観察結果　（　大阪沖埋立処分場　C-3　）

C－3	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4
	位置　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ
主要種※	上面	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	タマハハキモク カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	ワカメ カンザシゴカイ科	-
	右側面	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	ワカメ タマハハキモク フダラク ムラサキイガイ	カバノリ カンザシゴカイ科 キヒトデ	シダモク カバノリ カンザシゴカイ科 苔虫綱	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱(単体性)
	左側面	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキイガイ	ワカメ フダラク	フダラク カンザシゴカイ科 キヒトデ	ワカメ カバノリ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	ワカメ シダモク カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱(群体性) ホヤ綱(単体性)
	裏面	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	タマハハキモク フダラク カンザシゴカイ科	フダラク カバノリ カンザシゴカイ科	ワカメ カバノリ カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱

※主要種:上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出
側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注１）緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

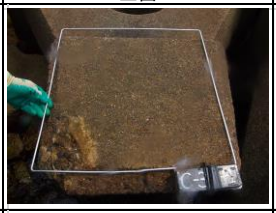
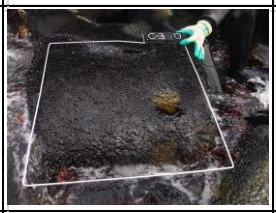
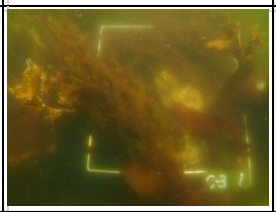
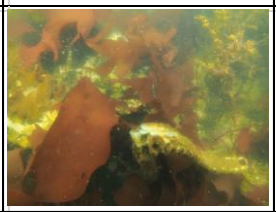
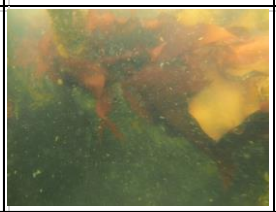
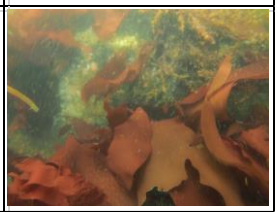
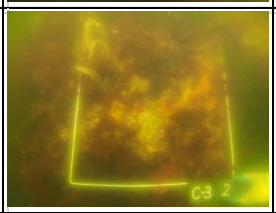
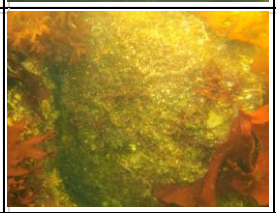
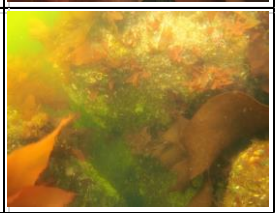
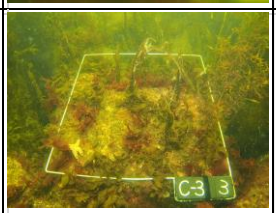
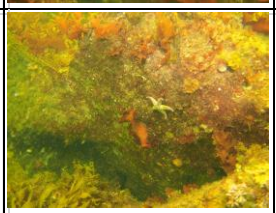
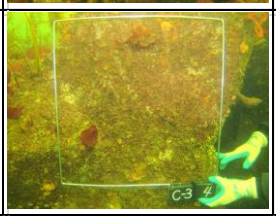
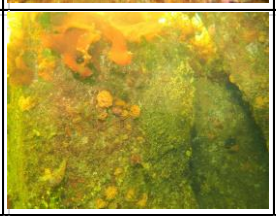
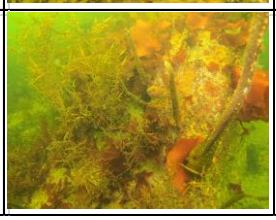
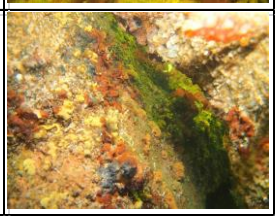
平均水面 (m)	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				

図 3-9（2）　ブロック各位置の付着動植物の状況　（　大阪沖埋立処分場　C-3　）

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-17 に泉大津沖埋立処分場の 1 点 (D-2) におけるブロック各面の動植物の目視観察結果を示した。図 3-10 には、ブロック各位置の付着動植物の状況写真をまとめた。

・地点 D-2

ブロックの形状等により部分的に写真撮影や観察が困難な箇所があったが、+1m では巻貝のアラレタマキビが多く生息し、右側面ではイワフジツボの付着もみられた。±0m の左側面では紅藻のフダラクが生育し、各面ではコモレビコガモガイ、ウノアシ、イボニシ、カラマツガイ、キクノハナガイといった巻貝類やカンザシゴカイ科、Phoronis 属が生息していた。-1～-4m の多くの面では藻場構成種（大型褐藻）のワカメが繁茂しており、-5 m の各面では紅藻のタオヤギソウが多くみられた。その他、-1m 以深の各面では紅藻のカバノリやカンザシゴカイ科、Phoronis 属、苔虫綱、イトマキヒトデなどがよくみられた。

表 3-17　動植物　目視観察結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-2　）

D－2	平均水面(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5
	位置　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ
主要種※	上面	アラレタマキビ	ヨメガカサ コモレビコガモガイ ウノアシ イボニシ カラマツガイ イワフジツボ	**アオサ属** **ワカメ** イボニシ	**ワカメ** ヒドロ虫綱 苔虫綱	**ワカメ** **ムカデノリ** **カバノリ** 尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱	**ワカメ** **カバノリ** **タオヤギソウ** カンザシゴカイ科 苔虫綱	**カバノリ** **タオヤギソウ** カンザシゴカイ科 苔虫綱
	右側面	アラレタマキビ イワフジツボ	カラマツガイ キクノハナガイ カンザシゴカイ科 Phoronis属	**ワカメ** **フダラク** カンザシゴカイ科 苔虫綱	**ワカメ** イソギンチャク目 カンザシゴカイ科 苔虫綱	**ワカメ** カンザシゴカイ科 苔虫綱	**ワカメ**	**タオヤギソウ** カンザシゴカイ科 苔虫綱
	左側面	アラレタマキビ	**フダラク** カンザシゴカイ科 Phoronis属	**ワカメ** カンザシゴカイ科 Phoronis属 ホヤ綱(群体性) ホヤ綱(単体性)	**ワカメ** イソギンチャク目 カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	**ワカメ** カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	**ワカメ**	**タオヤギソウ** カンザシゴカイ科 苔虫綱
	裏面			イソギンチャク目 カンザシゴカイ科 Phoronis属	カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱 イトマキヒトデ	**ワカメ** **カバノリ**	**ベニスナゴ** **タオヤギソウ** カンザシゴカイ科 苔虫綱

※主要種:上面については観察時の被度が 10%以上または個体数が 3 個体以上の種を抽出
側面・裏面については現地写真により種の判別が可能な種を記述

注１）緑の文字は植物を黒の文字は動物を示す。

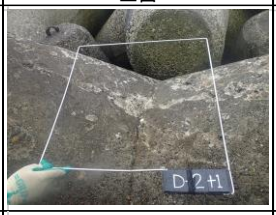
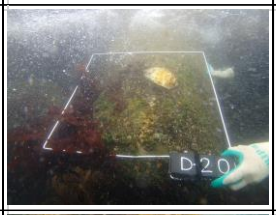
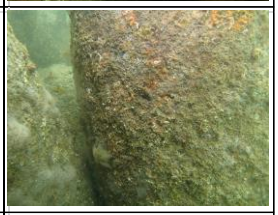
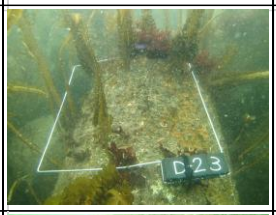
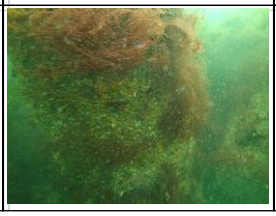
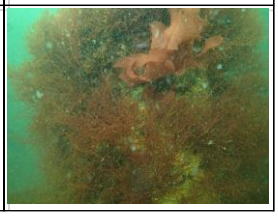
平均水面（m）	ブロック			
	上面	右側面	左側面	裏面
+1				
±0				
-1				
-2				
-3				
-4				
-5				

図 3-10　ブロック各位置の付着動植物の状況　（　泉大津沖埋立処分場　D-2　）

3-4 遊泳魚類等調査

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-18 に神戸沖埋立処分場の 3 点（A-2、A-4、A-5）における遊泳魚類等の目視観察結果を示した。図 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 A-2

A-2 の地点では、メバル、アイナメ、クロダイ、メジナ、コウイカの 5 種が目視観察によって確認された。

表 3-18（1） 遊泳魚類 目視観察結果 （ 神戸沖埋立処分場 A-2 ）

調査日：平成30年6月2日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～10)						r		r				
		アイナメ(20)						r		rr				
		クロダイ(40)				rr								
		メジナ(20)				rr								
		コウイカ(20)										rr		
出現種類数			0	0		2		2		2		1		0

備考１） ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。
rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上
２） ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 A-4

A-4 の地点では、メバル、カサゴ、アイナメ、クロダイ、メジナ、イシダイ、スズメダイ、コブダイ、キュウセン、ウマヅラハギの 10 種の遊泳魚類が目視観察で確認された。-6～-7m の水深帯での確認種が最も多かった。また、-2～-3m ではメジナが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-18（2） 遊泳魚類 目視観察結果 （ 神戸沖埋立処分場 A-4 ）

調査日：平成30年6月2日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ 砂泥
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～10)						r		r		r		
		カサゴ(5～20)				rr		rr		rr		rr		
		アイナメ(20)						rr		rr				
		クロダイ(40)				r		rr						
		メジナ(20)				c								
		イシダイ(30)								rr				
		スズメダイ(15)						r		rr				
		コブダイ(40)				rr				rr				
		キュウセン(10～20)								r				
		ウマヅラハギ(30)								rr				
出現種類数			0	0		4		5		8		2		0

備考１） ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。
rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上
２） ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 A-5

A-5 の地点では、メバル、カサゴ、アイナメ、キュウセンの 4 種の遊泳魚類が目視観察で確認された。

表 3-18 (3)　遊泳魚類　目視観察結果　(　神戸沖埋立処分場　A-5　)

調査日：平成30年6月2日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫巨礫	砂泥
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～10)								rr		r		r	
		カサゴ(5～10)						rr		rr		r		r	
		アイナメ(20)						rr							
		キュウセン(20)								rr					
出現種類数			0	0		0		2		3		2		2	

備考１）ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。
rr:1～2個体,r:3～10個体,c:11～50個体,cc:51個体以上
２）ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-19 に大阪沖埋立処分場の 3 点（C-1、C-2、C-3）における遊泳魚類等の目視観察結果を示した。図 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 C-1

C-1 の地点では、メバル、カサゴ、アイナメ、クロダイ、ウミタナゴ、コブダイ、ホシササノハベラ、キュウセン、コモンフグの 9 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-4～-5m の水深帯での確認種が多かった。-4～-5m ではメバルが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-19（1） 遊泳魚類 目視観察結果 （ 大阪沖埋立処分場 C-1 ）

調査日：平成30年6月3日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～15)				r		c		r				
		カサゴ(10)										rr		
		アイナメ(20)						rr						
		クロダイ(40)						r						
		ウミタナゴ(10)						r						
		コブダイ(40)						rr						
		ホシササノハベラ(20)						rr		rr				
		キュウセン(20)						rr						
		コモンフグ(20)						rr						
出現種類数			0	0		1		8		2		1		0

備考１） ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。
rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上
２） ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 C-2

C-2 の地点では、メバル、カサゴ、ウミタナゴ、スズメダイ、ホシササノハベラ、ウマヅラハギの 6 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-4～-5m の水深帯での確認種が多かった。-4～-5m ではメバルとスズメダイがそれぞれ 11～50 個体（c）と比較的多く確認された。

表 3-19（2） 遊泳魚類 目視観察結果 （ 大阪沖埋立処分場 C-2 ）

調査日：平成30年6月3日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～10)						c		r		r		
		カサゴ(5～10)						rr		rr				
		ウミタナゴ(10)						r						
		スズメダイ(10～15)						c		r				
		ホシササノハベラ(20)						rr						
		ウマヅラハギ(30)						rr						
出現種類数			0	0		0		6		3		1		0

備考１） ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。
rr:1～2個体, r:3～10個体, c:11～50個体, cc:51個体以上
２） ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 C-3

C-3 の地点では、メバル、カサゴ、クロダイ、メジナ、イシダイ、スズメダイ、ホシササノハベラ、ウマヅラハギ、ヒガンフグの 9 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-2～-3m ではメバル、-2～-7m ではスズメダイが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-19（3）　遊泳魚類　目視観察結果　（　大阪沖埋立処分場　C-3　）

調査日：平成30年6月3日

平均水面からの高さ(m)			+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～5)				c		r		r		r		
		カサゴ(5～10)						rr						
		クロダイ(30)								rr				
		メジナ(20)						r						
		イシダイ(40)										rr		
		スズメダイ(10～15)				c		c		c				
		ホシササノハベラ(20)						rr		rr		rr		
		ウマヅラハギ(30)						rr						
		ヒガンフグ(25)								rr				
出現種類数			0	0		2		6		5		3		0

備考１）ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。
rr:1～2個体,r:3～10個体,c:11～50個体,cc:51個体以上
２）ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-20 に泉大津沖埋立処分場の 4 点（D-2、D-3、D-5、D-6）における遊泳魚類等の目視観察結果を示した。図 3-11 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場、泉大津沖埋立処分場における主な確認種の写真を示した。

・地点 D-2

D-2 の地点では、メバル、アイナメ、ボラ、ホシササノハベラの 5 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-2～-3m の水深帯で種類数が多かった。

表 3-20（1） 遊泳魚類 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-2 ）

調査日：平成30年5月26日

		平均水面からの高さ(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	基質 / 種名	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～15)				r		r		r		rr		rr			
		アイナメ(20)				r		r									
		ボラ(60)				r											
		ホシササノハベラ(20)				r											
出現種類数			0	0		4		2		1		1		1		0	

備考１） ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。
rr:1～2個体,r:3～10個体,c:11～50個体,cc:51個体以上
２） ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-3

D-3 の地点では、メバル、アイナメ、クロダイ、キュウセン、ウマヅラハギの 5 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。-6～-7m の水深帯での確認種が多かった。また、-6～-7m ではメバルが 51 個体以上（cc）と極めて多くみられ、クロダイが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。-8～-9m ではメバルが 11～50 個体（c）と比較的多くみられた。

表 3-20（2） 遊泳魚類 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-3 ）

調査日：平成30年5月26日

		平均水面からの高さ(m)	+1	±0	-1	-2	-3	-4	-5	-6	-7	-8	-9	-10	-11	-12	-13
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～15)				r		r		cc		c					
		アイナメ(20)								r		r					
		クロダイ(20～40)								c							
		キュウセン(10～15)								r							
		ウマヅラハギ(20～30)								r							
出現種類数			0	0		1		1		5		2		0		0	

備考１） ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は水深2m間隔での概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。
rr:1～2個体,r:3～10個体,c:11～50個体,cc:51個体以上
２） ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-5

D-5 の地点では、メバル、カサゴ、クロダイ、ウミタナゴ、スズメダイの 5 種の遊泳魚類が目視観察によって確認された。エコ岸壁周辺部における確認種が多かった。

表 3-20（3） 遊泳魚類 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-5 ）

調査日：平成30年5月26日

			エコ岸壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～20)	rr	r	
		カサゴ(20)	rr		
		クロダイ(30)		rr	
		ウミタナゴ(10)		r	
		スズメダイ(10～15)		r	
出現種類数			2	4	0

備考１） ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体,r:3～10個体,c:11～50個体,cc:51個体以上

２） ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

・地点 D-6

D-6 の地点では、メバル、カサゴ、アイナメ、アナハゼ、クロダイ、ボラ科、ドロメの 7 種類が目視観察によって確認され､エコ岸壁周辺部と遊水室内における確認種が多かった。エコ岸壁周辺においてボラ科やハゼ科のドロメの稚仔魚が 51 個体以上（cc）と非常に多く観察された。

表 3-20（4） 遊泳魚類 目視観察結果 （ 泉大津沖埋立処分場 D-6 ）

調査日：平成30年5月26日

			エコ岸壁		
			遊水室内	周辺	貫通孔
門	綱	基質 / 種名	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ
脊索動物	硬骨魚	メバル(3～20)	r	rr	rr
		カサゴ(20)	rr		
		アイナメ(20)	rr	rr	
		アナハゼ(10)		rr	
		クロダイ(40)	r		
		ボラ科(3～5)		cc	
		ドロメ(2)		cc	
出現種類数			4	5	1

備考１） ｲｶ･ﾀｺ類(頭足綱)及び魚類(硬骨魚綱)の個体数は概数であり、各記号は下記個体数区分を示す。

rr:1～2個体,r:3～10個体,c:11～50個体,cc:51個体以上

２） ｲｶ･ﾀｺ類及び魚類の種名欄における( )内の範囲は全長(cm)を示す。

メバル

カサゴ

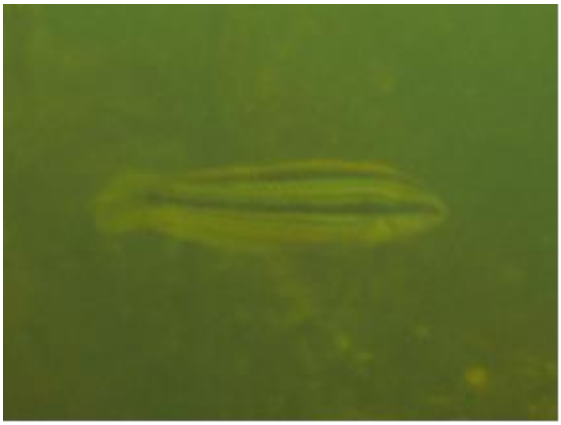
アイナメ

クロダイ

イシダイ・スズメダイ

ホシササノハベラ

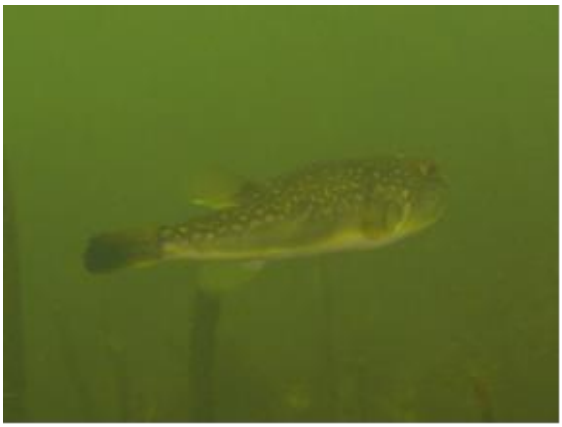
図 3-11（1）　目視調査における主な遊泳魚類の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）



キュウセン

ウマヅラハギ

ヒガンフグ



コモンフグ

コウイカ

図 3-11（2）　目視調査における主な遊泳魚類の確認種（神戸沖・大阪沖・泉大津沖埋立処分場）

3-5 水質調査

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-21 に神戸沖埋立処分場 3 点(A-2、A-4、A-5)における水質調査結果を示した。図 3-12 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 A-2

A-2 の調査時（平成 30 年 6 月 2 日　13：28）の天候は晴れ、作業船上での気温は 26.7℃、南西の風 3.7m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark green、透明度は 3.7m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 15.63～20.47℃の範囲にあり、水深 0.5～3m に水温躍層がみられた。

塩分は 23.41～32.34 の範囲にあり、水深 2m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 1.45～11.95mg/L の範囲にあり、水深 5m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 5m 以深においても付着生物はみられた。また、水深 1m で 11.95 mg/L と非常に高い値を示しているが、この水深における植物プランクトンの発生に伴う光合成による溶存酸素量の上昇が考えられる。

相対光量は水深 3m 以深で急激に低下し、12m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-21 (1)　水質調査結果　（　神戸沖埋立処分場　A-2　）

調査日：平成 30 年 6 月 2 日

調査地点　A-2		調査時刻　13:28		天候　晴	気温　26.7℃
風向　SW		風速　3.7m/s		雲量　3	風浪階級　3
水深　15.9m		透明度　3.7m	水色　dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子 (μmol/㎠･s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.47	23.43	1828.4	100.0	7.59
0.5	20.44	23.41	1747.2	95.6	7.79
1	19.72	25.40	1045.7	57.2	11.95
2	18.47	29.45	574.2	31.4	5.94
3	17.37	30.69	376.0	20.6	5.68
4	17.03	30.93	217.1	11.9	5.12
5	16.99	31.01	146.3	8.0	4.80
6	16.64	31.28	108.4	5.9	4.32
7	16.26	31.92	71.3	3.9	3.51
8	16.06	32.02	61.8	3.4	3.30
9	16.01	32.10	42.3	2.3	3.08
10	16.01	32.17	32.7	1.8	3.45
11	16.04	32.27	22.0	1.2	2.94
12	15.94	32.30	16.1	0.9	2.36
13	15.77	32.24	11.2	0.6	2.02
14	15.76	32.34	7.9	0.4	1.92
15	15.63	32.31	5.8	0.3	1.45

・地点 A-4

A-4 の調査時（平成 30 年 6 月 2 日　11：06）の天候は晴れ、作業船上での気温は 24.4℃、南の風 3.6m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark green、透明度は 3.8m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.12～20.67℃の範囲にあり、水深 1～3m に水温躍層がみられた。

塩分は 21.72～32.42 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 2.51～7.98mg/L の範囲にあり、水深 7m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 7m 以深においても付着生物はみられた。

相対光量は水深 3m 以深で急激に低下し、10m 以深で 1%以下となっていた。

表 3-21（2）　水質調査結果　（　神戸沖埋立処分場　A-4　）

調査日：平成 30 年 6 月 2 日

調査地点　A-4		調査時刻　11:06		天候　晴	気温　24.4℃
風向　S		風速　3.6m/s		雲量　2	風浪階級　3
水深　15.5m		透明度　3.8m	水色　dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子（μmol/㎠･s）	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.67	21.72	2547.4	100.0	7.33
0.5	20.60	21.91	1309.0	51.4	7.33
1	20.34	22.53	1046.2	41.1	6.51
2	19.32	25.31	712.1	28.0	7.98
3	17.94	28.99	406.8	16.0	5.89
4	17.57	30.07	279.7	11.0	5.69
5	17.43	30.29	182.0	7.1	5.42
6	17.24	30.55	120.3	4.7	5.10
7	17.03	30.81	81.1	3.2	4.75
8	16.71	31.55	52.8	2.1	4.35
9	16.91	32.26	37.7	1.5	4.69
10	16.49	32.32	24.0	0.9	3.58
11	16.22	32.39	13.1	0.5	2.78
12	16.12	32.42	7.0	0.3	2.62
13	16.15	32.42	3.7	0.1	2.55
14	16.14	32.42	1.6	0.1	2.55
15	16.13	32.42	0.8	0.0	2.51

・地点 A-5

A-5の調査時(平成30年6月2日　9:30)の天候は晴れ、作業船上での気温は22.6℃、南の風2.8m/sで風浪階級は2と海況はやや波のある状況であった。水色はdark green、透明度は3.8mで赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は16.75～18.93℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は27.32～32.37の範囲にあり、水深6m以浅は30以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は3.93～7.85mg/Lの範囲にあり、付着生物の生息する水深13m以浅では、ほぼ5 mg/L以上であった。

相対光量は水深3m以深で急激に低下し、10m以深で1%以下となっていた。

表 3-21 (3)　水質調査結果　（　神戸沖埋立処分場　A-5　）

調査日：平成 30 年 6 月 2 日

調査地点　A-5		調査時刻　9：30		天候　晴	気温　22.6℃
風向　S		風速　2.8m/s		雲量　1	風浪階級　2
水深　16.6m		透明度　3.8m	水色　dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子 (μmol/㎠･s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	18.88	27.32	2539.0	100.0	7.77
0.5	18.93	27.67	1417.6	55.8	7.73
1	18.86	27.68	996.9	39.3	7.82
2	18.78	27.79	602.8	23.7	7.85
3	18.73	28.08	370.1	14.6	7.73
4	18.56	28.37	232.9	9.2	7.67
5	18.61	28.42	154.0	6.1	7.55
6	18.50	28.64	101.0	4.0	7.33
7	17.16	31.75	67.1	2.6	4.71
8	17.03	32.18	46.3	1.8	5.10
9	17.09	32.23	31.2	1.2	5.28
10	17.05	32.24	22.9	0.9	5.31
11	17.06	32.28	17.3	0.7	5.23
12	17.06	32.27	12.6	0.5	5.07
13	17.01	32.28	9.0	0.4	5.00
14	16.99	32.36	6.3	0.2	4.98
15	16.92	32.37	4.1	0.2	4.83
16	16.75	32.37	2.2	0.1	3.93

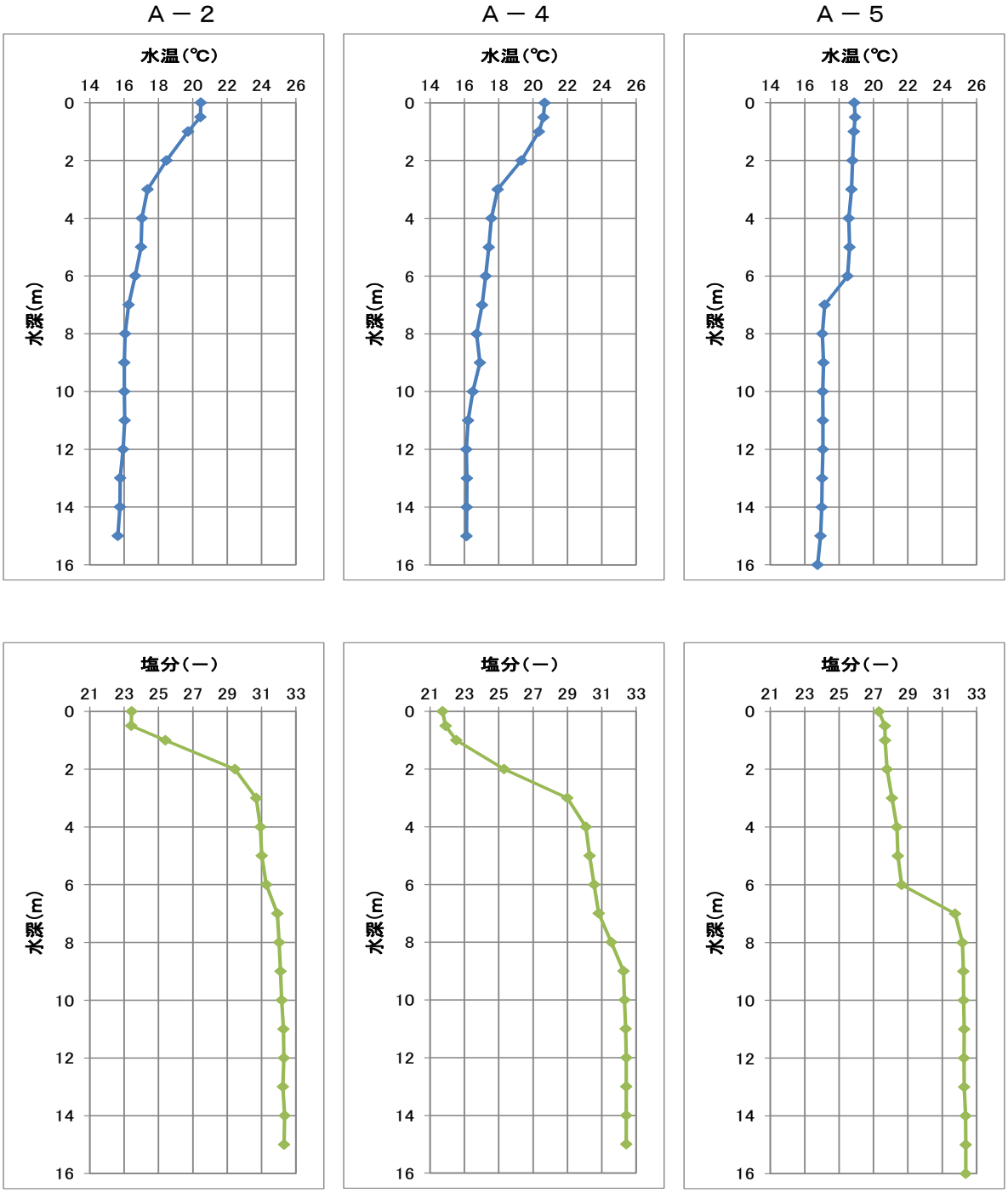


図 3-12（1）　水質の鉛直分布　（　神戸沖埋立処分場　水温　塩分　）

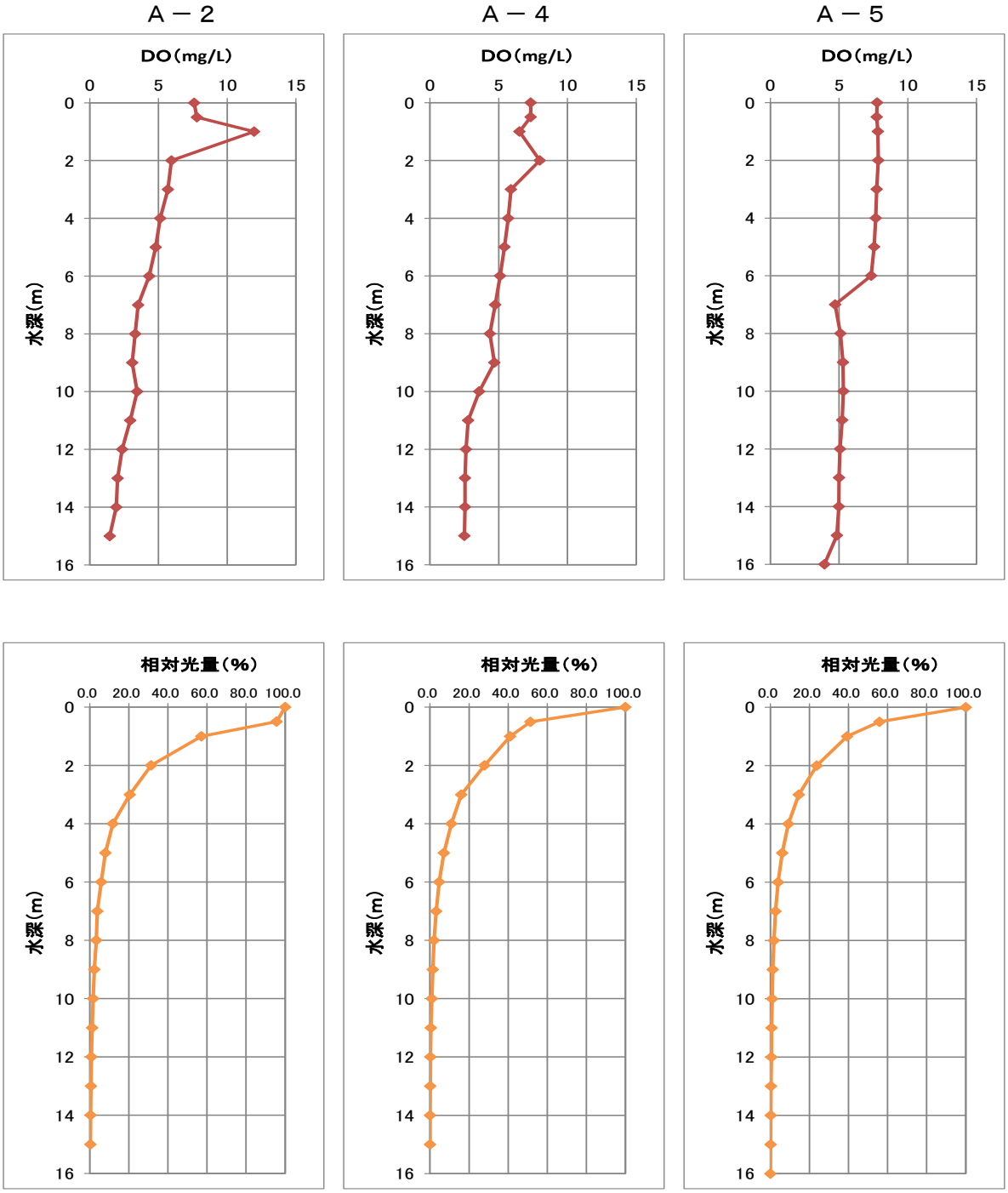


図 3-12（2）　水質の鉛直分布　（　神戸沖埋立処分場　ＤＯ　相対光量　）

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-22 に大阪沖埋立処分場 3 点(C-1、C-2、C-3)における水質調査結果を示した。図 3-13 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 C-1

C-1の調査時(平成30年6月3日　9:18)の天候は曇り、作業船上での気温は26.6℃、西の風2.0m/sで風浪階級は3と海況はやや波の高い状況であった。水色はdark green、透明度は 2.5m とやや低かったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.32～20.27℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 24.54～32.47 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 2.94～9.48mg/L の範囲にあり、水深 6m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 6m 以深においても付着生物はみられた。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下していた。

表 3-22 (1)　水質調査結果　(　大阪沖埋立処分場　C-1　)

調査日：平成 30 年 6 月 3 日

調査地点　C-1		調査時刻　9:18		天候　曇	気温　26.6℃
風向　W		風速　2.0m/s		雲量　7	風浪階級　3
水深　14.5m		透明度　2.5m	水色　dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子 (μmol/㎠･s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.27	24.54	179.3	100.0	9.37
0.5	20.24	24.61	117.6	65.6	9.48
1	19.67	25.92	73.7	41.1	9.35
2	19.43	27.10	43.4	24.2	8.54
3	18.01	29.48	37.9	21.1	5.76
4	17.68	30.59	39.0	21.8	5.46
5	17.22	31.40	39.3	21.9	5.27
6	17.07	31.55	37.6	21.0	5.00
7	16.88	31.78	36.0	20.1	4.52
8	16.71	32.12	29.7	16.6	4.53
9	16.63	32.23	21.9	12.2	4.43
10	16.39	32.37	17.8	9.9	3.48
11	16.39	32.42	12.1	6.7	3.38
12	16.32	32.44	7.2	4.0	3.05
13	16.34	32.45	4.3	2.4	3.03
14	16.35	32.47	2.1	1.2	2.94

・地点 C-2

C-2 の調査時（平成 30 年 6 月 3 日　11：07）の天候は晴れ、作業船上での気温は 26.2℃、西の風 3.5m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 4.8m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.57～20.69℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 25.92～32.46 の範囲にあり、水深 3m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 3.79～8.77mg/L の範囲にあり、水深 6m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 6m 以深においても付着生物はみられた。

相対光量は水深 4m 以深で急激に低下していた。

表 3-22（2）　水質調査結果　（　大阪沖埋立処分場　C-2　）

調査日：平成 30 年 6 月 3 日

調査地点　C-2		調査時刻　11:07		天候　晴	気温　26.2℃
風向　W		風速　3.5m/s		雲量　5	風浪階級　3
水深　12.8m		透明度　4.8m	水色　dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子 (μmol/㎠･s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.69	25.92	1862.4	100.0	8.77
0.5	20.64	26.35	1311.8	70.4	8.64
1	20.49	26.81	1172.9	63.0	8.30
2	19.09	29.25	740.3	39.7	7.44
3	18.69	29.77	526.6	28.3	7.14
4	18.51	30.07	400.3	21.5	6.84
5	17.83	30.57	277.9	14.9	6.27
6	17.26	31.57	209.7	11.3	4.88
7	16.90	32.10	160.2	8.6	4.60
8	16.82	32.19	128.2	6.9	4.47
9	16.78	32.24	99.6	5.3	4.46
10	16.64	32.37	78.3	4.2	3.90
11	16.58	32.46	39.0	2.1	3.83
12	16.57	32.46	27.9	1.5	3.79

・地点 C-3

C-3 の調査時（平成 30 年 6 月 3 日　13：35）の天候は曇り、作業船上での気温は 25.7℃、南西の風 5.3m/s で風浪階級は 3 と海況はやや波の高い状況であった。水色は dark grayish green、透明度は 2.1m とやや低かったが、赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.63～22.23℃の範囲にあり、水深 2～3m に水温躍層がみられた。

塩分は 25.88～32.49 の範囲にあり、水深 4m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 3.81～11.41mg/L の範囲にあり、付着生物の生息する水深 11m 以浅でほぼ 5 mg/L 以上であった。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下していた。

表 3-22（3）　水質調査結果　（　大阪沖埋立処分場　C-3　）

調査日：平成 30 年 6 月 3 日

調査地点　C-3		調査時刻　13：35		天候　曇	気温　25.7℃
風向　SW		風速　5.3m/s		雲量　7	風浪階級　3
水深　14.1m		透明度　2.1m	水色　dark grayish green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子 (μmol/㎠･s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	22.23	25.88	388.9	100.0	11.40
0.5	22.21	25.89	283.6	72.9	11.41
1	22.19	25.89	148.9	38.3	11.38
2	22.13	25.94	70.2	18.1	11.35
3	19.17	29.12	66.7	17.2	7.56
4	18.92	29.43	77.2	19.9	7.43
5	18.21	30.44	79.7	20.5	5.69
6	17.57	31.35	74.1	19.1	6.26
7	17.06	31.73	60.0	15.4	4.84
8	16.92	32.24	49.1	12.6	5.09
9	16.86	32.30	35.5	9.1	5.03
10	17.04	32.37	30.9	7.9	5.52
11	17.02	32.44	24.6	6.3	5.73
12	16.67	32.48	15.2	3.9	4.07
13	16.64	32.49	6.5	1.7	3.90
14	16.63	32.48	4.5	1.2	3.81

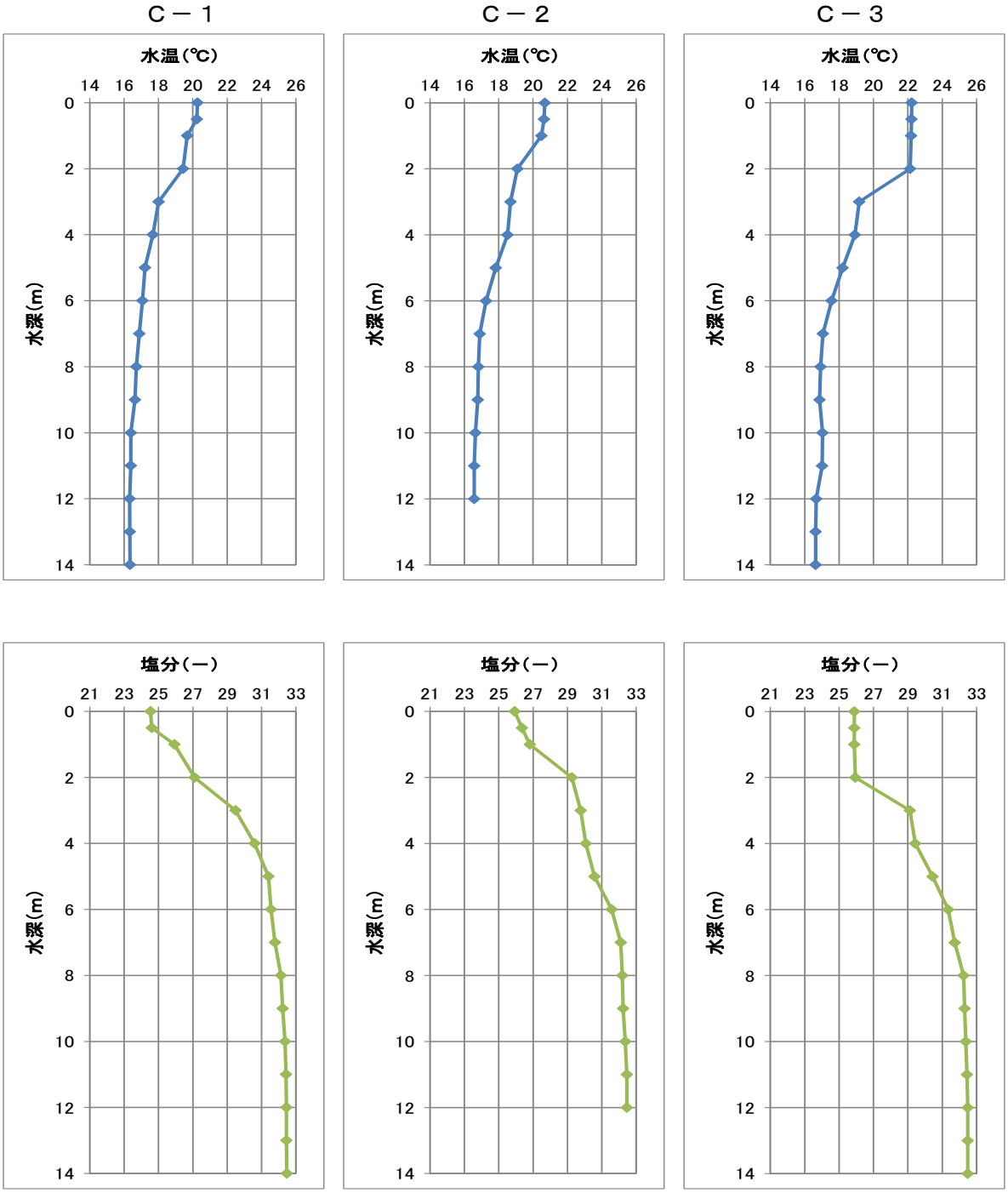


図 3-13（1）　水質の鉛直分布　（　大阪沖埋立処分場　水温　塩分　）

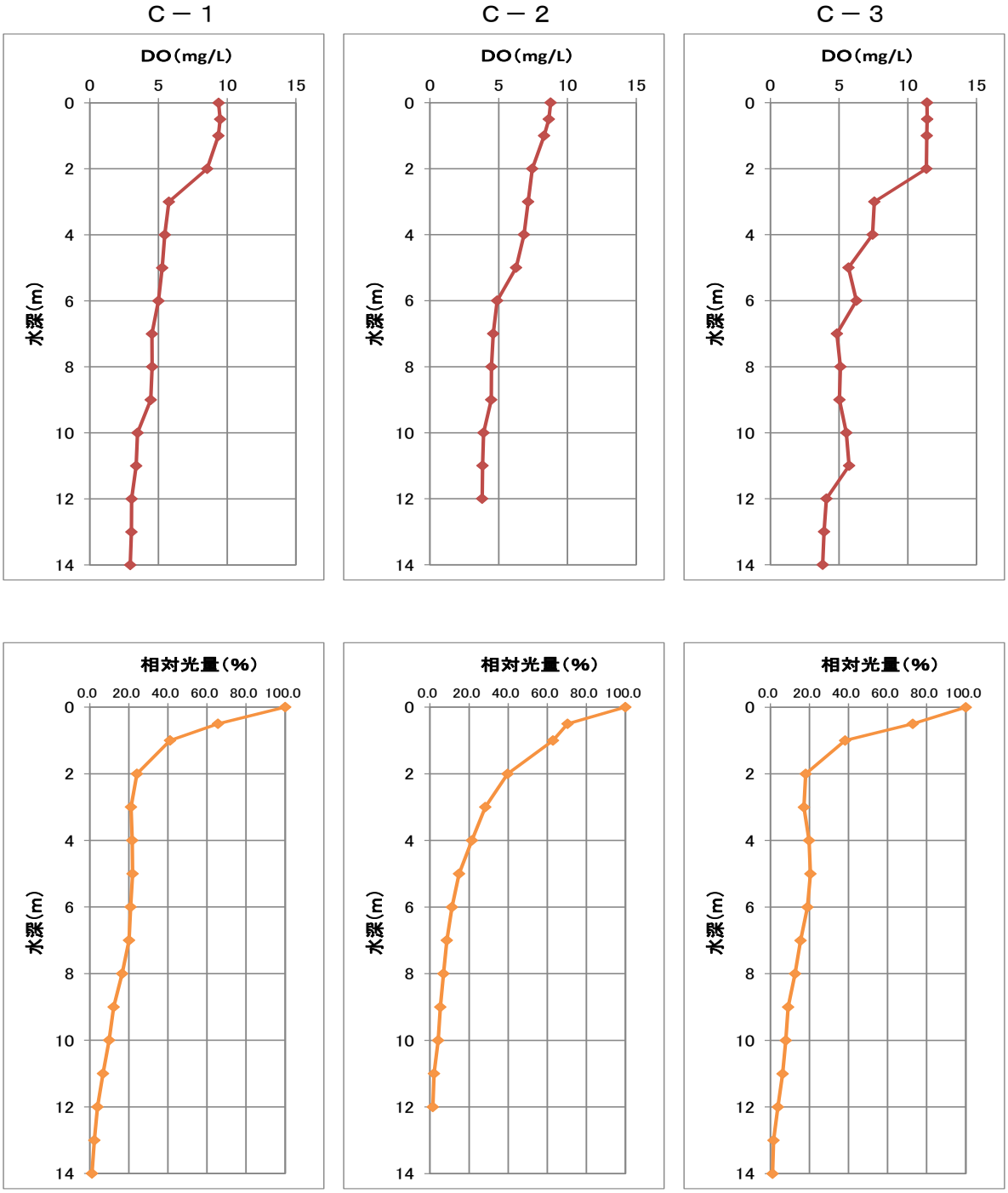


図 3-13（2）　水質の鉛直分布　（　大阪沖埋立処分場　ＤＯ　相対光量　）

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 3-23 に泉大津沖埋立処分場 3 点（D-2、D-5、D-6）における水質調査結果を示した。図 3-14 には、水質の鉛直分布を示した。

・地点 D-2

D-2 の調査時（平成 30 年 5 月 26 日　8：34）の天候は曇り、作業船上での気温は 22.1℃、西の風 1.1m/s で風浪階級は 2 と海況はやや波のある状況であった。水色は forest green、透明度は 4.0m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 15.59～21.09℃の範囲にあり、顕著な水温躍層はみられなかった。

塩分は 28.47～32.10 の範囲にあり、水深 2m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 2.85～10.94mg/L の範囲にあり、水深 9m 以深で 5 mg/L 以下とやや低い値を示したが、水深 9m 以深においても付着生物はみられた。

相対光量は水深 3m 以深で急激に低下していた。

表 3-23（1）　水質調査結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-2　）

調査日：平成 30 年 5 月 26 日

調査地点　D-2		調査時刻　8:34		天候　曇	気温　22.1℃
風向　W		風速　1.1m/s		雲量　9	風浪階級　2
水深　12.5m		透明度　4.0m	水色　forest green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子 (μmol/㎠･s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	21.09	28.47	367.6	100.0	10.94
0.5	20.59	29.20	308.9	84.0	9.06
1	20.33	29.38	161.7	44.0	8.77
2	20.02	29.48	120.8	32.9	8.64
3	19.24	30.12	83.7	22.8	7.87
4	17.75	30.99	69.3	18.9	6.92
5	17.25	31.32	61.1	16.6	7.14
6	16.76	31.66	53.7	14.6	6.54
7	16.20	32.02	40.7	11.1	6.06
8	16.14	32.04	29.6	8.1	5.80
9	15.91	32.04	24.6	6.7	4.35
10	15.72	32.08	18.3	5.0	3.57
11	15.63	32.08	12.7	3.5	3.23
12	15.59	32.10	8.7	2.4	2.85

・地点 D-5

D-5 の調査時（平成 30 年 5 月 26 日　10：27）の天候は曇り、作業船上での気温は 21.6℃、北の風 1.6m/s で風浪階級は 1 と海況は穏やかな状況であった。水色は dark green、透明度は 3.1m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 15.63～21.20℃の範囲にあり、水深 1～3m に水温躍層がみられた。

塩分は 22.76～32.02 の範囲にあり、水深 2m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 2.23～8.83mg/L の範囲にあり、水深 8m 以深で 5 mg/L 以下となっていた。

相対光量は水深 2m 以深で急激に低下していた。

表 3-23（2）　水質調査結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-5　）

調査日：平成 30 年 5 月 26 日

調査地点　D-5		調査時刻　10:27		天候　曇	気温　21.6℃
風向　N		風速　1.6m/s		雲量　10	風浪階級　1
水深　11.5m		透明度　3.1m	水色　dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子 (μmol/㎠･s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.99	22.76	693.5	100.0	5.95
0.5	21.19	28.41	355.7	51.3	7.81
1	21.20	28.17	223.1	32.2	8.83
2	19.97	29.54	145.3	21.0	7.29
3	18.30	30.76	139.4	20.1	6.66
4	17.53	31.32	93.3	13.5	6.66
5	17.21	31.46	67.1	9.7	6.42
6	16.95	31.61	50.1	7.2	6.38
7	16.34	31.75	40.3	5.8	5.07
8	16.03	31.98	25.5	3.7	3.80
9	15.80	31.99	14.6	4.0	3.04
10	15.68	32.02	9.8	2.7	2.42
11	15.63	32.02	5.0	1.4	2.23

・地点 D-6

D-6 の調査時（平成 30 年 5 月 26 日　11：15）の天候は曇り、作業船上での気温は 22.4℃、西南西の風 2.1m/s で風浪階級は 2 と海況はやや波のある状況であった。水色は dark green、透明度は 3.5m で赤潮や工事等による汚濁の状況はみられなかった。

水温は 16.04～20.38℃の範囲にあり、水深 1～3m に水温躍層がみられた。

塩分は 29.14～31.85 の範囲にあり、水深 1m 以浅は 30 以下と、河川水等の影響がみられた。

溶存酸素量（ＤＯ）は 4.83～8.51mg/L の範囲にあり、水深 8m 以浅で 5 mg/L 以上となっていた。

相対光量は水深 3m 以深で急激に低下していた。

表 3-23（3）　水質調査結果　（　泉大津沖埋立処分場　D-6　）

調査日：平成 30 年 5 月 26 日

調査地点　D-6		調査時刻　11:15		天候　曇	気温　22.4℃
風向　WSW		風速　2.1m/s		雲量　10	風浪階級　2
水深　9.5m		透明度　3.5m	水色　dark green		
水深(m)	水温(℃)	塩分(－)	光量子 (μmol/㎠･s)	相対光量(%)	DO(mg/L)
0	20.38	29.14	451.7	100.0	8.46
0.5	20.36	29.21	309.2	68.5	8.46
1	20.25	29.27	223.2	49.4	8.51
2	19.33	30.01	115.1	25.5	7.71
3	17.80	30.87	88.5	19.6	6.05
4	17.13	31.23	72.0	15.9	5.61
5	16.88	31.45	53.5	11.8	5.91
6	16.56	31.61	40.0	8.9	5.68
7	16.54	31.70	29.0	6.4	5.16
8	16.15	31.84	19.5	4.3	5.14
9	16.04	31.85	15.8	3.5	4.83

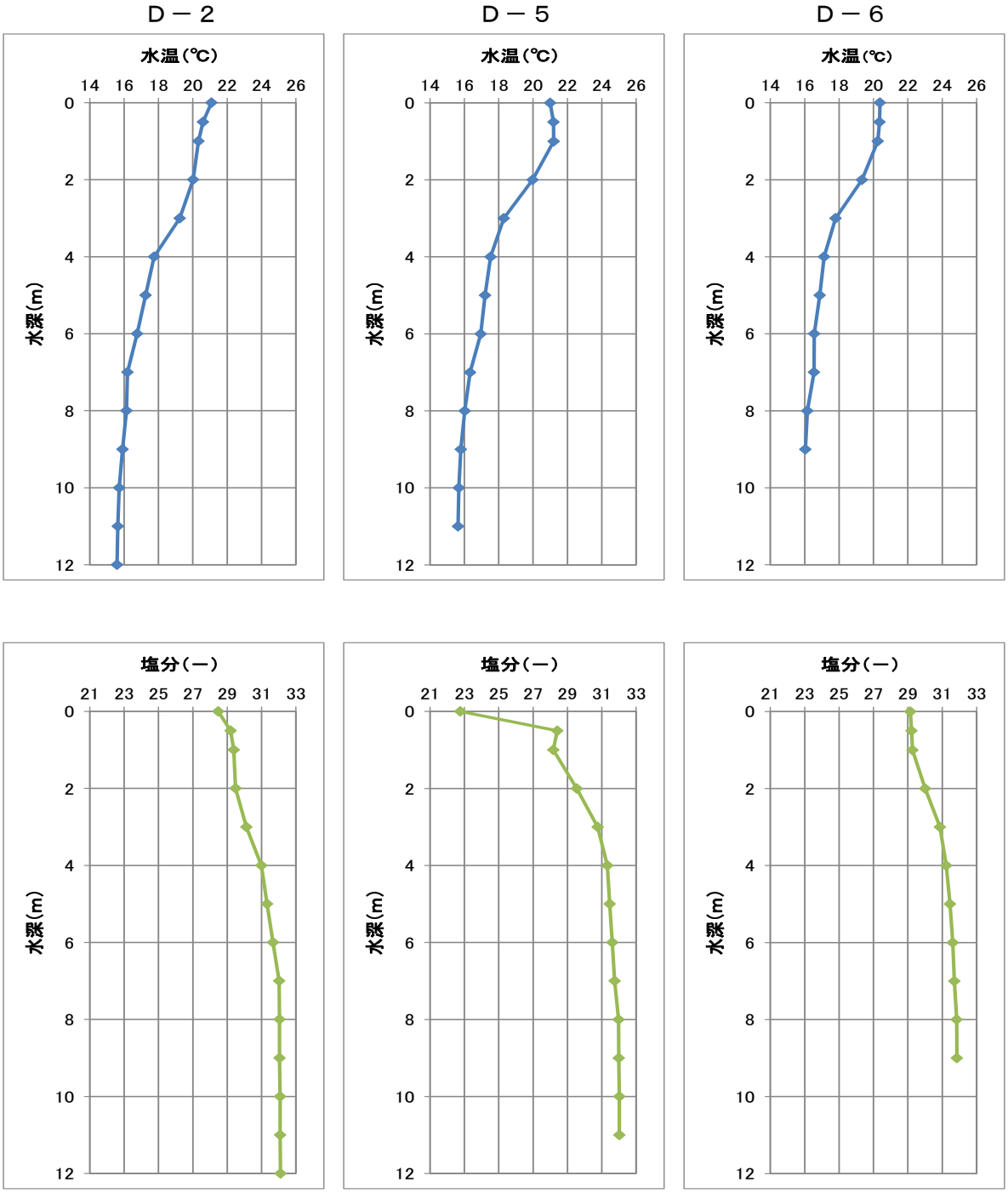


図 3-14（1）　水質の鉛直分布　（　泉大津沖埋立処分場　水温　塩分　）

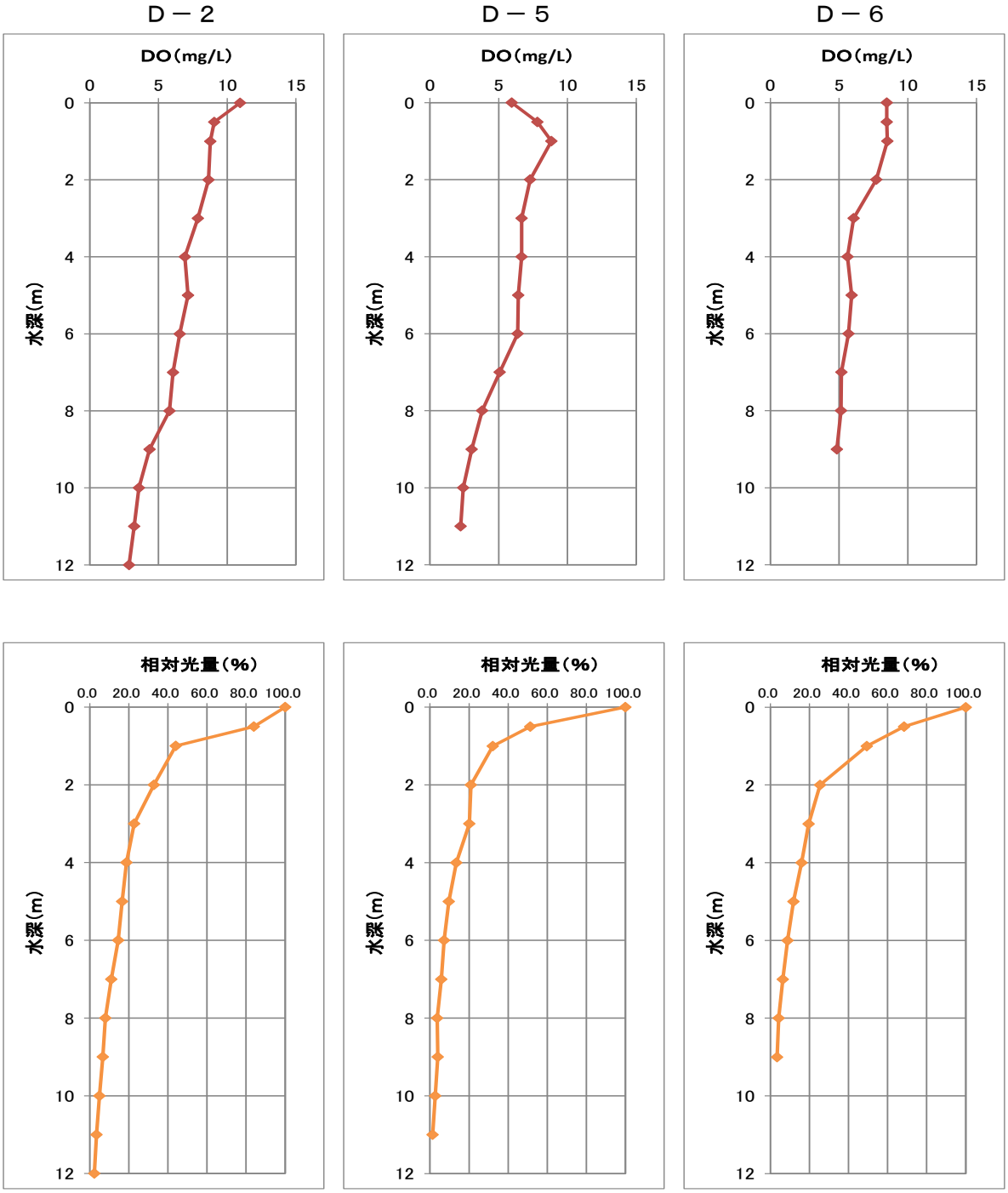


図 3-14（2）　水質の鉛直分布　（　泉大津沖埋立処分場　ＤＯ　相対光量　）

3-6 藻場分布調査

3-6-1 代表地点における目視観察結果

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-24 に神戸沖埋立処分場周囲の代表地点 6 点（p.11　図 2-3（1）参照）における藻場構成種等（植物）の目視観察結果を示した。図 3-15 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場における主な藻場構成種の写真を示した。

6～9 種の海藻類がみられ、藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ（4 地点）、シダモク（5 地点）、アカモク（1 地点）、タマハハキモク（5 地点）の 4 種が確認された。確認地点での被度はワカメ、シダモク、タマハハキモクが 5%未満～100%、アカモクが 5%未満であった。

表 3-24　藻場構成種等の目視観察結果　（神戸沖埋立処分場　6 地点）

調査日：平成30年6月2日

調査地点		A－1											A－3										K－2										
出現種 ＼ 水深(m)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属				1	1			1	1						1		1						1		1								
褐藻綱	ﾜｶﾒ											1		2	4	4	4	1	1					2	3	5	4	1						
	ｼﾀﾞﾓｸ			1	3	3								1	2	1	2	1	1															
	ｱｶﾓｸ																																	
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		2	1										1	1			1																
紅藻綱	ﾏｸｻ	1	1			1			1	1							2	1																
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ																											1						
	ﾌﾀﾞﾗｸ	1		1									2	1											1									
	ﾂﾙﾂﾙ												1	1											1									
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ						1	1	1	1	1	1						1	1	1	1													
	ｶﾊﾞﾉﾘ				3	3	1	1	1	1	1	1			3	2	1	1	1	1	1	1	1				1							

調査地点		K－4											K－5										K－8										
出現種 ＼ 水深(m)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属					1									1		1	1	1	1				1			1							
褐藻綱	ﾜｶﾒ																										1	1						
	ｼﾀﾞﾓｸ					3											1		1			1	1			5	4	2	1					
	ｱｶﾓｸ					1																												
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ						5	5		1		1						1	1		1			3	2	1								
紅藻綱	ﾏｸｻ		1												1	1	1	1	1	1					2		1	1					
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ																	1																
	ﾌﾀﾞﾗｸ																							2	1	1	1							
	ﾂﾙﾂﾙ		1	1																														
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ			1	3	1	1									1	2			1	1	1	1											
	ｶﾊﾞﾉﾘ			1	1											2	1	1	1	1	1	1			1	1	2	2						

（被度区分）
5：76～100%
4：51～75%
3：26～50%
2：5～25%
1：5%未満

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-25 に大阪沖埋立処分場周囲の代表地点 6 点（p.12　図 2-3（2）参照）における藻場構成種等（植物）の目視観察結果を示した。図 3-15 には、神戸沖埋立処分場、大阪沖埋立処分場における主な藻場構成種の写真を示した。

代表地点では 7～10 種の海藻類がみられ、藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ（6 地点）、シダモク（6 地点）、タマハハキモク（5 地点）の 3 種が確認された。確認地点でのワカメの被度は 5%未満～75%、シダモクは 5%未満～50%、タマハハキモクは 5%未満～25%であった。

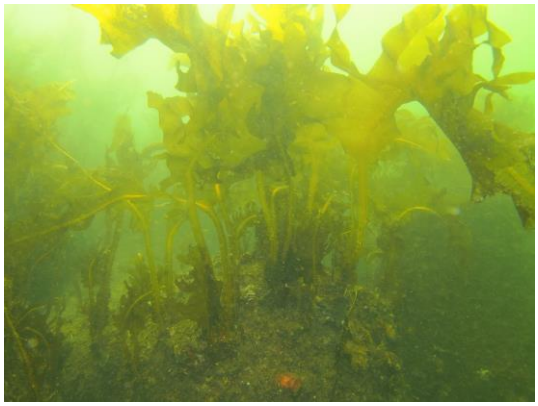
表 3-25　藻場構成種等の目視観察結果　（大阪沖埋立処分場　6 地点）

調査日：平成30年6月3日

調査地点		C－4										O－1										O－3									
出現種 ＼ 水深(m)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属	2			1	1							1			1		1						2	1				1					
褐藻綱	ﾜｶﾒ	1	2	2	2	2	2	1	1					2	4	3	2	3	1						2	2	2	1	1	1	1	1		
	ｼﾀﾞﾓｸ		3	2	2	3												2											1					
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	1	2	1														1	1											1				
紅藻綱	ﾏｸｻ					1												1										1	1					
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ					1												1											1					
	ﾌﾀﾞﾗｸ	3	3	2			2										1	1	1	1							1	2	2	1	1	1	1	
	ﾂﾙﾂﾙ		1	1																									1					
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ			1	1	1	2										1	1	1	2								2	2	2	1	1	1	
	ｶﾊﾞﾉﾘ			3	4	2		1	1						1	2	2	4	1	1	1	1				1	1	2	3	1	1	1	1	1

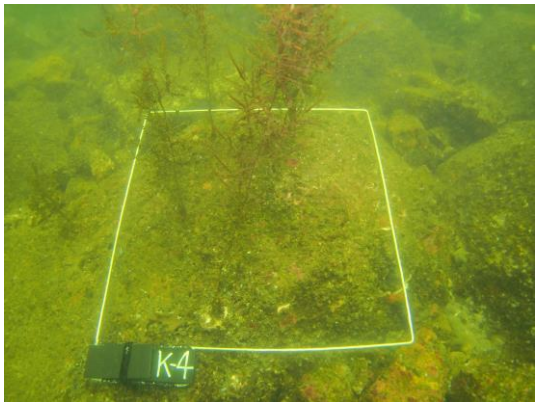
調査地点		O－6										O－7										O－13									
出現種 ＼ 水深(m)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
緑藻綱	ｱｵｻ属	2	1	2									1		1									1		1		1						
褐藻綱	ﾜｶﾒ	2	4	3	3	2	2	1	1				1	4	3	3	3	3	1	1				2	2	3	3	2		1	1			
	ｼﾀﾞﾓｸ							1						1											1	2	1	2						
	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ													1	1									1	2									
紅藻綱	ﾏｸｻ																																	
	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ																		1												1			
	ﾌﾀﾞﾗｸ					1	2								1	1	2	3	1					2	2	1		1	1					
	ﾂﾙﾂﾙ		2		2									2	2	2	2								3									
	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ					1	2								1	1	2	3	1									1	1					
	ｶﾊﾞﾉﾘ			1	1		1	1							1		1	2	1	1						2	2	1						

（被度区分）
5：76～100%
4：51～75%
3：26～50%
2：5～25%
1：5%未満



ワカメ

シダモク



アカモク

タマハハキモク

図 3-15　代表的な藻場構成種の状況（神戸沖・大阪沖埋立処分場）

3-6-2 代表地点における定量採取結果

(1) 神戸沖埋立処分場

表 3-26 に神戸沖埋立処分場周囲の代表地点 6 点（p.11　図 2-3（1）参照）において坪刈り採取した藻場構成種等（植物）の分析結果（種別湿重量）を示した。

6 地点全体で 27 種の海藻類が確認され、各地点では 8～18 種が出現した。

藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ（4 地点)、シダモク（5 地点)、アカモク（1 地点）の 3 種が確認され、ワカメの湿重量は 0.21～409.84g/0.25 ㎡、シダモクの湿重量は 13.63～291.98g /0.25 ㎡、アカモクは 24.44g/0.25 ㎡であった。

藻場構成種以外では、マクサ、ムカデノリ、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻の湿重量が多くなっていた（図 3-16 参照)。

表 3-26　　定量採取分析結果　神戸沖埋立処分場　代表地点 6 点　海藻類湿重量

						調査地点	神戸沖					
						枠番号	A-1	A-3	K-2	K-4	K-5	K-8
No.	門	綱	目	科	種名	/ 項目	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ｱﾅｻ	ｱﾅｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属						
2	緑色植物	緑藻	ｱﾅｻ	ｱﾅｻ	Ulva sp.	ｱﾅｻ属	0.06	0.50	0.04	0.09	1.11	0.59
3	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Chaetomorpha sp.	ｼﾞｭｽﾞﾓ属				+		
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	+				+	0.01
5	黄色植物	褐藻	ｼｵﾐﾄﾞﾛ	ｼｵﾐﾄﾞﾛ	Ectocarpus sp.	ｼｵﾐﾄﾞﾛ属				+		
6	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾌｸﾛﾉﾘ		0.28		0.03	0.22	0.04
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ		206.75	185.57	0.21		409.84
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum filicinum	ｼﾀﾞﾓｸ	13.63	158.07		291.98	250.01	104.39
9	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum horneri	ｱｶﾓｸ				24.44		
10	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ						
11	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Amphiroa sp.	ｶﾆﾉﾃ属						
12	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Corallina pilulifera	ﾋﾞﾘﾋﾊﾞ						
13	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Corallinaceae	ｻﾝｺﾞﾓ科	*		*	*	*	
14	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ	3.06	4.39	+		5.01	1.56
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ						
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus giganteus	ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ						
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus ocellatus	ﾂﾉﾏﾀ						
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属	0.16					
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia filicina	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	32.65	10.77			3.49	3.70
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ		0.07			0.06	0.29
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ		+				
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属						
23	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ	Hypnea asiatica	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ						0.04
24	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾂｶｻﾉﾘ	Callophyllis japonica	ﾎｿﾊﾞﾄｻｶﾓﾄﾞｷ						
25	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｵｷﾂﾉﾘ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ｵｷﾂﾉﾘ		0.94			0.67	
26	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ					196.57	
27	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ	30.76	4.29	0.02		66.05	23.94
28	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ	16.33				2.60	
29	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Rhodymenia intricata	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	+			+	6.98	
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ属	0.09	+	0.01			0.02
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属		+	+	+	+	
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科	0.04	+	0.01	+	+	0.01
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾗﾝｹﾞﾘｱ	Plumariella yoshikawae	ｲﾄｼﾉﾌﾞ						
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾀﾞｼﾞｱ	Dasya sessilis	ｴﾅｼﾀﾞｼﾞｱ	9.59					
35	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾀﾞｼﾞｱ	Dasysiphonia japonica	ｲｿﾊｷﾞ					0.41	
36	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属					+	0.01
37	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Pterosiphonia sp.	ﾊﾈｸﾞｻ属						
38	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia marchantioides	ｺｻﾞﾈﾓ					2.38	
種類数							13	13	8	11	18	13
湿重量(g)合計							106.37	386.06	185.65	316.75	535.56	544.40

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

マクサ

カバノリ

図 3-16　藻場構成種以外の主な海藻類　（　神戸沖埋立処分場　）

(2) 大阪沖埋立処分場

表 3-27 に大阪沖埋立処分場周囲の代表地点 6 点（p.12　図 2-3（2）参照）において坪刈り採取した藻場構成種等（植物）の分析結果（種別湿重量）を示した。

6 地点全体で 30 種の海藻類が確認され、各地点では 13～21 種が出現した。

藻場構成種となる大型褐藻として、ワカメ（6 地点）、シダモク（5 地点）、タマハハキモク（1 地点）の 3 種が確認され、ワカメの湿重量は 22.84～355.81 g/0.25 ㎡、シダモクは 5.35～320.68g/0.25 ㎡、タマハハキモクは 79.16g/0.25 ㎡であった。

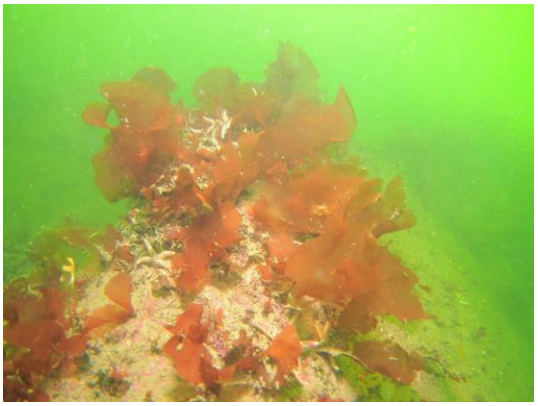
藻場構成種以外では、フダラク、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻の湿重量が多くなっていた（図 3-17 参照）。

表 3-27　　定量採取分析結果　大阪沖埋立処分場　代表地点 6 点　海藻類湿重量

					調査地点	大阪沖					
					枠番号	C-4	O-1	O-3	O-6	O-7	O-13
No.	門	綱	目	科	種名 / 項目	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量	湿重量
1	緑色植物	緑藻	ｱﾅｻ	ｱﾅｻ	Enteromorpha sp.	ｱｵﾉﾘ属	0.01					+
2	緑色植物	緑藻	ｱﾅｻ	ｱﾅｻ	Ulva sp.	ｱﾅｻ属	0.76	0.89	0.46	+	+	0.95
3	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Chaetomorpha sp.	ｼﾞｭｽﾞﾓ属						
4	緑色植物	緑藻	ｼｵｸﾞｻ	ｼｵｸﾞｻ	Cladophora sp.	ｼｵｸﾞｻ属	+		+	0.11	0.01	0.08
5	黄色植物	褐藻	ｼｵﾐﾄﾞﾛ	ｼｵﾐﾄﾞﾛ	Ectocarpus sp.	ｼｵﾐﾄﾞﾛ属						
6	黄色植物	褐藻	ｶﾔﾓﾉﾘ	ｶﾔﾓﾉﾘ	Colpomenia sinuosa	ﾌｸﾛﾉﾘ	0.29				1.34	9.26
7	黄色植物	褐藻	ｺﾝﾌﾞ	ﾁｶﾞｲｿ	Undaria pinnatifida	ﾜｶﾒ	105.92	301.35	36.32	355.81	196.73	22.84
8	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum filicinum	ｼﾀﾞﾓｸ	161.64	320.68	6.48		5.35	80.93
9	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum horneri	ｱｶﾓｸ						
10	黄色植物	褐藻	ﾋﾊﾞﾏﾀ	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ	Sargassum muticum	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			79.16			
11	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Amphiroa sp.	ｶﾆﾉﾃ属	0.01					0.01
12	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Corallina pilulifera	ﾋﾞﾘﾋﾊﾞ	0.08					15.19
13	紅色植物	紅藻	ｻﾝｺﾞﾓ	ｻﾝｺﾞﾓ	Corallinaceae	ｻﾝｺﾞﾓ科					*	
14	紅色植物	紅藻	ﾃﾝｸﾞｻ	ﾃﾝｸﾞｻ	Gelidium elegans	ﾏｸｻ	0.65	1.02	0.41			
15	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	Halarachnion latissimum	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	11.73					
16	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus giganteus	ｵｵﾊﾞﾂﾉﾏﾀ	5.18		0.55			8.34
17	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus ocellatus	ﾂﾉﾏﾀ	1.95		1.31		0.21	45.30
18	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｽｷﾞﾉﾘ	Chondrus sp.	ﾂﾉﾏﾀ属		0.03		0.27		0.05
19	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia filicina	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	0.03	0.63	4.98	0.08		
20	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia lanceolata	ﾌﾀﾞﾗｸ	99.63	0.40	10.86	35.20	8.36	21.48
21	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia turuturu	ﾂﾙﾂﾙ	4.99	+		5.63	0.19	0.02
22	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	Grateloupia sp.	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ属						
23	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ	Hypnea asiatica	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ		+				0.01
24	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾂｶｻﾉﾘ	Callophyllis japonica	ﾎｿﾊﾞﾉﾄｻｶﾓﾄﾞｷ						0.01
25	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ｵｷﾂﾉﾘ	Ahnfeltiopsis flabelliformis	ｵｷﾂﾉﾘ	2.46		0.11		0.24	0.14
26	紅色植物	紅藻	ｽｷﾞﾉﾘ	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	Schizymenia dubyi	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	13.18	2.33	35.85	1.22	96.13	
27	紅色植物	紅藻	ｵｺﾞﾉﾘ	ｵｺﾞﾉﾘ	Gracilaria textorii	ｶﾊﾞﾉﾘ	100.86	37.71	28.81	20.23	0.10	8.71
28	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Chrysymenia wrightii	ﾀｵﾔｷﾞｿｳ						
29	紅色植物	紅藻	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ	Rhodymenia intricata	ﾏｻｺﾞｼﾊﾞﾘ		0.21	0.40	0.32		0.77
30	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Antithamnion sp.	ﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ属	+	0.01		1.51	0.34	
31	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramium sp.	ｲｷﾞｽ属	0.03	+		0.32	0.09	+
32	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ｲｷﾞｽ	Ceramiaceae	ｲｷﾞｽ科	+		+	0.02		+
33	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾗﾝｹﾞﾘｱ	Plumariella yoshikawae	ｲﾄｼﾉﾌﾞ			0.03			
34	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾀﾞｼﾞｱ	Dasya sessilis	ｴﾅﾝﾀﾞｼﾞｱ						
35	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾀﾞｼﾞｱ	Dasysiphonia japonica	ｲｿﾊｷﾞ						
36	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Polysiphonia sp.	ｲﾄｸﾞｻ属					+	
37	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Pterosiphonia sp.	ﾊﾈｸﾞｻ属						0.03
38	紅色植物	紅藻	ｲｷﾞｽ	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ	Symphyocladia marchantioides	ｺｻﾞﾈﾓ						
種類数							21	14	16	13	15	21
湿重量(g)合計							509.40	665.26	205.73	420.72	309.09	214.12

注1：単位は湿重量(g)/0.25㎡を示す。
注2：*は湿重量計測困難な種の出現を、+は湿重量が0.01g未満の出現を示す。

フダラク



ベニスナゴ

図 3-17　藻場構成種以外の主な海藻類　（　大阪沖埋立処分場　）

3-6-3 藻場分布状況

(1) 神戸沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場周囲護岸における藻場構成種および主要な海藻類の分布状況を過年度の結果と併せて図 3-18～30 に示した。

【藻場構成種（大型褐藻）】

藻場構成種として、前回調査（平成 28 年度）までに確認されている種を含め、ワカメ、カジメ、シダモク、タマハハキモク、ヒジキ、ヨレモクモドキ、アカモクの 6 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、カジメ、ヒジキの分布は確認されなかった。

① ワカメ（図 3-18）

ワカメは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に南護岸の-3～-5m 付近で分布が確認された。平成 26 年度では南護岸の広い範囲と東護岸の一部の±0～-5m で分布が確認され、濃密域がみられるなど分布範囲と被度の増加がみられた。平成 28 年も同様に南護岸の広い範囲と東護岸の一部の±0～-4m で分布が確認されたが、被度は濃密域がみられるほどではなかった。今回の調査では、南護岸、東護岸に加え、西護岸の広い範囲で分布が確認され、南護岸の広い範囲と東護岸の一部では濃密域がみられるなど過去最大の分布範囲と被度を記録した。

② カジメ（図 3-19）

カジメは、平成 21 年度に南護岸の 1 箇所で分布が確認されたが、平成 22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度、平成 28 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

③ シダモク（図 3-20）

シダモクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度および平成 28 年度に各護岸の-2～-6m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度から平成 28 年度にかけて分布範囲の減少傾向がみられた。今回の調査では、各護岸の-1～-10m で分布が確認され、西護岸と東護岸では分布範囲の拡大がみられ、東護岸では濃密域を形成するなど被度の増加も確認された。

④ タマハハキモク（図 3-21）

タマハハキモクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度および平成 28 年度に各護岸の±0～-5m 付近で分布が確認された。今回の調査でも同様に各護岸の±0～-10m で分布が確認され、特に西護岸では分布範囲の拡大と同時に一部、濃密域を形成するなど、被度の増加も認められた。

⑤ ヒジキ（図 3-22）

ヒジキは、平成 21～22 年度に西護岸の 1 箇所で確認されたが、平成 24 年度、平成 26 年度、平成 28 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

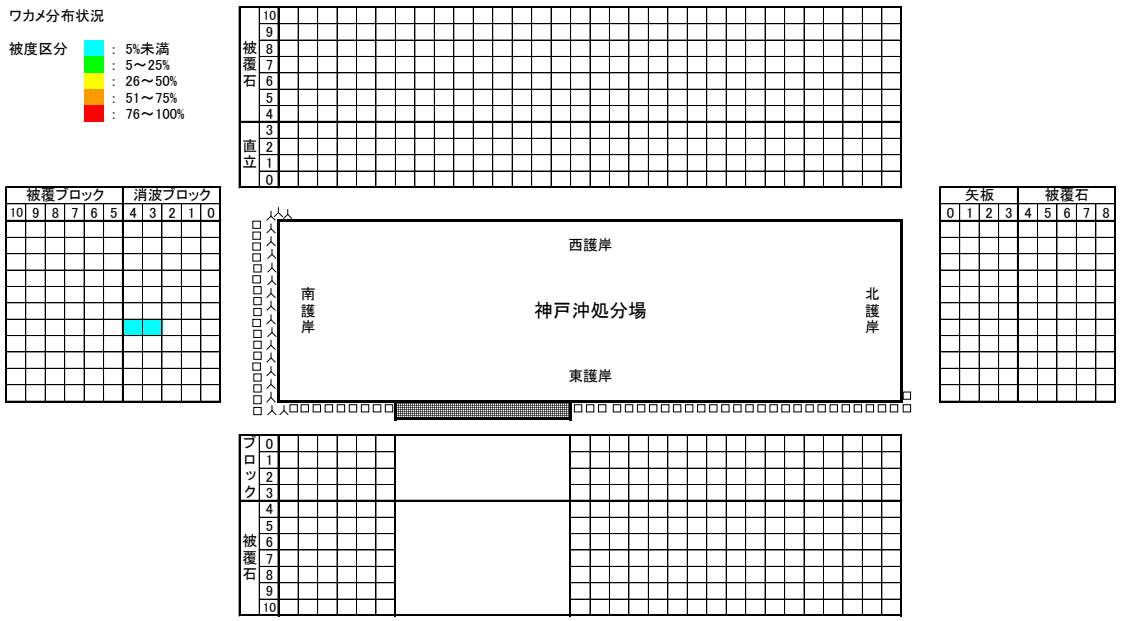
⑥ ヨレモクモドキ（図 3-23）

ヨレモクモドキは平成 22 年度に南護岸と東護岸の各 1 箇所、平成 24 年度に南護岸の 1 箇所、平成 26 年度に南護岸の 2 箇所、平成 28 年度に西護岸の 1 箇所、南護岸の 4 箇所、東護岸の 1 箇所で分布が確認された。今回の調査では、西護岸の 2 箇所、東護岸の 1 箇所で分布が確認された。

⑦ アカモク（図 3-24）

アカモクは平成 26 年度までの調査では確認されていなかったが、今回の調査では、西護岸の 1 箇所で分布が確認された。

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

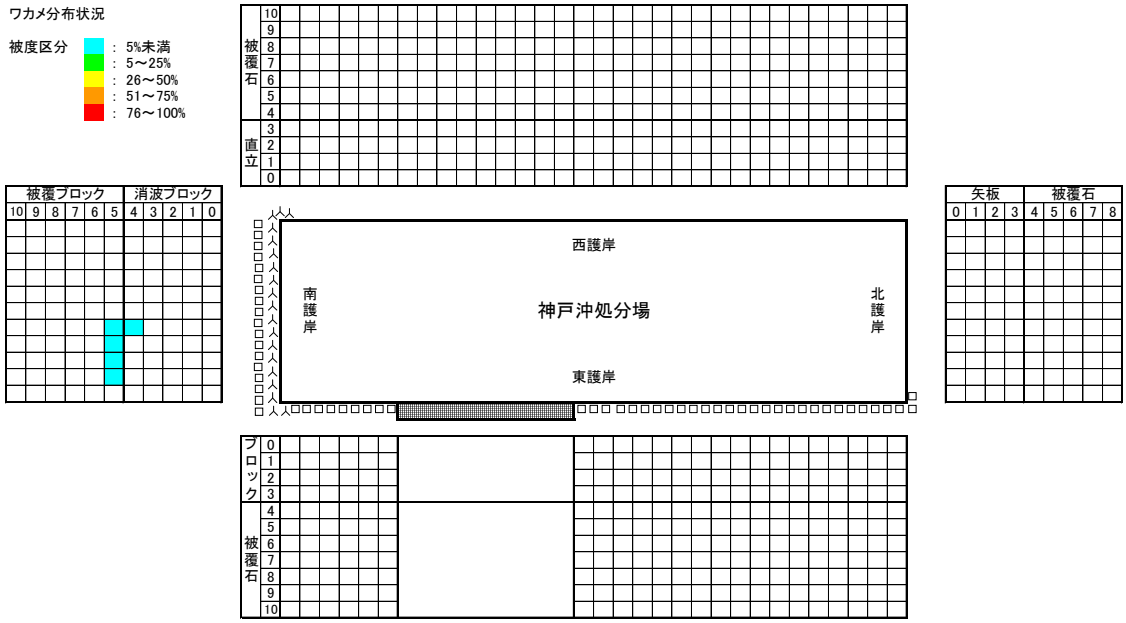
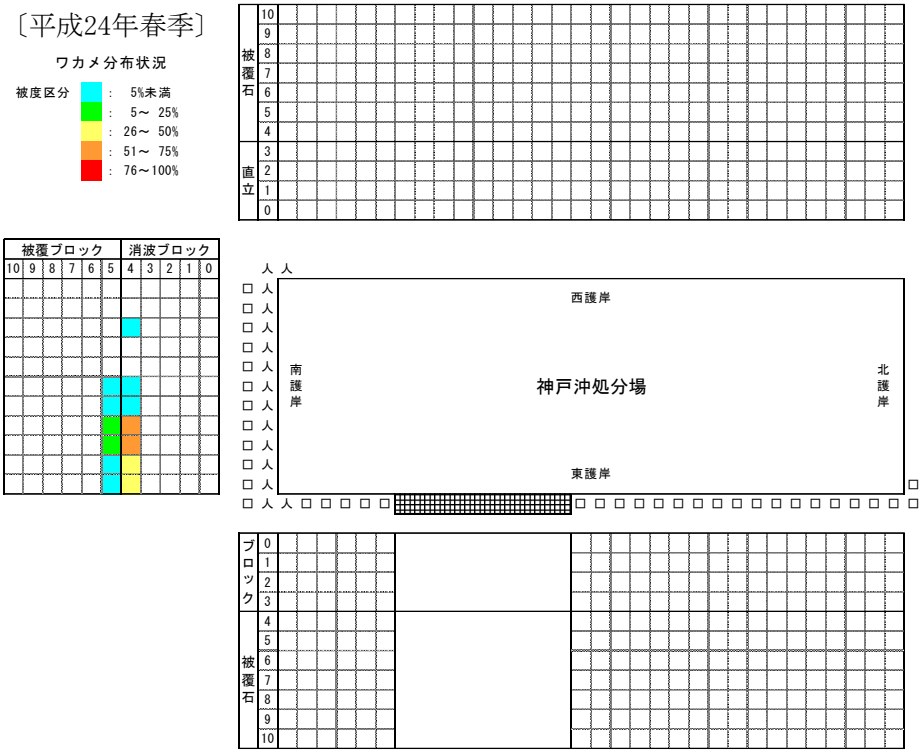


図 3-18（1）分布状況の推移　（ワカメ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



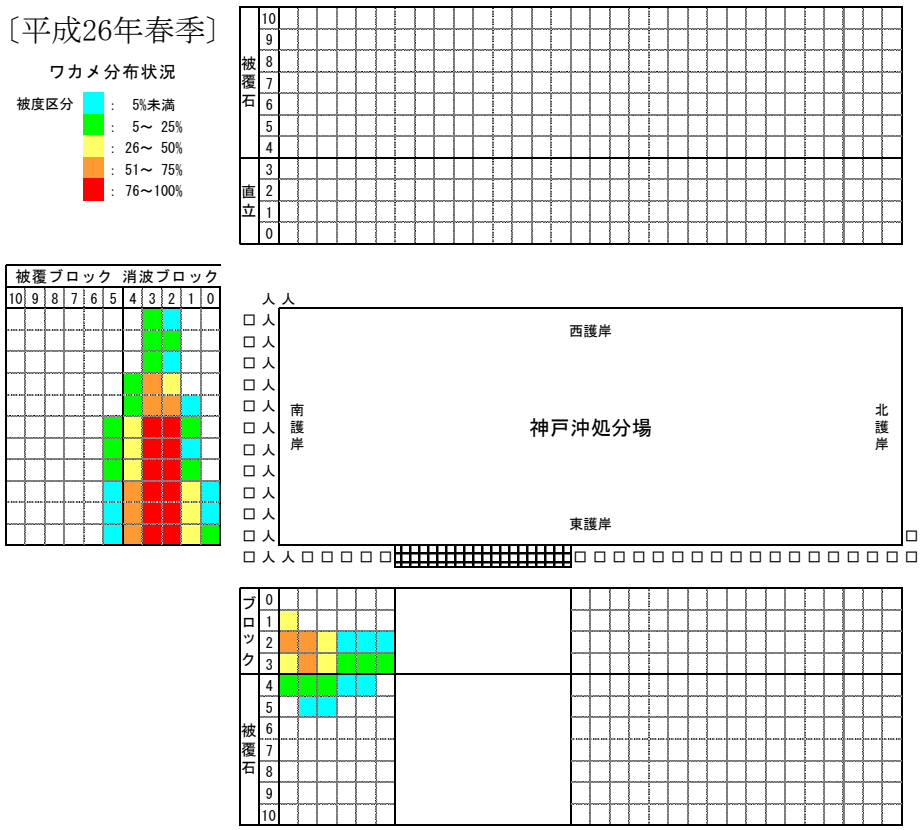
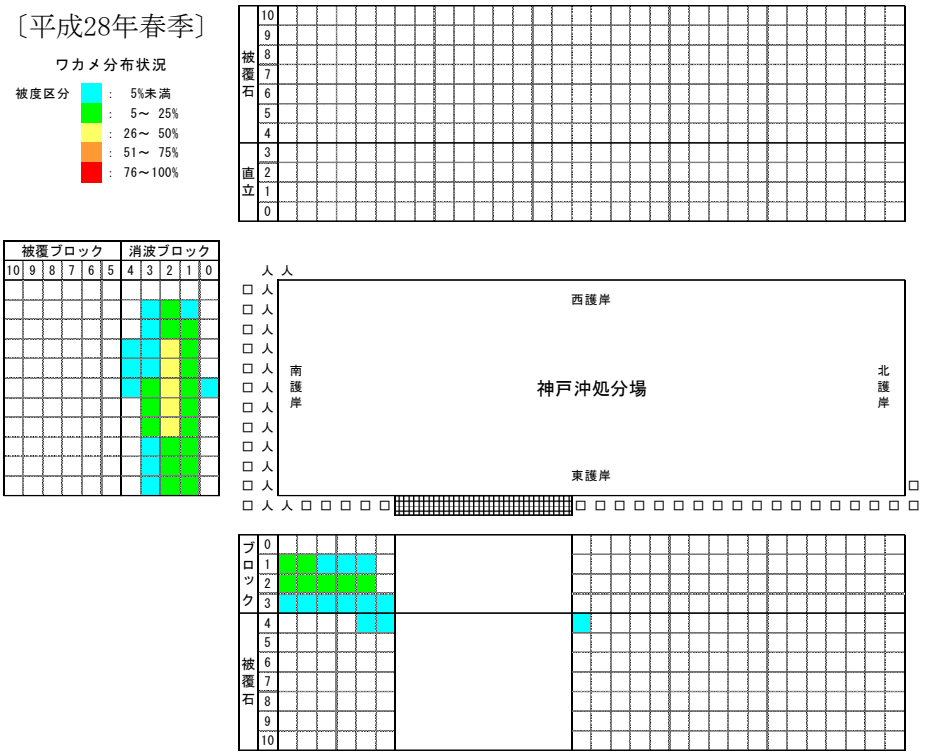


図 3-18（2）分布状況の推移　（ワカメ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



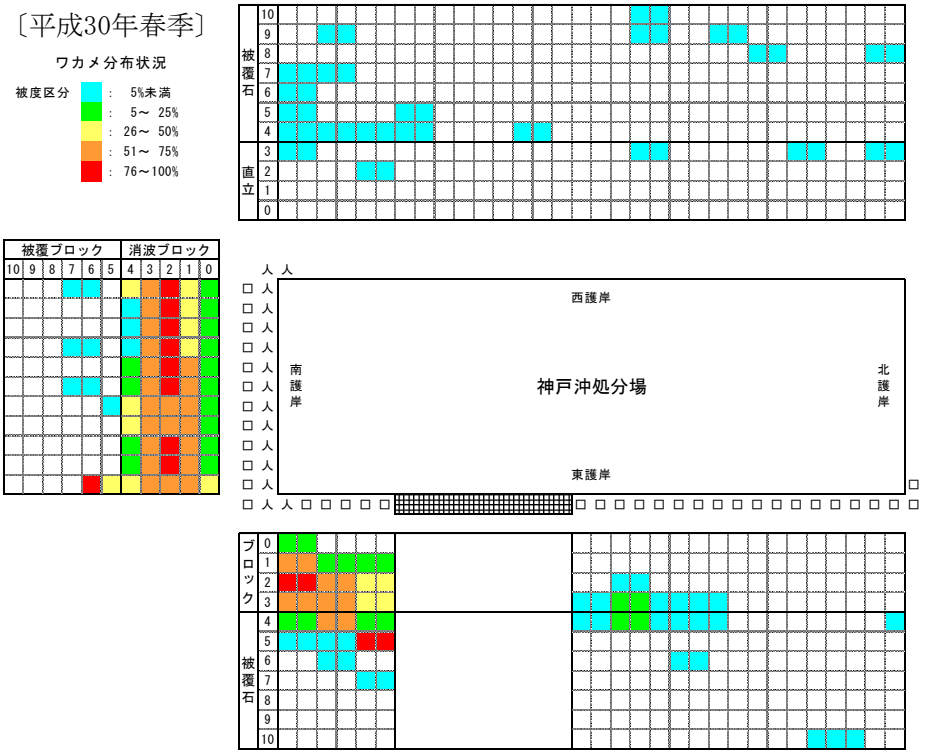
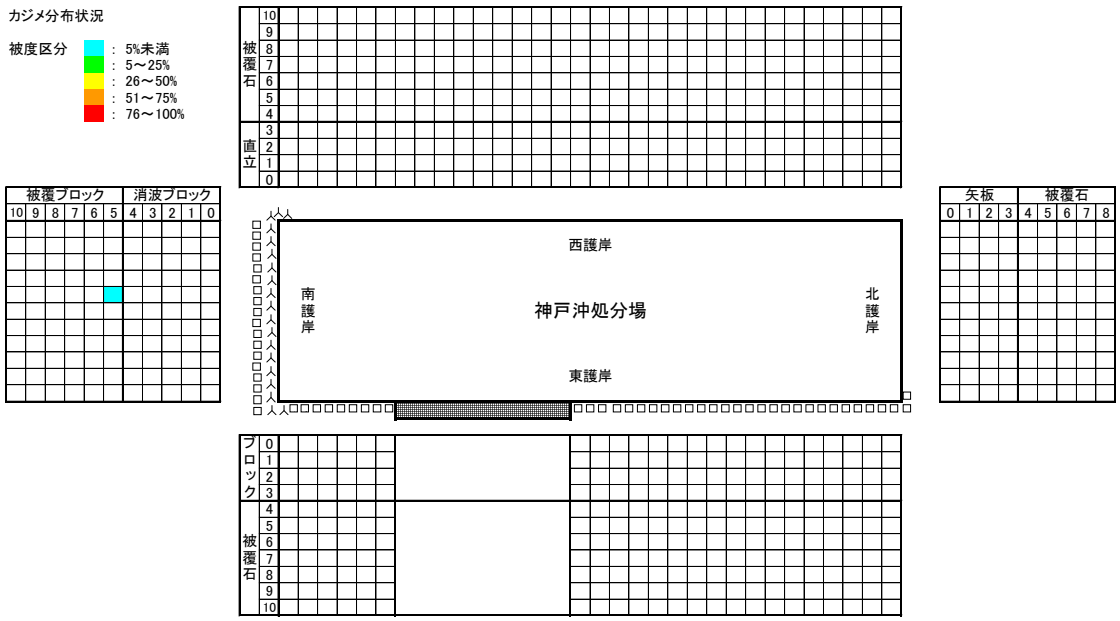


図 3-18（3）分布状況の推移　（ワカメ）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

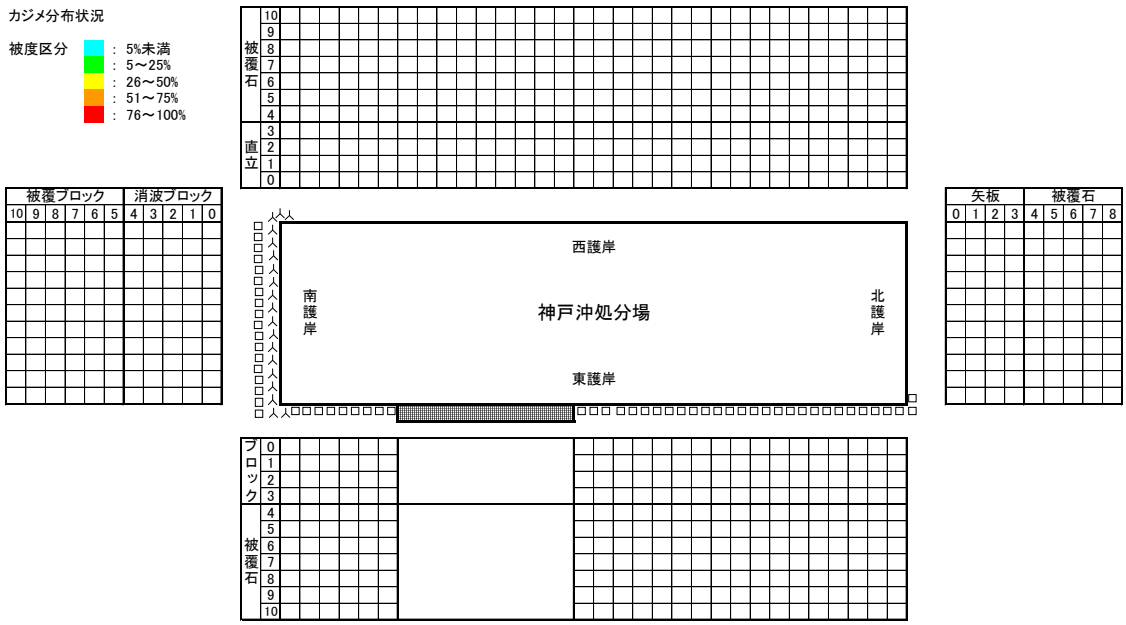
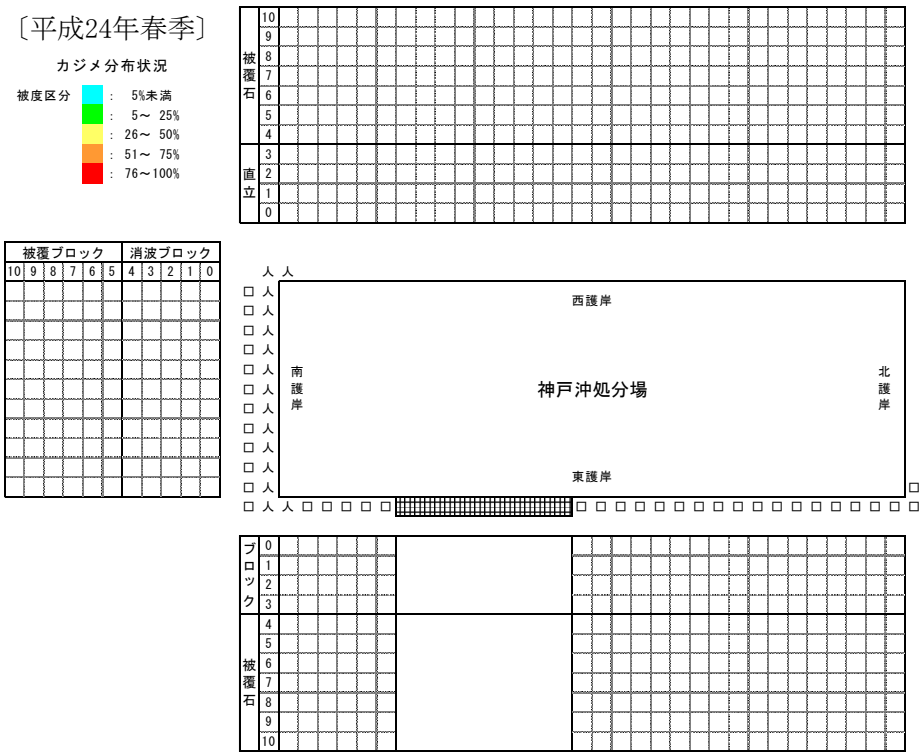


図 3-19（1）分布状況の推移　（カジメ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕



〔平成26年春季〕

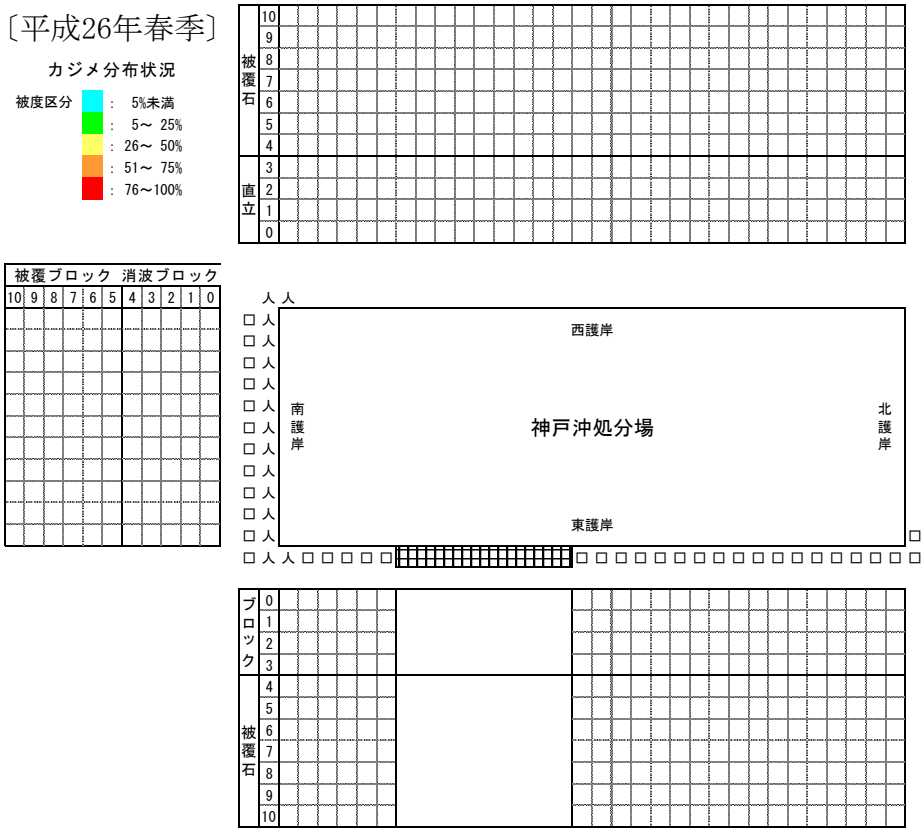
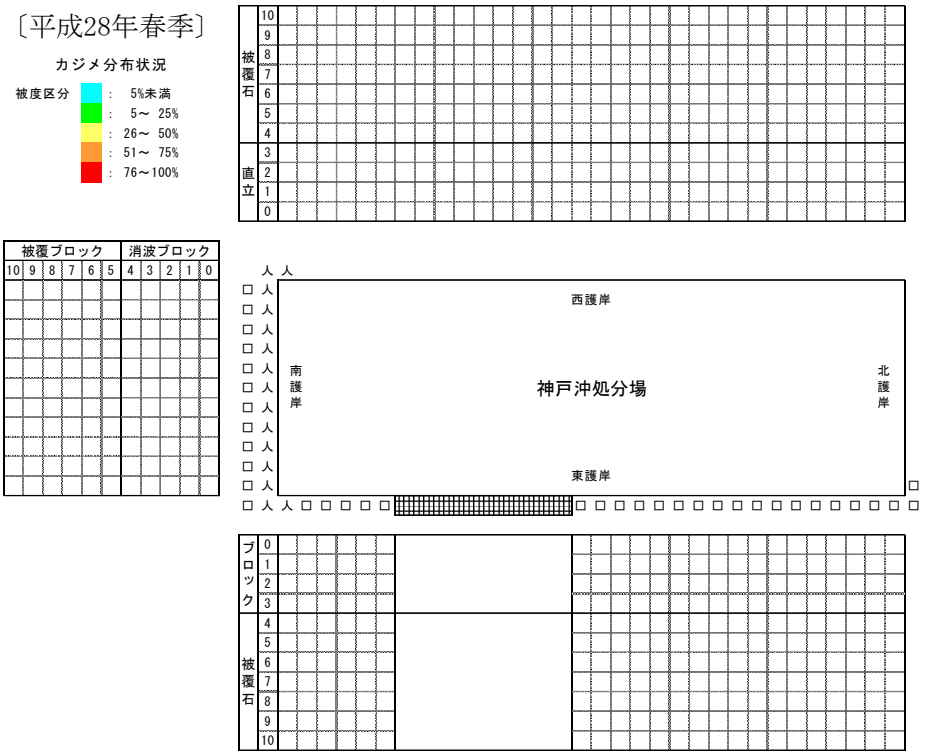


図 3-19（2）分布状況の推移　（カジメ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



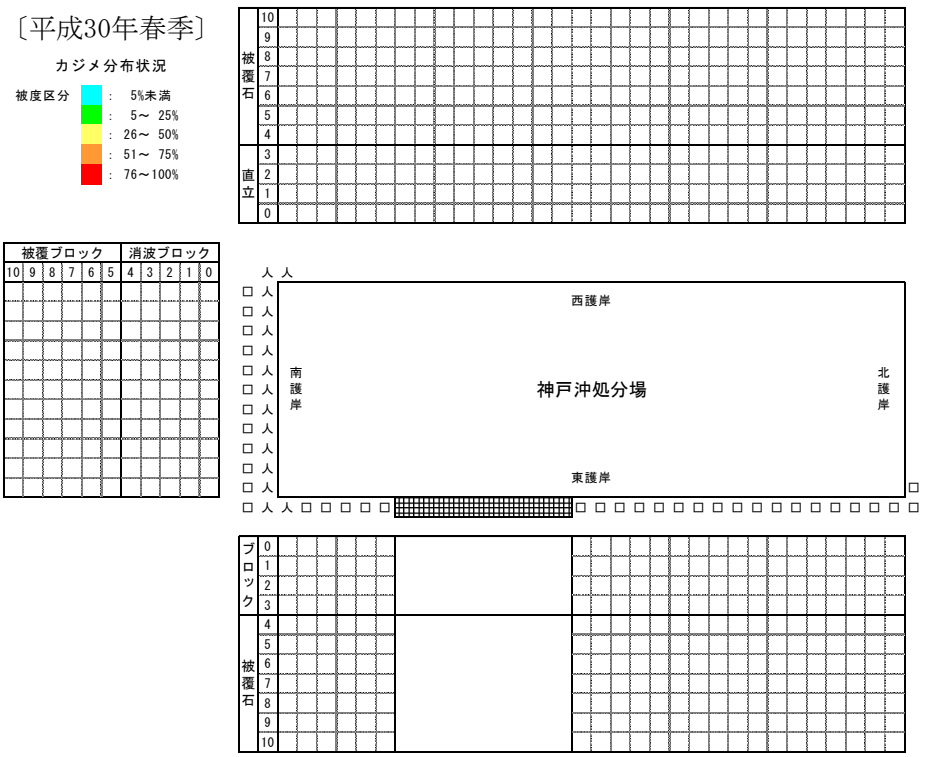
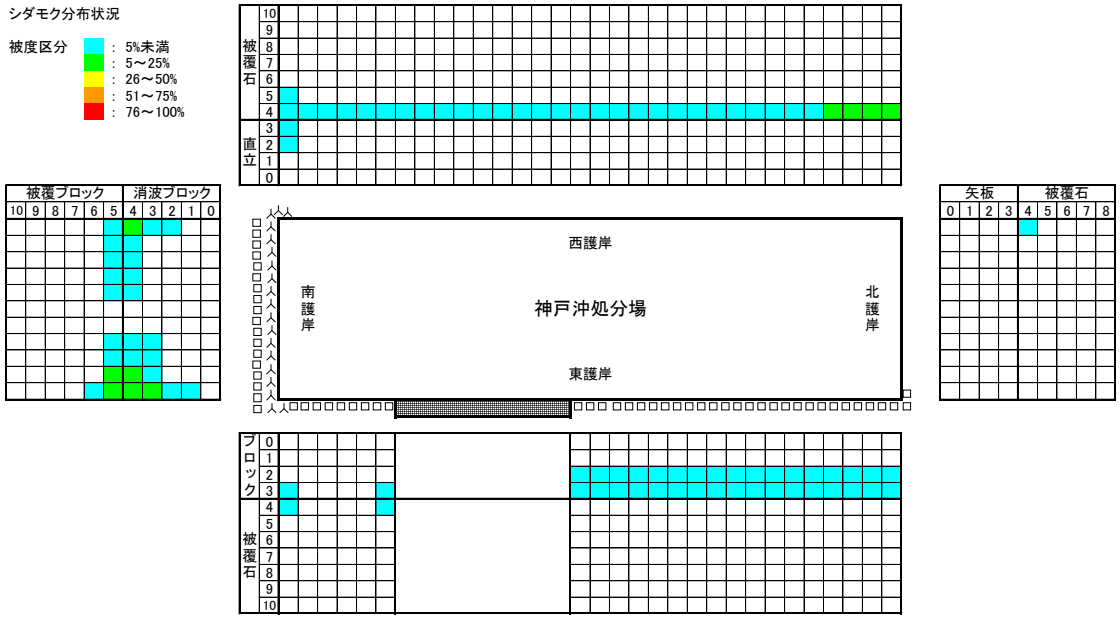


図 3-19（3）分布状況の推移　（カジメ）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

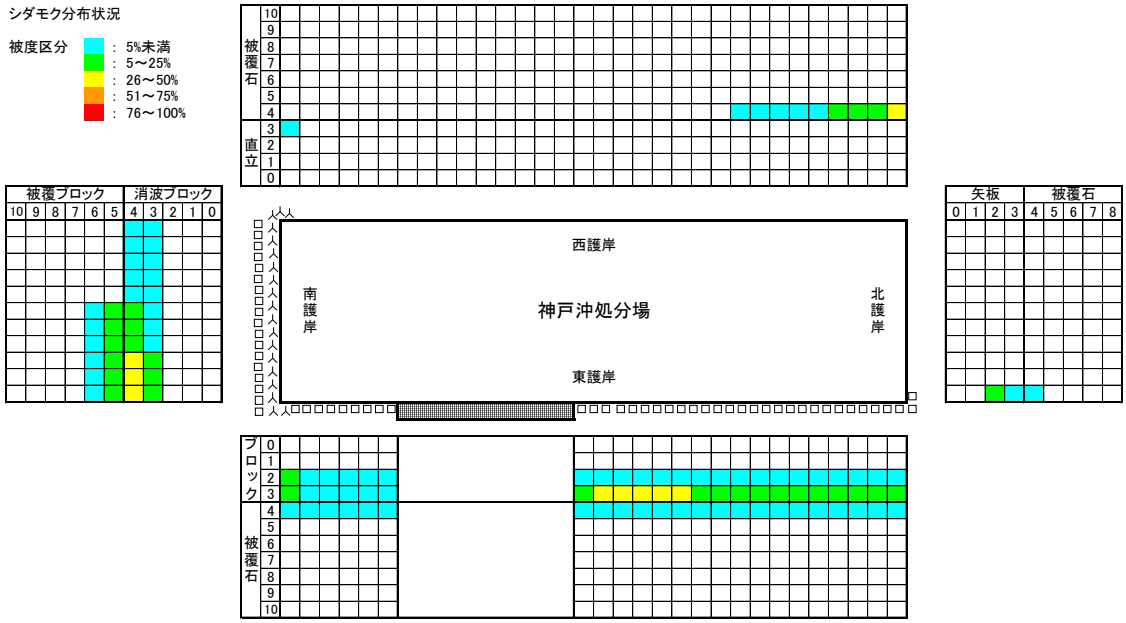
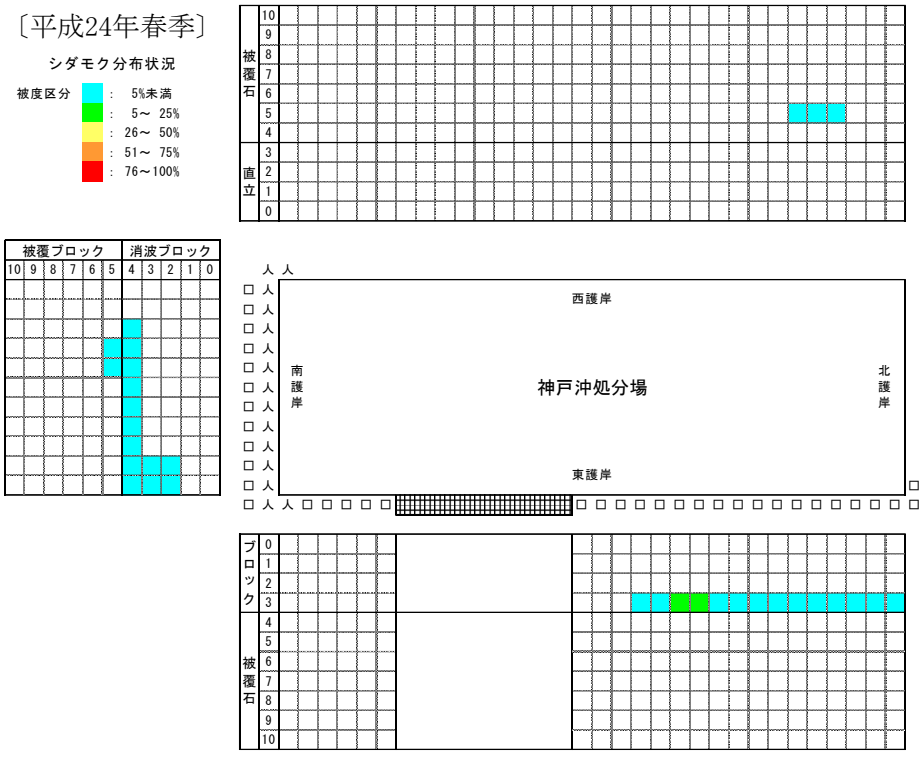


図 3-20（1）分布状況の推移　（シダモク）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



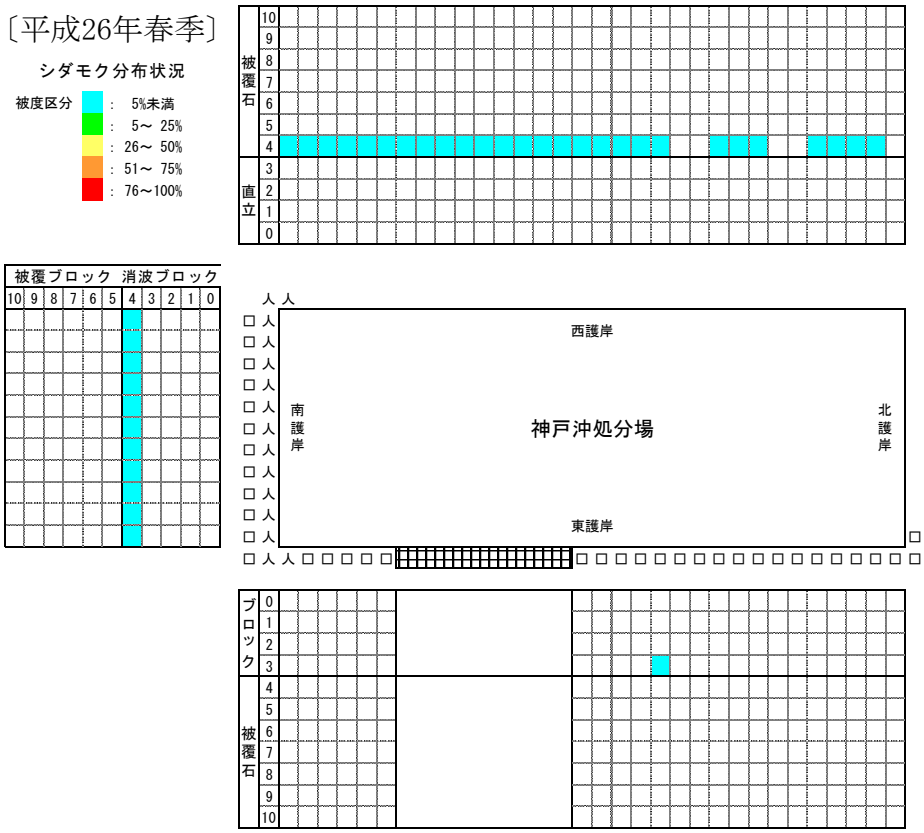
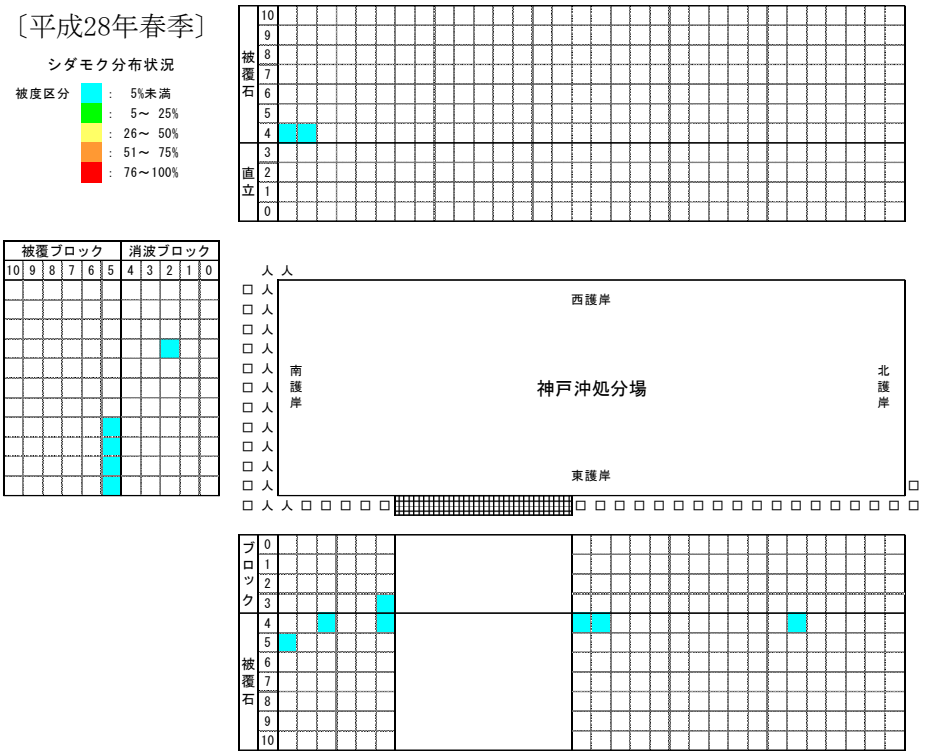


図 3-20（2）分布状況の推移　（シダモク）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



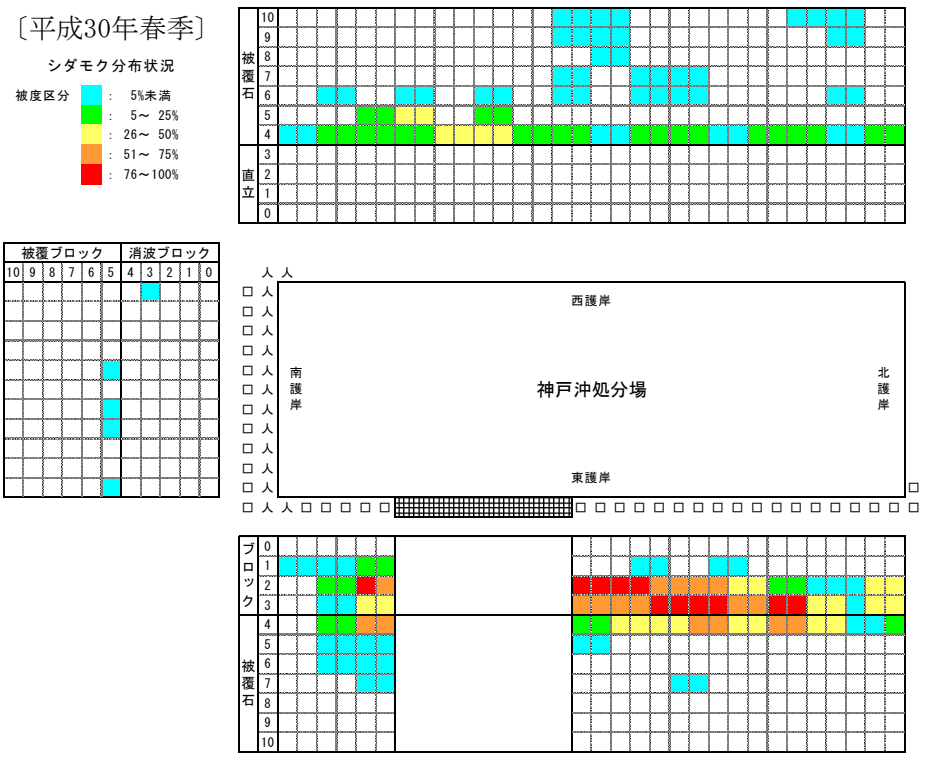
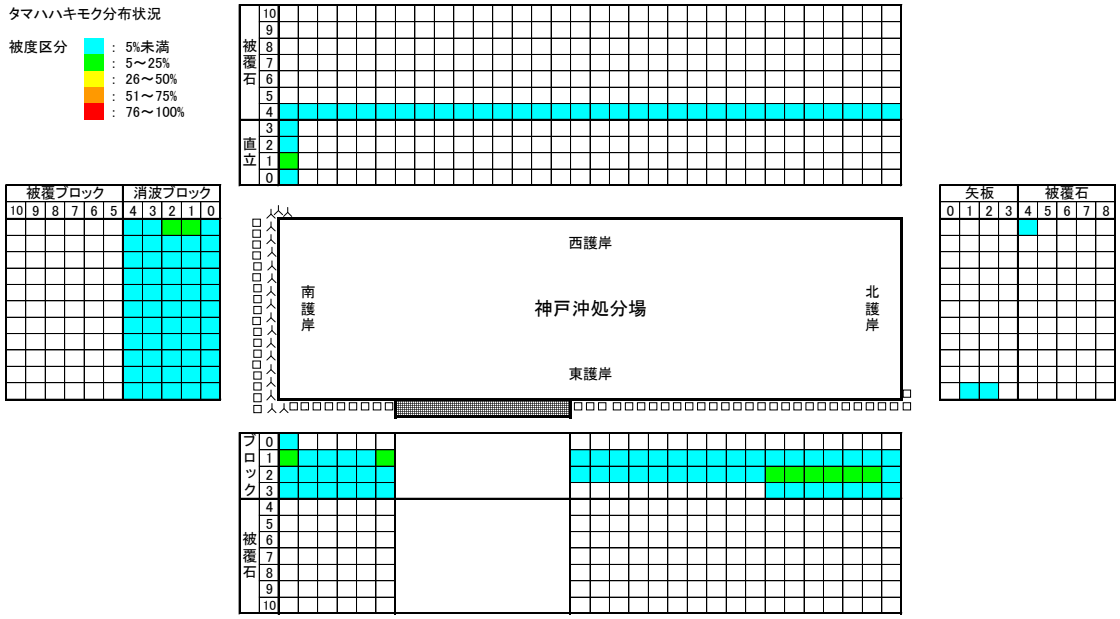


図 3-20（3）分布状況の推移　（シダモク）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

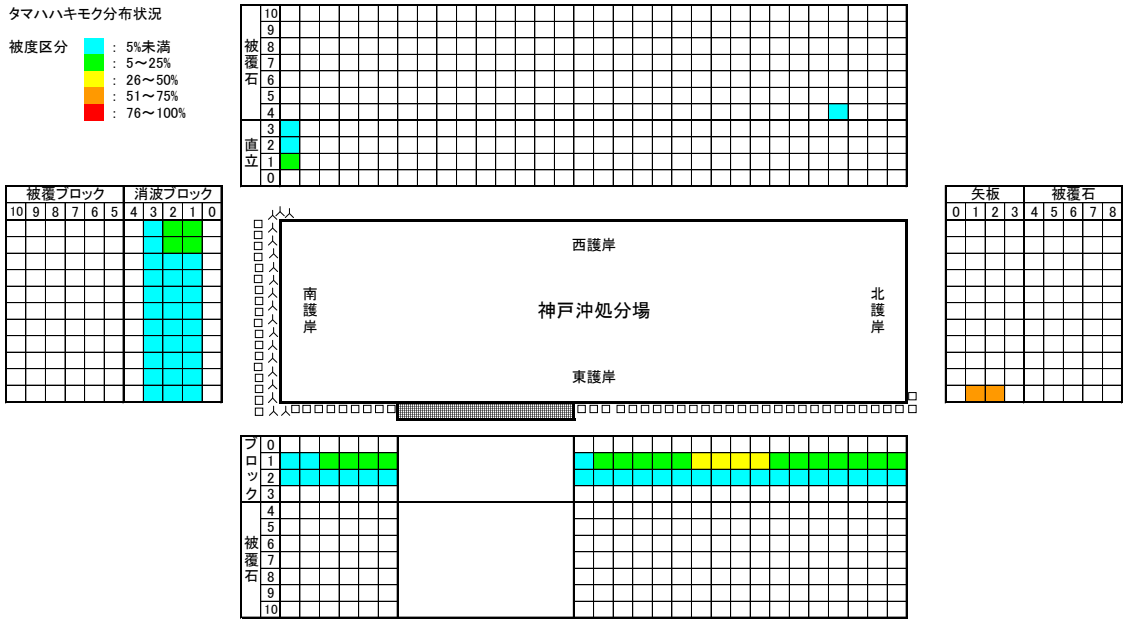


図 3-21（1）分布状況の推移　（タマハハキモク）　神戸沖　平成 21～22 年度調査

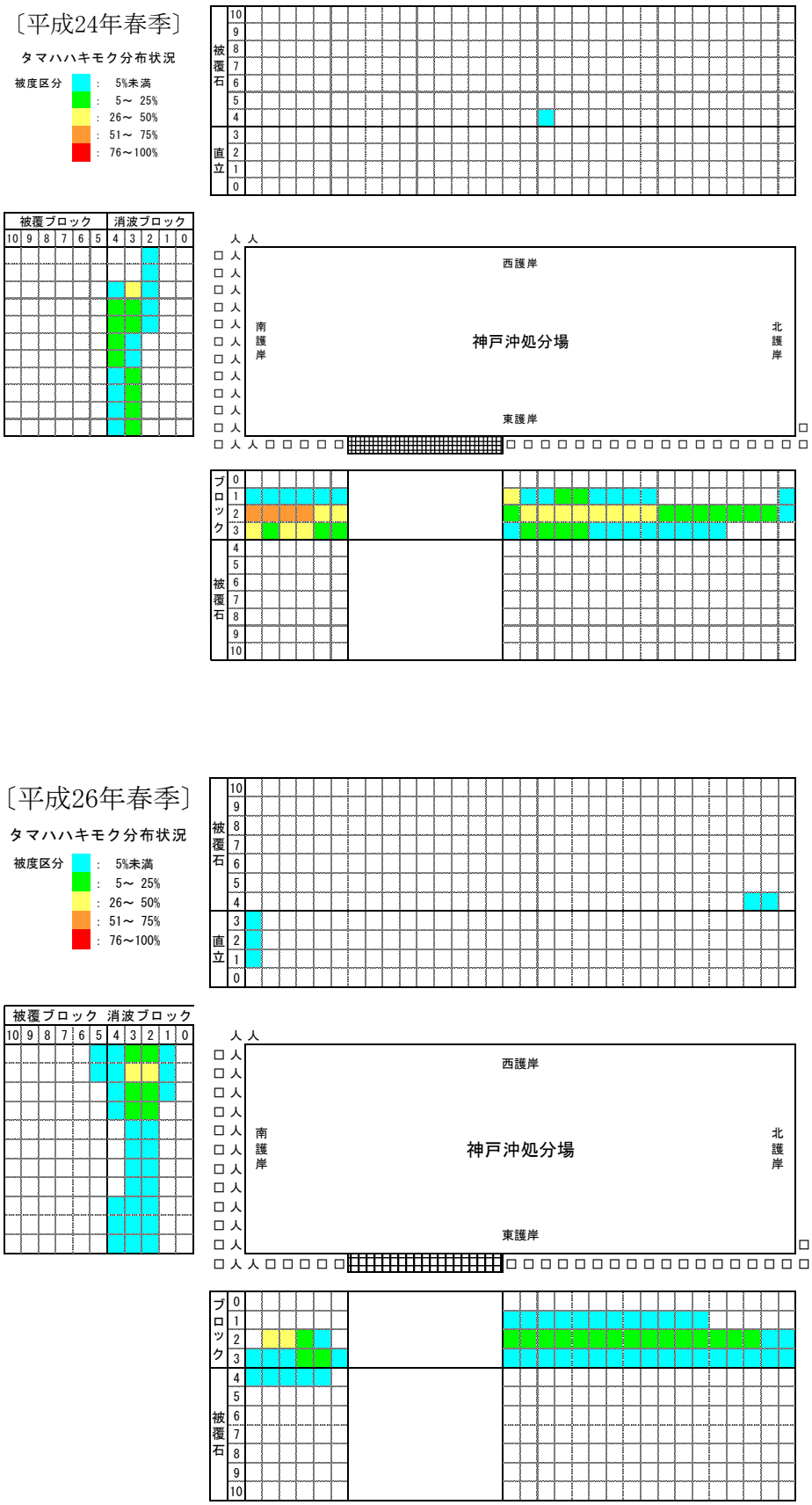
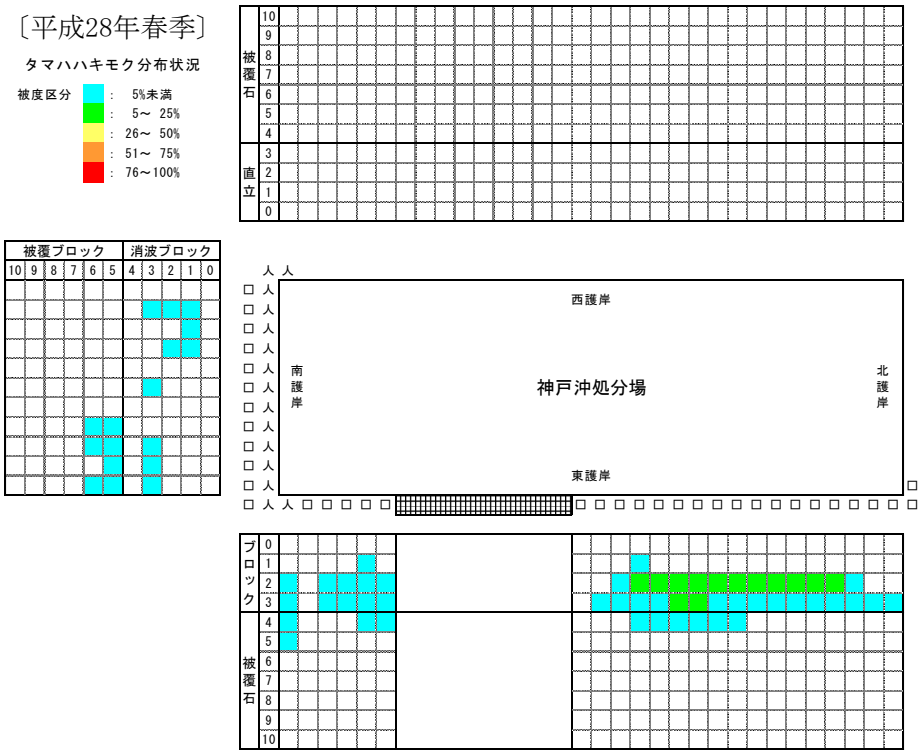


図 3-21（2）分布状況の推移　（タマハハキモク）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



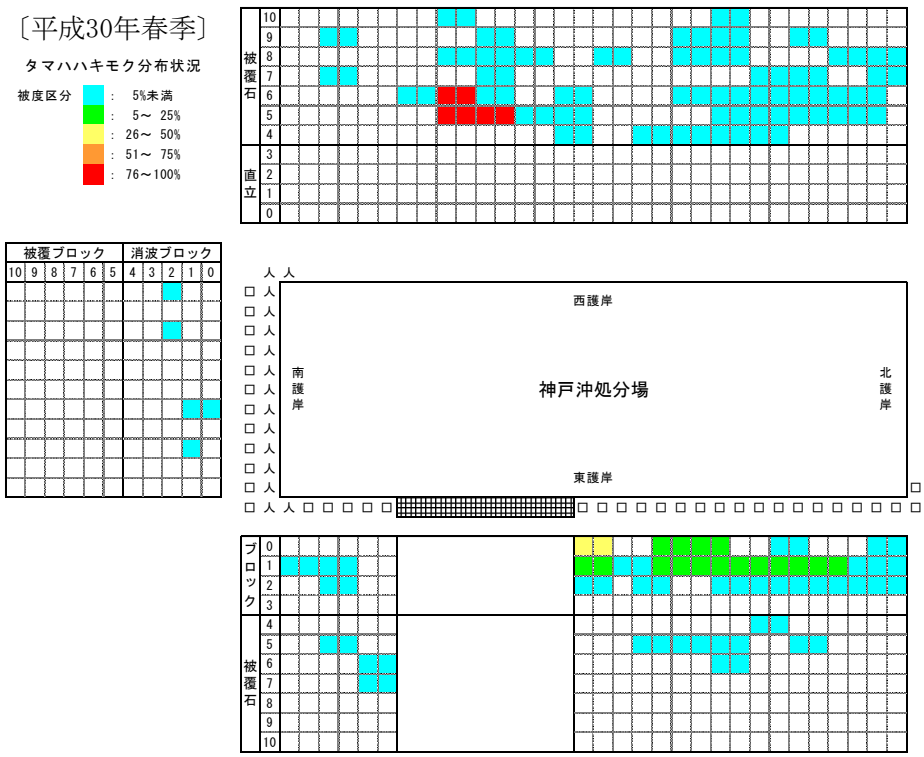
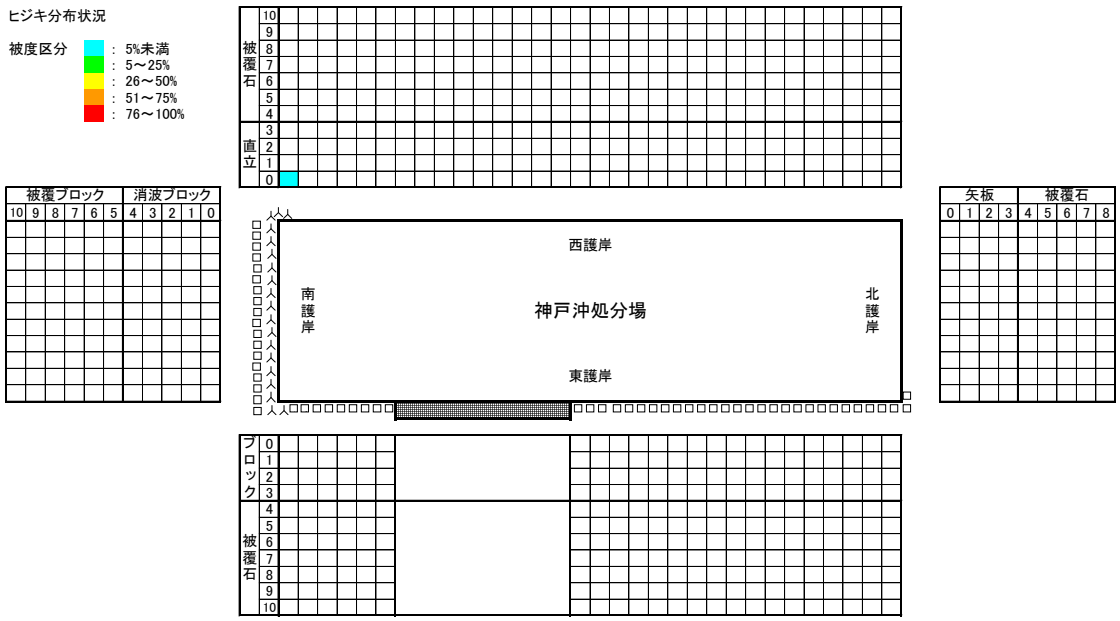


図 3-21（3）分布状況の推移　（タマハハキモク）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

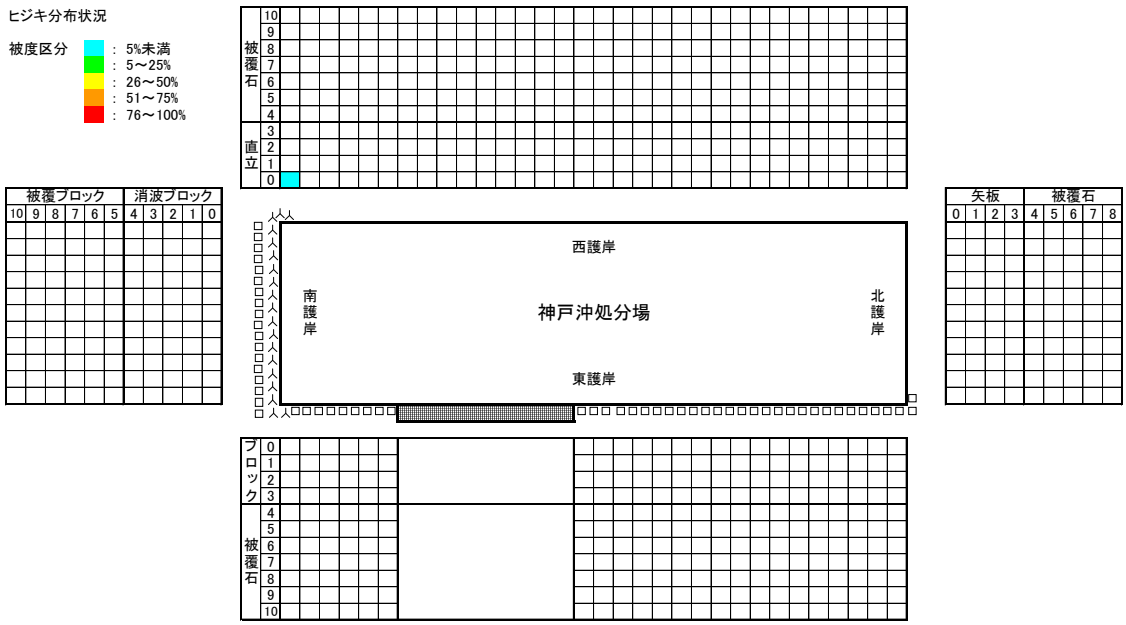
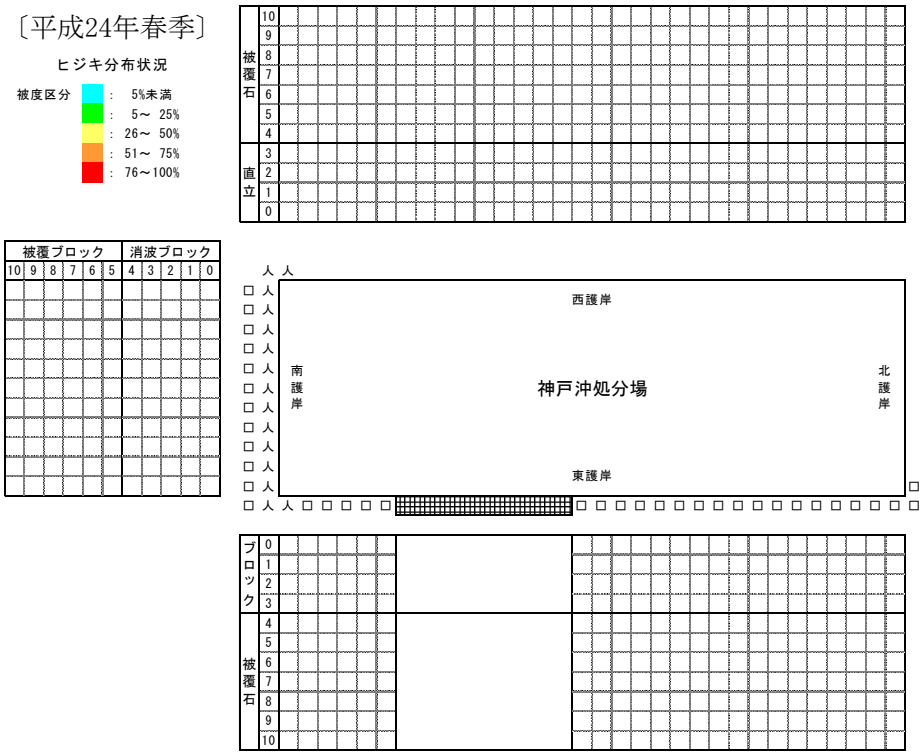


図 3-22（1）分布状況の推移　（ヒジキ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



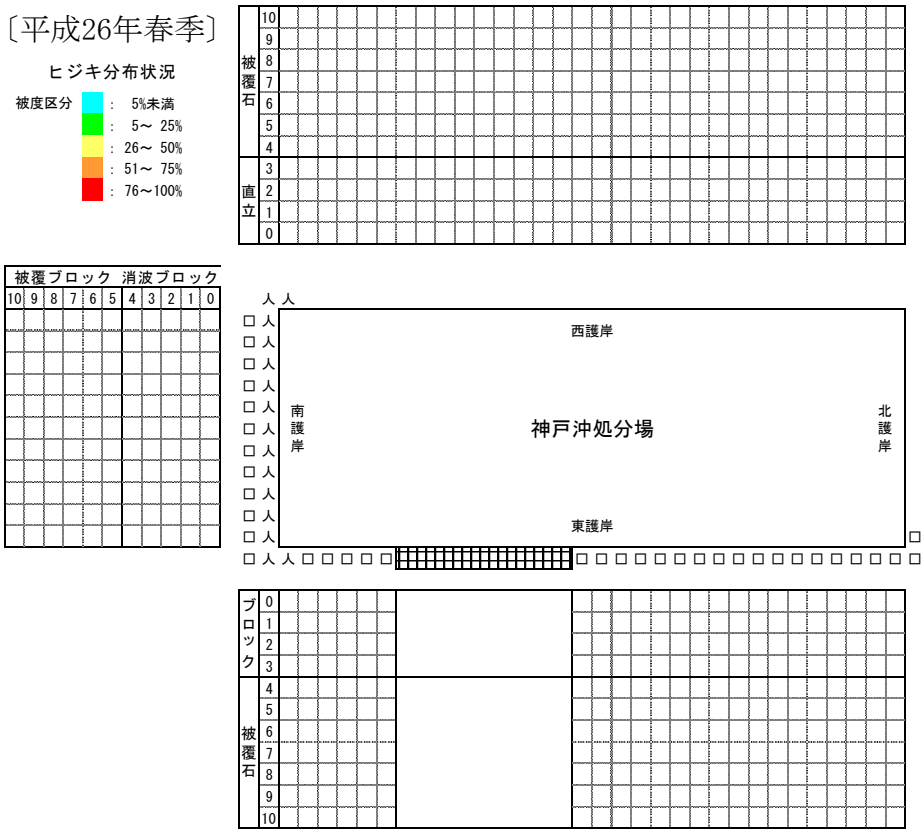
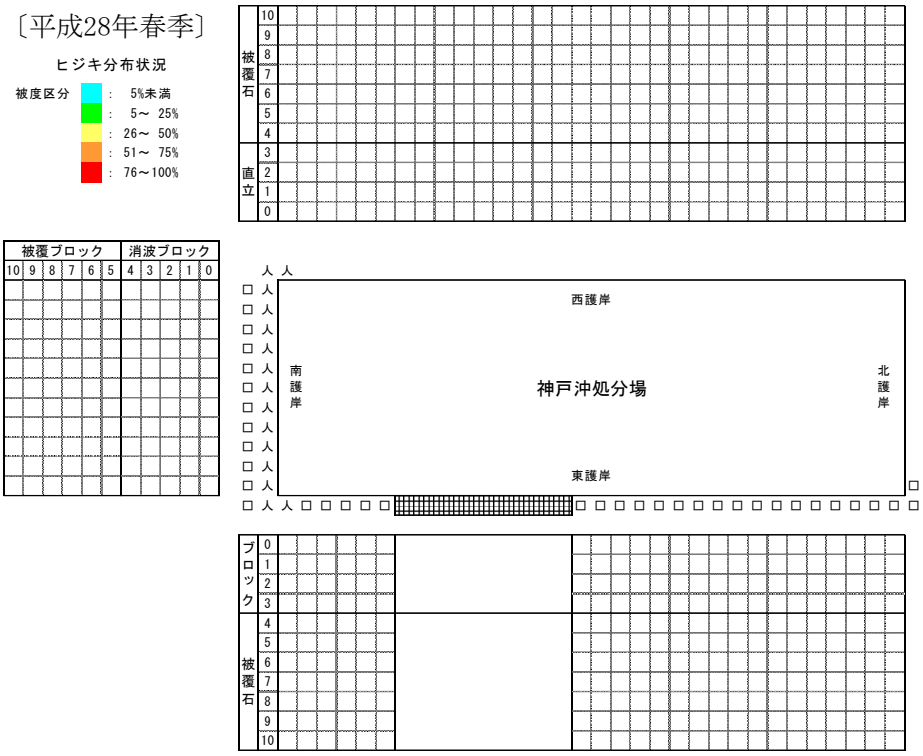


図 3-22（2）分布状況の推移　（ヒジキ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



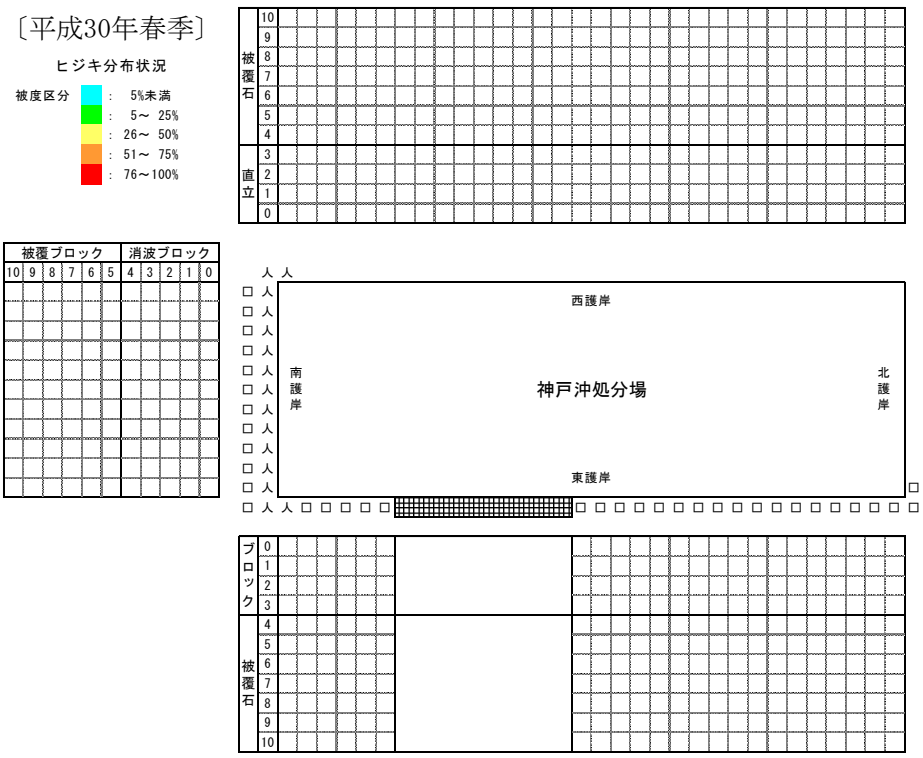
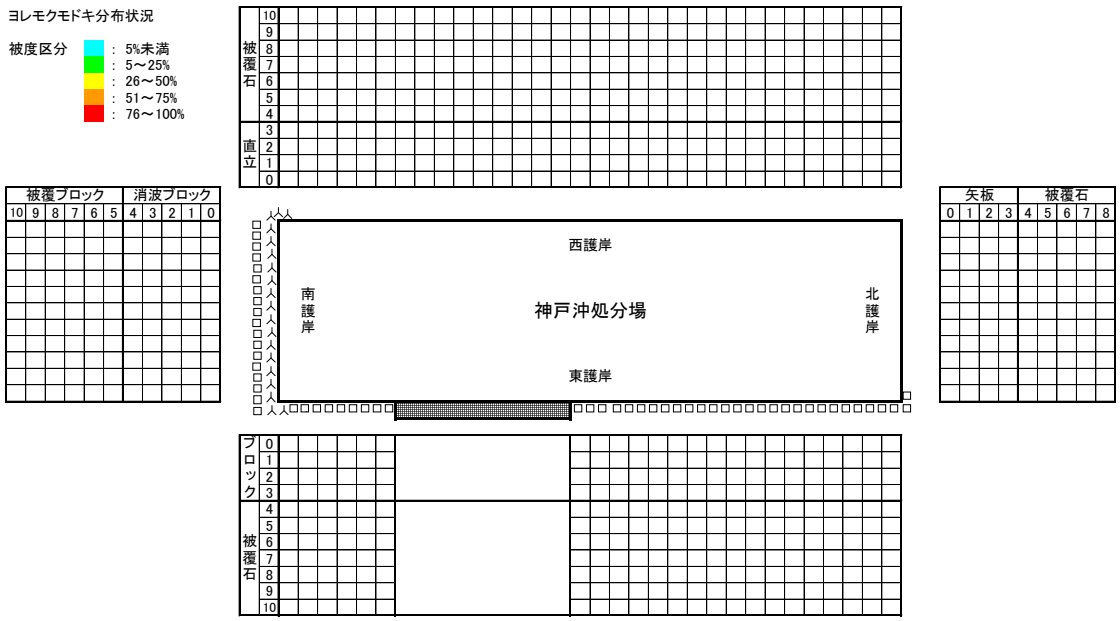


図 3-22（3）分布状況の推移　（ヒジキ）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

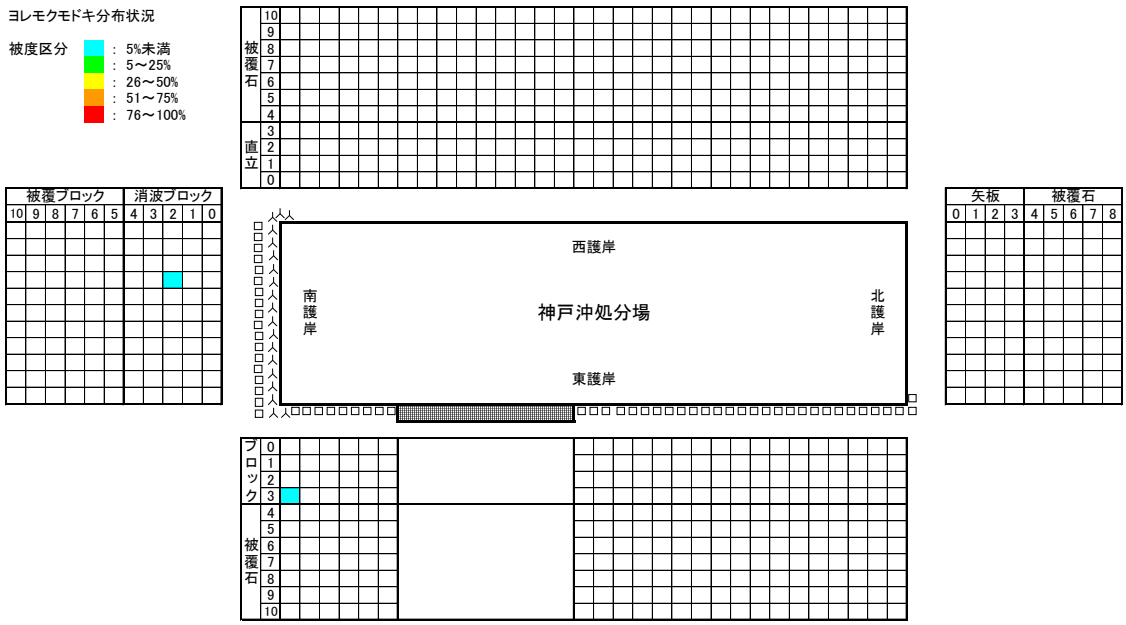
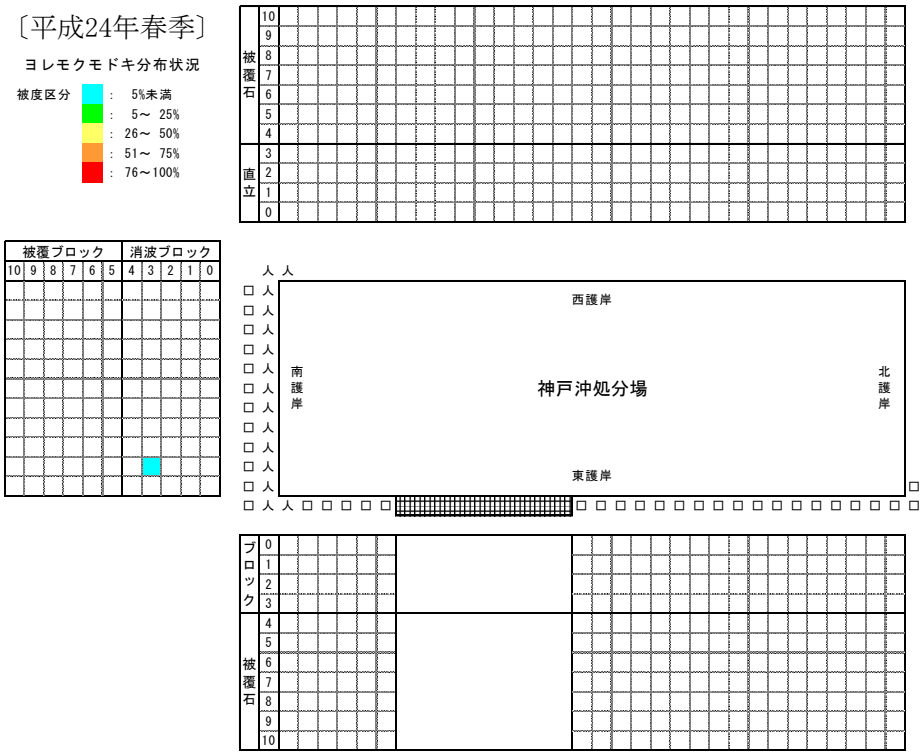


図 3-23（1）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



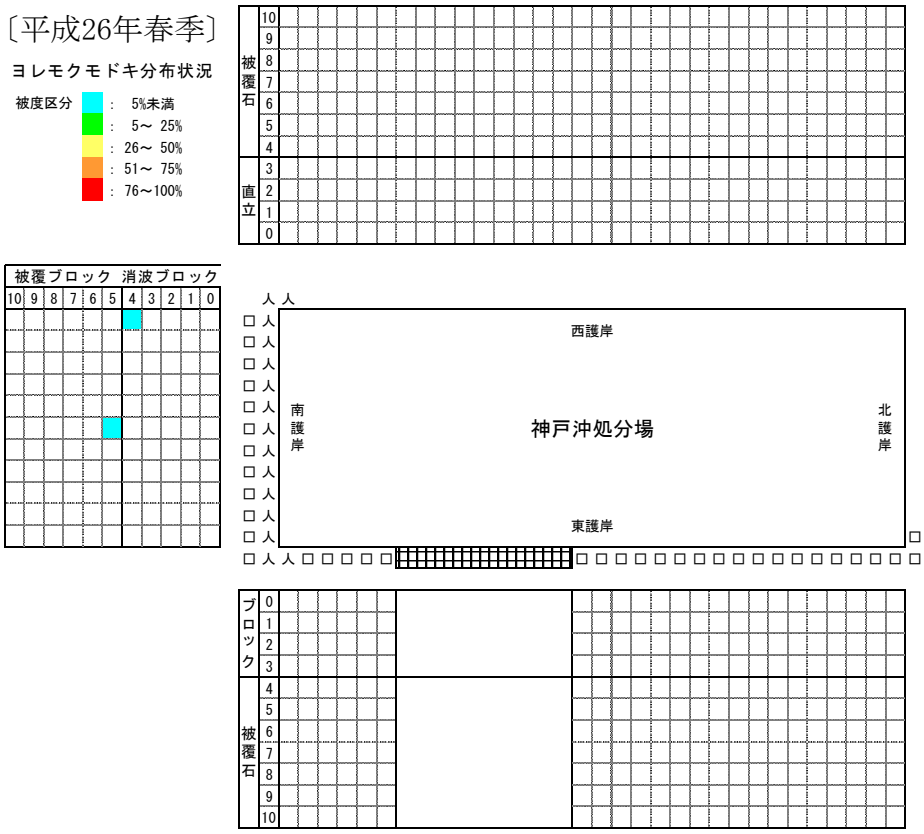
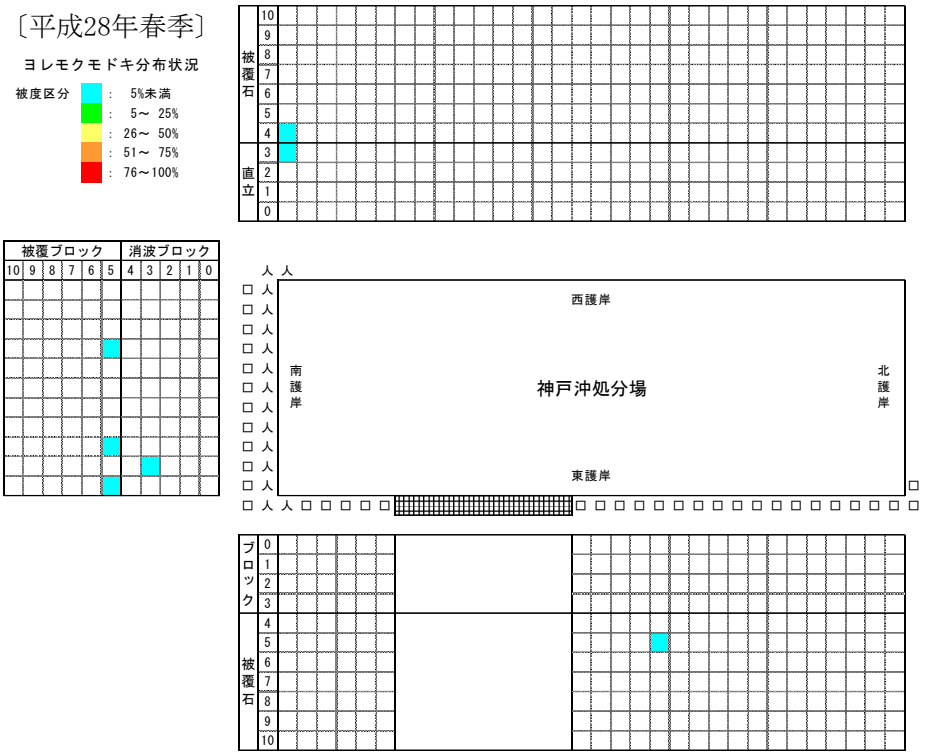


図 3-23（2）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



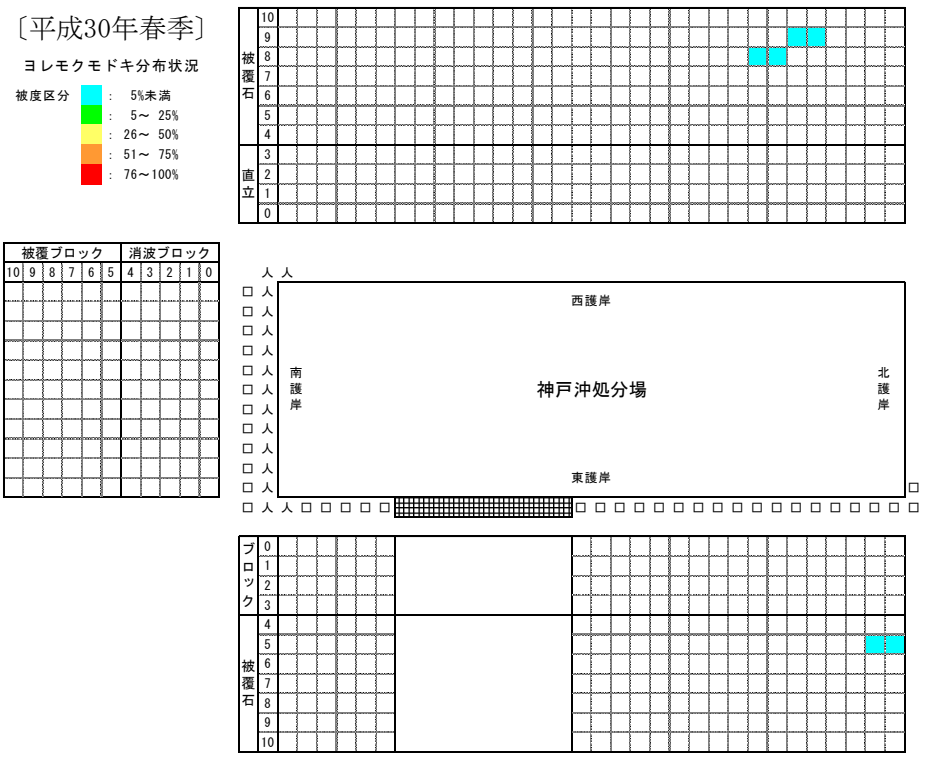
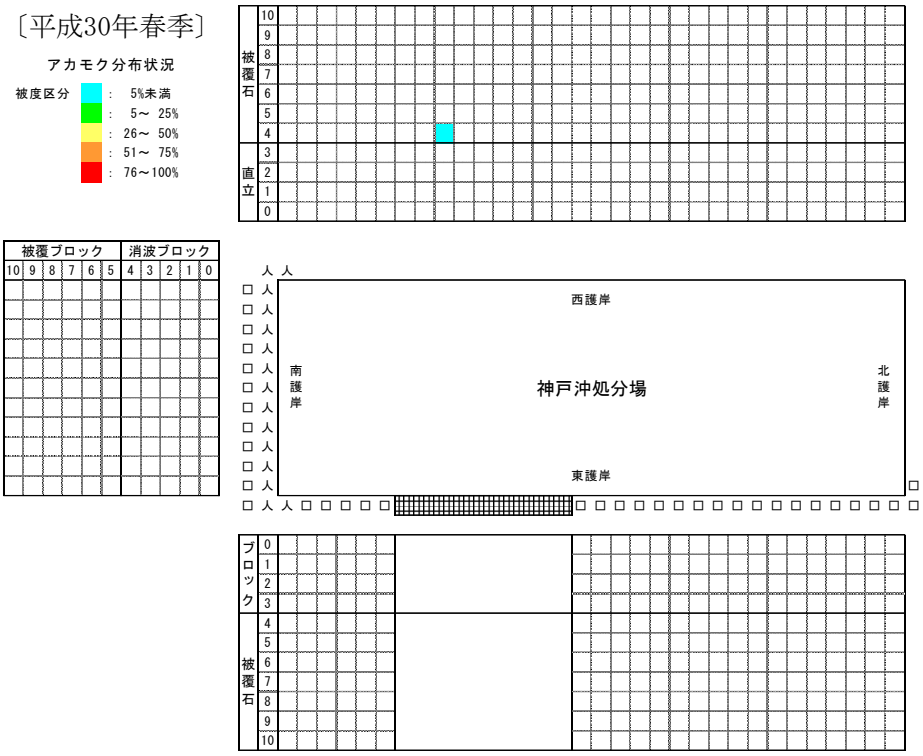


図 3-23（3）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　神戸沖　平成 28～30 年度調査



※：平成 21～28 年度の調査では、分布は確認されていない。

図 3-24　分布状況の推移　（アカモク）　神戸沖　平成 30 年度調査

【その他　主要な海藻】

藻場構成種を除く主要な海藻として、前回調査（平成 28 年度）までに確認されている種を含め、アオサ属、マクサ、ススカケベニ、フダラク、ベニスナゴ、カバノリ、ツルツルの 7 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、ツルツルの分布は確認されなかった。

① アオサ属（図 3-25）

アオサ属は、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の±0～-7m 付近に広く分布が確認されたが、平成 22 年度は平成 21 年度と比較して東護岸で分布範囲の減少がみられた。平成 26 年度には広く分布が確認されたが、各護岸で被度の減少がみられた。平成 28 年度には広く分布が確認され、平成 26 年度に比べて、南護岸を中心に被度の増加がみられた。今回の調査でも、各護岸の±0～-10m の広い範囲で分布が確認されたが、平成 28 年度に比べて、被度の減少がみられた。

② マクサ（図 3-26）

マクサは、平成 21～22 年度に南護岸、東護岸の-2～-6m 付近で広く分布が確認され、西護岸においても 2 箇所で分布が確認された。平成 24 年度は前回までの調査でほとんど分布が確認されなかった西護岸を含む、各護岸の-1～-8m 付近で広く分布しており、平成 26 年度の調査でも、各護岸で広く分布が確認され、西護岸と南護岸では分布範囲が拡大していた。平成 28 年度の調査でも、同様に各護岸で広く分布が確認され、南護岸と東護岸では分布の拡大傾向がみられたが、西護岸では北側の一部に分布が縮小していた。今回の調査でも各護岸で広く分布が確認され、平成 28 年度に比べて、南護岸では分布の縮小が、西護岸では分布の拡大が認められた。

③ ススカケベニ（図 3-27）

ススカケベニは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に、各護岸の-2～-10m 付近で広く分布が確認された。平成 26 年度の調査では、西護岸、東護岸の-3～-10m 付近で分布が確認されたが、南護岸では分布がみられず、東護岸の分布範囲は前回までと比較して減少していた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-4～-5m で分布が確認されたが、西護岸と東護岸では分布域の縮小がみられ、平成 26 年度に確認されなかった南護岸では 4 か所で分布が確認された。今回の調査では、西護岸と南護岸の-4～-9m に分布が確認され、平成 28 年度と同様の分布傾向を示したが、東護岸では分布が確認されなかった。

④ フダラク（図 3-28）

フダラクは、平成 21～22 年度に各護岸の±0～-4m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度にも各護岸で分布が確認されたが、西護岸では分布範囲の減少がみられた。平成 26 年度の調査では、平成 24 年度で分布範囲の減少がみられた西護岸で分布範囲が増加し、各護岸で広く分布が確認された。平成 28 年度の調査では、各護岸で分布が確認されたが、各護岸で分布範囲の減少がみられた。今回の調査では、南護岸と東護岸では分布範囲の回復傾向が認められたが、西護岸では分布が確認されなかった。

⑤ ベニスナゴ（図 3-29）

ベニスナゴは、平成 21～22 年度に各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度にも各護岸で分布が確認されたが、東護岸で分布範囲の減少、西護岸で分布範囲の増加がみられた。平成 26 年度の調査でも、被度の減少はみられたが、平成 24 年度の調査と同様に各護岸の-1～-7m で広く分布が確認された。平成 28 年度のの調査では、南護岸の 1 箇所で確認されたのみで、分布範囲が大きく減少していた。今回の調査では、各護岸の-1～-10m の広い範囲で分布が確認され、平成 26 年度以前への分布範囲および被度の回復傾向が認められた。

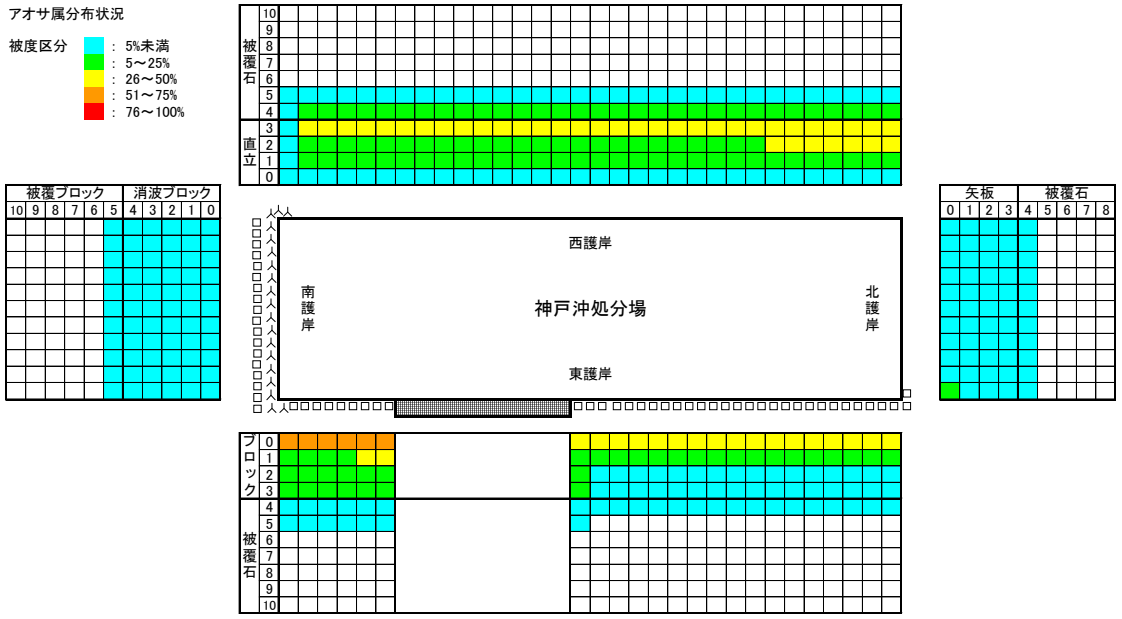
⑥ カバノリ（図 3-30）

カバノリは、平成 21 年度には分布が確認されなかったが、平成 22 年度、平成 24 年度に各護岸の-2～-8m 付近で分布が確認された。平成 24 年度は平成 22 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。平成 26 年度の調査では、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して東護岸で分布範囲の減少がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-10m 付近で分布が確認され、平成 26 年度と比べると、東護岸では分布範囲の拡大を、西護岸では分布範囲の縮小を確認した。今回の調査でも、各護岸の-1～-10m 付近の広い範囲でで分布が確認され、平成 28 年度に比べて、西護岸と東護岸では分布範囲が拡大し、また、全体的に被度の増大が認められた。

⑦ ツルツル（図 3-31）

ツルツルは平成 21～22 年度には分布が確認されなかったが、平成 24 年度に、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認された。平成 26 年度の調査では、東護岸と西護岸で分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して分布範囲と被度の減少がみられた。平成 28 年度の調査では分布が確認されなかった。今回の調査では各護岸の±0～-2m 付近の広い範囲で分布が確認された。

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

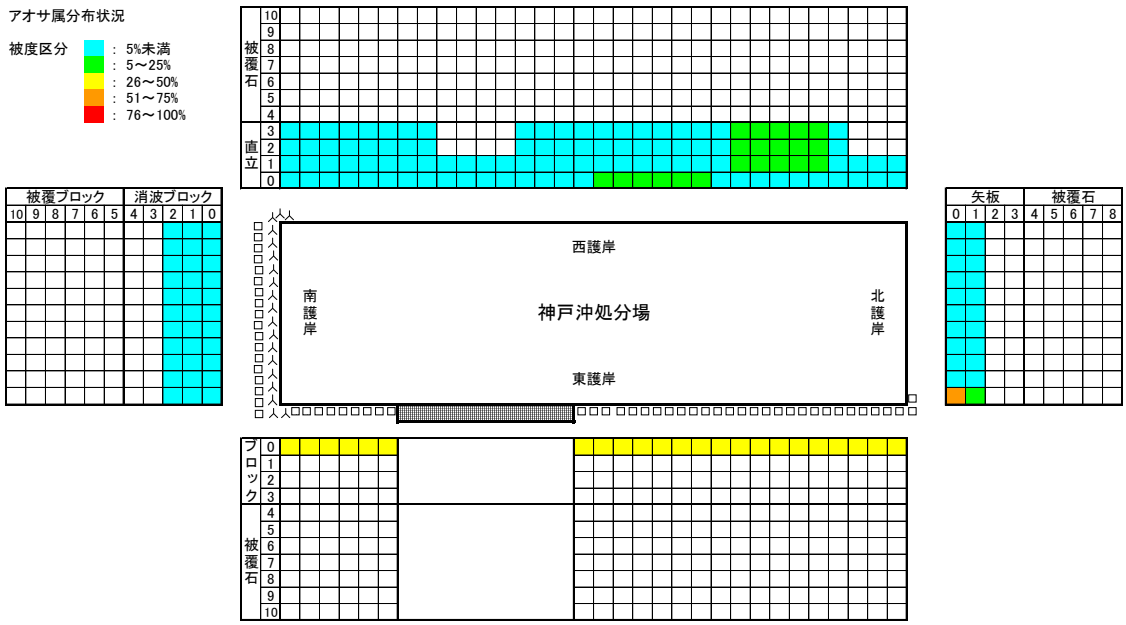
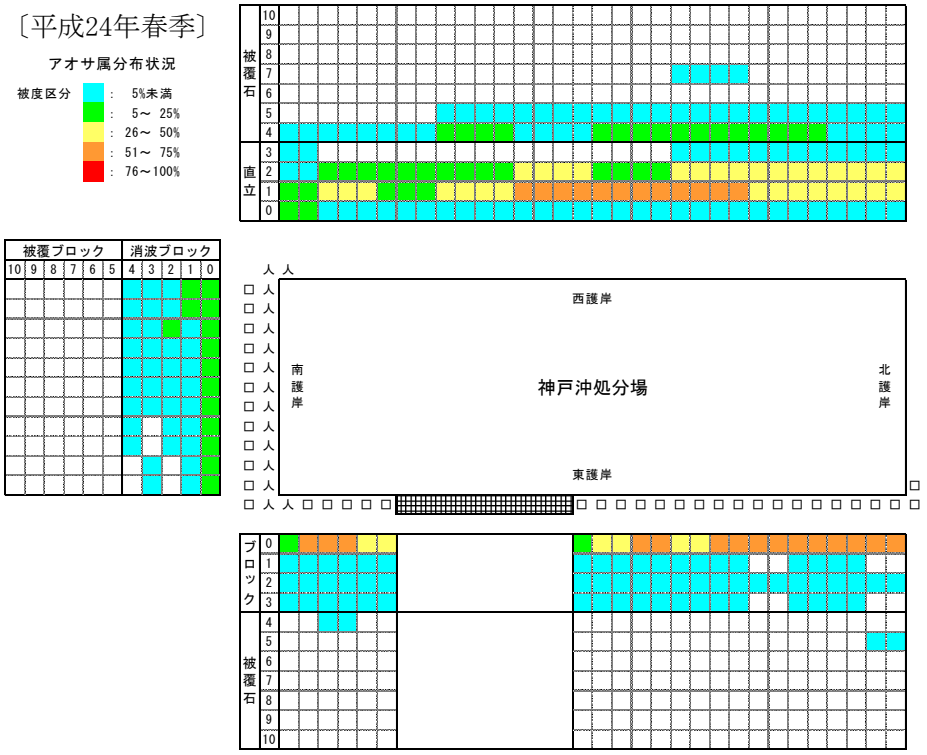


図 3-25（1）分布状況の推移　（アオサ属）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



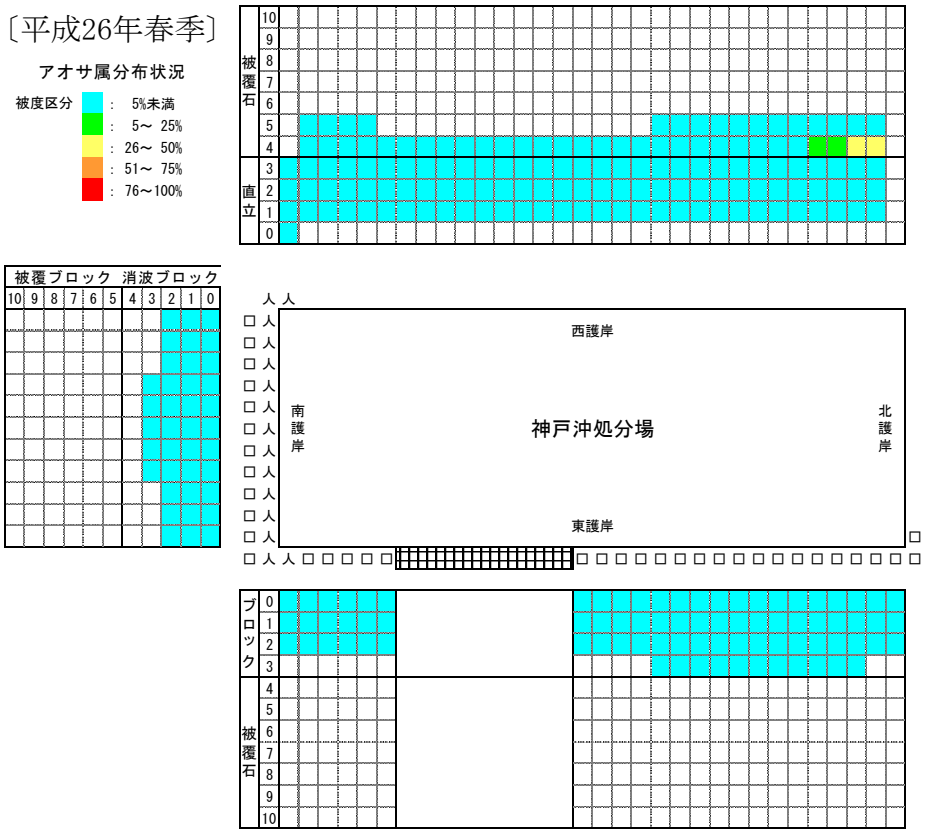
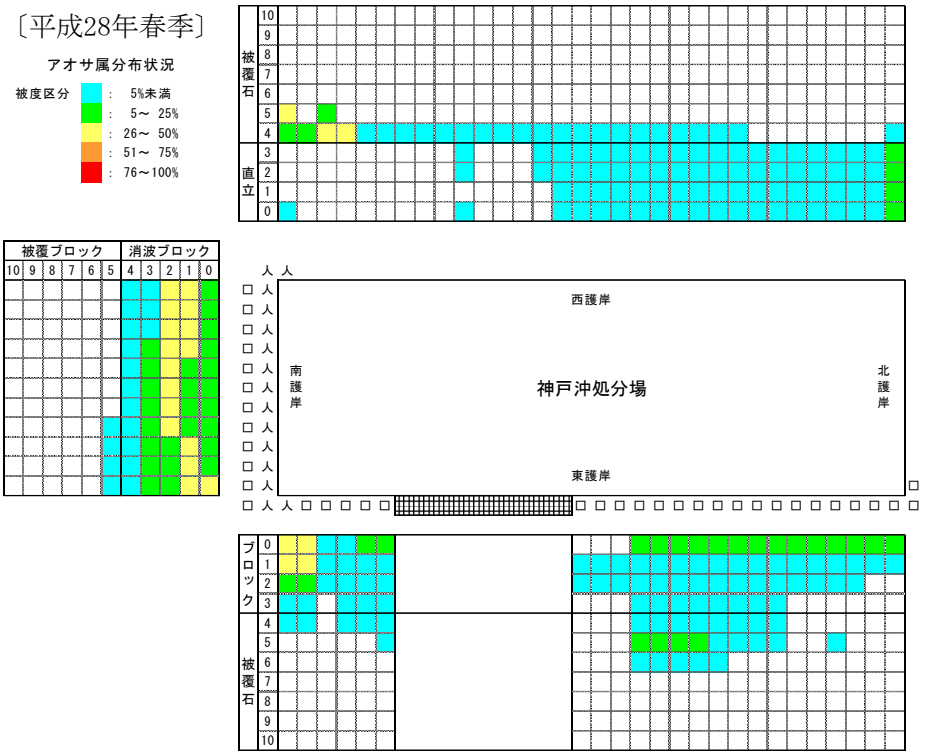


図 3-25（2）分布状況の推移　（アオサ属）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



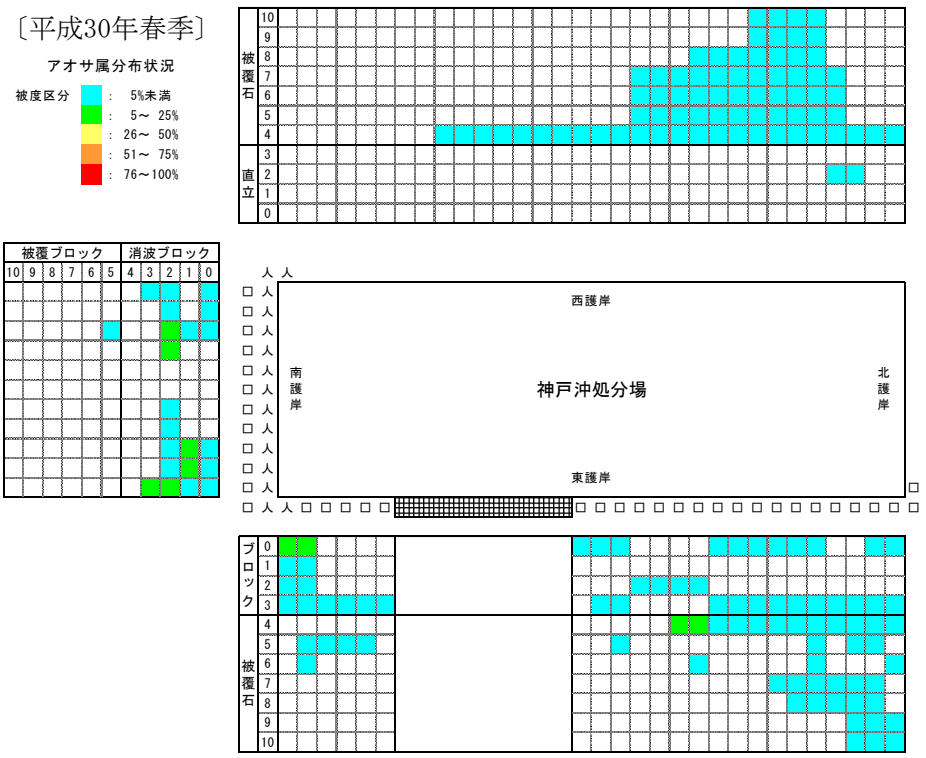
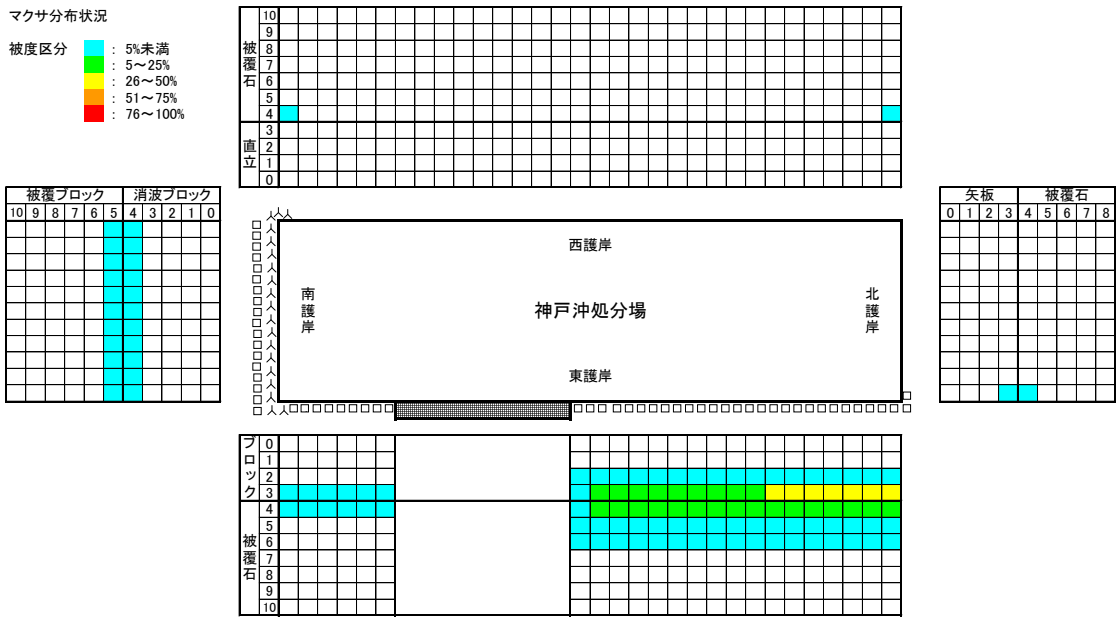


図 3-25（3）分布状況の推移　（アオサ属）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

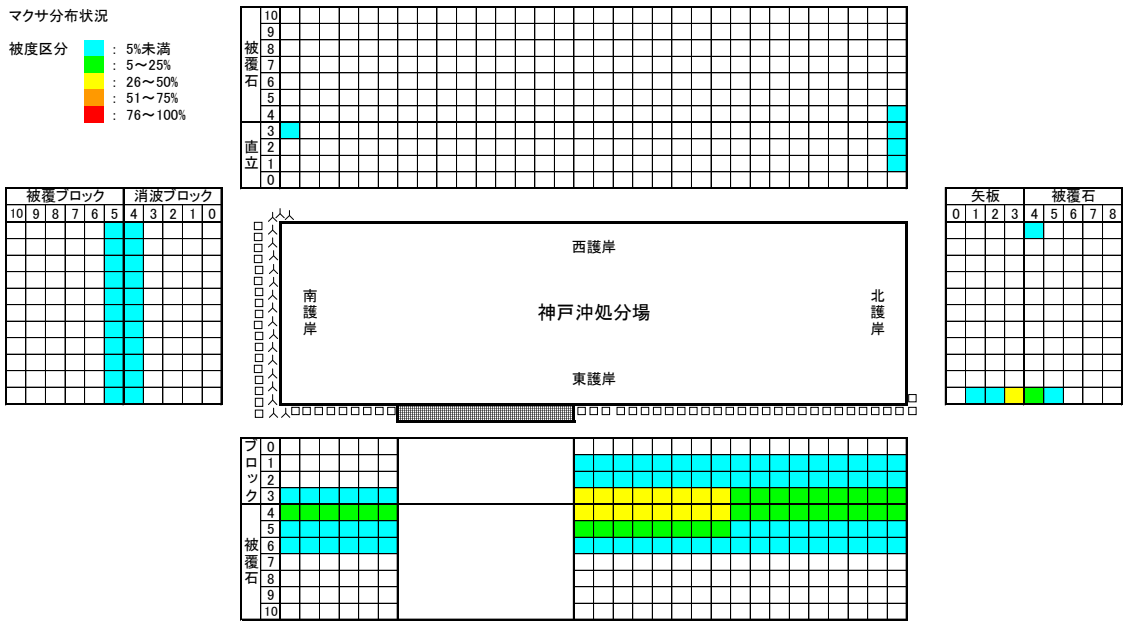


図 3-26（1）分布状況の推移　（マクサ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査

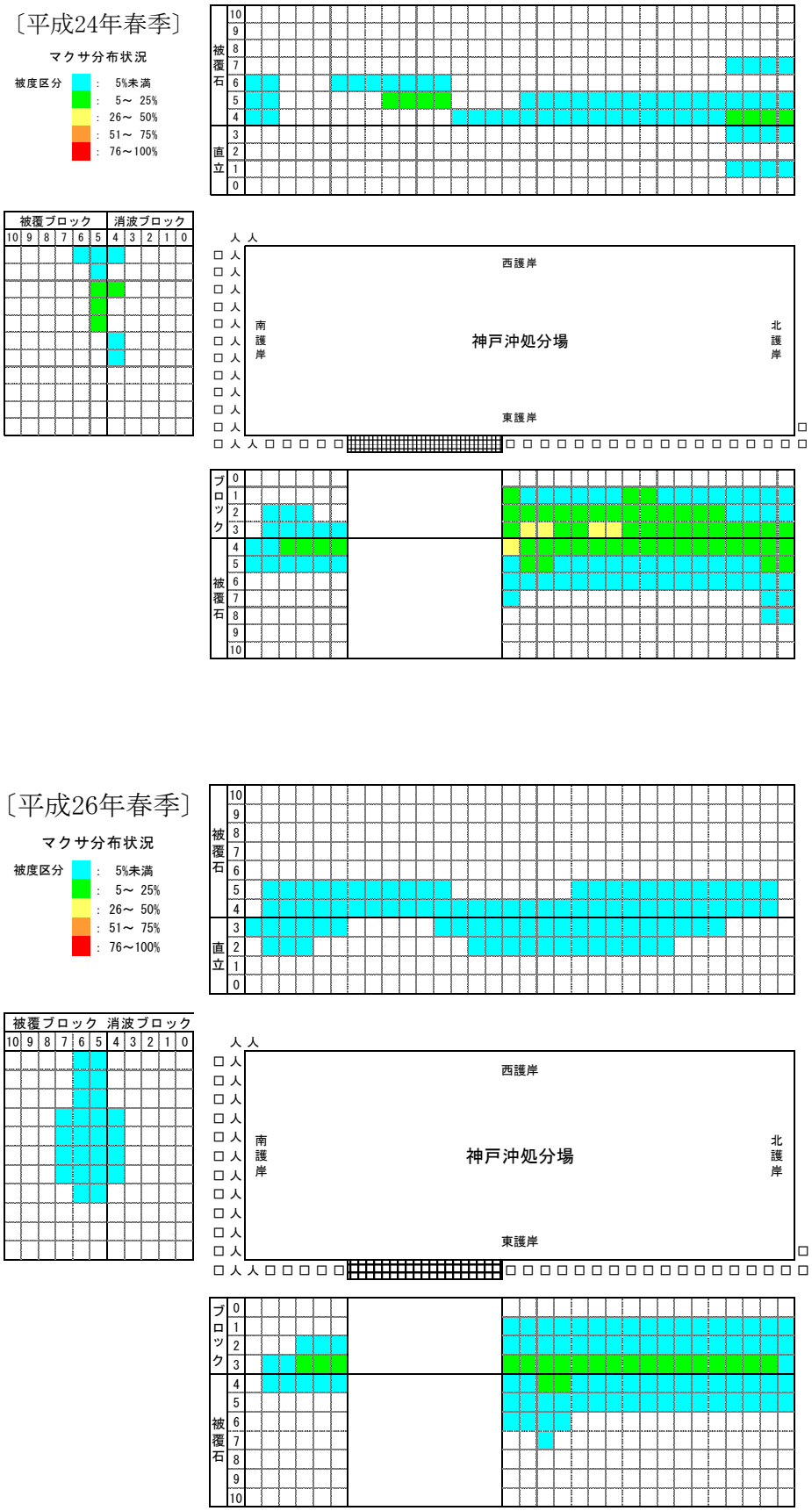
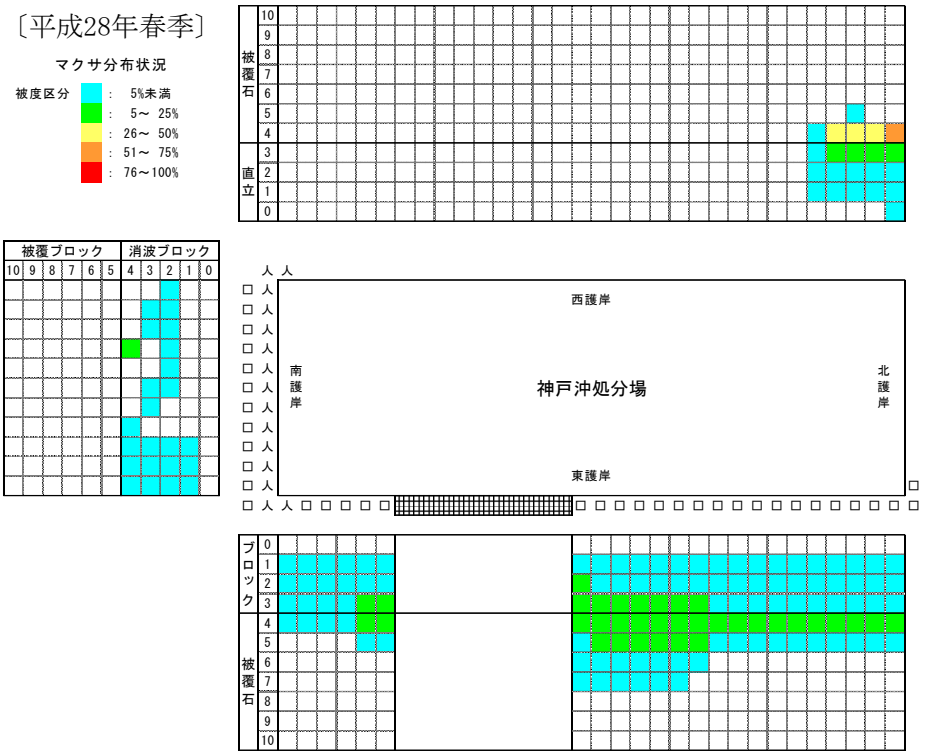


図 3-26（2）分布状況の推移　（マクサ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



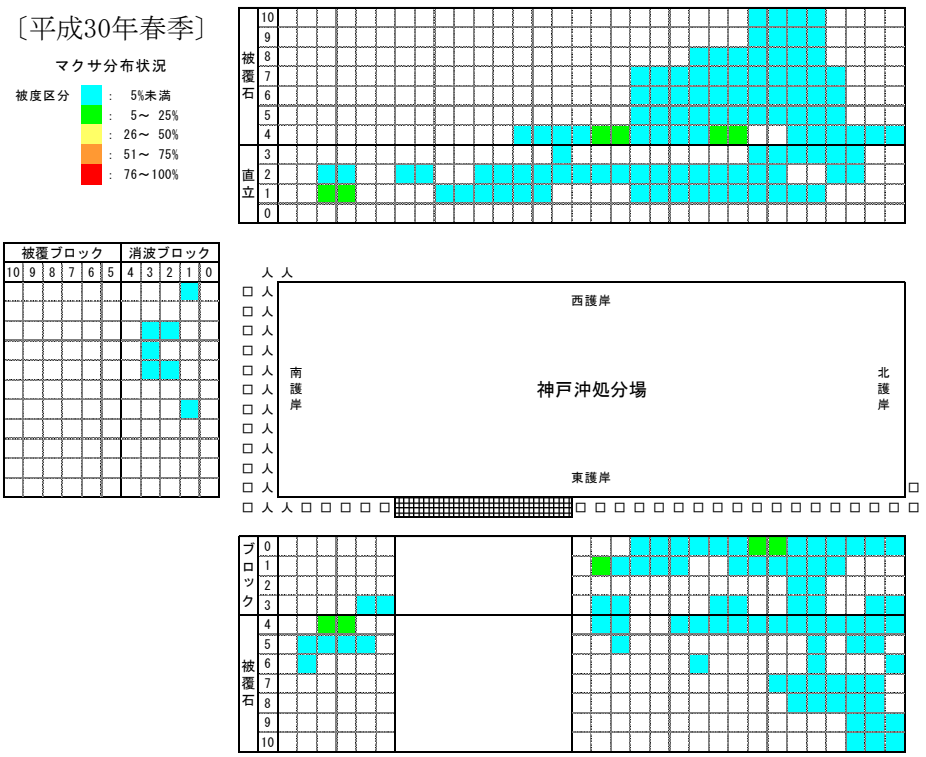
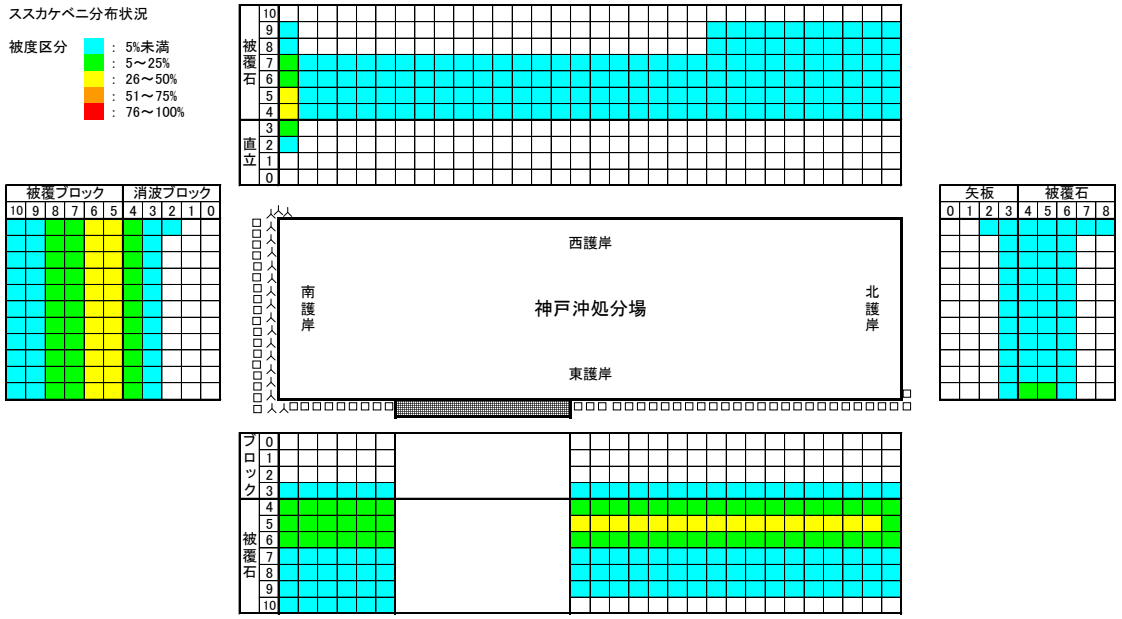


図 3-26（3）分布状況の推移　（マクサ）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

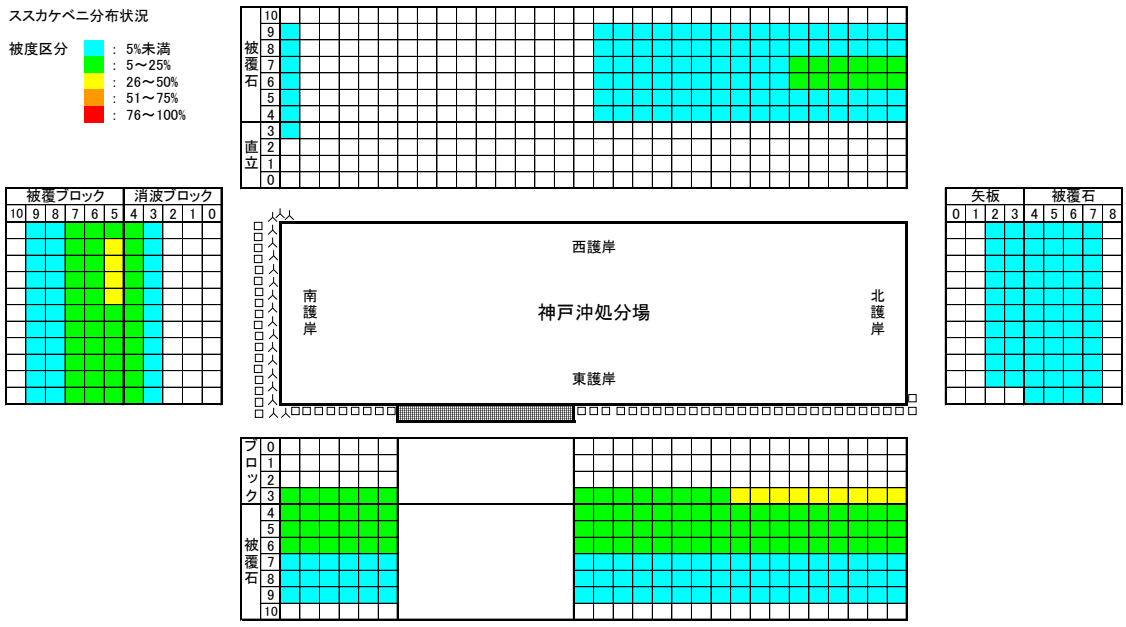
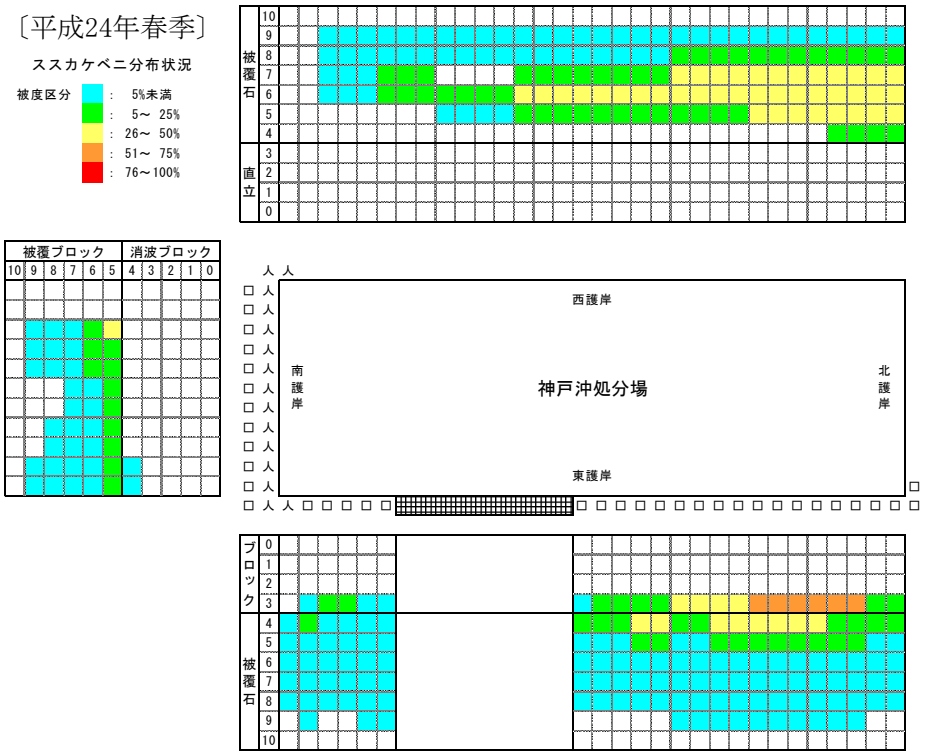


図 3-27（1）分布状況の推移　（ススカケベニ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



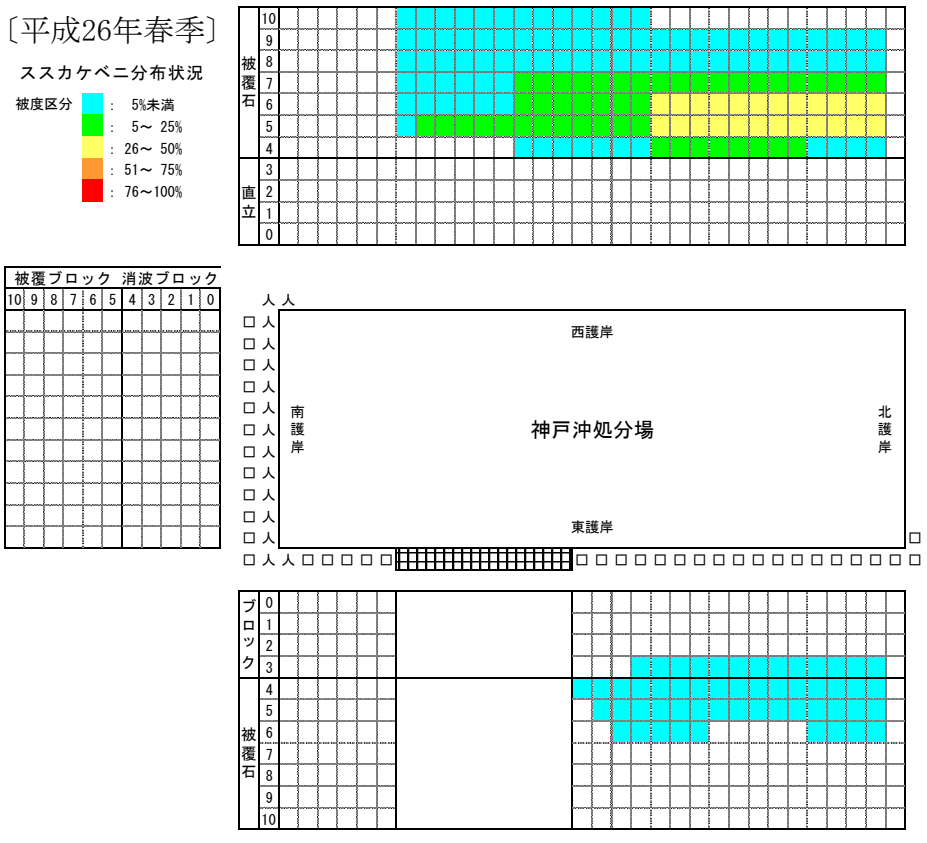
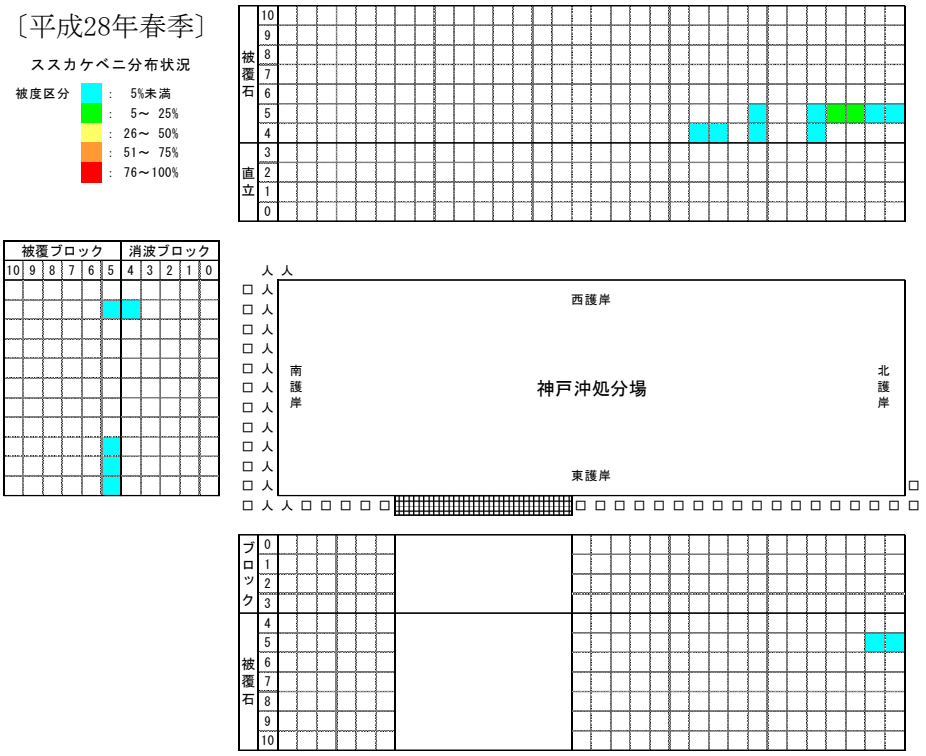


図 3-27（2）分布状況の推移　（ススカケベニ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



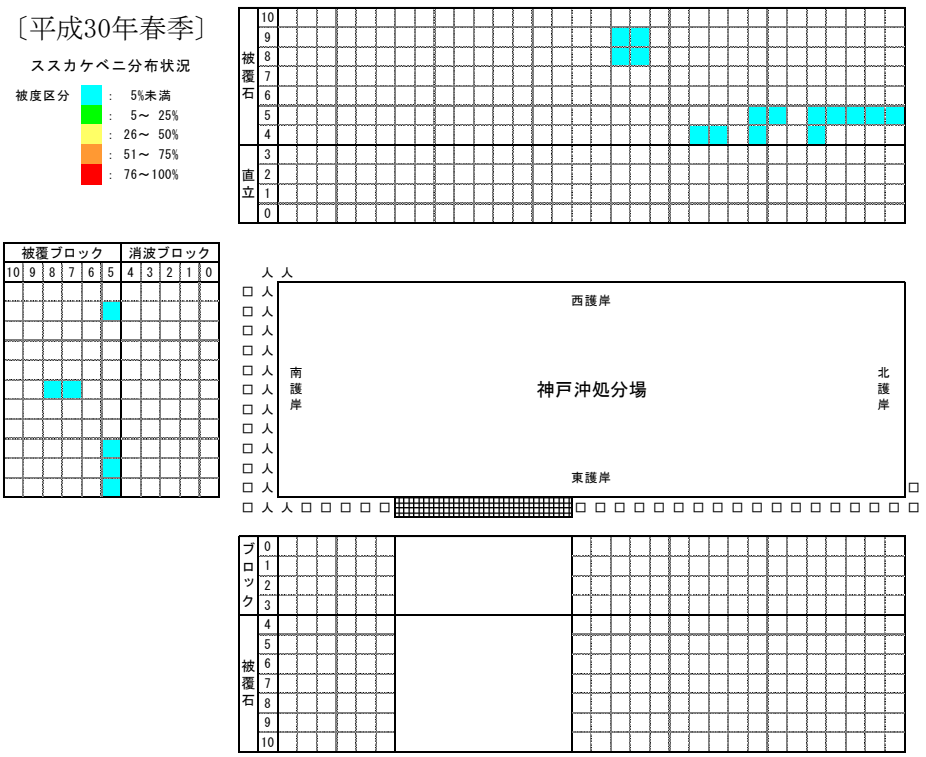
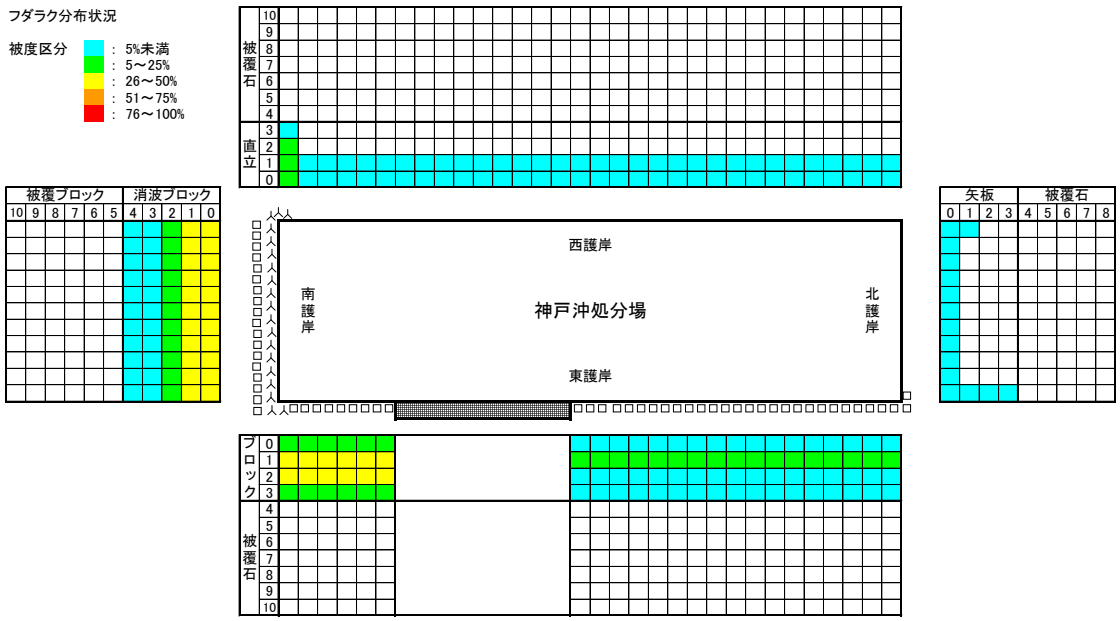


図 3-27（3）分布状況の推移　（ススカケベニ）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

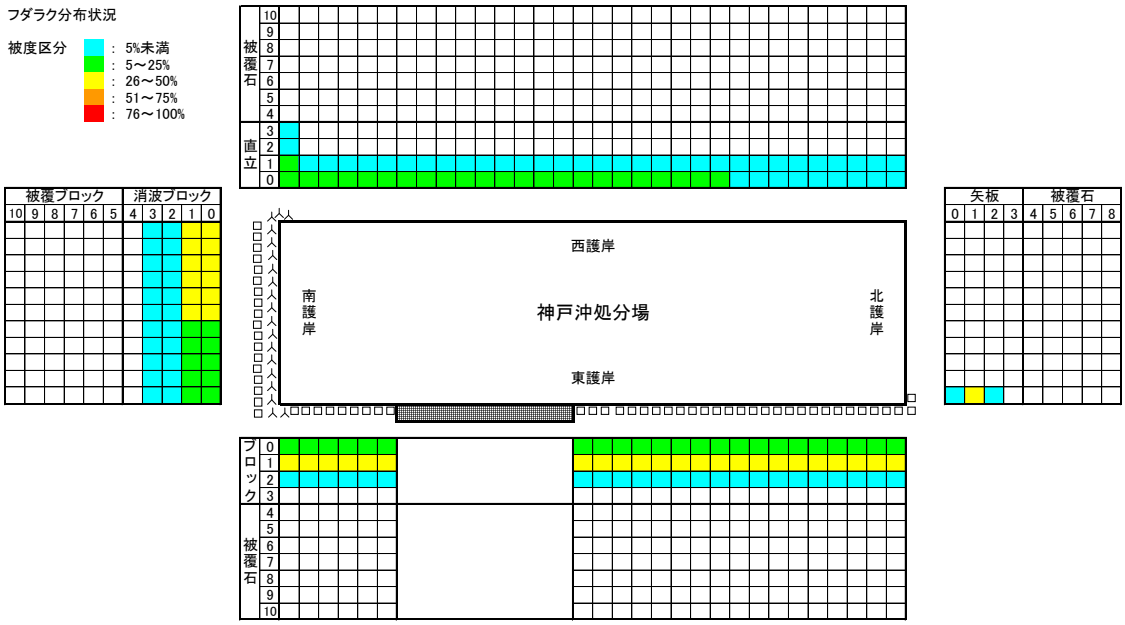


図 3-28（1）分布状況の推移　（フダラク）　神戸沖　平成 21～22 年度調査

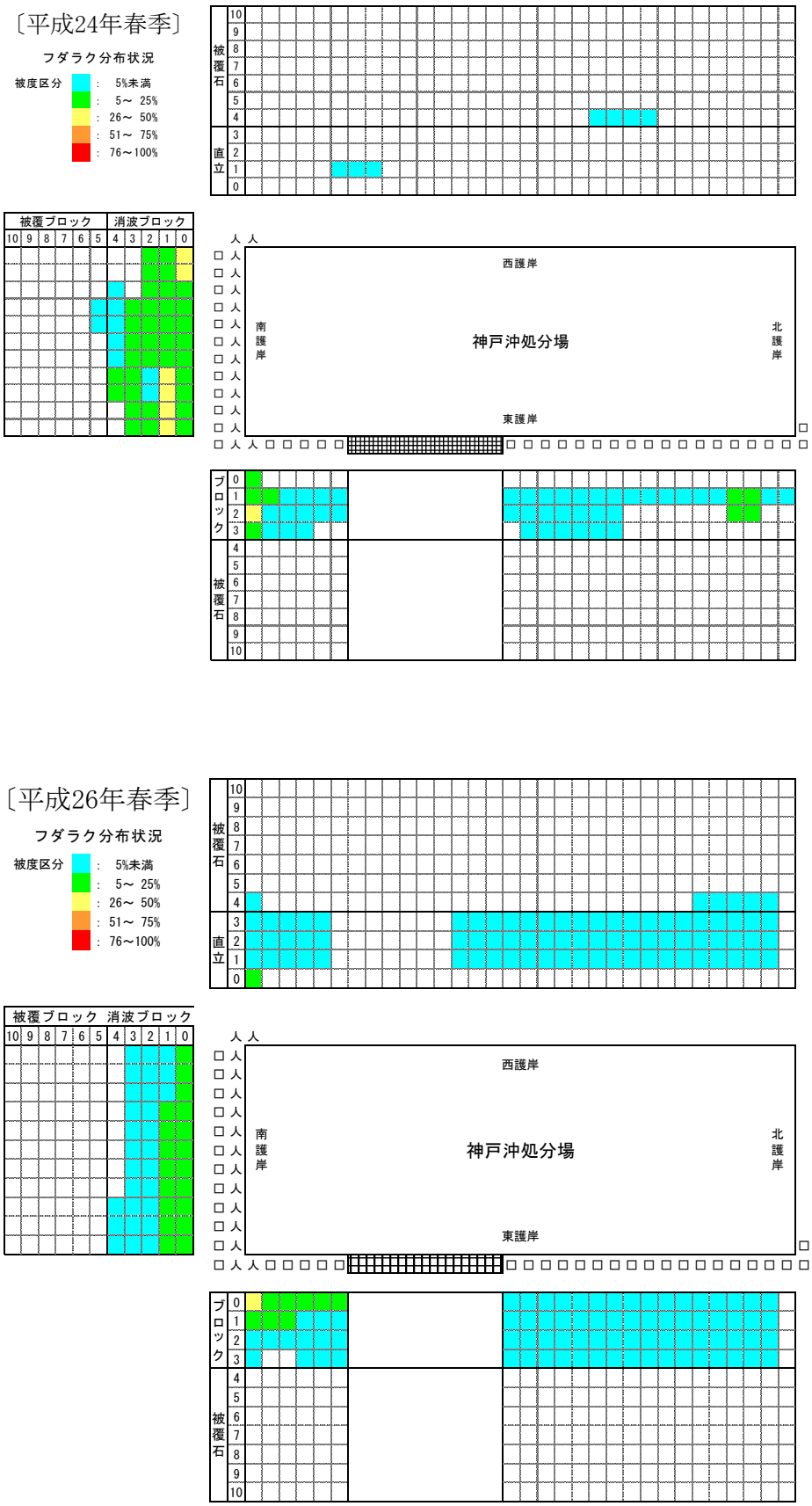
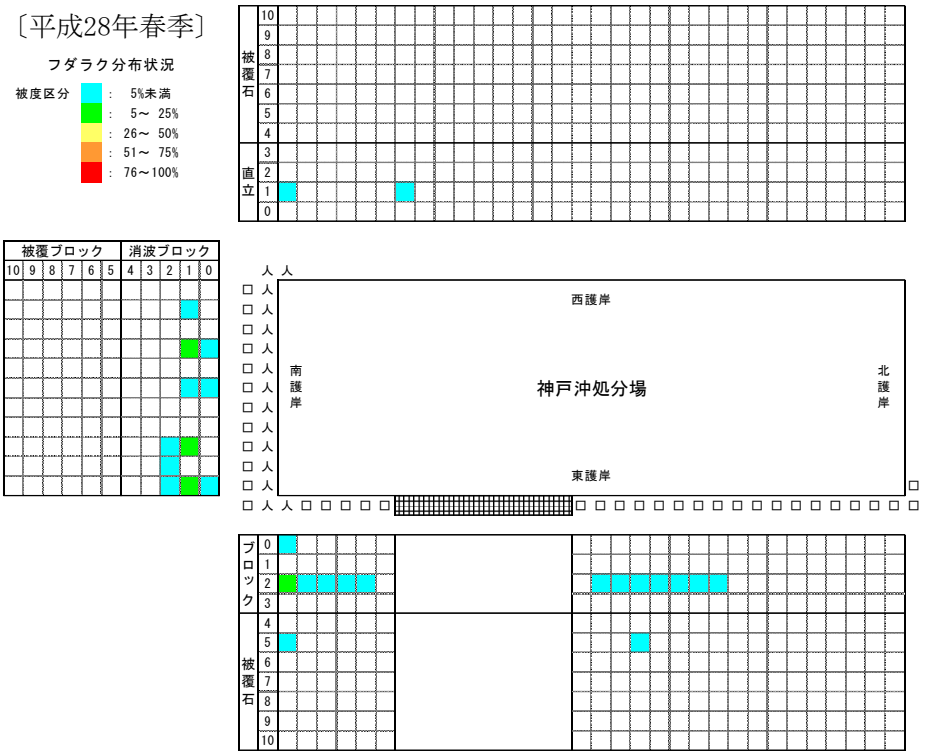


図 3-28（2）分布状況の推移　（フダラク）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



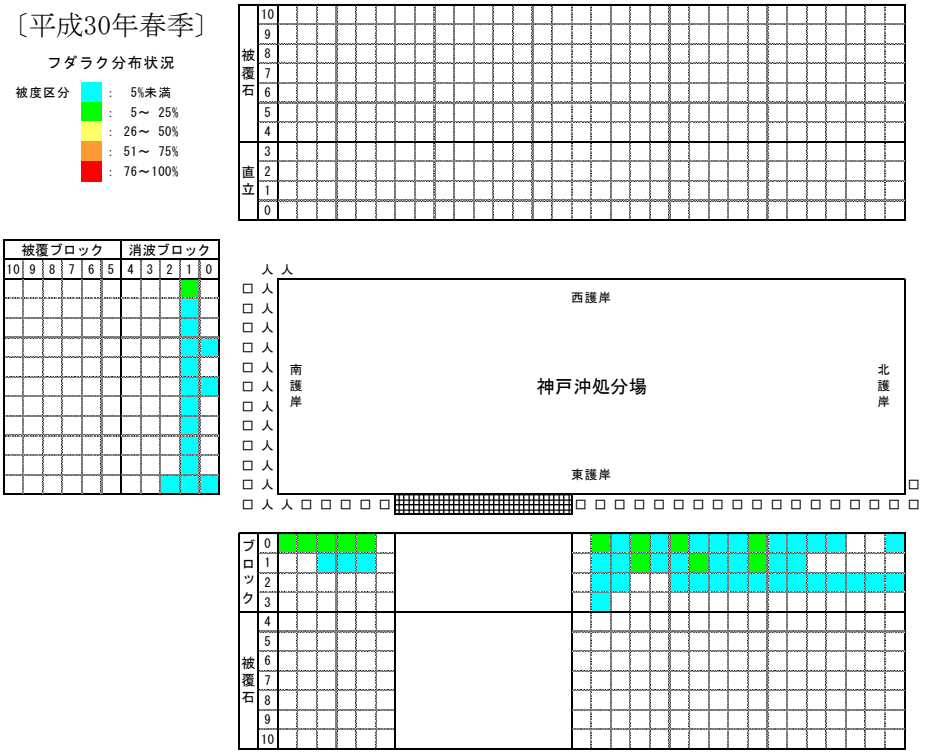
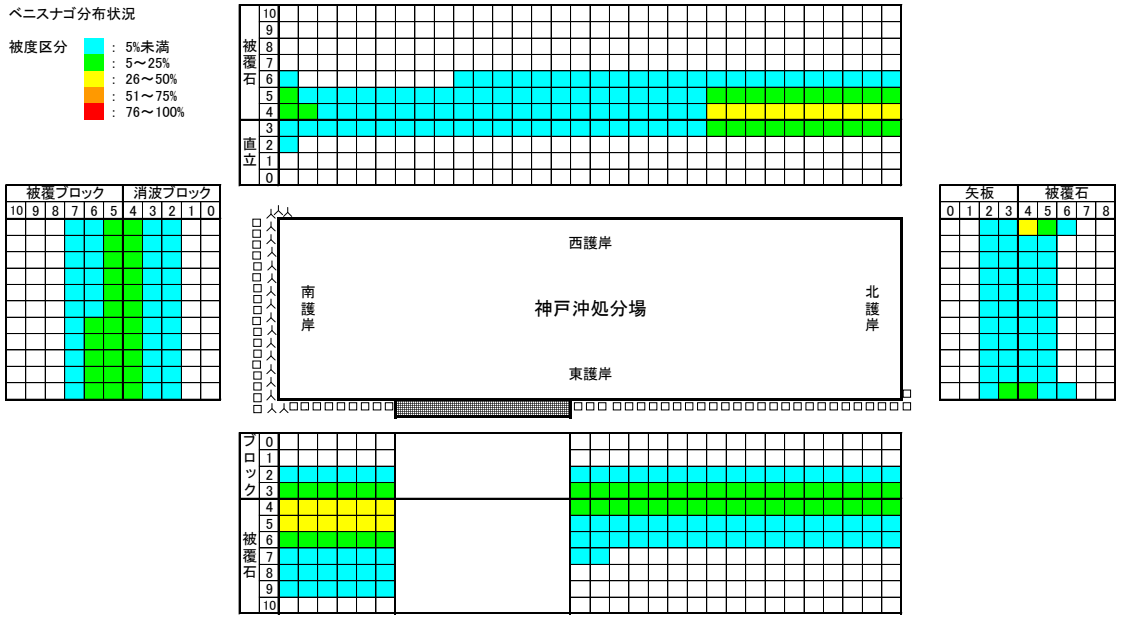


図 3-28（3）分布状況の推移　（フダラク）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

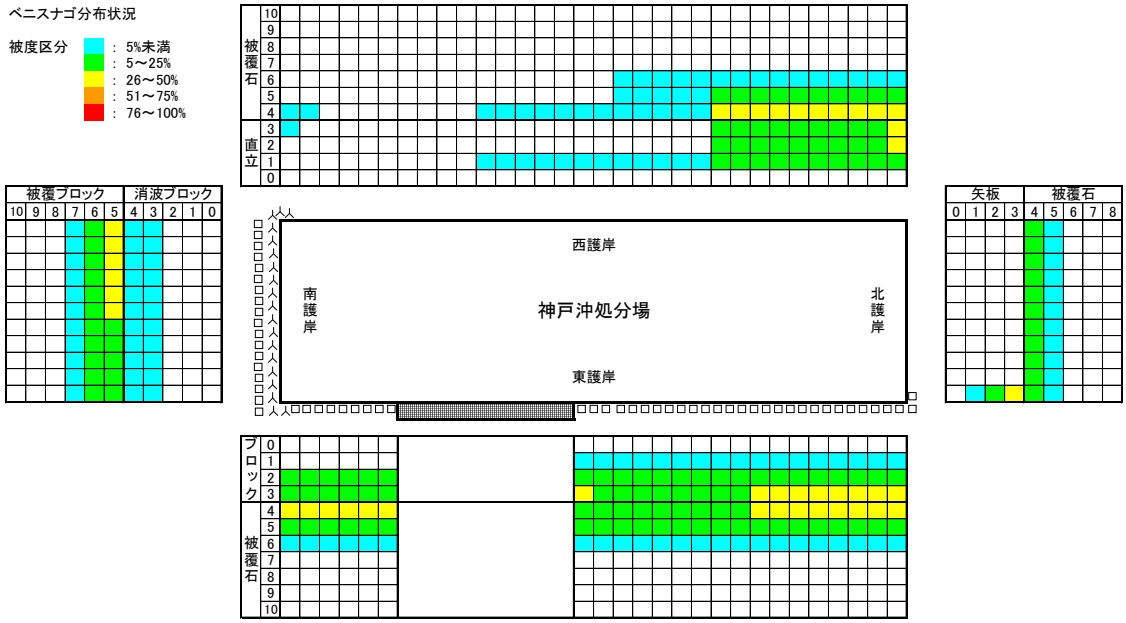
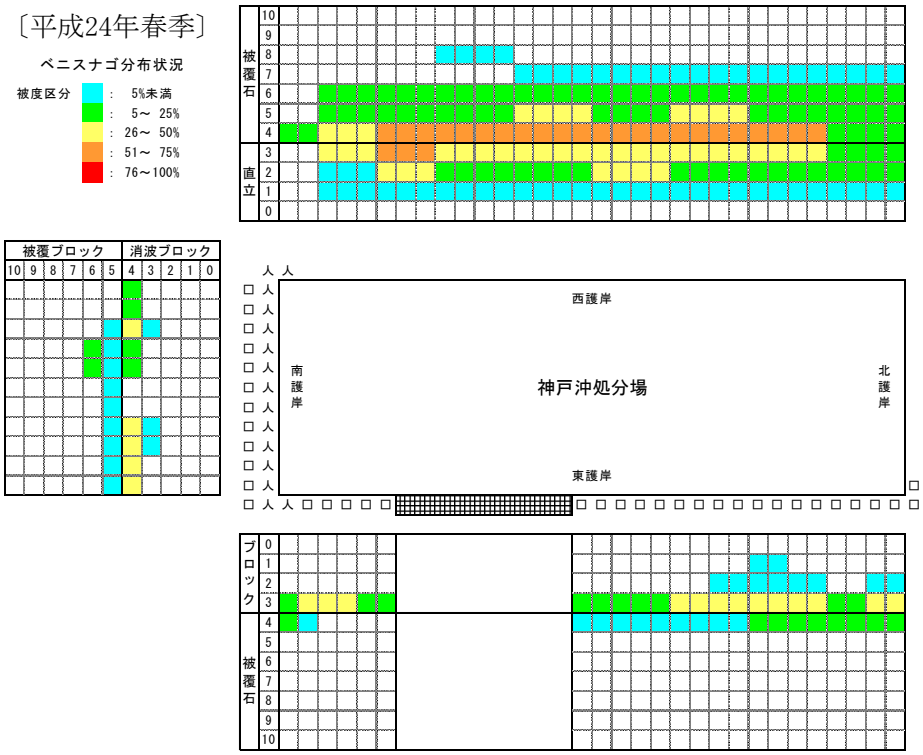


図 3-29（1）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



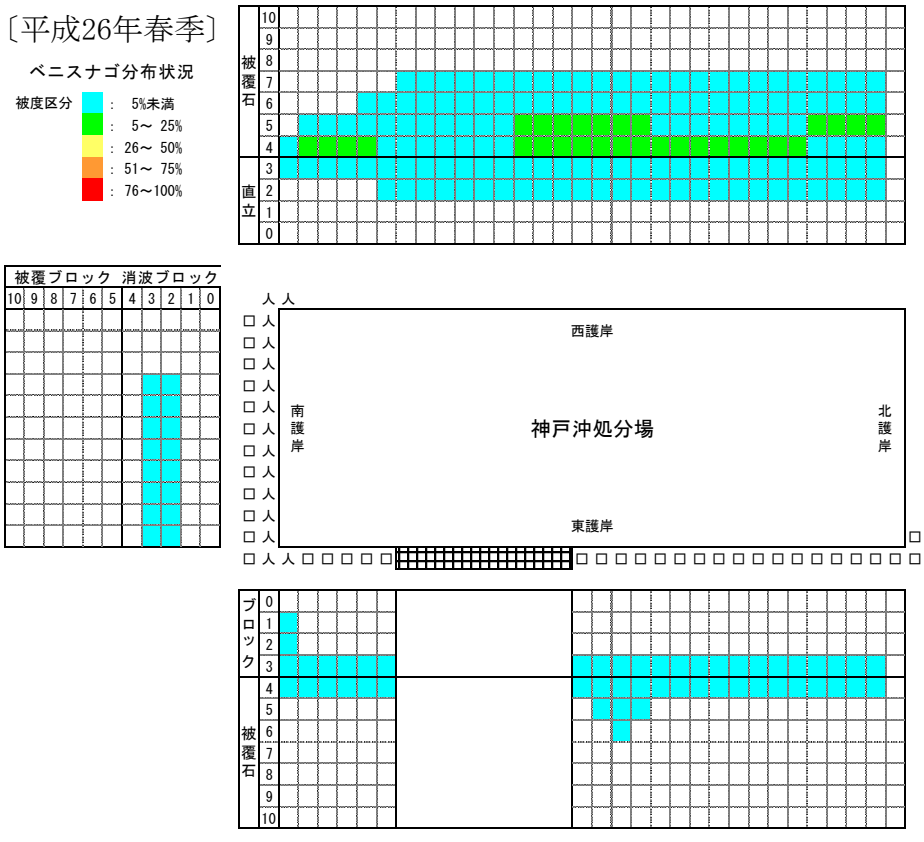
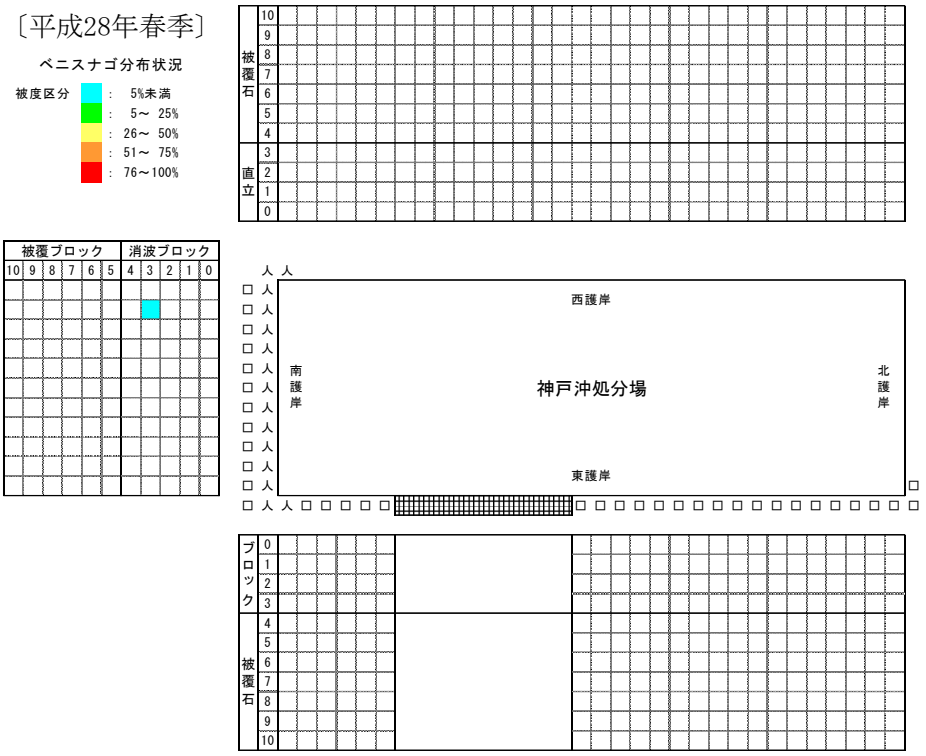


図 3-29（2）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



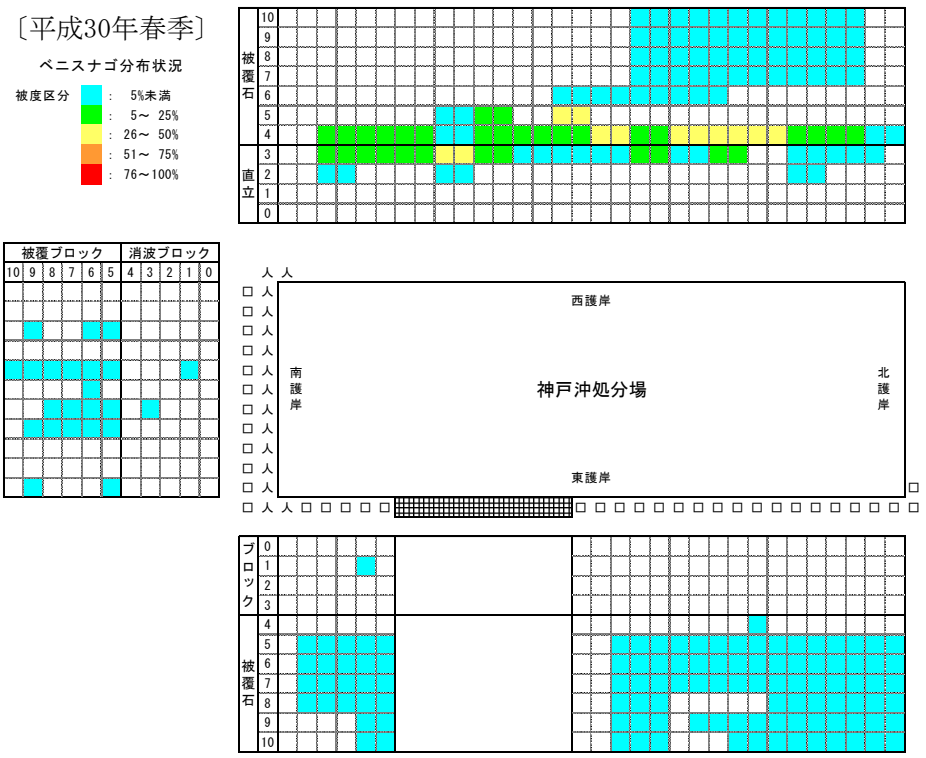
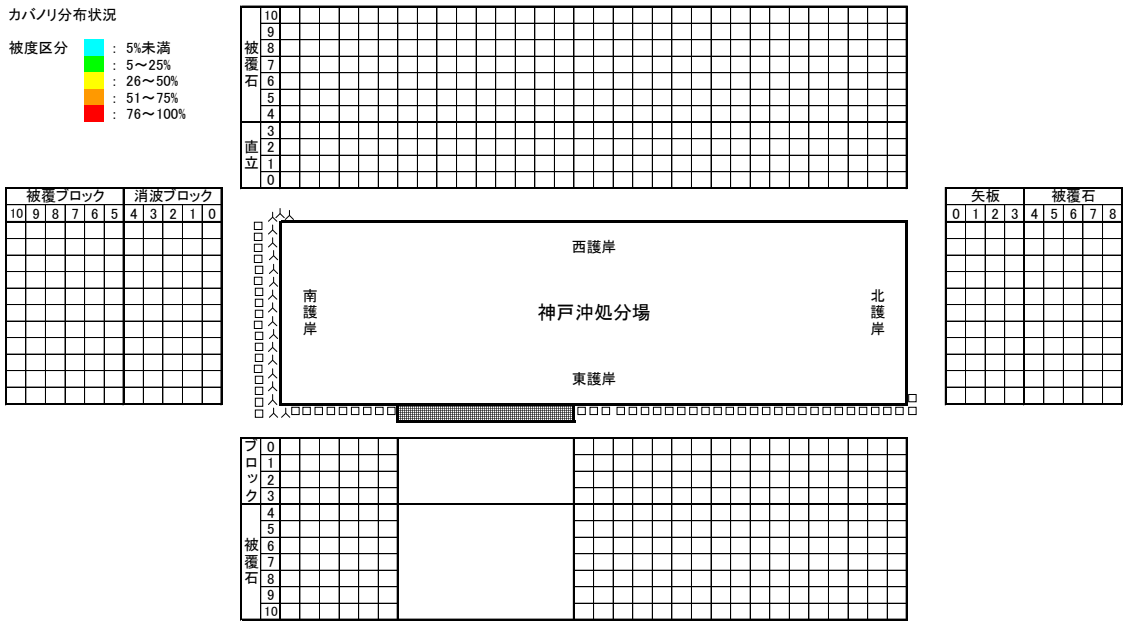


図 3-29（3）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

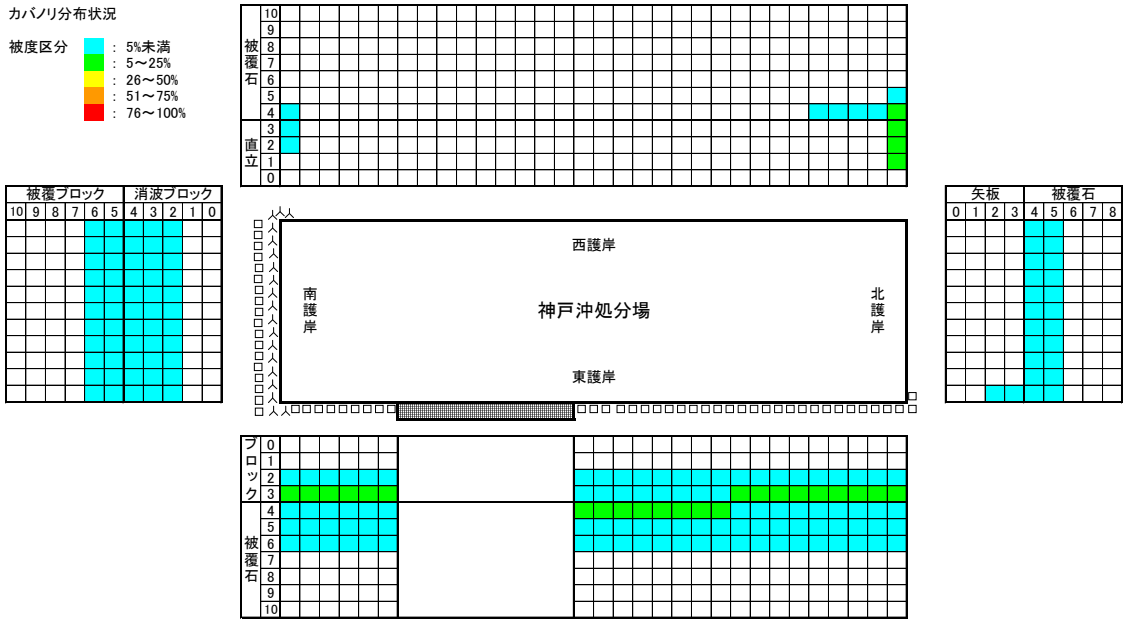
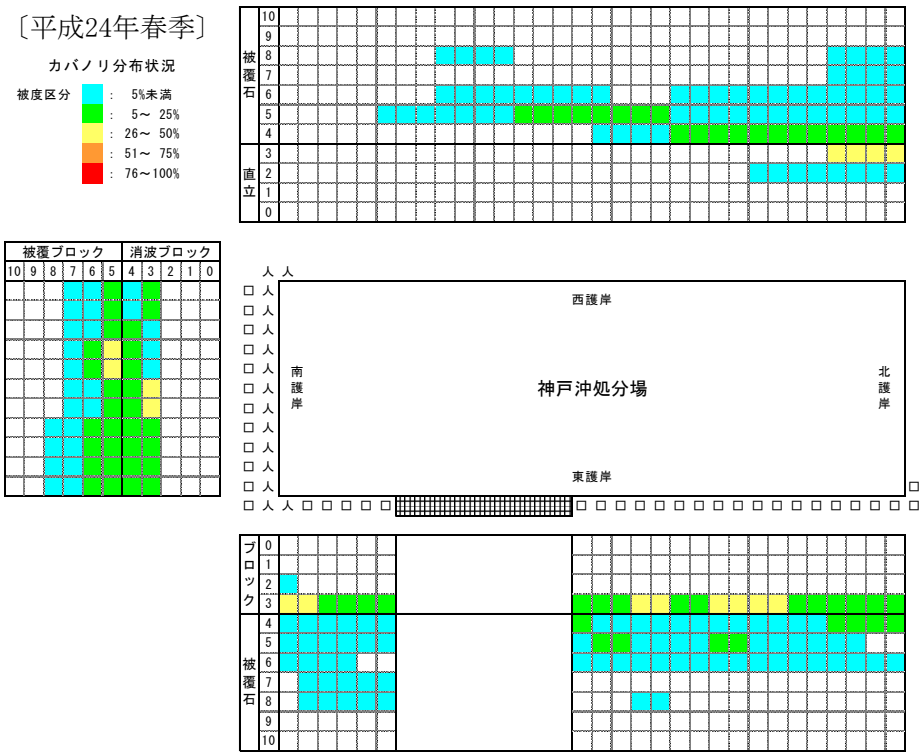


図 3-30（1）分布状況の推移　（カバノリ）　神戸沖　平成 21～22 年度調査



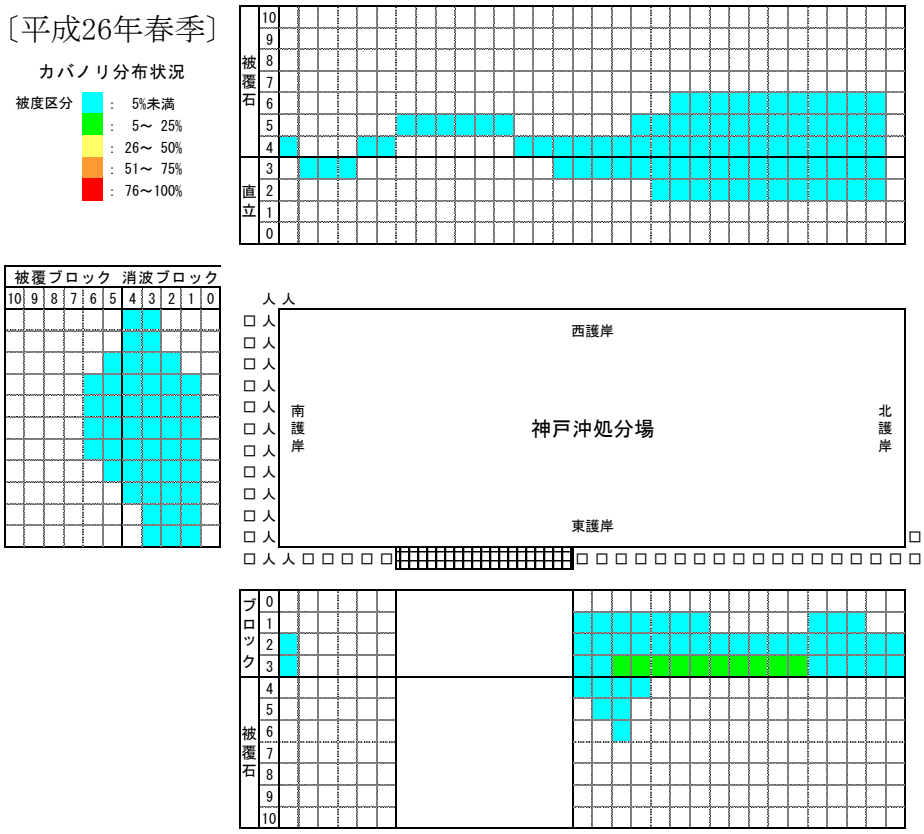
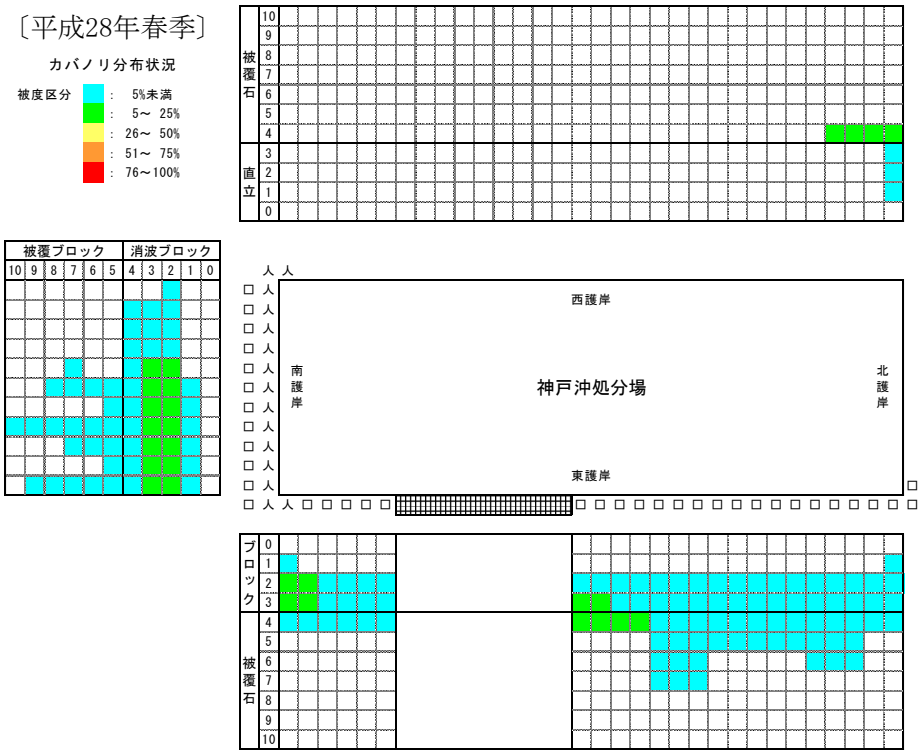


図 3-30（2）分布状況の推移　（カバノリ）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



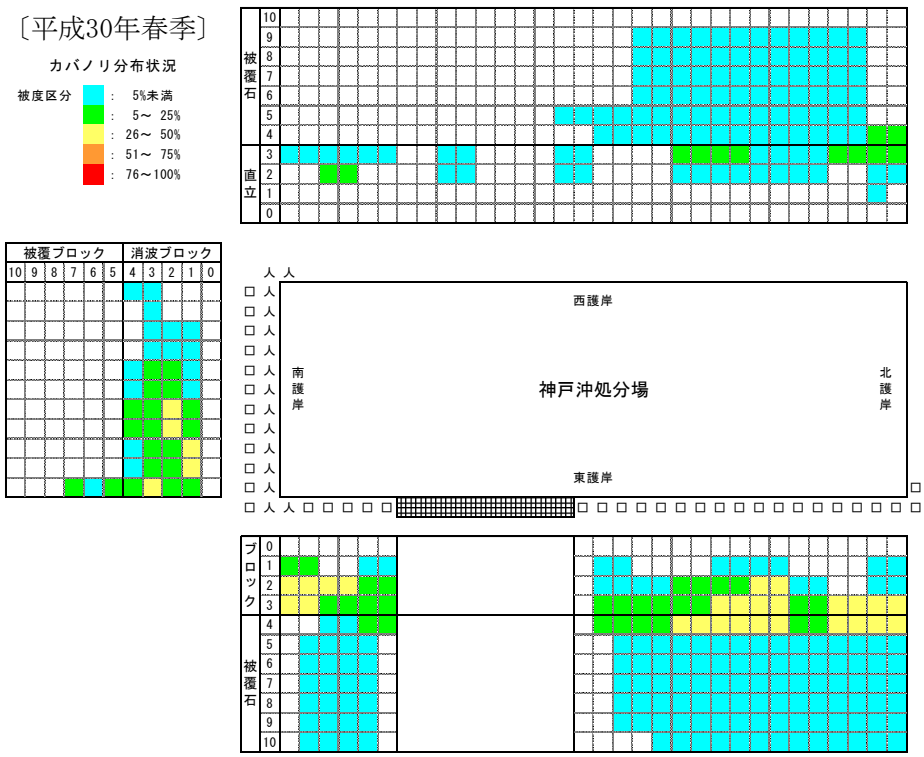
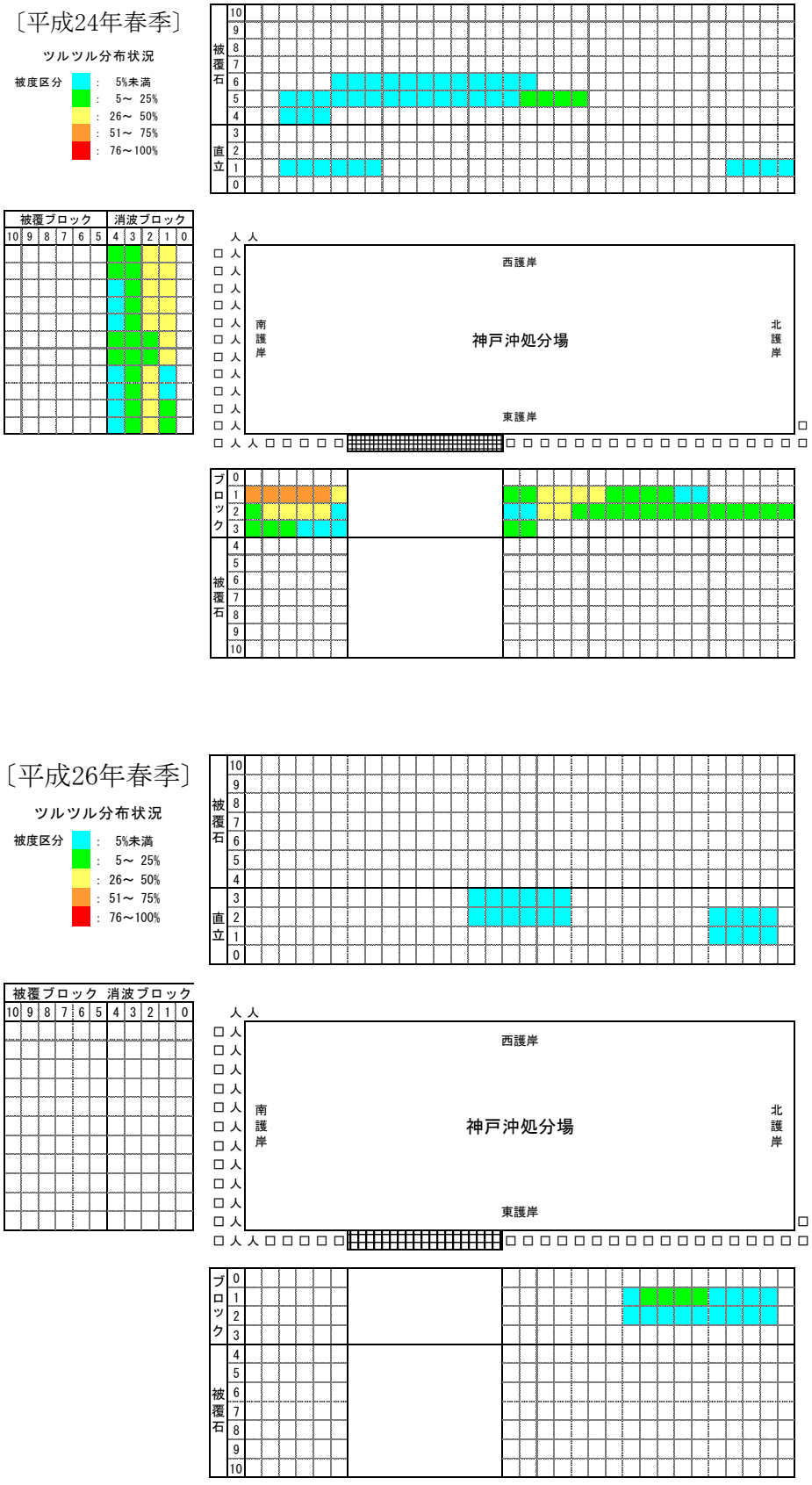
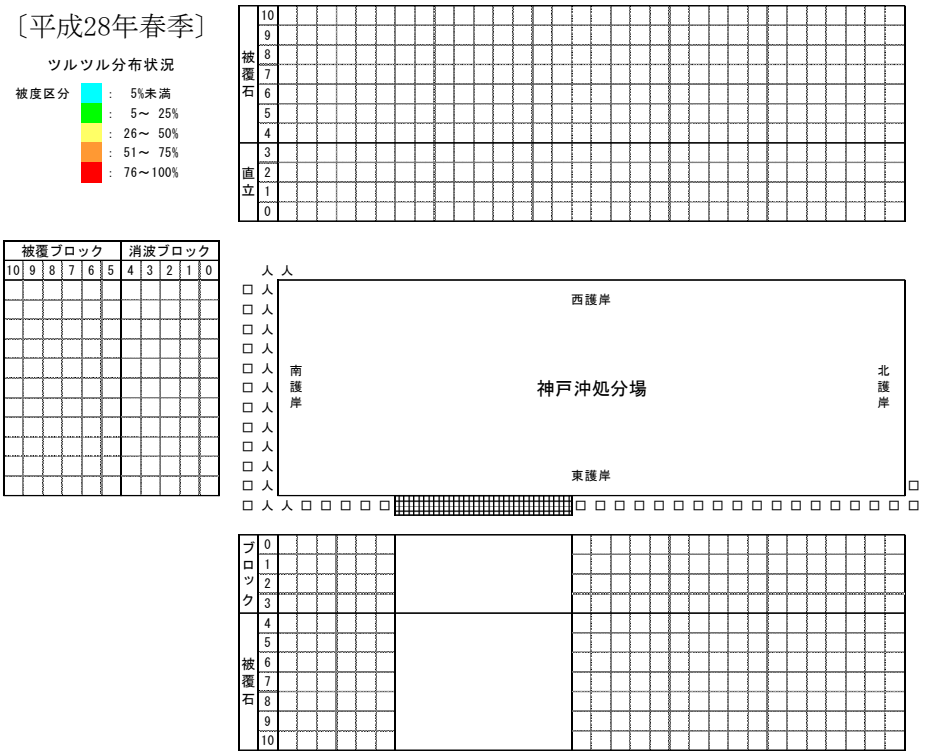


図 3-30（3）分布状況の推移　（カバノリ）　神戸沖　平成 28～30 年度調査



※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-31（1）分布状況の推移　（ツルツル）　神戸沖　平成 24～26 年度調査



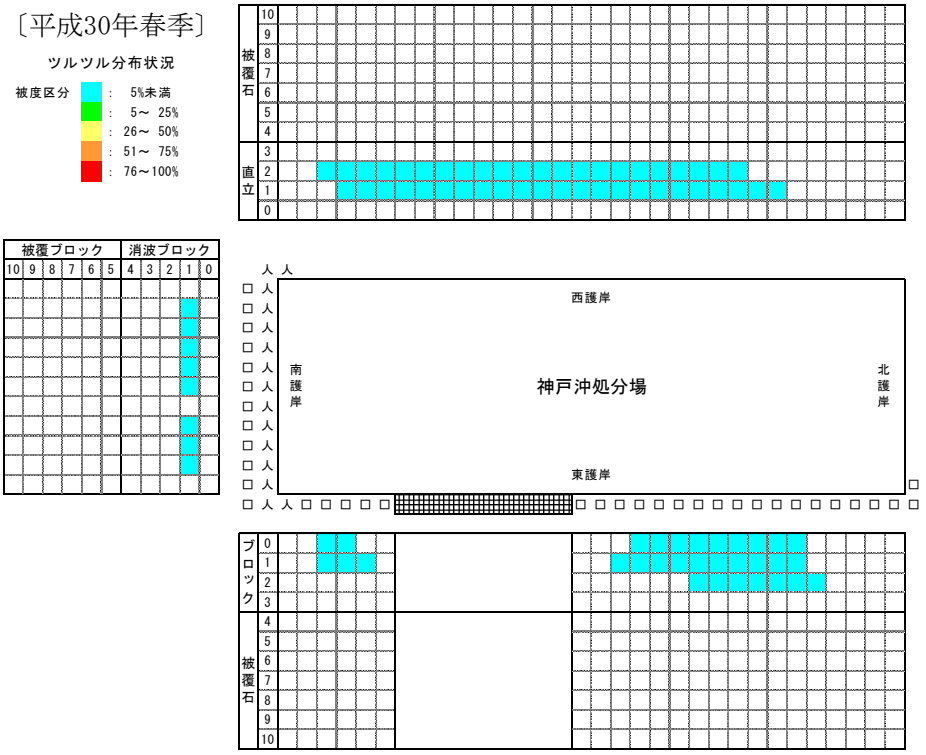


図 3-31（2）分布状況の推移　（ツルツル）　神戸沖　平成 28～30 年度調査

(2) 大阪沖埋立処分場

大阪沖埋立処分場周囲護岸における藻場構成種および主要な海藻類の分布状況を過年度の結果と併せて図 3-31～43 に示した。

【藻場構成種（大型褐藻）】

藻場構成種として、前回調査（平成 28 年度）までに確認されている種を含め、ワカメ、カジメ、シダモク、アカモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキの 6 種について分布図を作成した。なお、今回の調査では、カジメ、ヨレモクモドキの分布は確認されなかった。

① ワカメ（図 3-32）

ワカメは、平成 21 年度には分布が確認されなかったが、平成 22 年度は北護岸と西護岸の各 1 箇所で、平成 24 年度は各護岸の-2～-6m 付近で分布が確認された。平成 26 年度の調査では、各護岸の±0～-6m 付近で分布が確認され、平成 24 年度と比較して分布範囲の増加がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-6m 付近で分布が確認され、平成 26 年度の調査よりもさらに分布範囲が拡大し、被度も増加していた。今回の調査では、各護岸の±0～-8 m 付近で分布が確認され、平成 28 年度の調査よりも水深方向での分布範囲が拡大していた。

② カジメ（図 3-33）

カジメは、平成 21 年度は分布が確認されなかったが、平成 22 年度は南護岸で 1 箇所、平成 24 年度は南護岸、西護岸の各 2 箇所で分布が確認された。平成 26 年度、平成 28 年度および今回の調査では分布が確認されなかった。

③ シダモク（図 3-34）

シダモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の-1～-6m 付近で広く分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲が減少傾向にあった。平成 26 年度の調査では、-2～-6m 付近で広く分布が確認され、平成 24 年度と比較して西護岸、南護岸で分布範囲の増加がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-7m 付近で広く分布が確認され、過年度に比べて被度的にも増加傾向を示した。今回の調査でも、各護岸の-1～-7m 付近で広く分布が確認され、平成 28 年度と比べて、北護岸では分布範囲の拡大を、南護岸では分布範囲の縮小を確認した。

④ アカモク（図 3-35）

アカモクは、平成 21 年度は北護岸と西護岸、平成 22、24 年度は南護岸と西護岸の-2～-5m 付近に分布が確認されたが、平成 26 年度の調査では分布が確認されなかった。平成 28 年度の調査では、北護岸と南護岸の-3～-6m 付近で確認された。今回の調査では分布が確認されなかった。

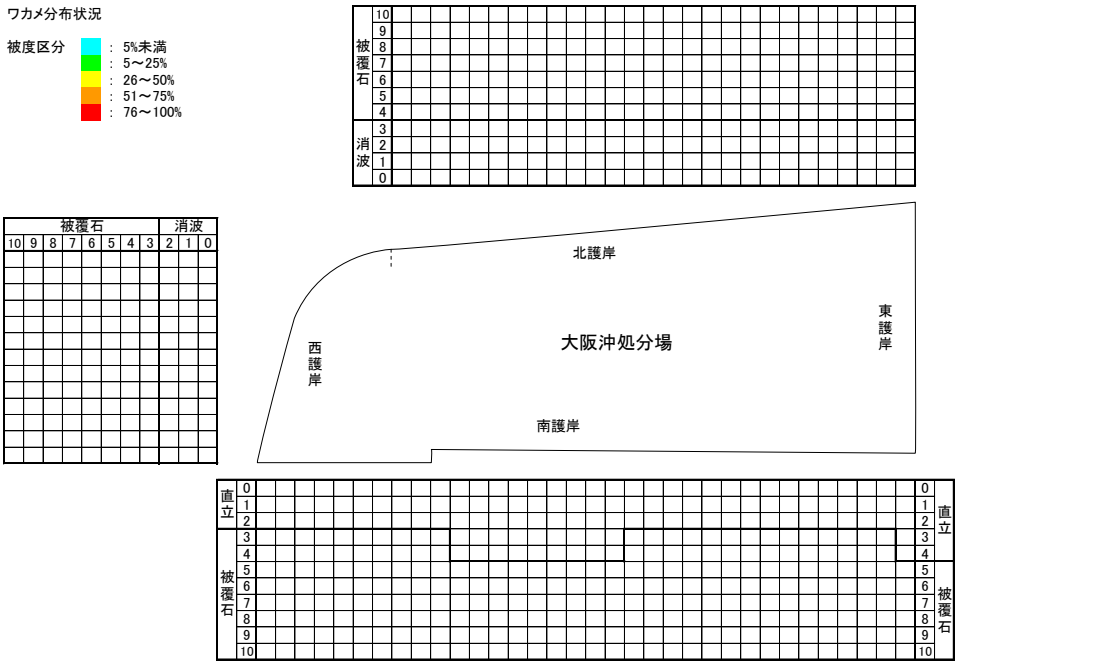
⑤ タマハハキモク（図 3-36）

タマハハキモクは、平成 21～22 年度および平成 24 年度に各護岸の-1～－5m 付近で分布が確認されたが、平成 24 年度にかけて分布範囲は減少傾向にあった。平成 26 年度の調査では、平成 24 年度と比較して北護岸、南護岸で分布範囲、北護岸では被度の増加がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～－4m 付近で分布が確認され、平成 26 年度調査時と大きな変化はみられなかった。今回の調査でも、各護岸の±0～－6m 付近で分布が確認され、平成 26 年度、28 年度と同様の分布傾向を示した。

⑥ ヨレモクモドキ（図 3-37）

ヨレモクモドキは平成 22 年度に南護岸で 1 箇所の分布が確認されたのみであり、今回の調査でも分布が確認されなかった。

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

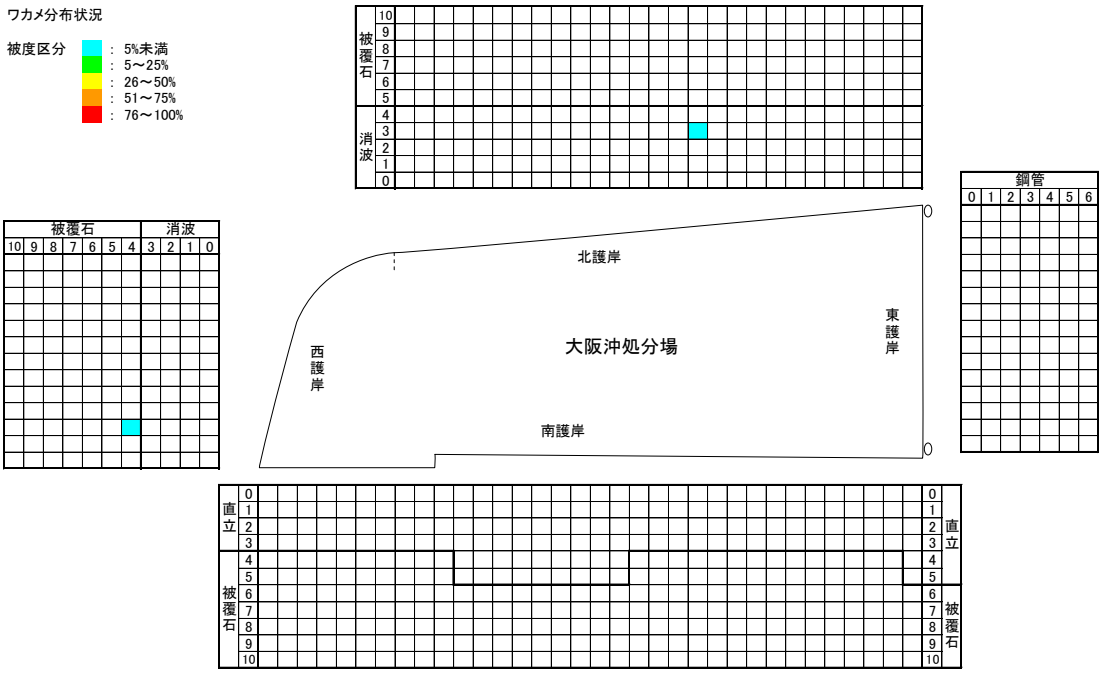
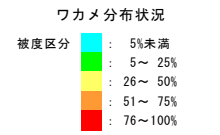
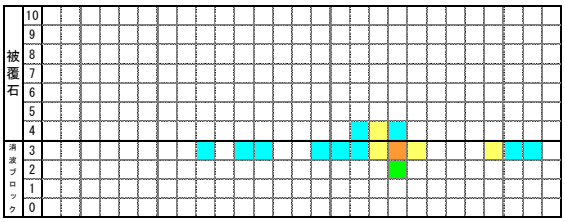
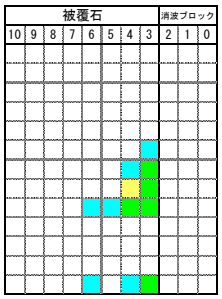


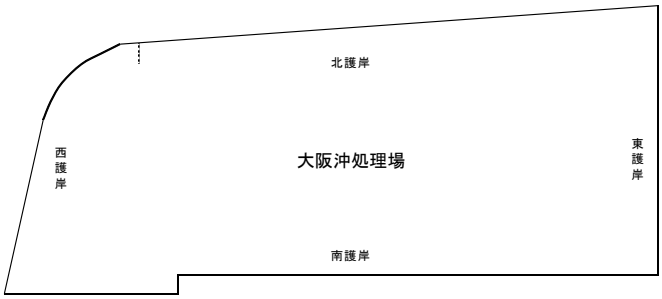
図 3-32（1）分布状況の推移　（ワカメ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査

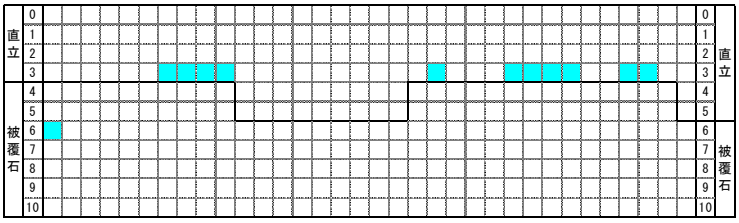
〔平成24年春季〕



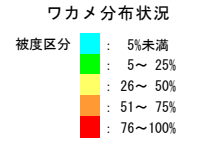


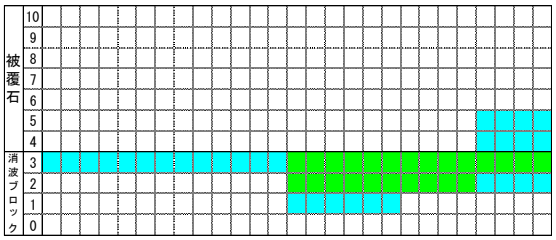


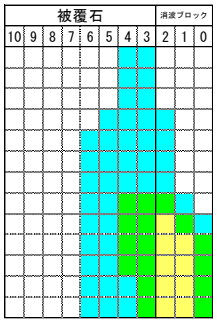


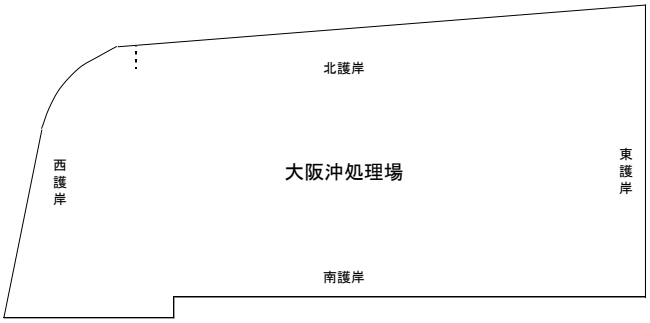


〔平成26年春季〕









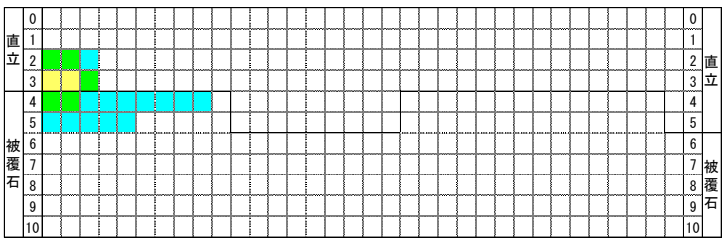
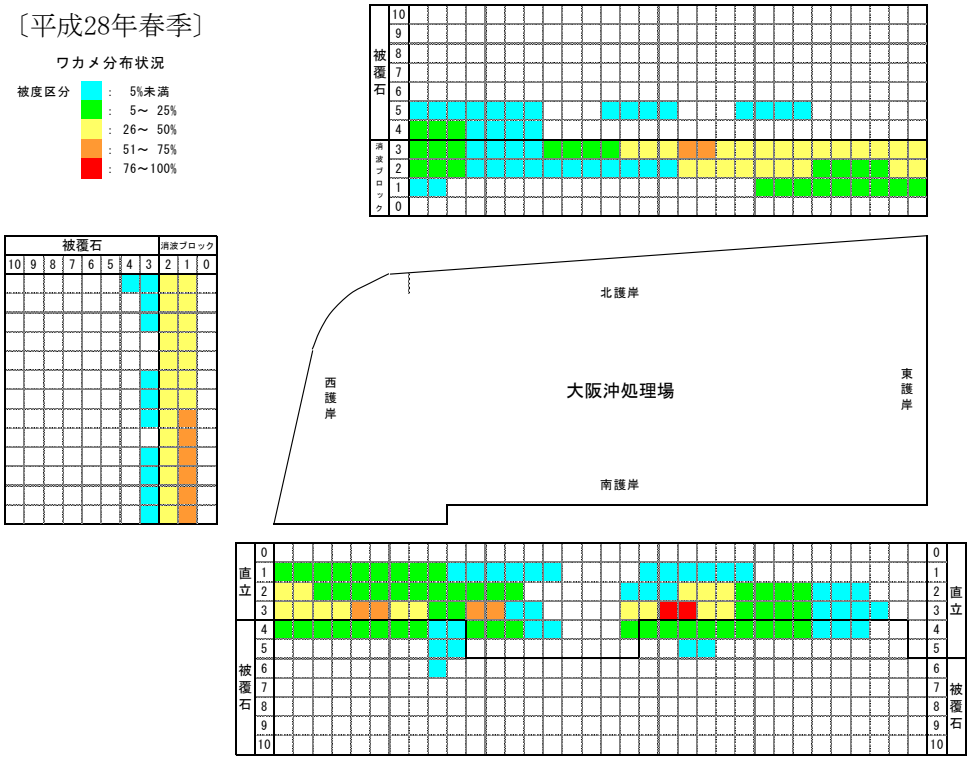


図 3-32（2）分布状況の推移　（ワカメ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



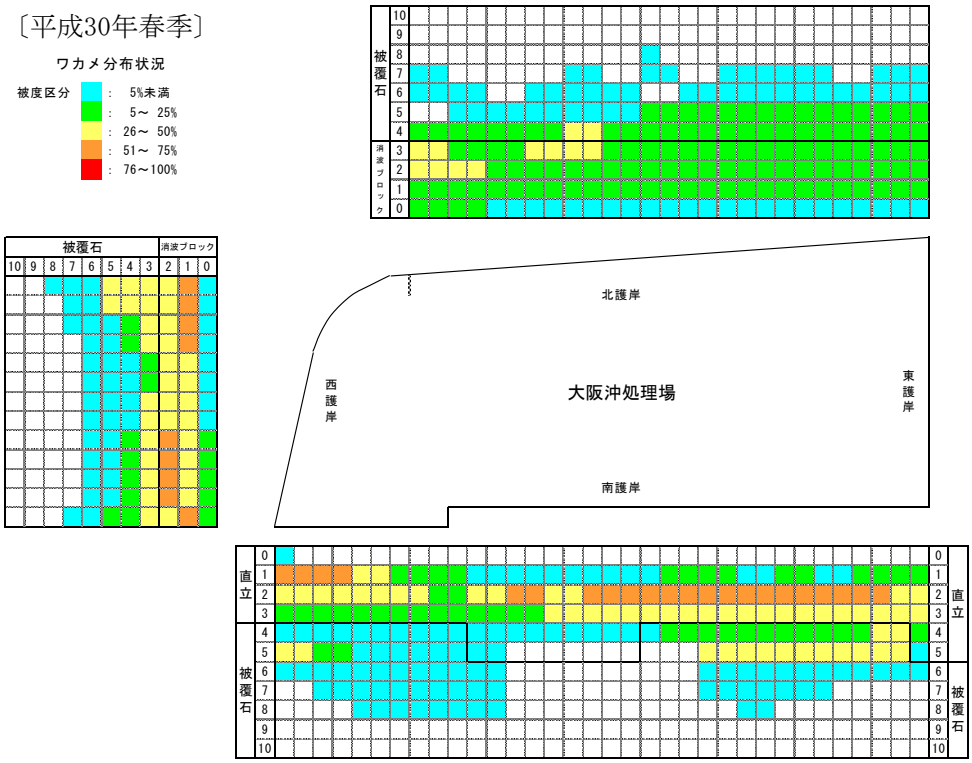
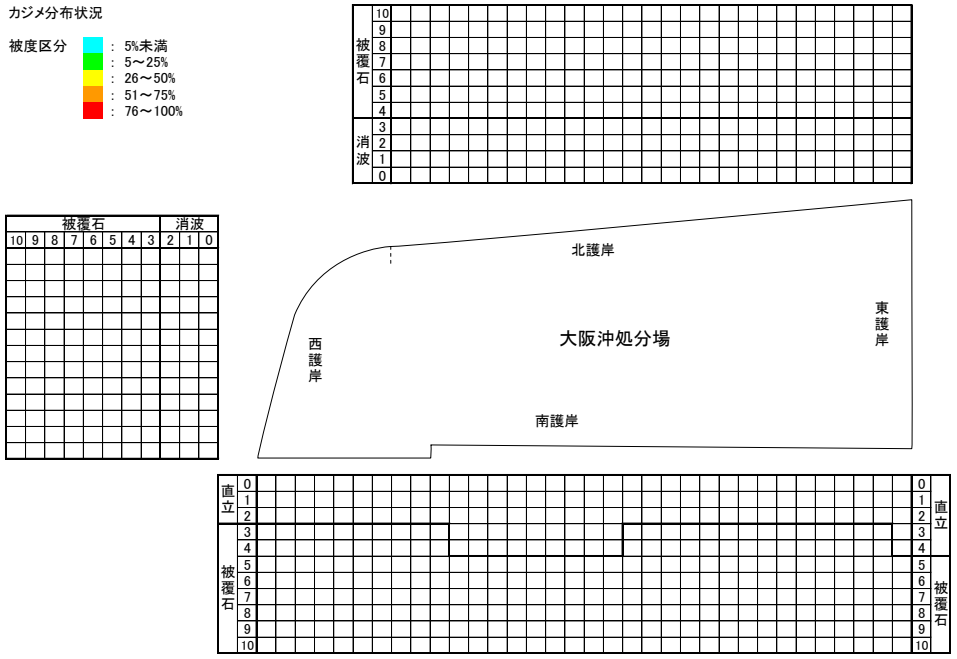


図 3-32（3）分布状況の推移　（ワカメ）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

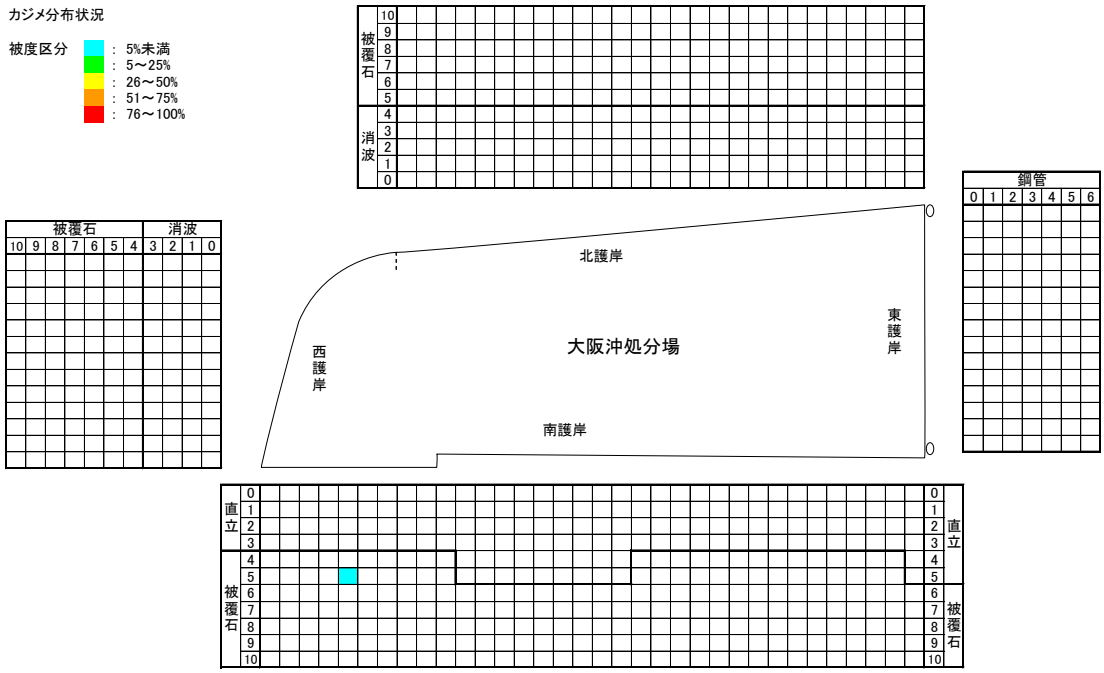
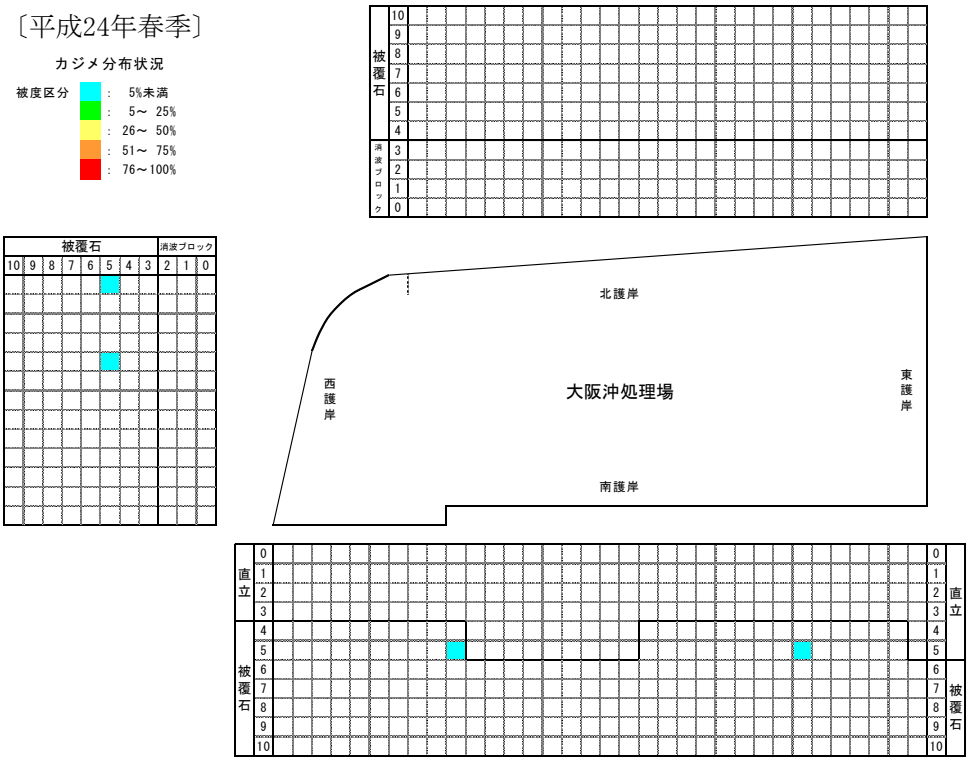


図 3-33（1）分布状況の推移　（カジメ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



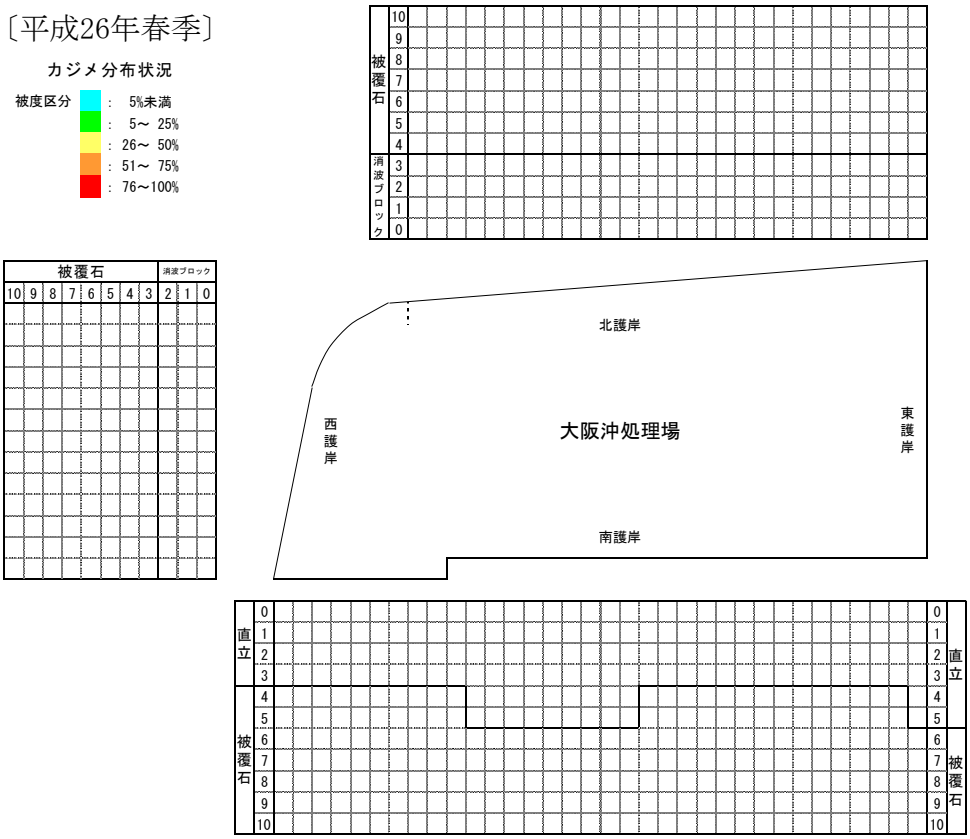
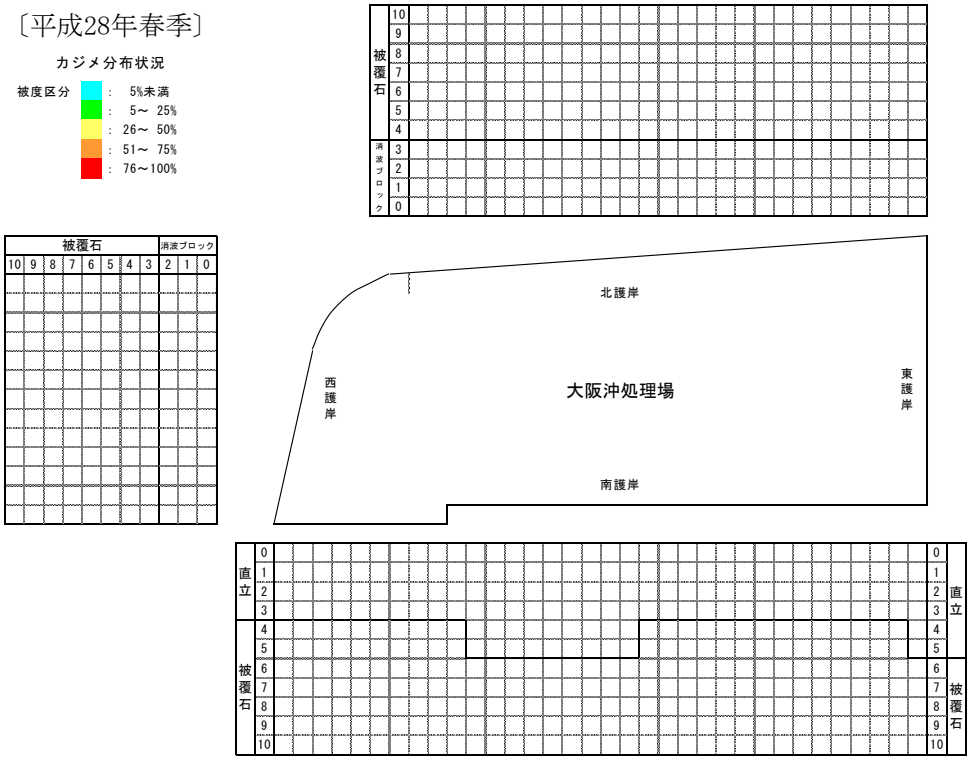


図 3-33（2）分布状況の推移　（カジメ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



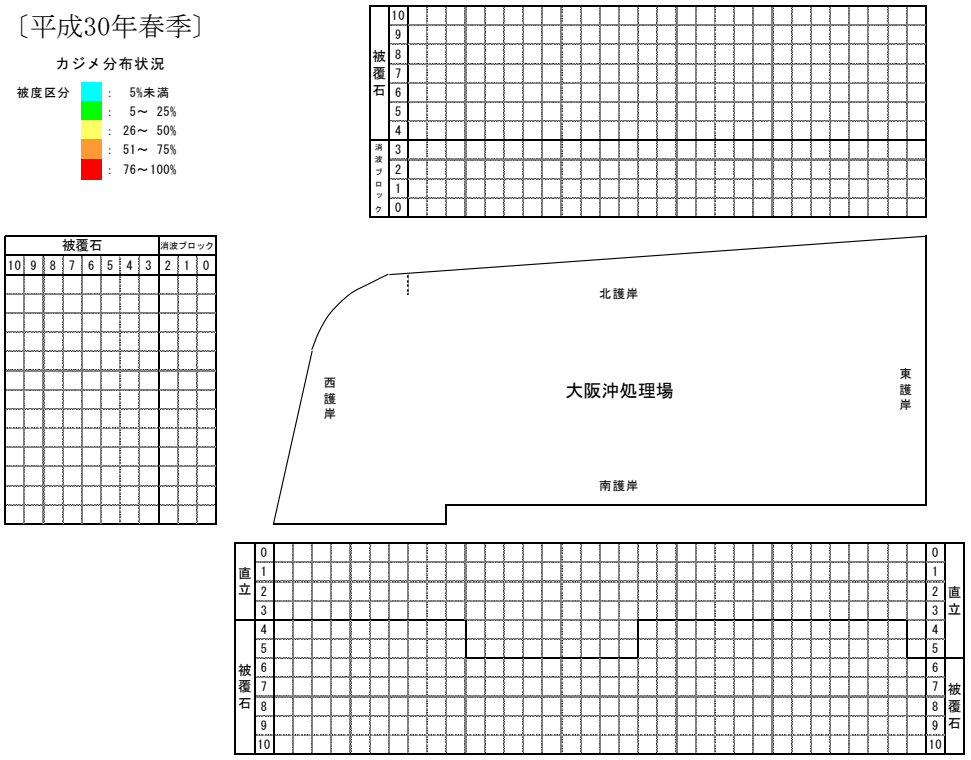
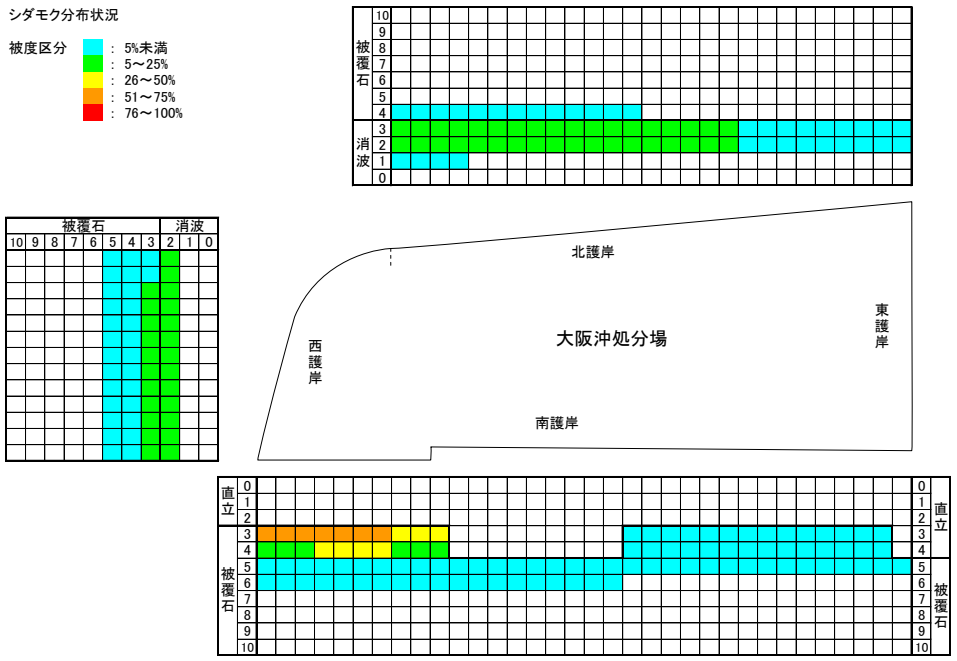


図 3-33（3）分布状況の推移　（カジメ）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

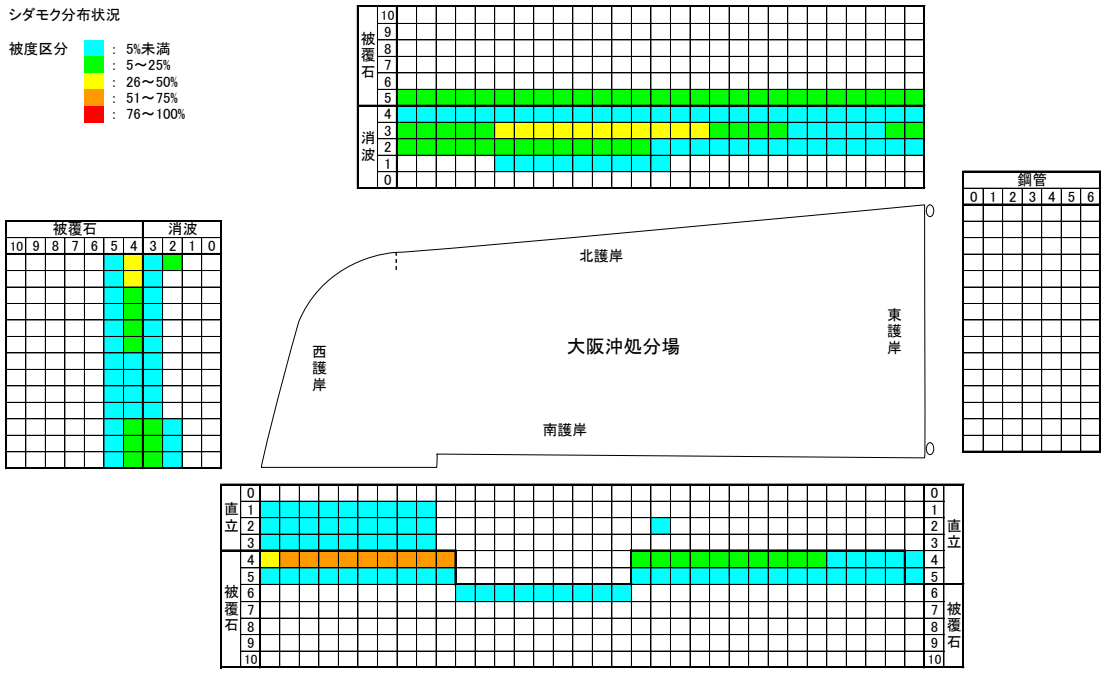
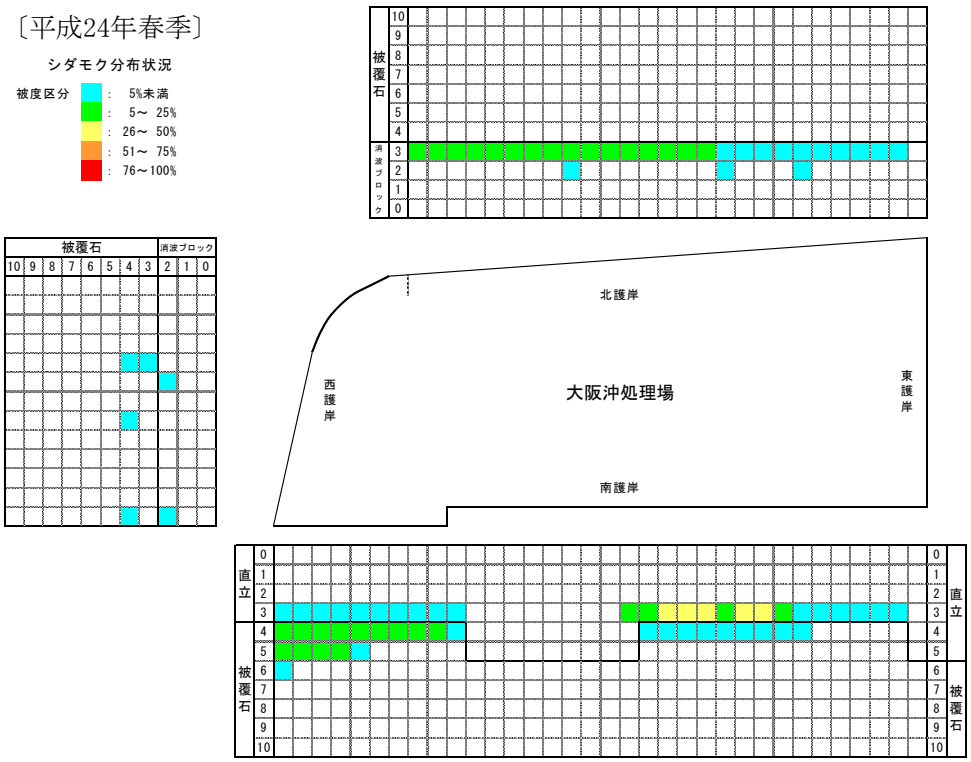


図 3-34（1）分布状況の推移　（シダモク）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



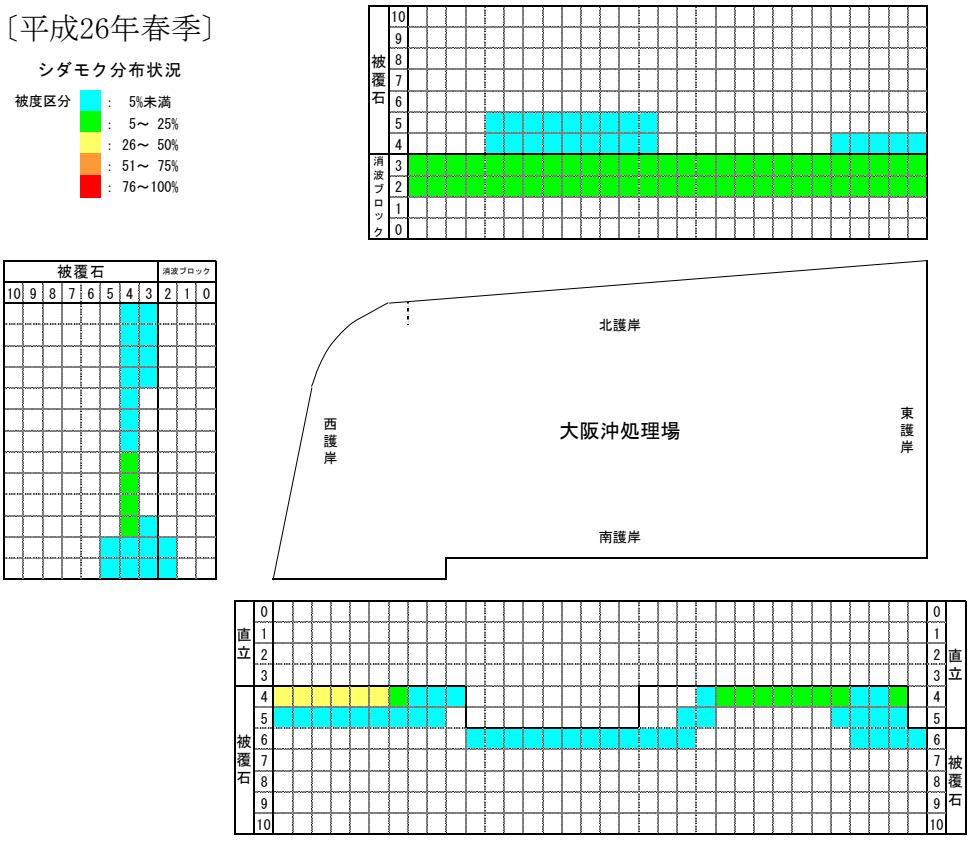
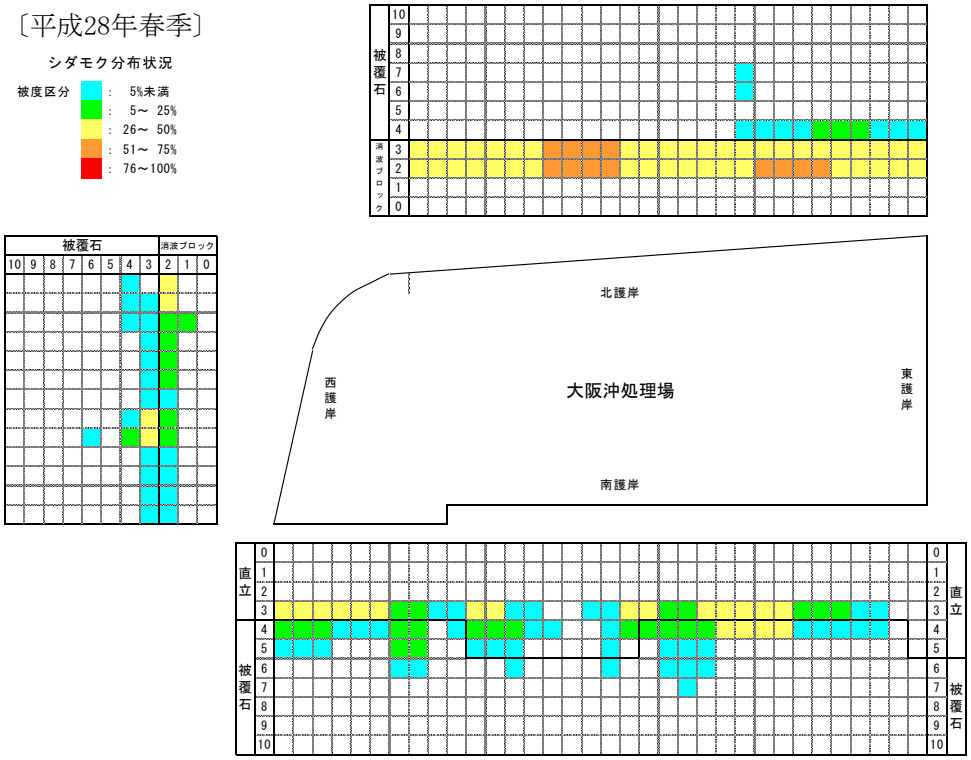


図 3-34（2）分布状況の推移　（シダモク）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



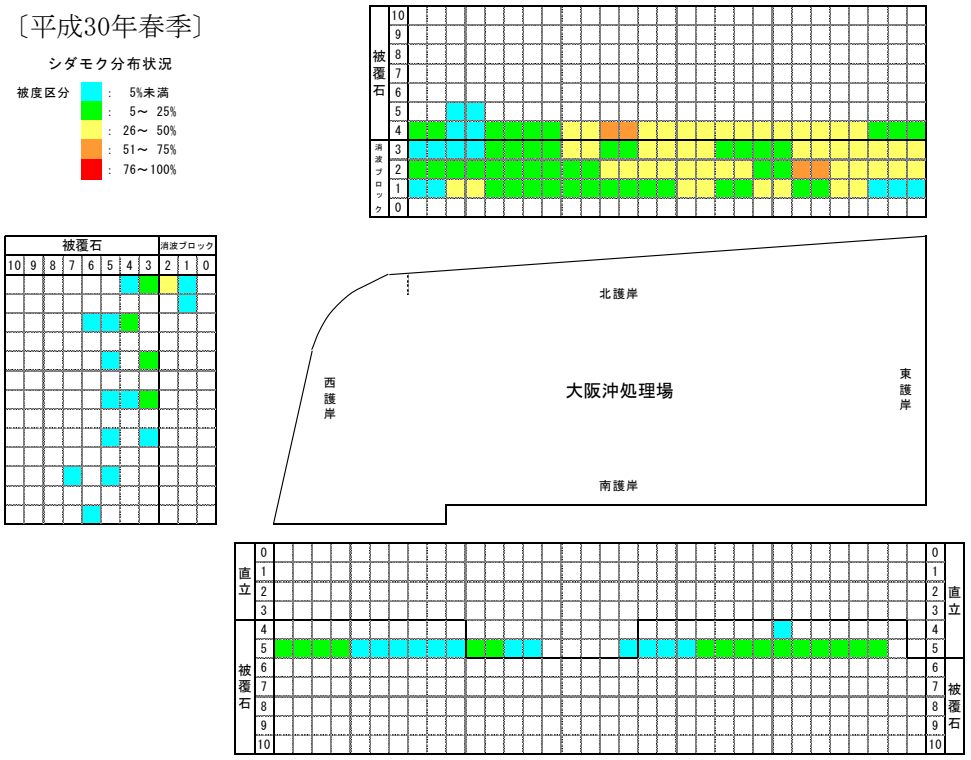
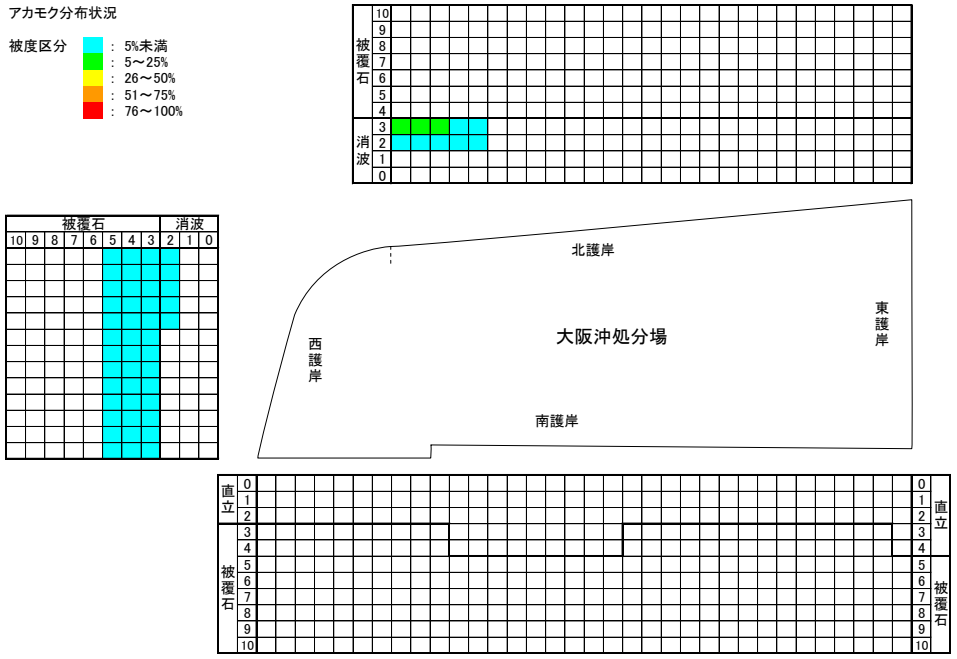


図 3-34（3）分布状況の推移　（シダモク）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

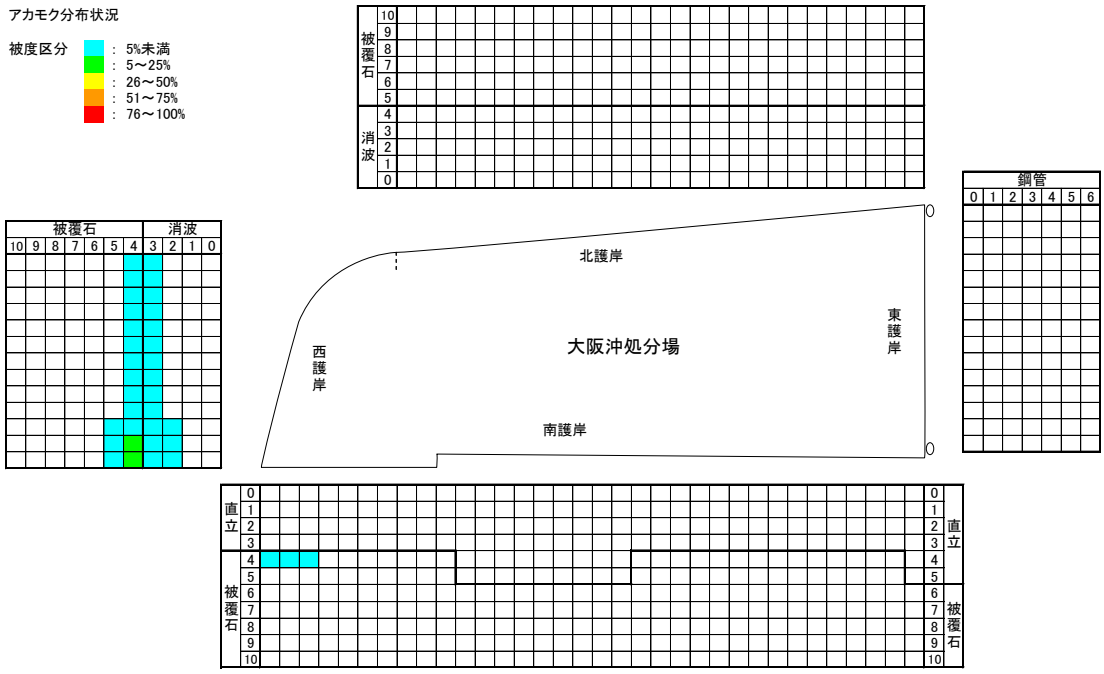
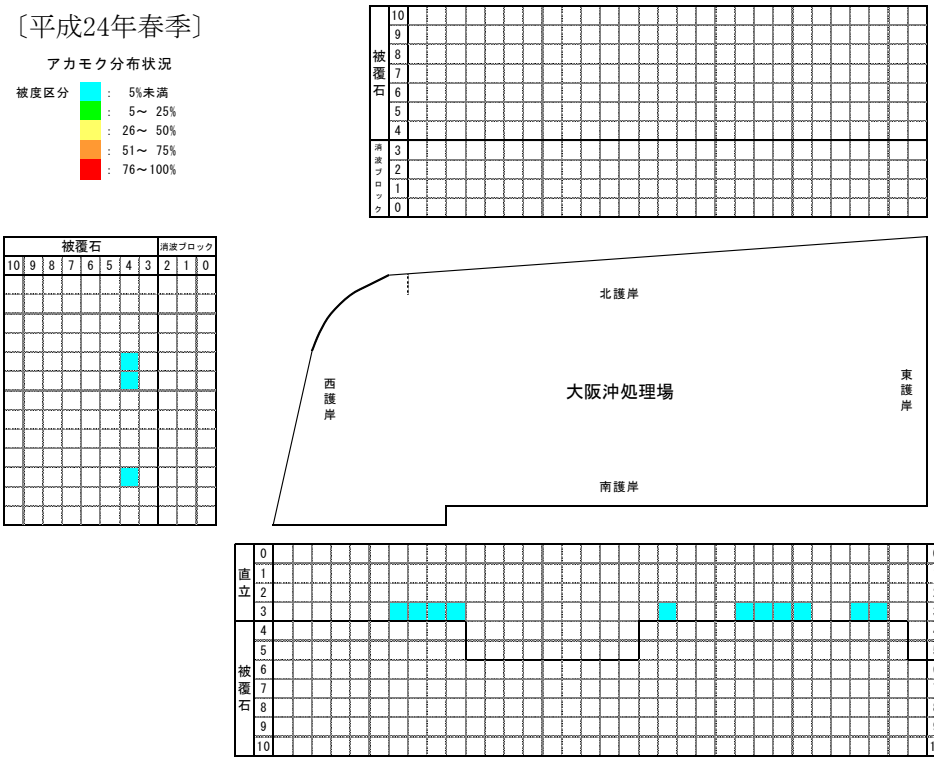


図 3-35（1）分布状況の推移　（アカモク）　大阪沖　平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕



〔平成26年春季〕

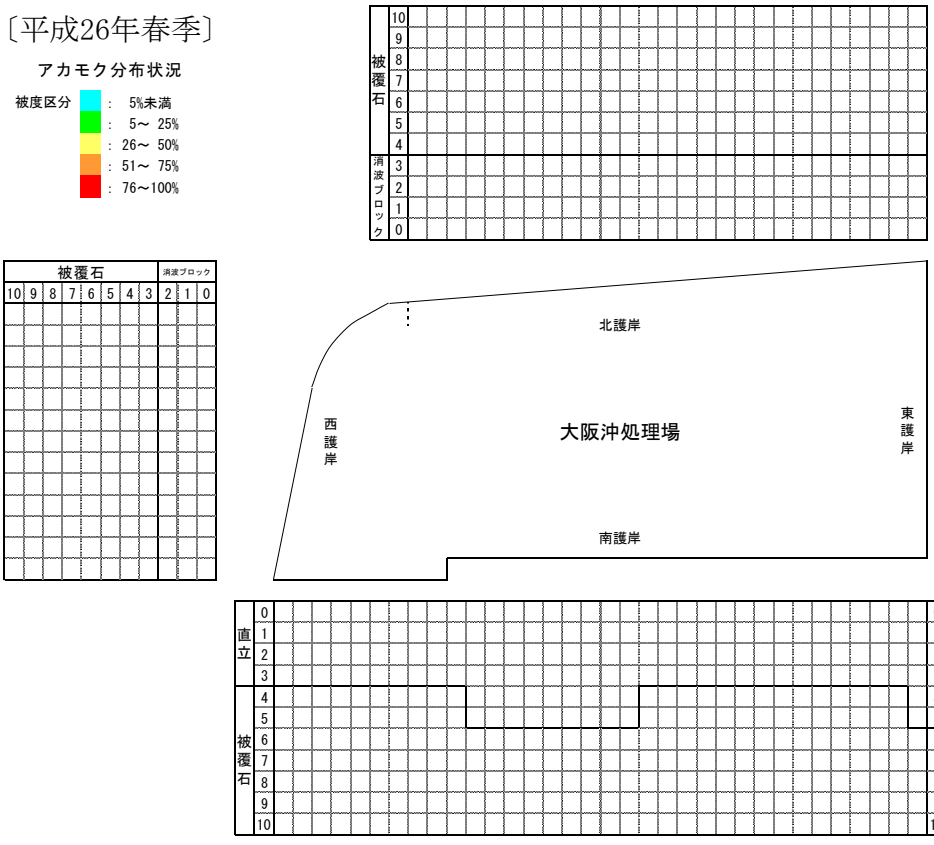
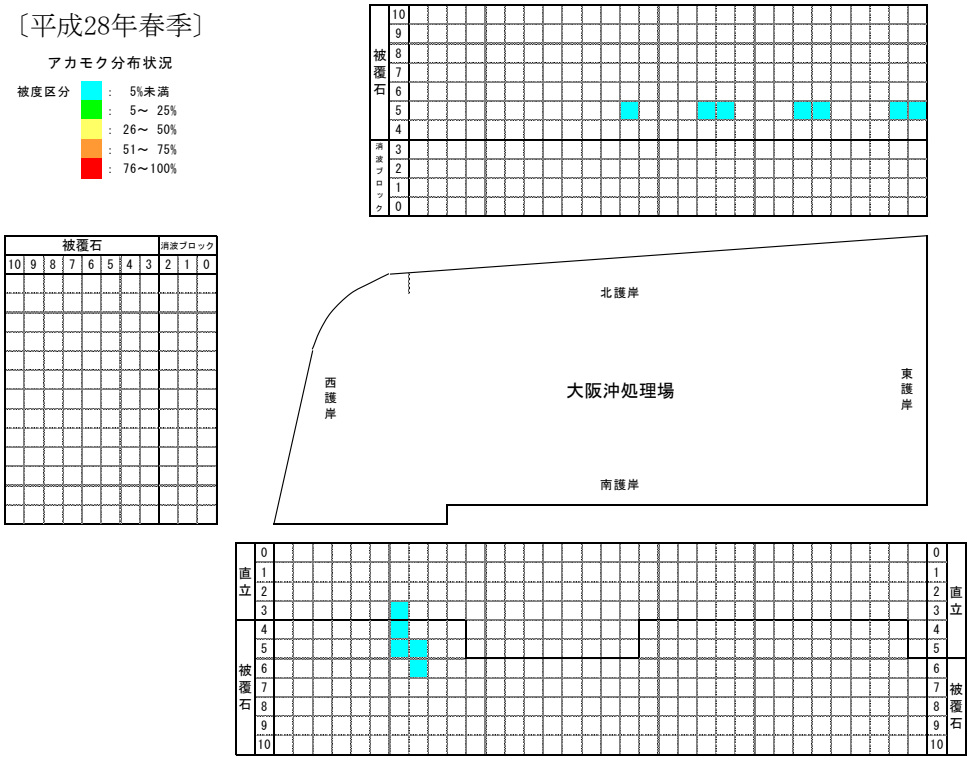


図 3-35（2）分布状況の推移　（アカモク）　大阪沖　平成 24～26 年度調査

〔平成28年春季〕



〔平成30年春季〕

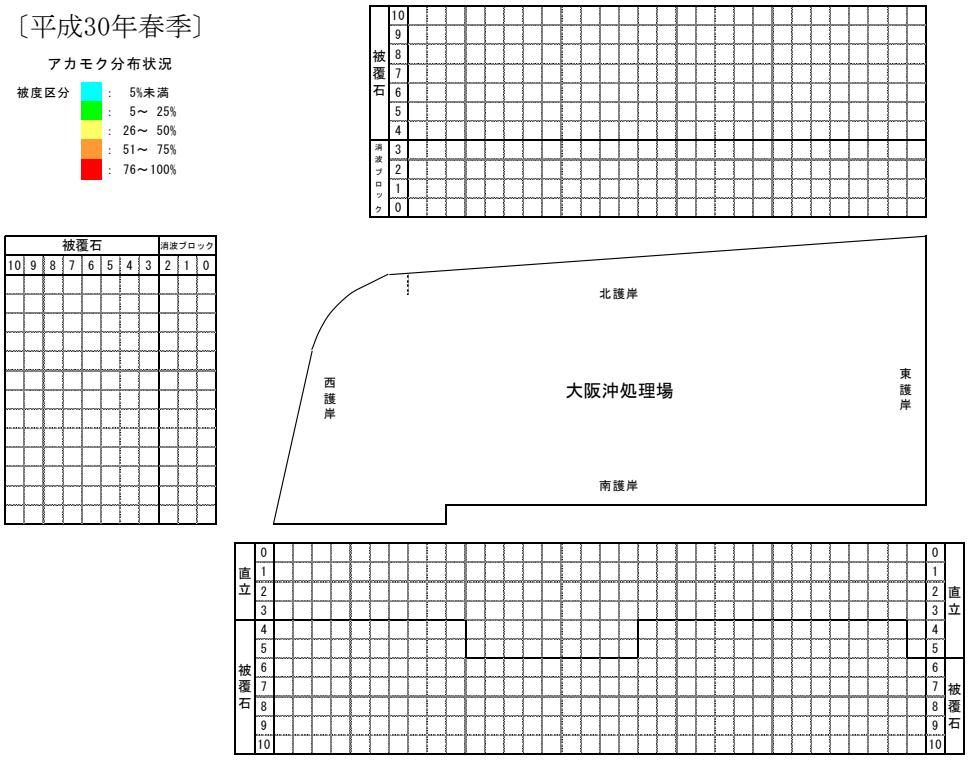
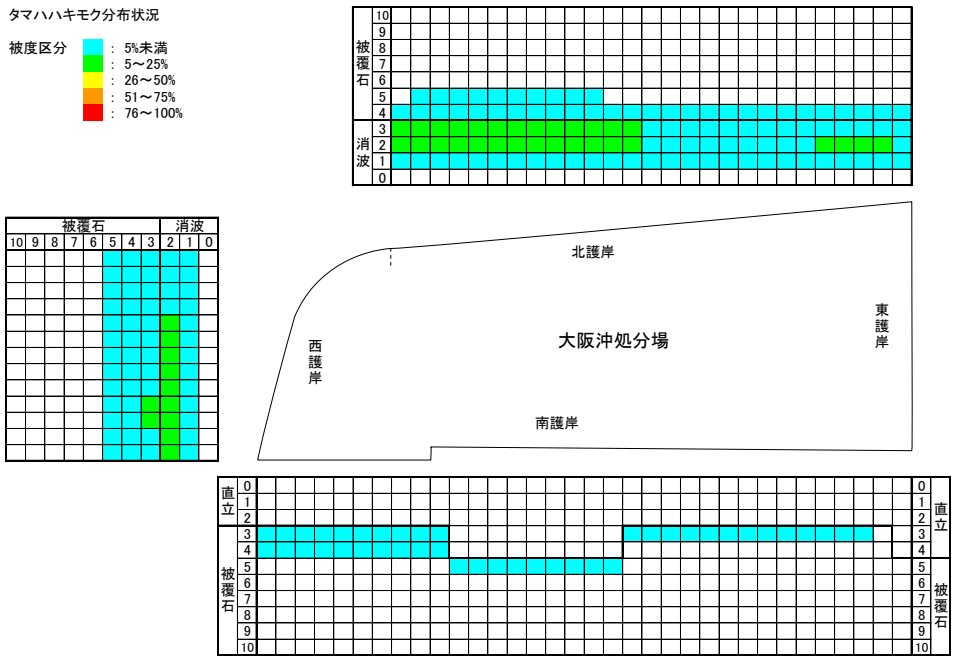


図 3-35（3）分布状況の推移　（アカモク）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

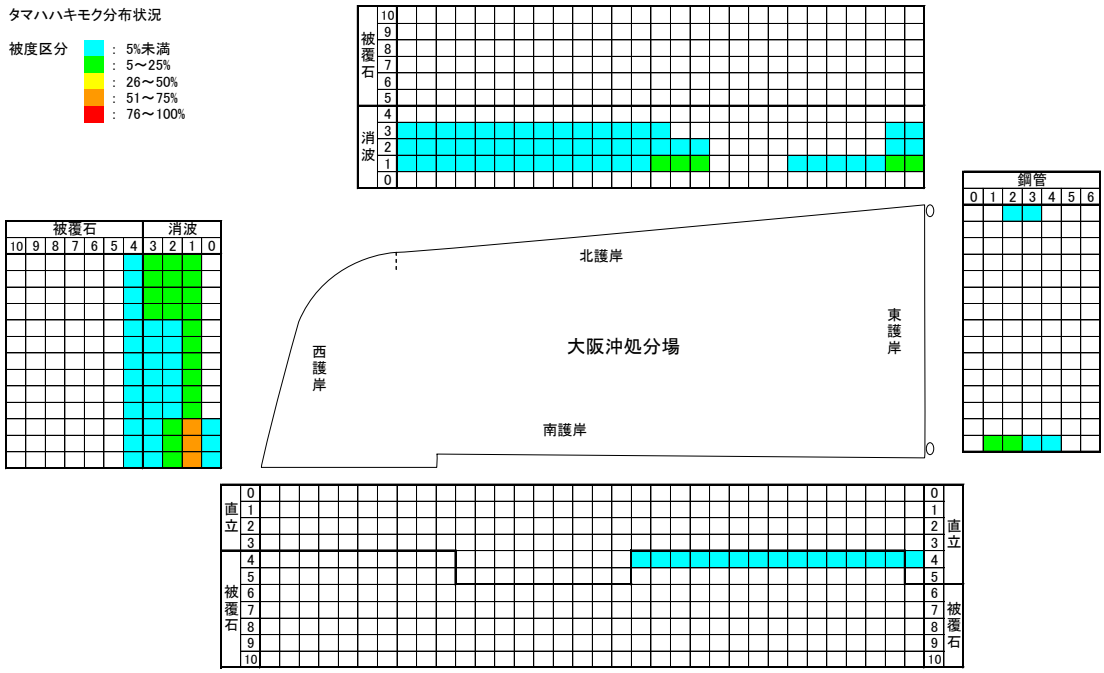
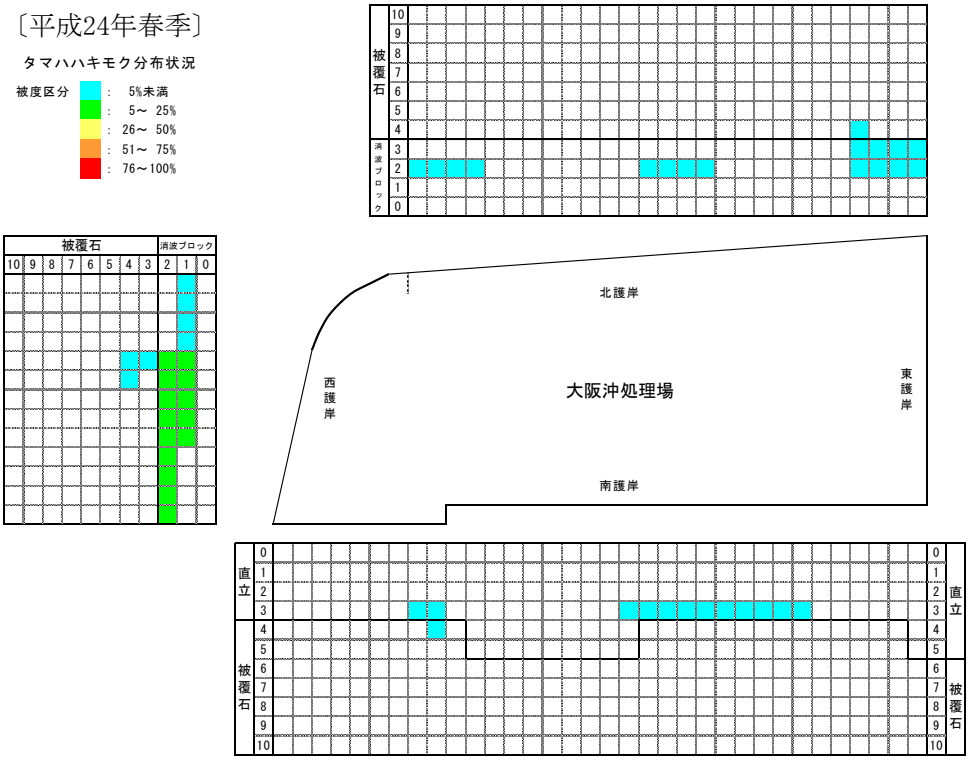


図 3-36（1）分布状況の推移　（タマハハキモク）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



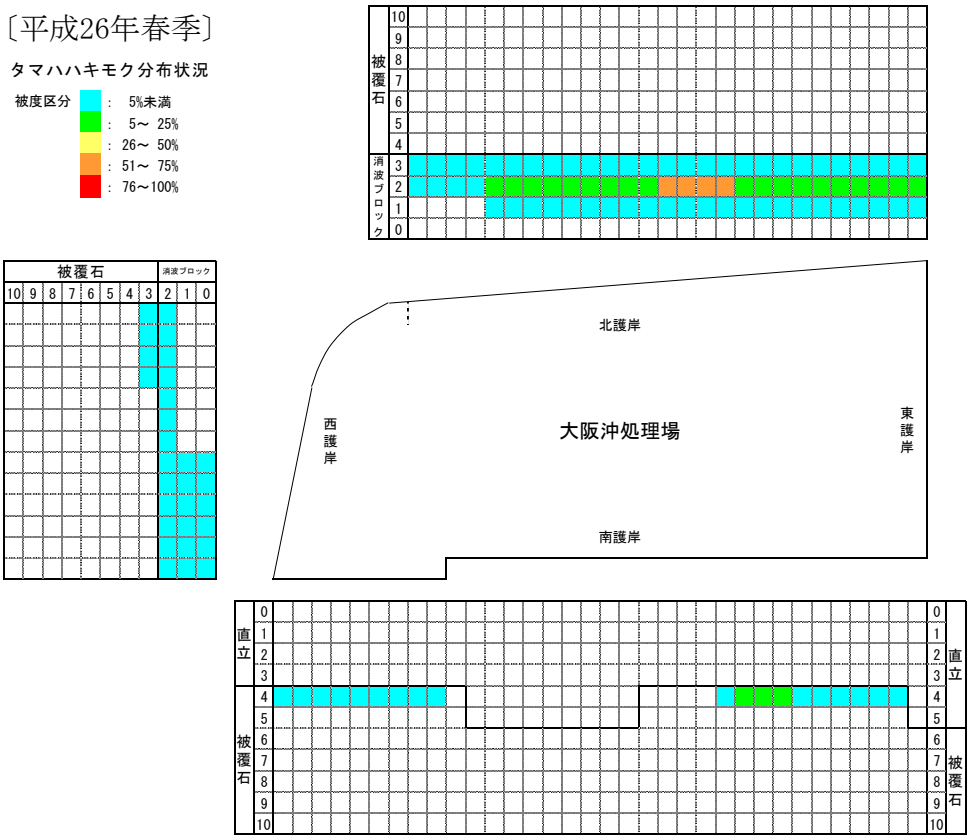
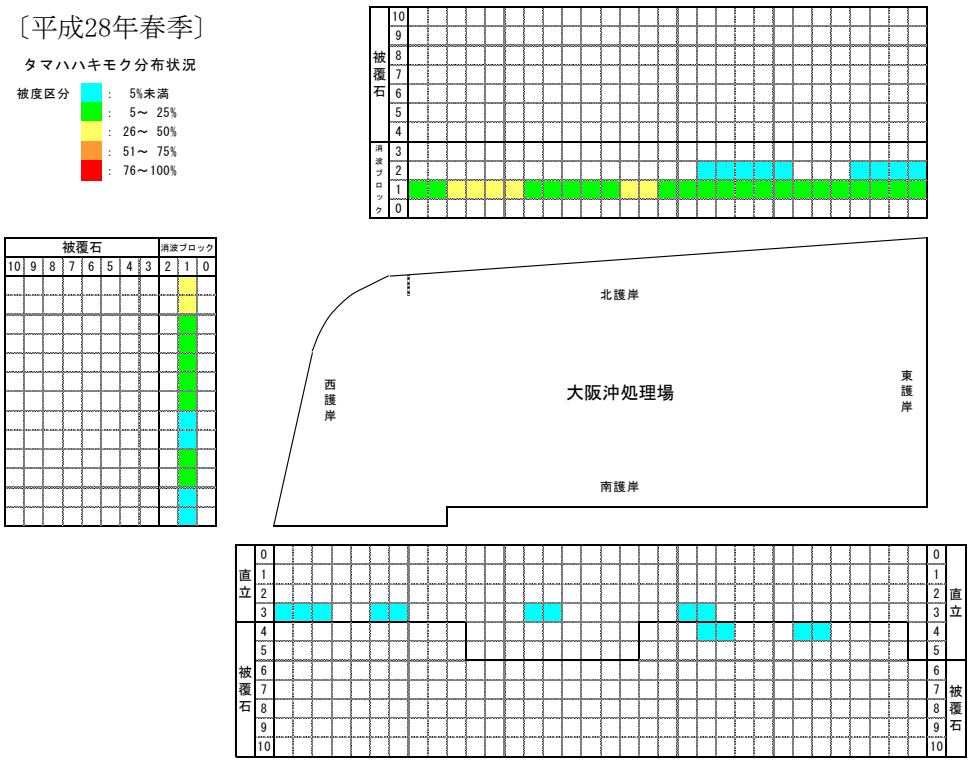


図 3-36（2）分布状況の推移　（タマハハキモク）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



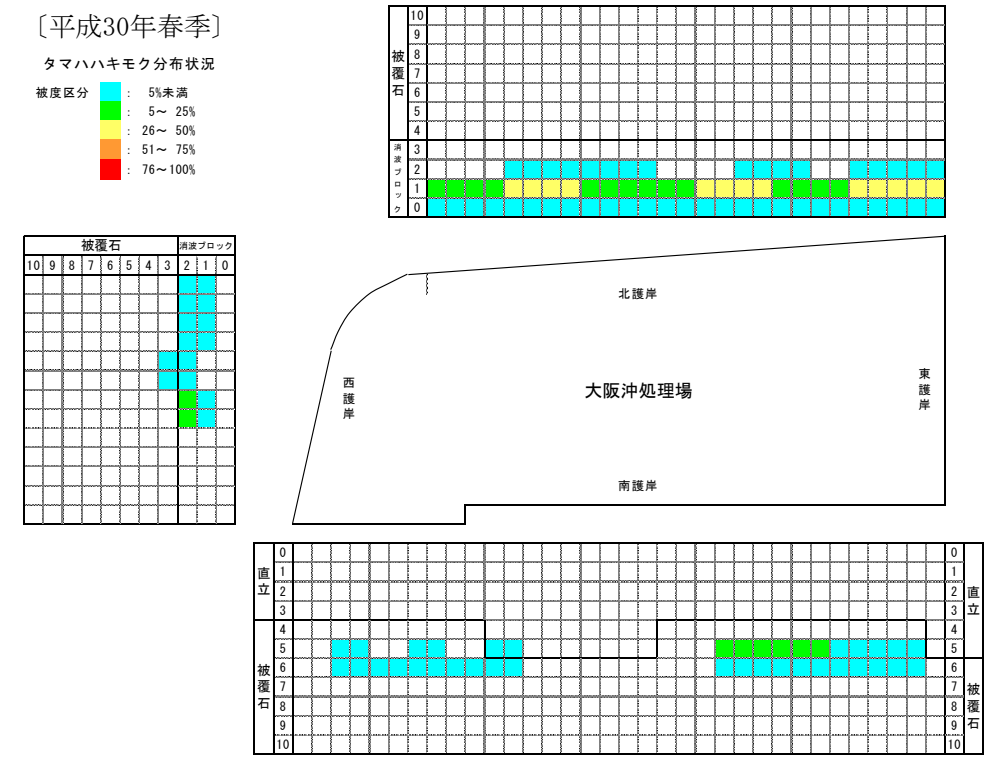
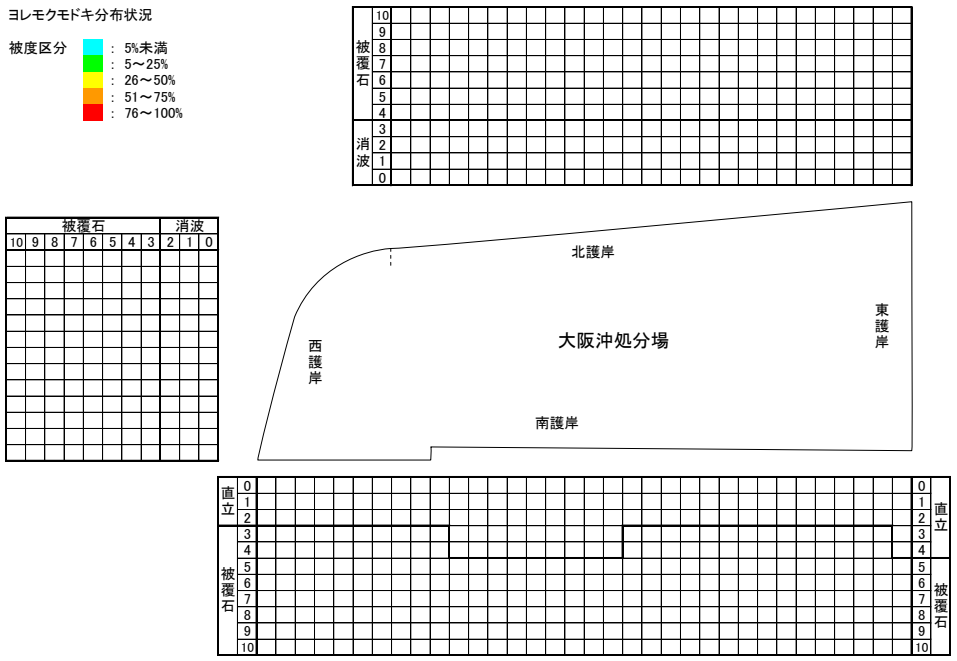


図 3-36（3）分布状況の推移　（タマハハキモク）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

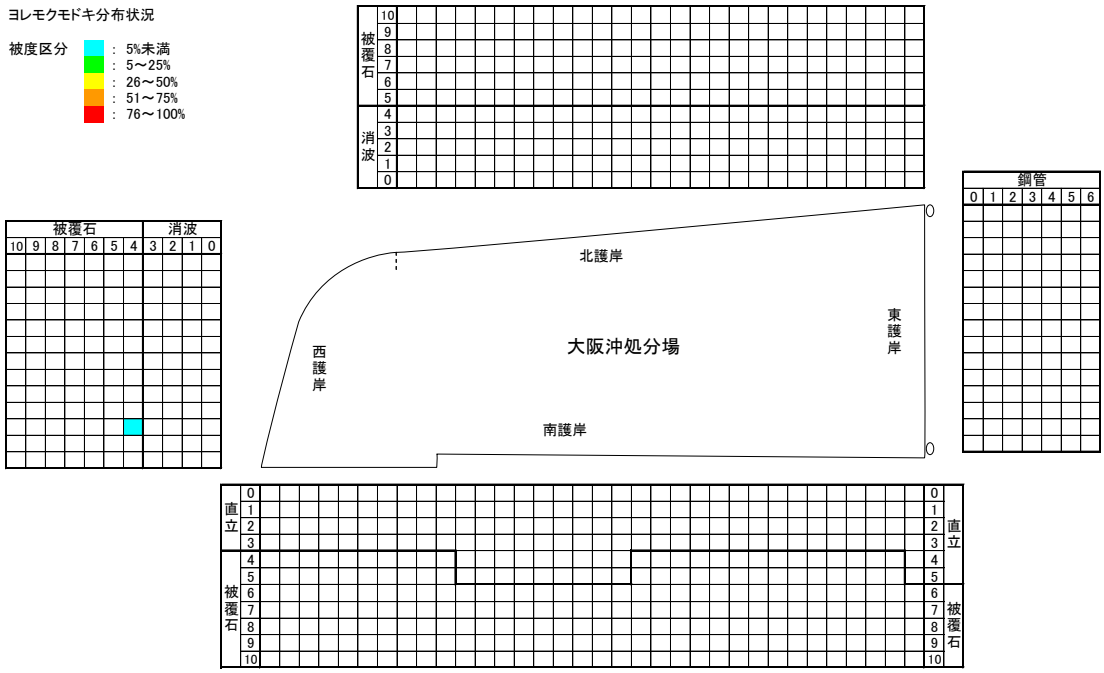
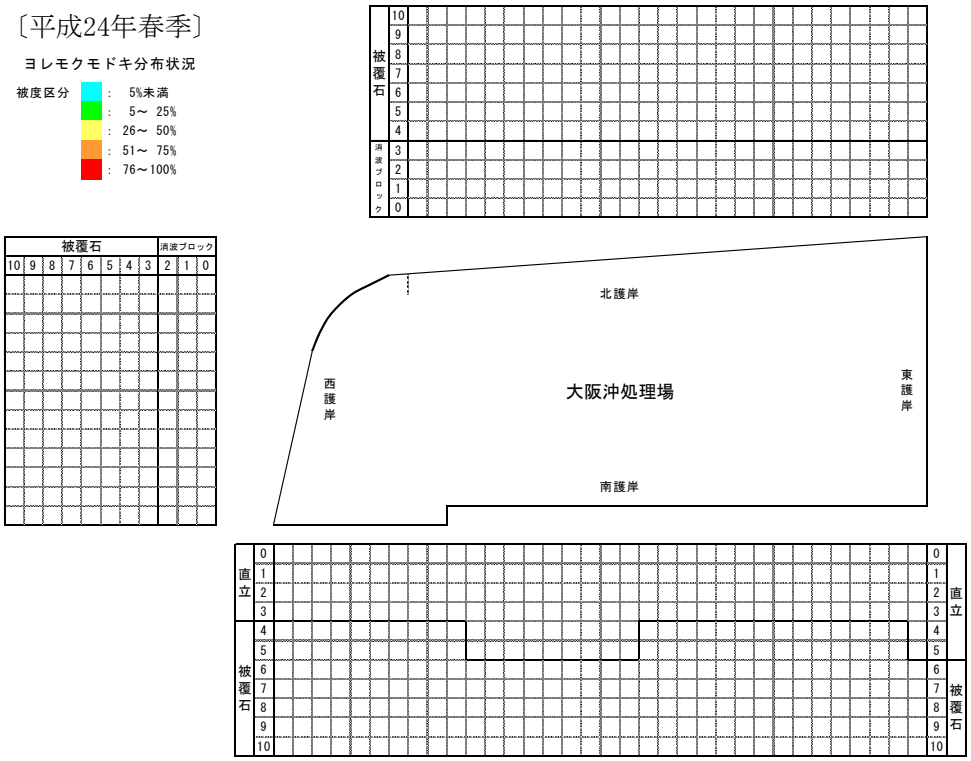


図 3-37（1）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



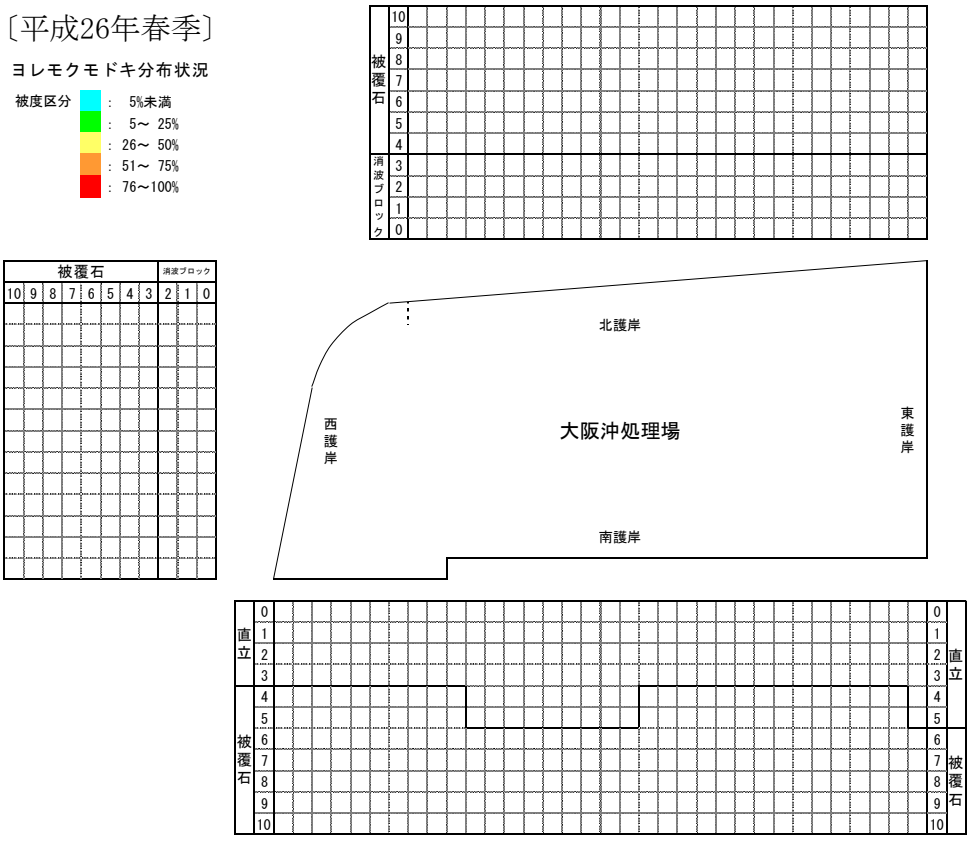
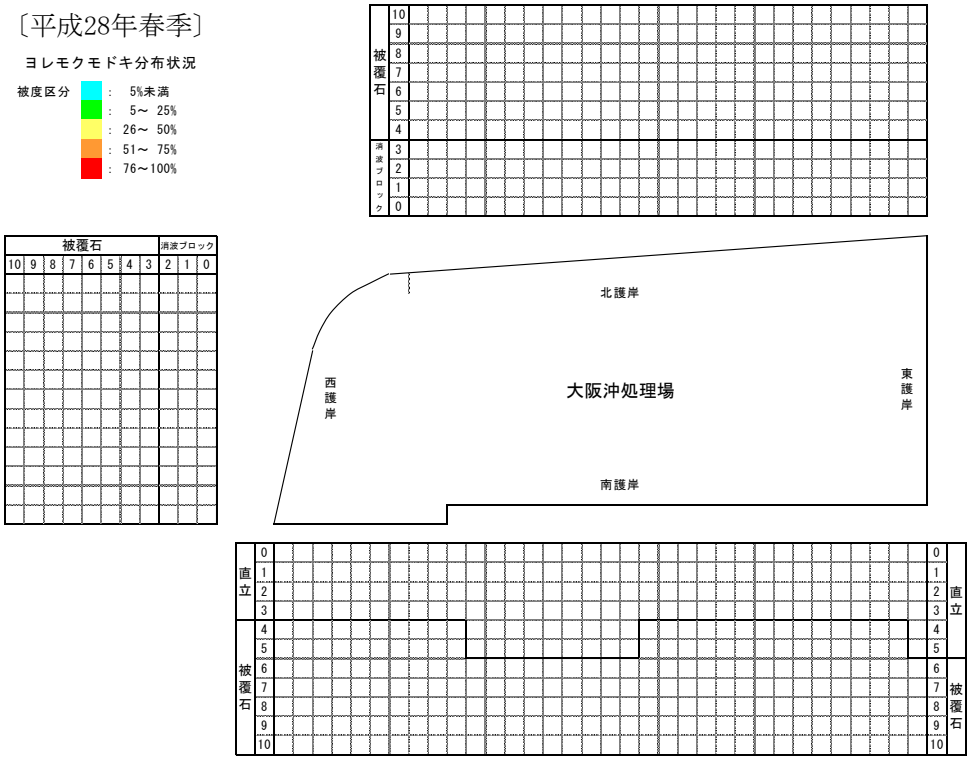


図 3-37（2）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



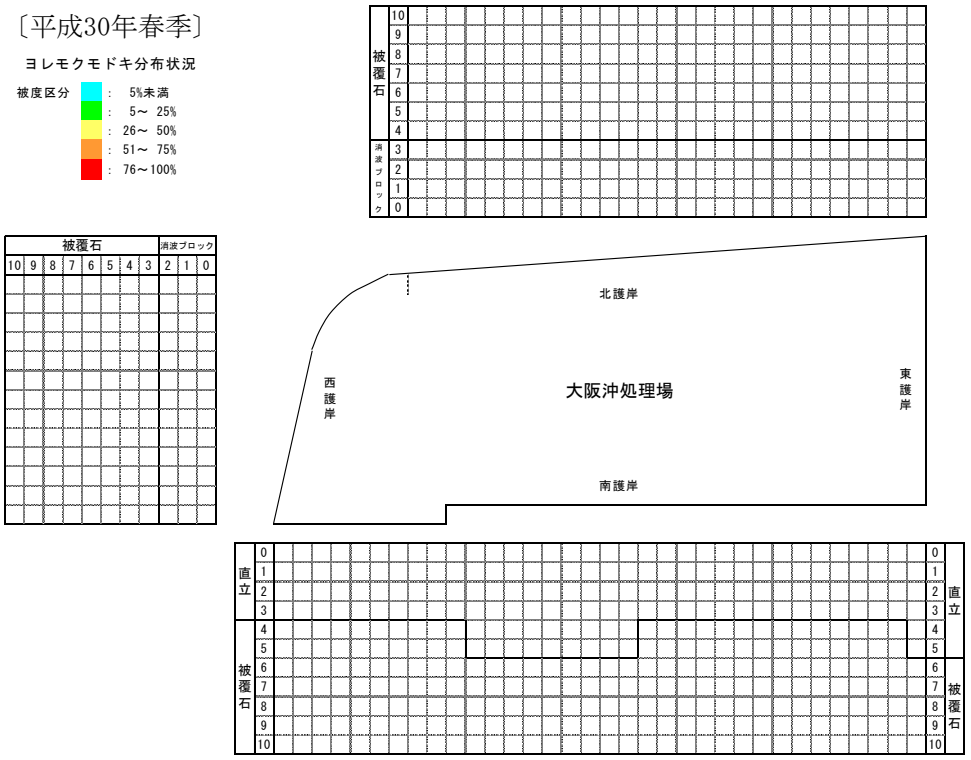


図 3-37（3）分布状況の推移　（ヨレモクモドキ）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

【その他　主要な海藻】

藻場構成種を除く主要な海藻として、前回調査（平成 28 年度）までに確認されている種を含め、アオサ属、ススカケベニ、フダラク、ベニスナゴ、カバノリ、マクサ、ツルツルの 7 種について分布図を作成した。

① アオサ属（図 3-38）

アオサ属は、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の±0～-7m の範囲で広く分布が確認されたが、平成 24 年度から平成 26 年度にかけて各護岸の分布範囲は減少傾向にあった。平成 28 年度の調査では、各護岸の±0～-4m 付近で分布が確認されたが、平成 26 年度と比較して、南護岸を中心として分布範囲の増加傾向がみられた。今回の調査では、各護岸の±0～-7m 付近で分布が確認され、平成 28 年度と分布範囲に大きな変化はなかった。

② ススカケベニ（図 3-39）

ススカケベニは、平成 21～22 年度、平成 24 年度および平成 26 年度に各護岸の±0～-10m 付近で広く分布が確認された。平成 28 年度の調査では、各護岸の-3～-10m で広く分布が確認されたが、北護岸、南護岸では過年度と比較して分布範囲の減少がみられた。今回の調査でも、各護岸の-4～-9m で分布が確認されたが、平成 28 年度よりもさらに分布範囲の減少が認められた。

③ フダラク（図 3-40）

フダラクは、平成 21～22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度および平成 28 年度に各護岸の±0～-9m 付近で広く分布が確認された。今回の調査でも、各護岸の±0～-9m 付近で広く分布が確認された。

④ ベニスナゴ（図 3-41）

ベニスナゴは、平成 21 年度は分布が確認されず、平成 22 年度、平成 24 年度、平成 26 年度に各護岸の-1～-9m 付近で広く分布が確認された。平成 24 年度および平成 26 年度は平成 22 年度と比較して被度の増加がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-10m で広く分布が確認されたが、平成 24 年度、平成 26 年度に比較して、北護岸では分布範囲および被度の減少が、西護岸では被度の減少がみられた。今回の調査では、各護岸の±0～-9m で広く分布が確認され、平成 28 年度に比較して、北護岸と西護岸では被度の増大が、南護岸では被度の減少が認められた。

⑤ カバノリ（図-42）

カバノリは、平成 21 年度は分布が確認されず、平成 22 年度に各護岸で分布が確認されたが、平成 24 年度は分布が確認されなかった。平成 26 年度、平成 28 年度の調査では、各護岸の-1～-7m 付近で広く分布が確認された。今回の調査でも、各護岸の-1～-10m 付近で広く分布が確認され、平成 28 年度に比べて、分布範囲および被度の増大が認められた。

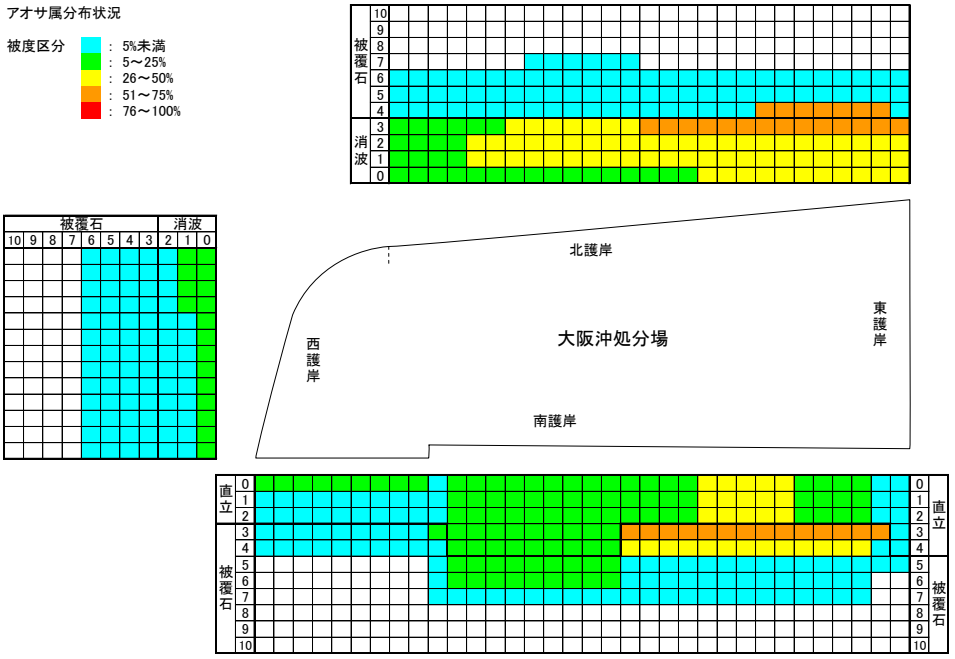
⑥ マクサ（図 3-43）

マクサは、平成 21～22 年度の調査では分布が確認されなかったが、平成 24 年度に北護岸と南護岸の各 1 箇所で分布が確認された。平成 26 年度の調査では分布が確認されなかった。平成 28 年度の調査では、南護岸の-3m で分布を確認した。今回の調査では、各護岸の-4～-9m 付近の狭い範囲で分布を確認した。

⑦ ツルツル（図 3-44）

ツルツルは、平成 21～22 年度の調査で分布は確認されなかった。平成 24 年度は各護岸の±0～-5m で広く分布が確認された。平成 26 年度の調査では、各護岸に分布が確認されたが、平成 24 年度と比較して南護岸、西護岸で分布範囲の減少がみられた。平成 28 年度の調査では、各護岸の±0～-2m に分布が確認され、平成 26 年度と比較して北護岸では分布範囲の減少が、西護岸、南護岸では分布範囲の増加がみられた。今回の調査では、各護岸の-1～-5m で分布を確認し、平成 28 年度と比べて、北護岸、西護岸では分布範囲の増大が、南護岸では分布範囲の縮小が認められた。

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

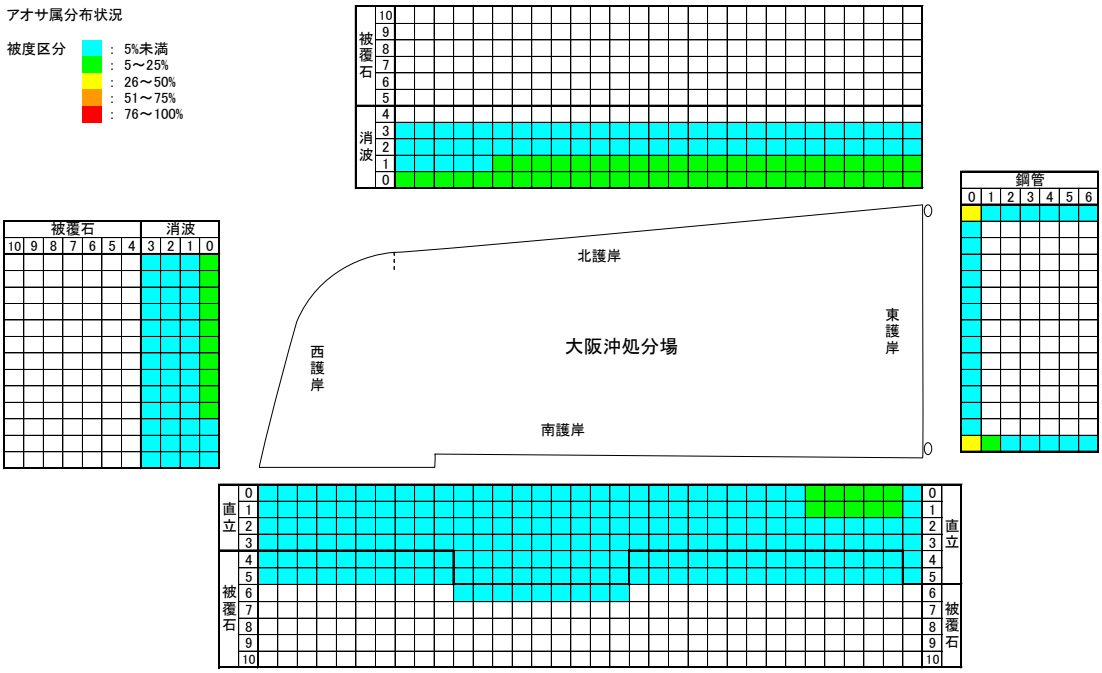
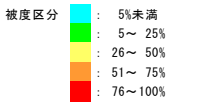
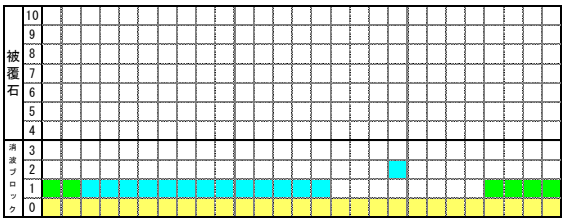
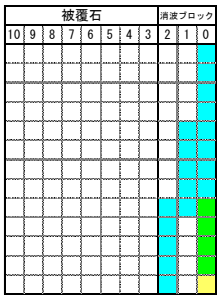


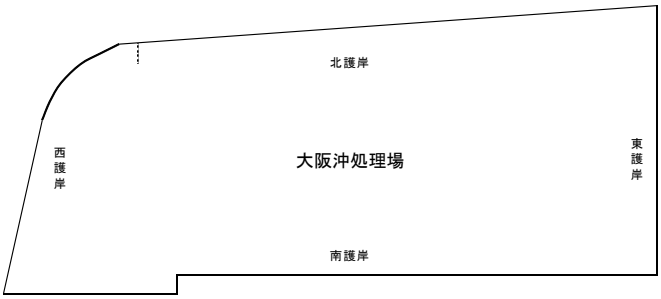
図 3-38（1）分布状況の推移　（アオサ属）　大阪沖　平成 21～22 年度調査

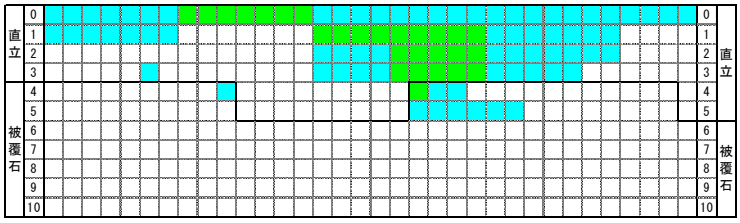
〔平成24年春季〕



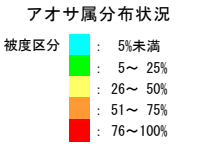


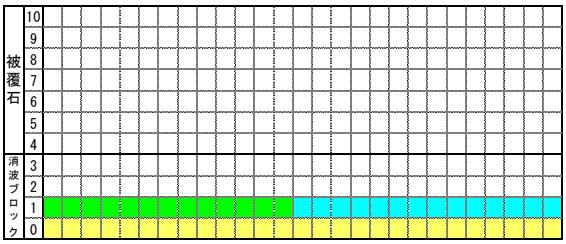


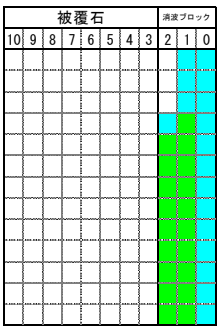


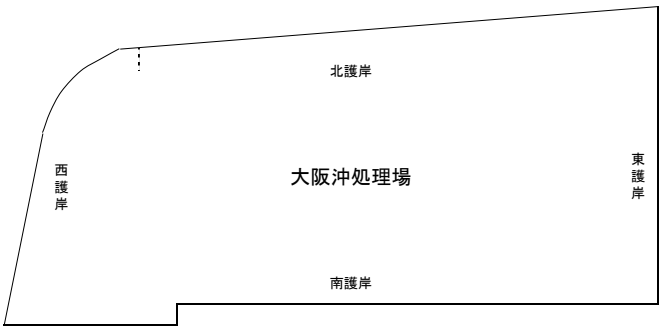


〔平成26年春季〕









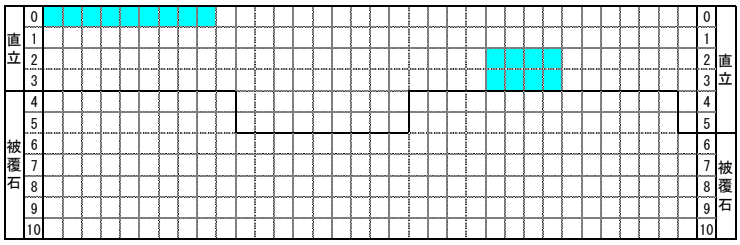
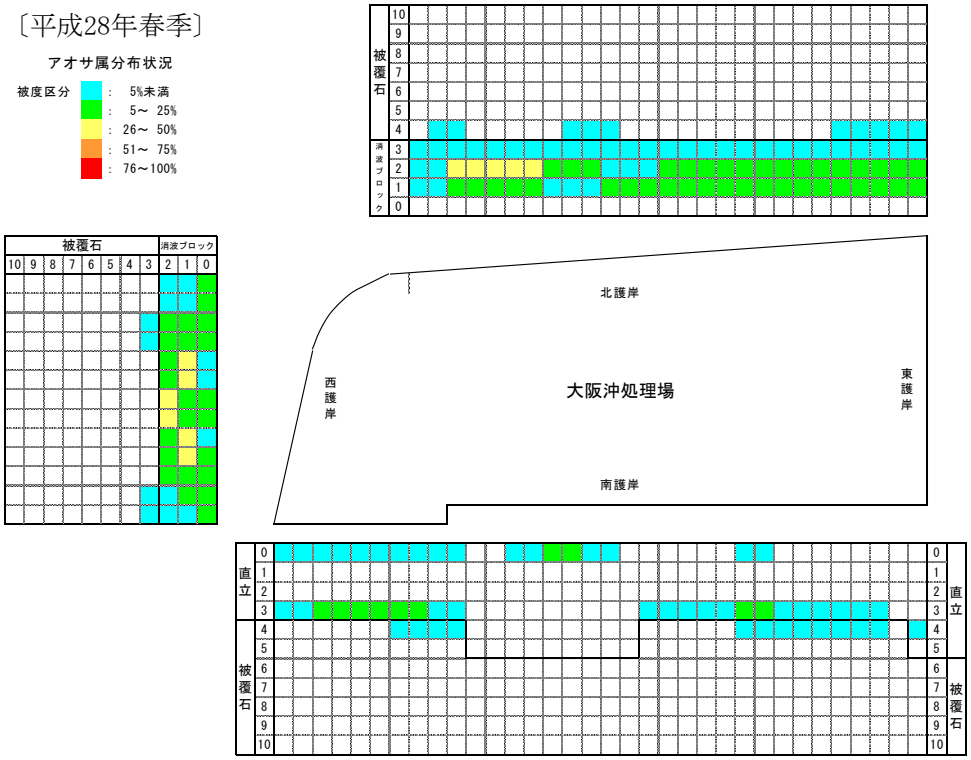


図 3-38（2）分布状況の推移　（アオサ属）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



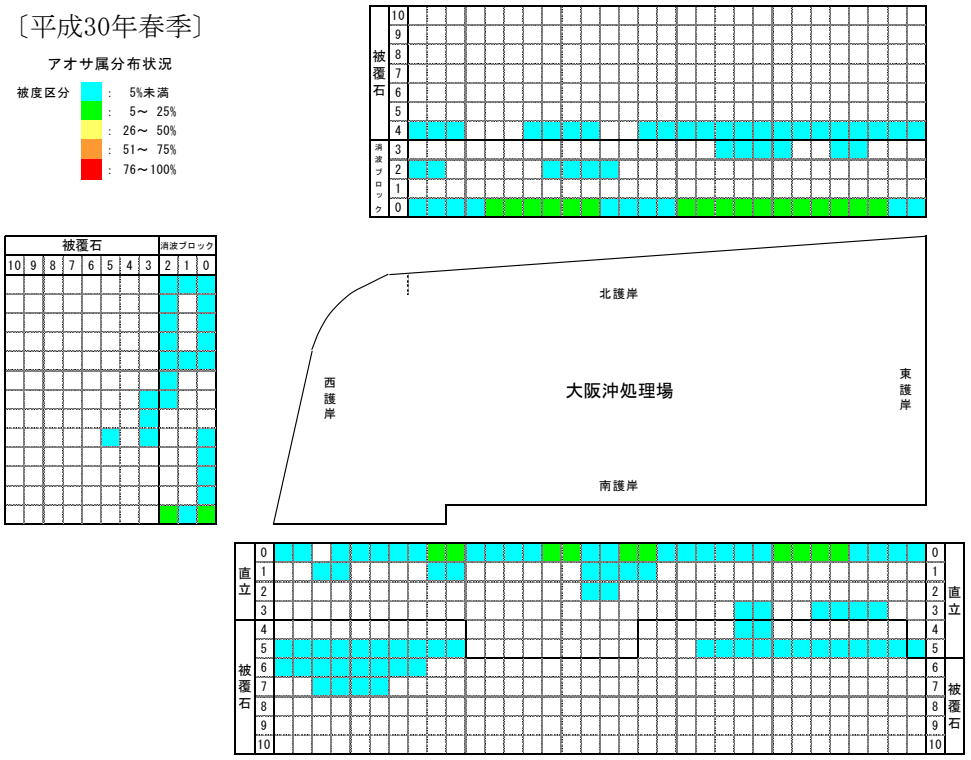
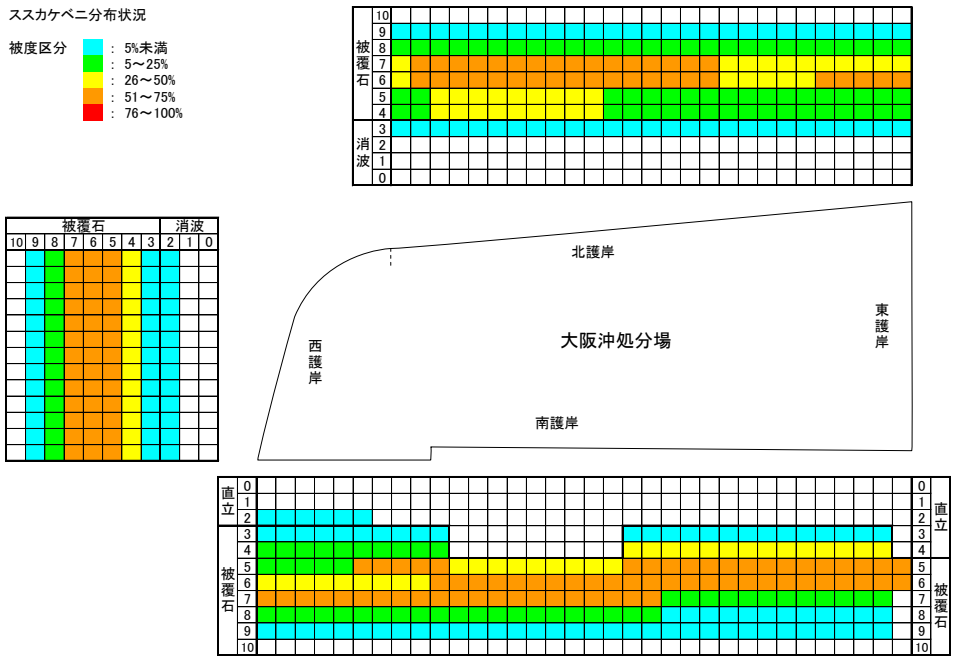


図 3-38（3）分布状況の推移　（アオサ属）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

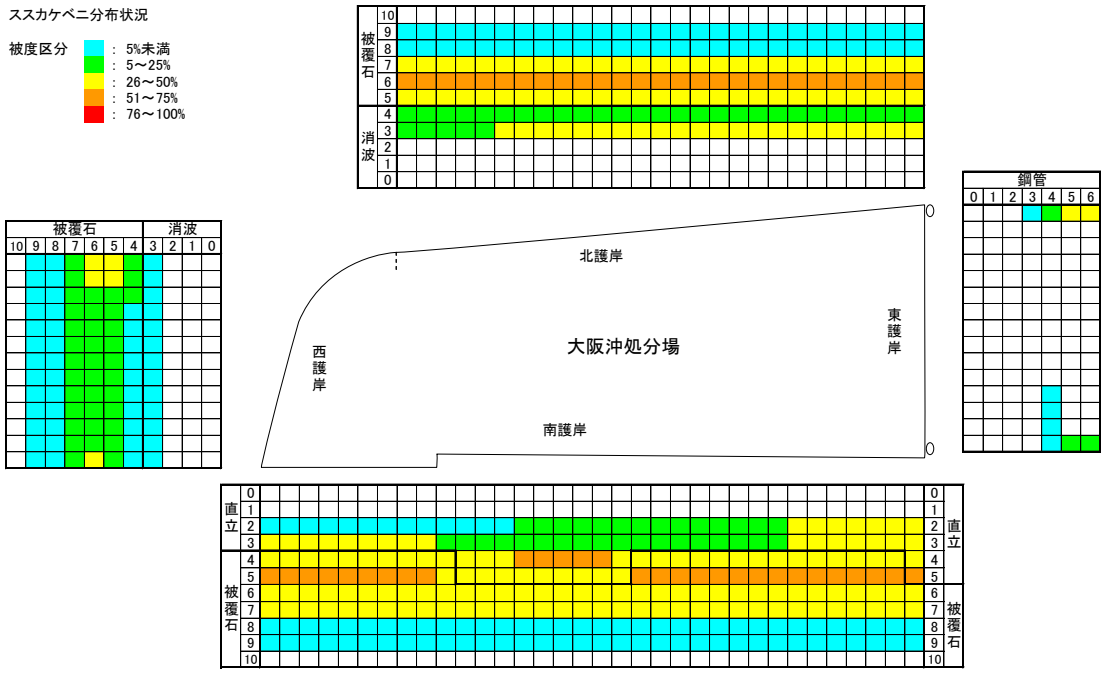
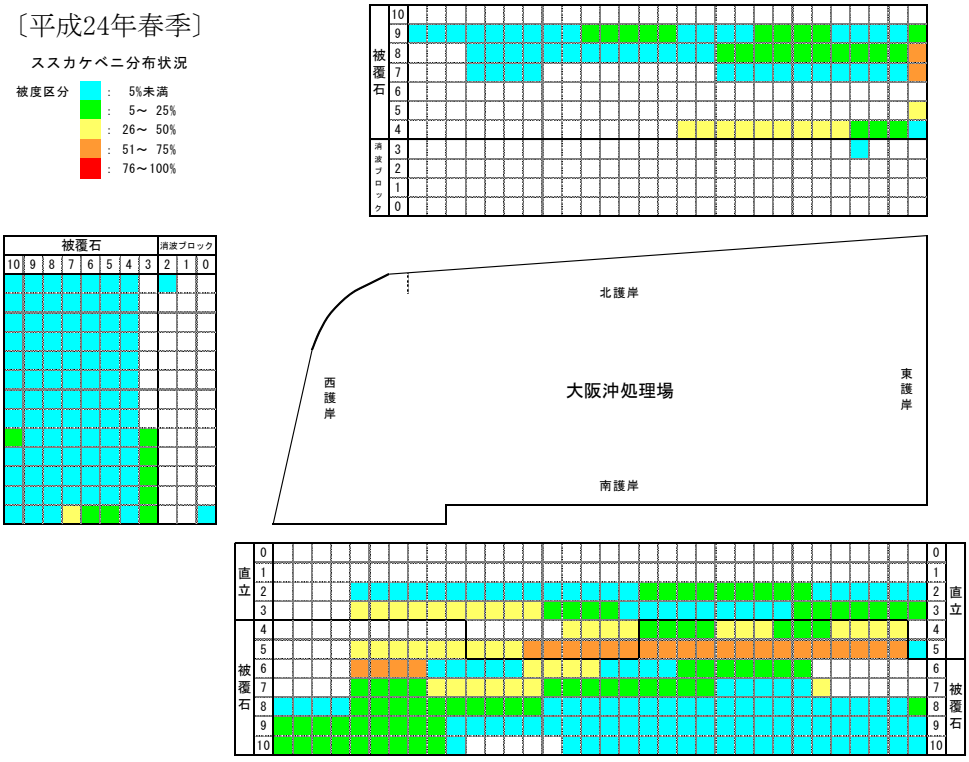


図 3-39（1）分布状況の推移　（ススカケベニ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



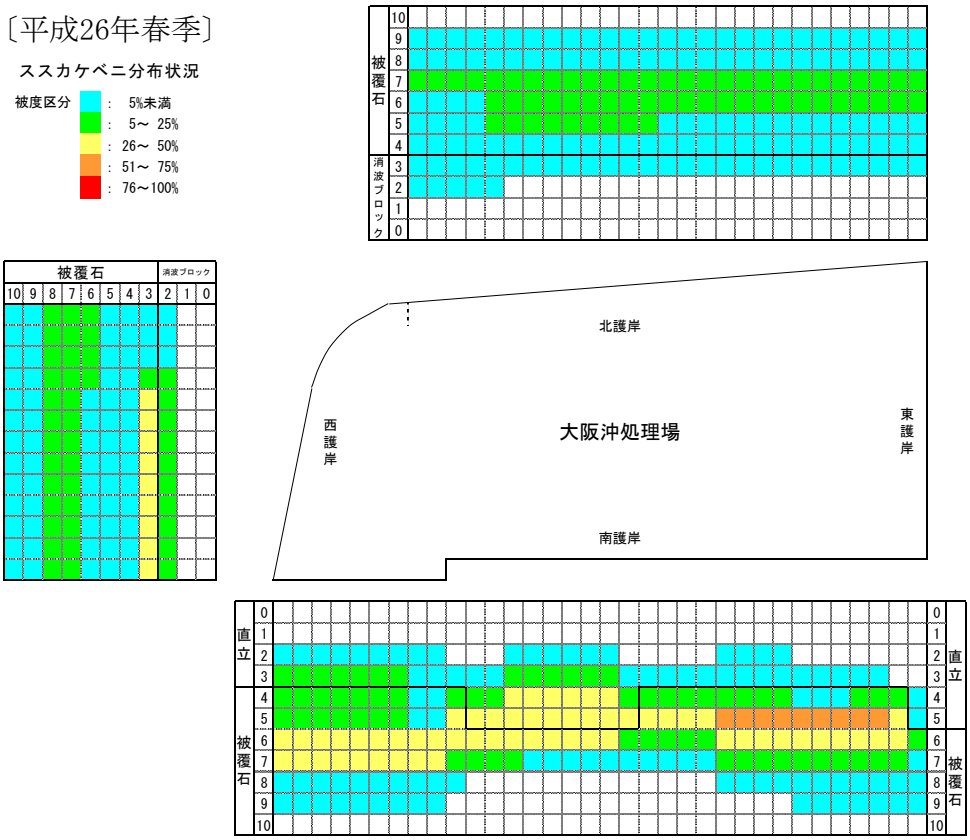
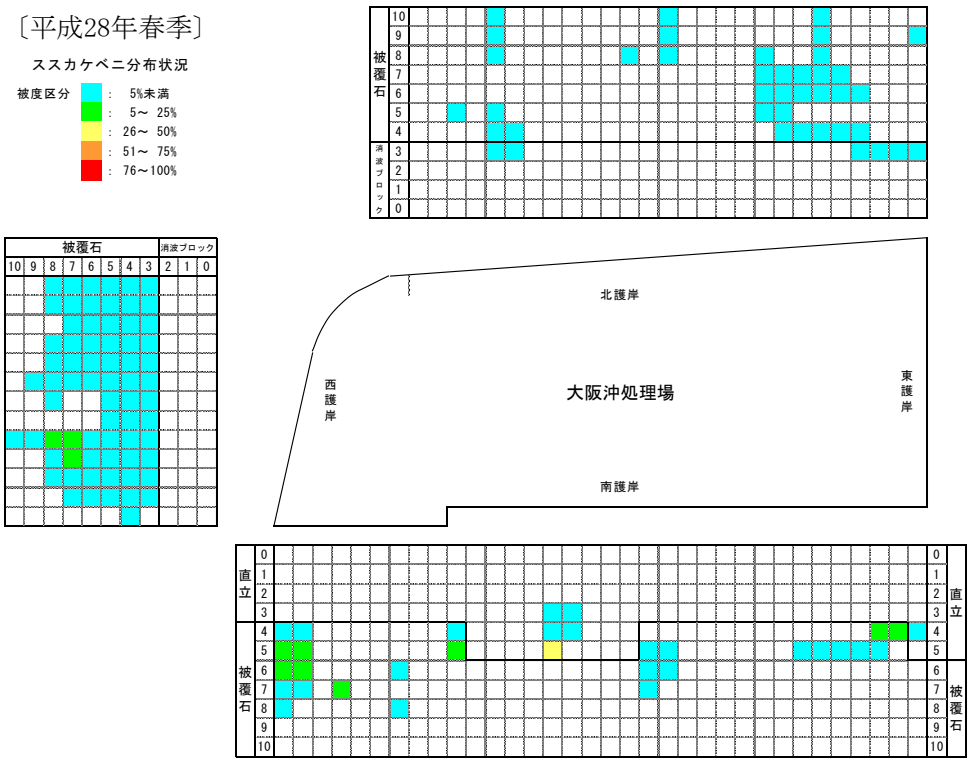


図 3-39（2）分布状況の推移　（ススカケベニ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



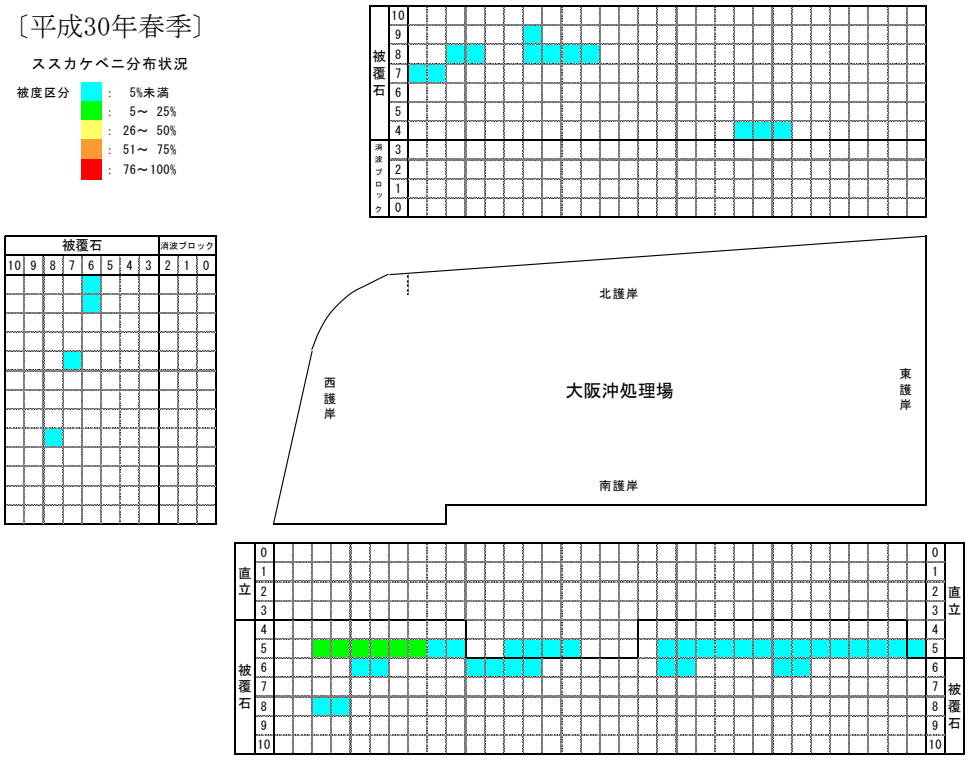
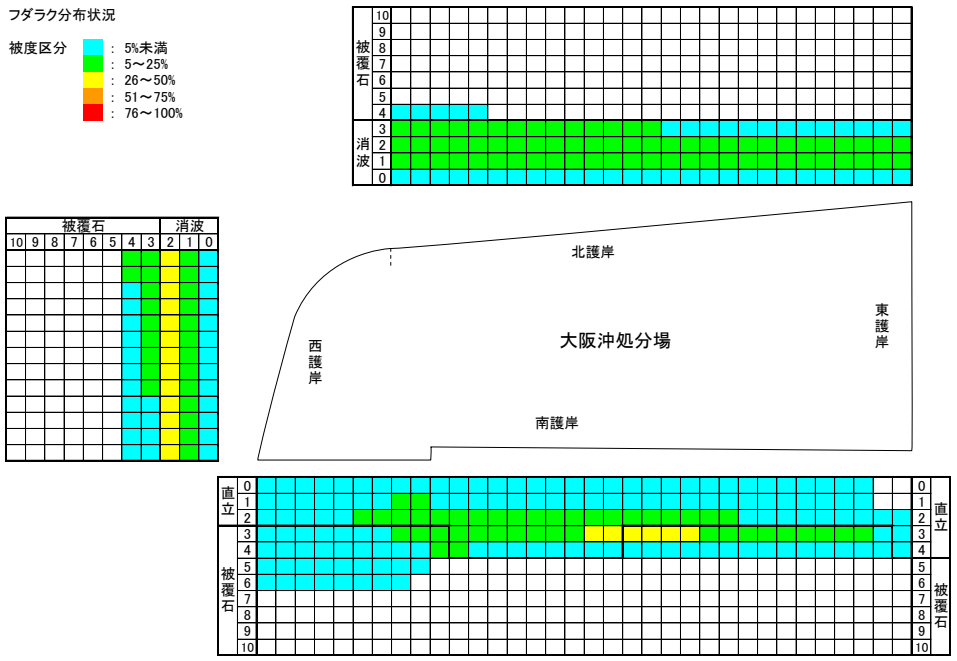


図 3-39（3）分布状況の推移　（ススカケベニ）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

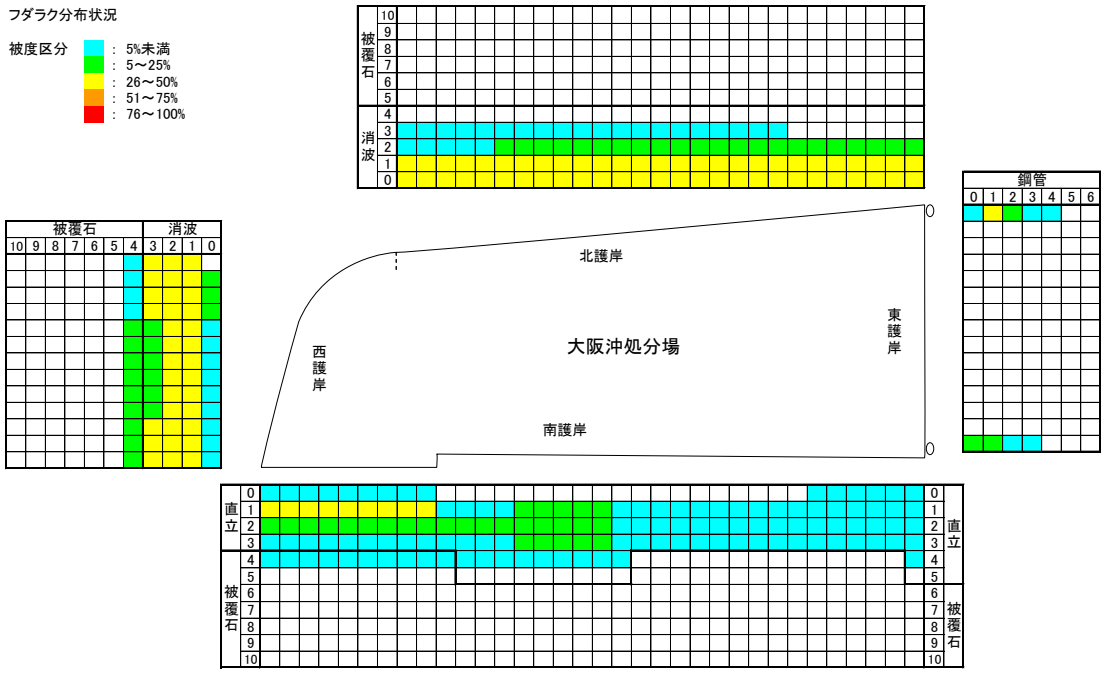
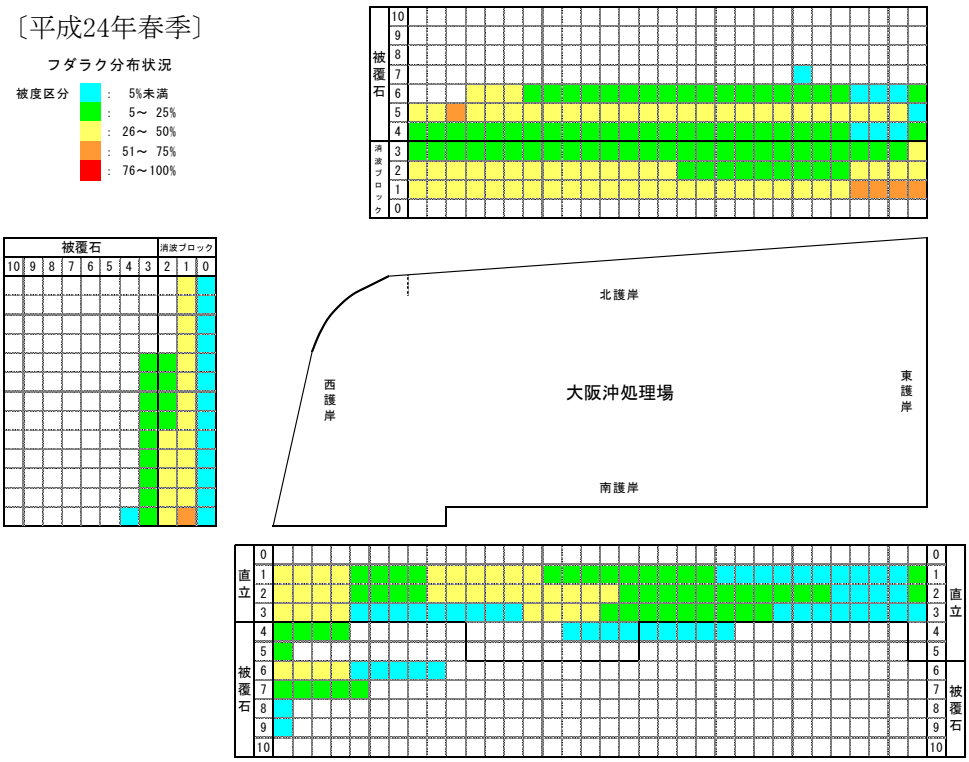


図 3-40（1）分布状況の推移　（フダラク）　大阪沖　平成 21～22 年度調査

〔平成24年春季〕



〔平成26年春季〕

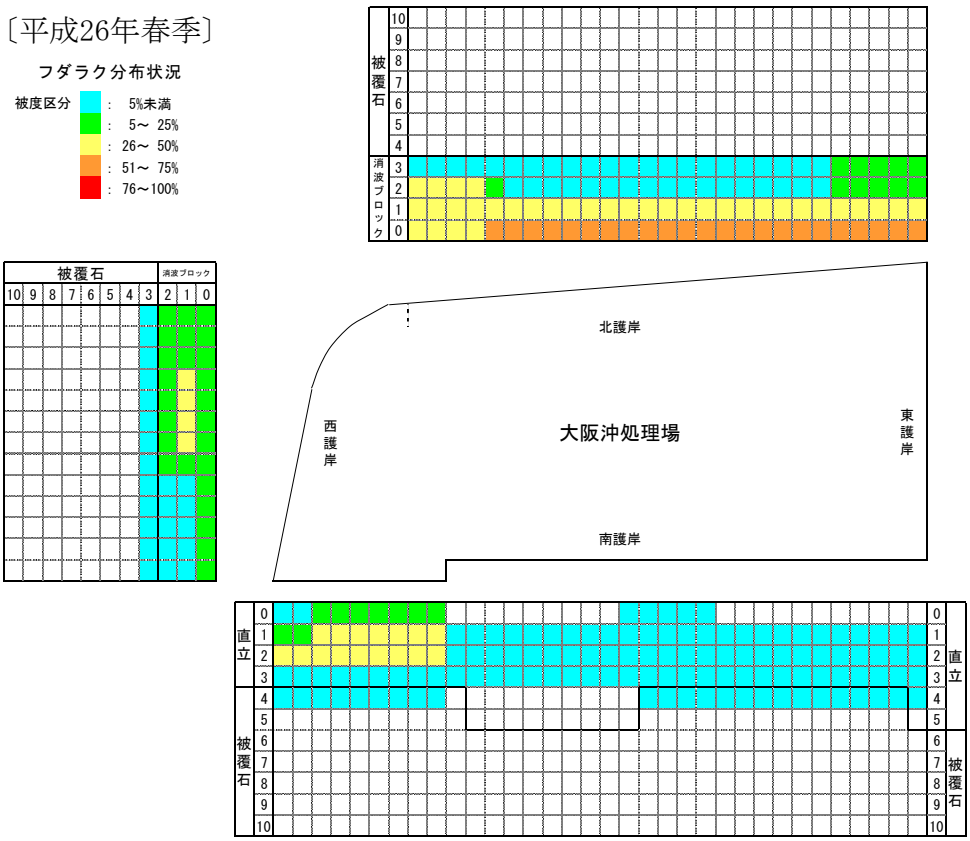
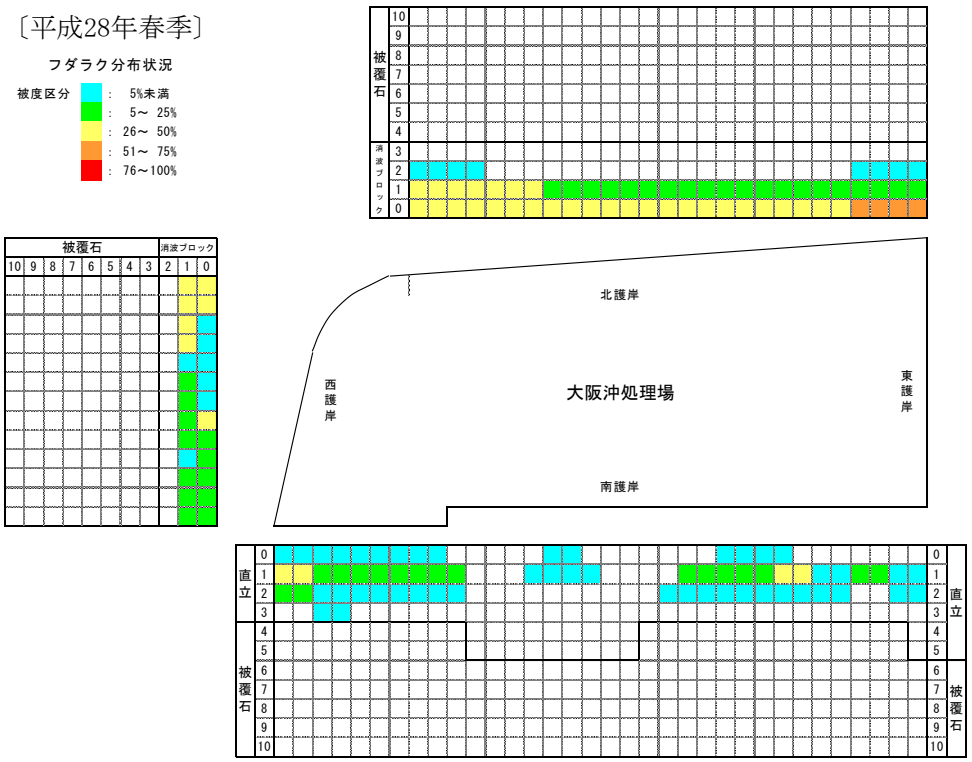


図 3-40（2）分布状況の推移　（フダラク）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



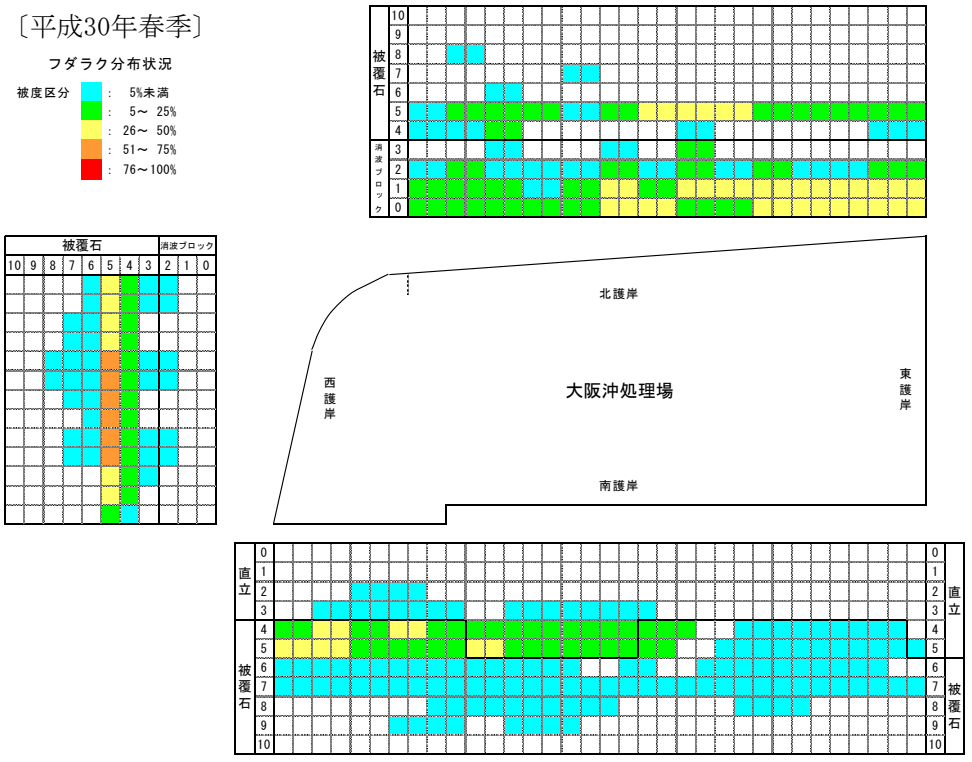
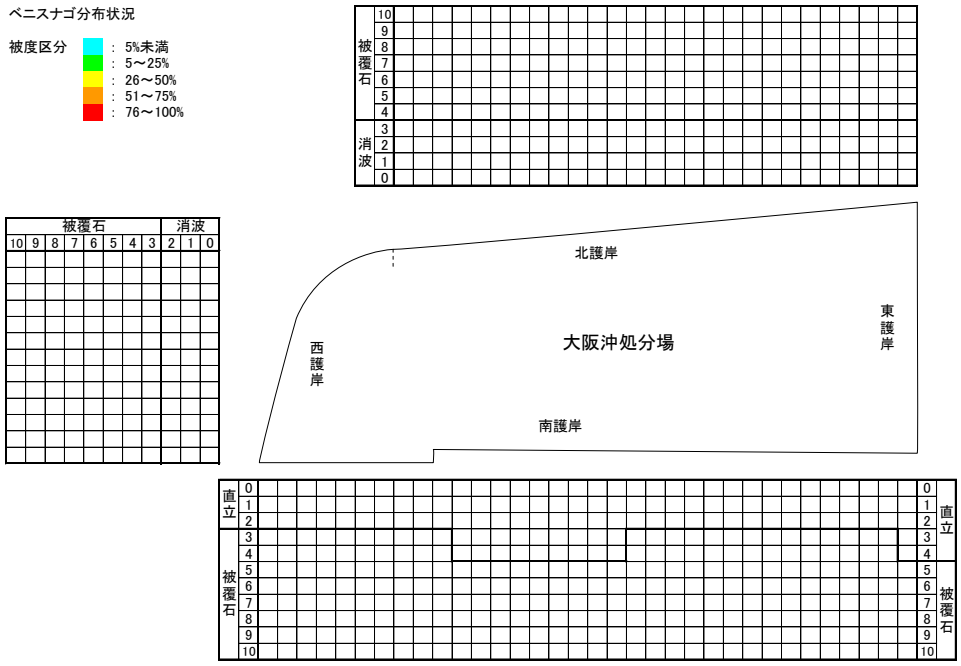


図 3-40（3）分布状況の推移　（フダラク）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

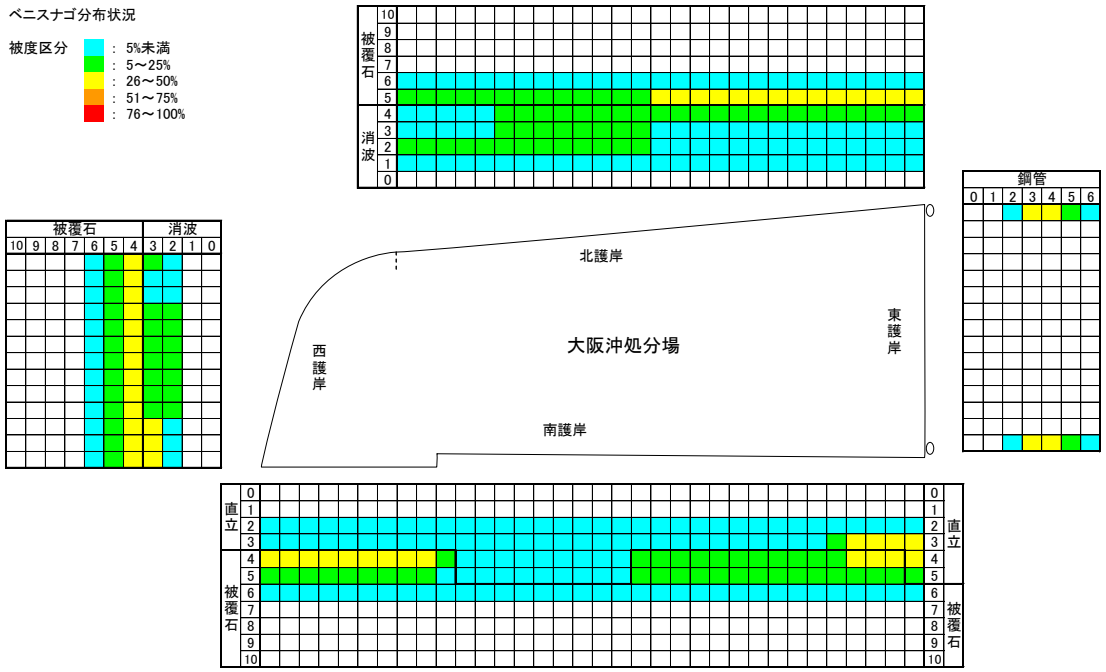
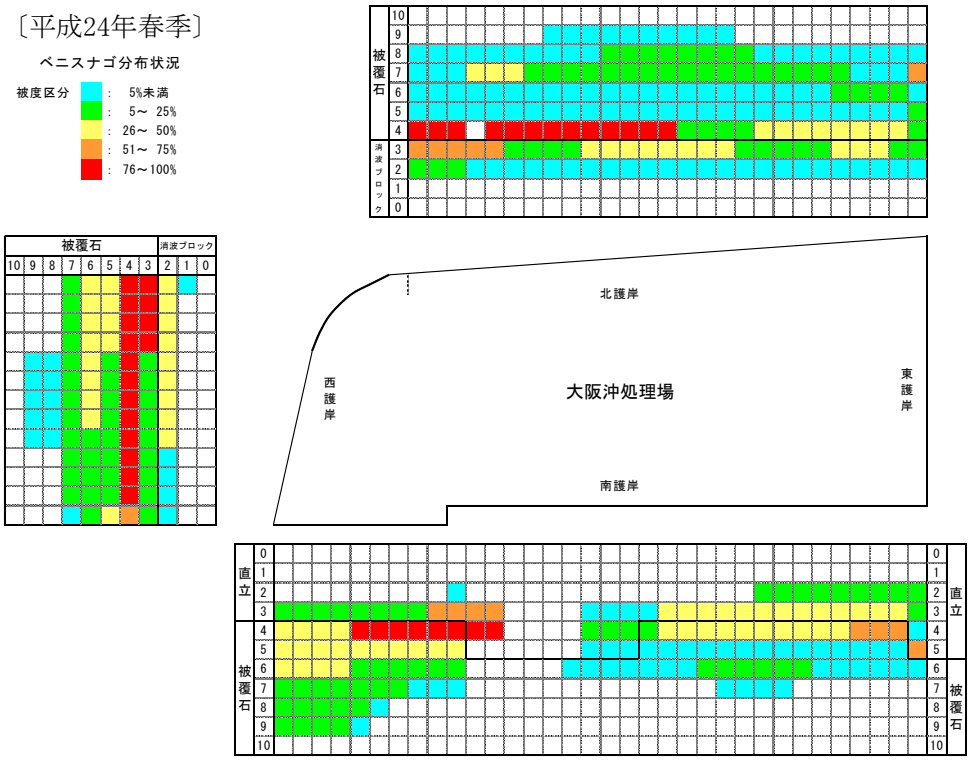


図 3-41（1）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



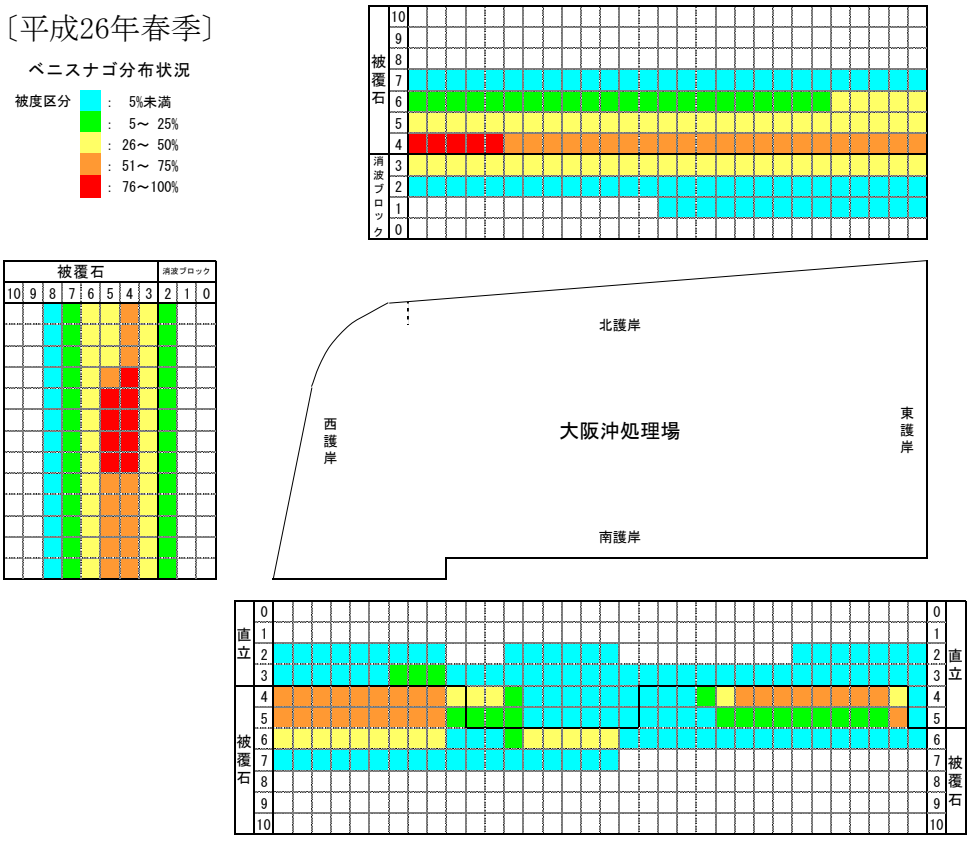
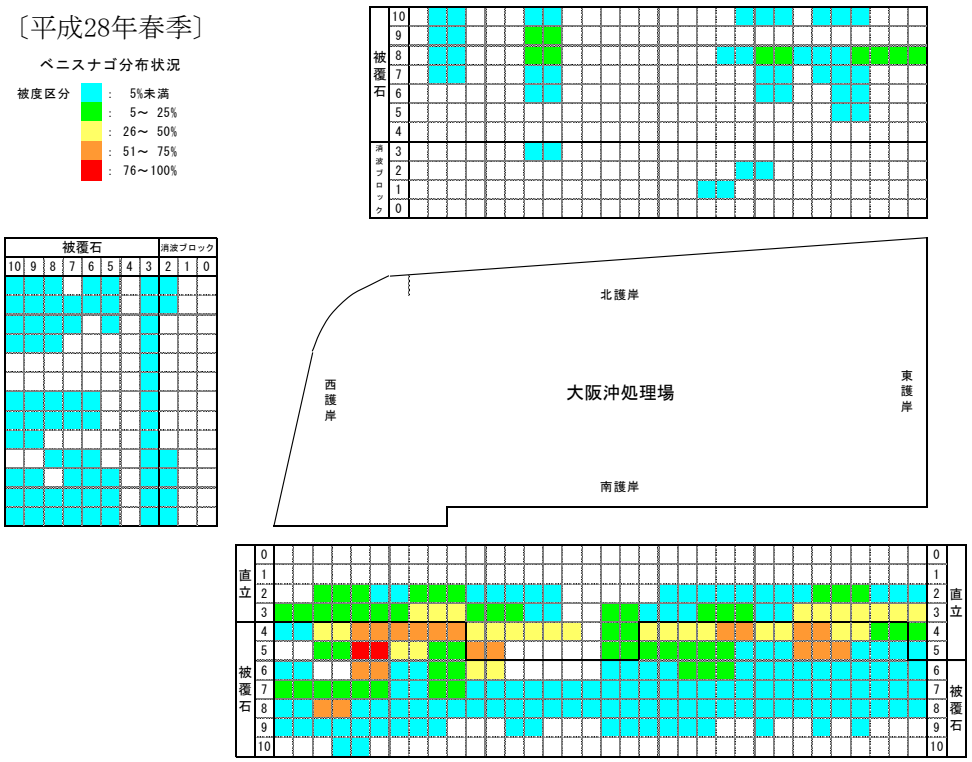


図 3-41（2）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



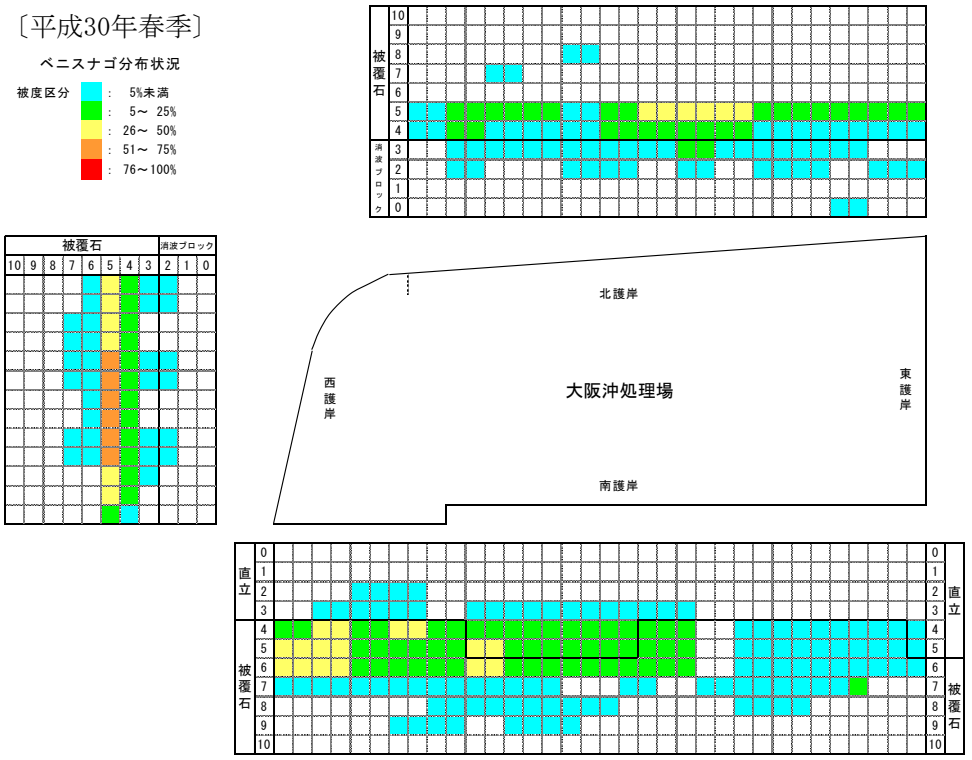
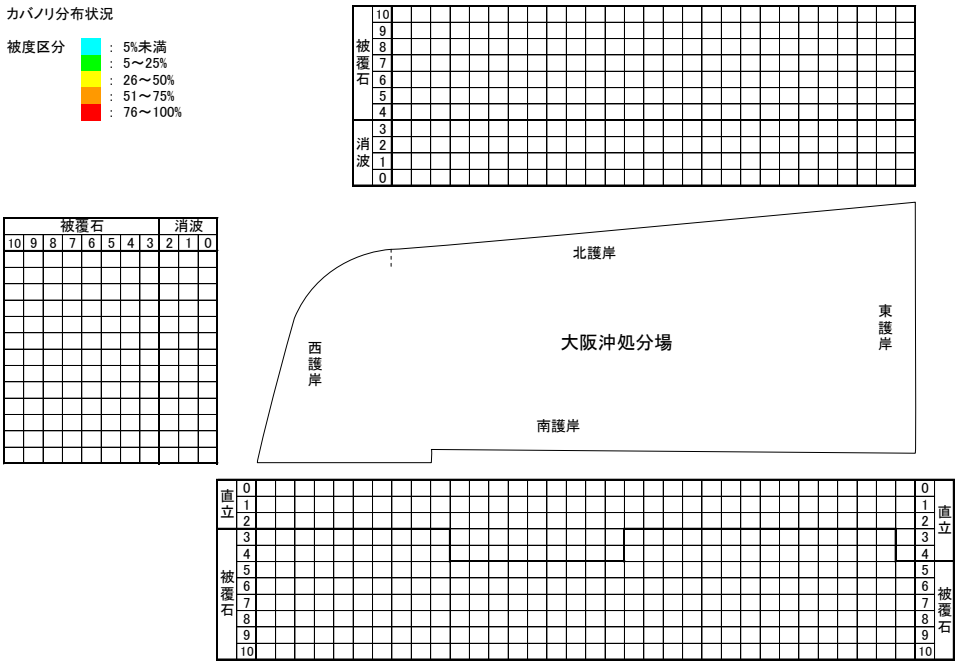


図 3-41（3）分布状況の推移　（ベニスナゴ）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

［平成 21 年春季］



［平成 22 年春季］

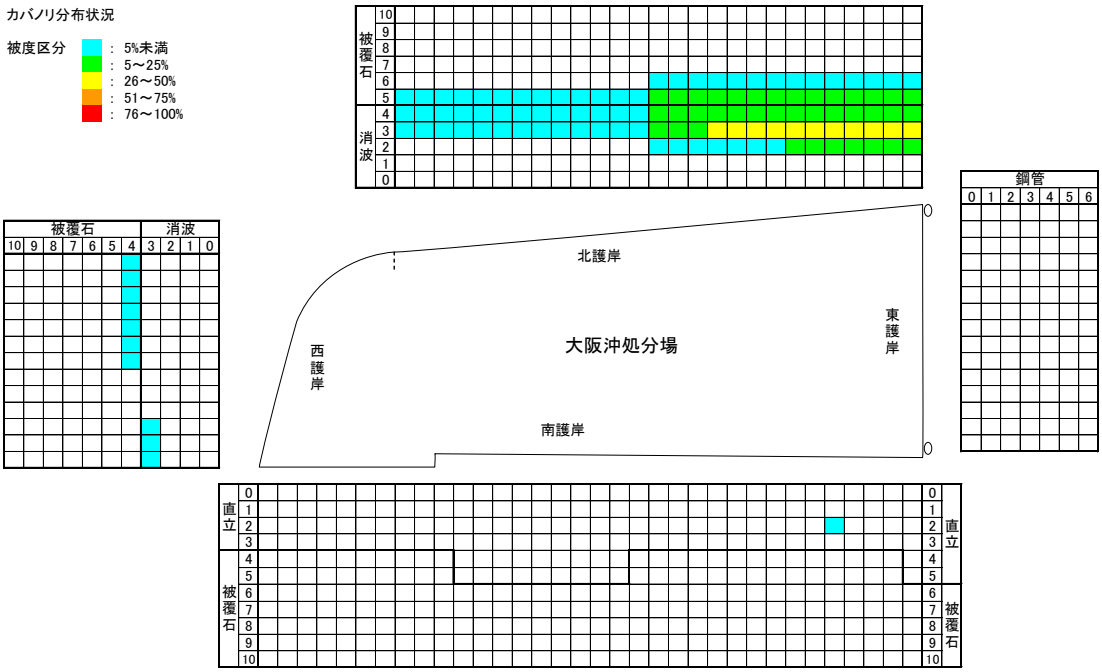
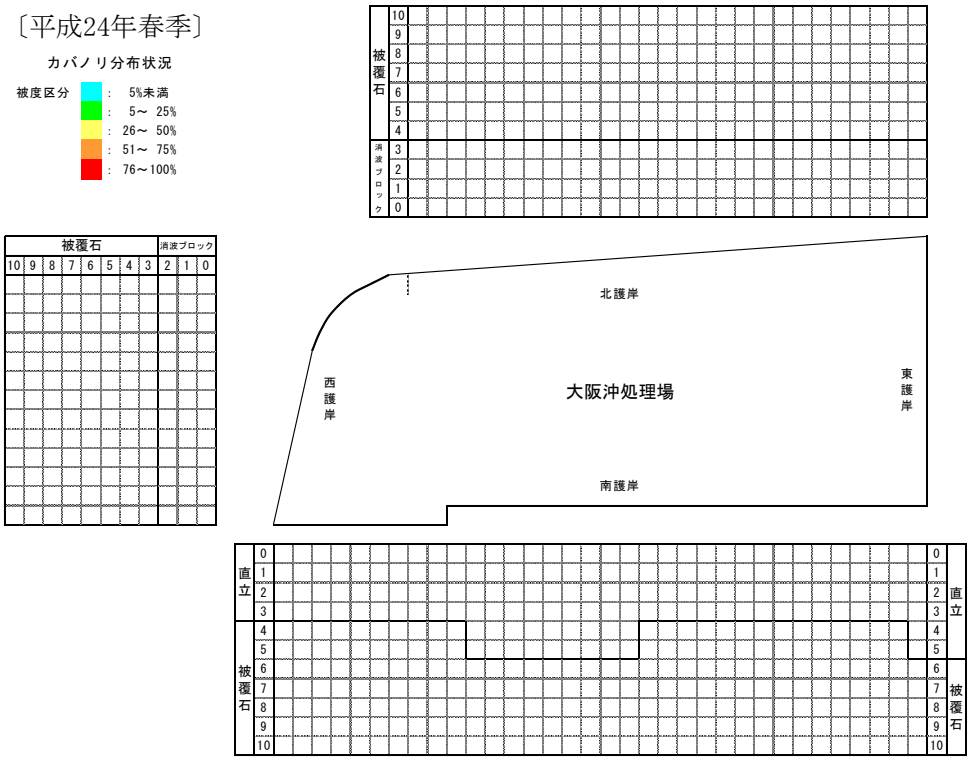


図 3-42（1）分布状況の推移　（カバノリ）　大阪沖　平成 21～22 年度調査



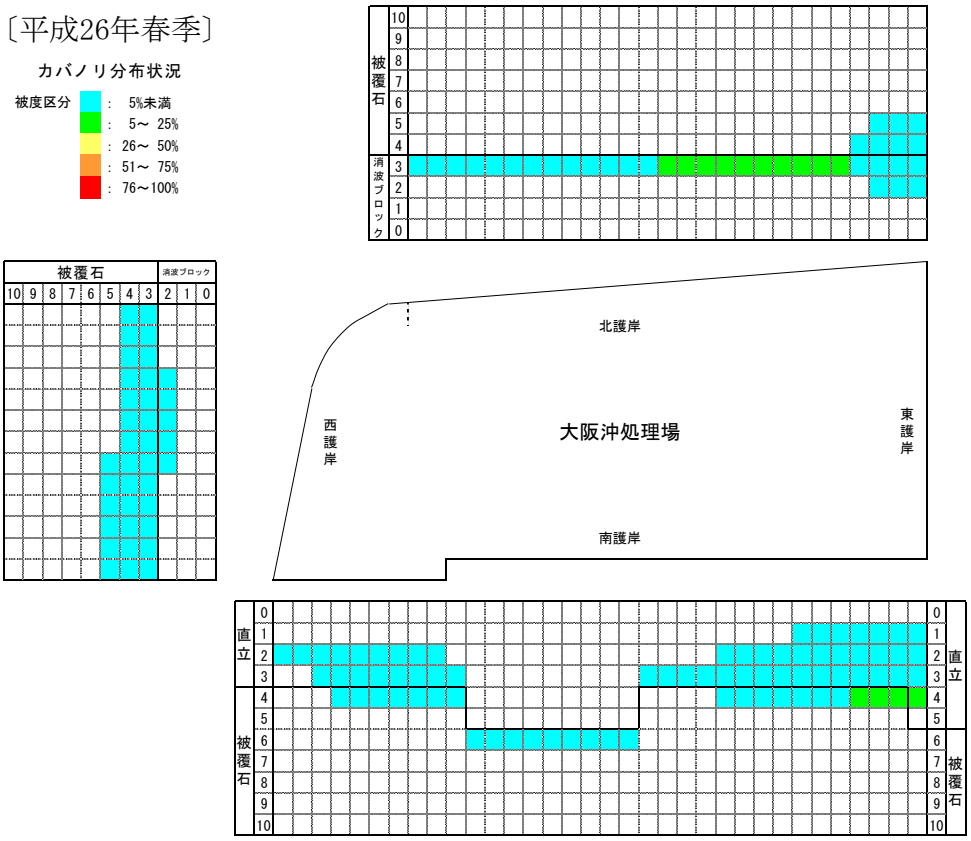
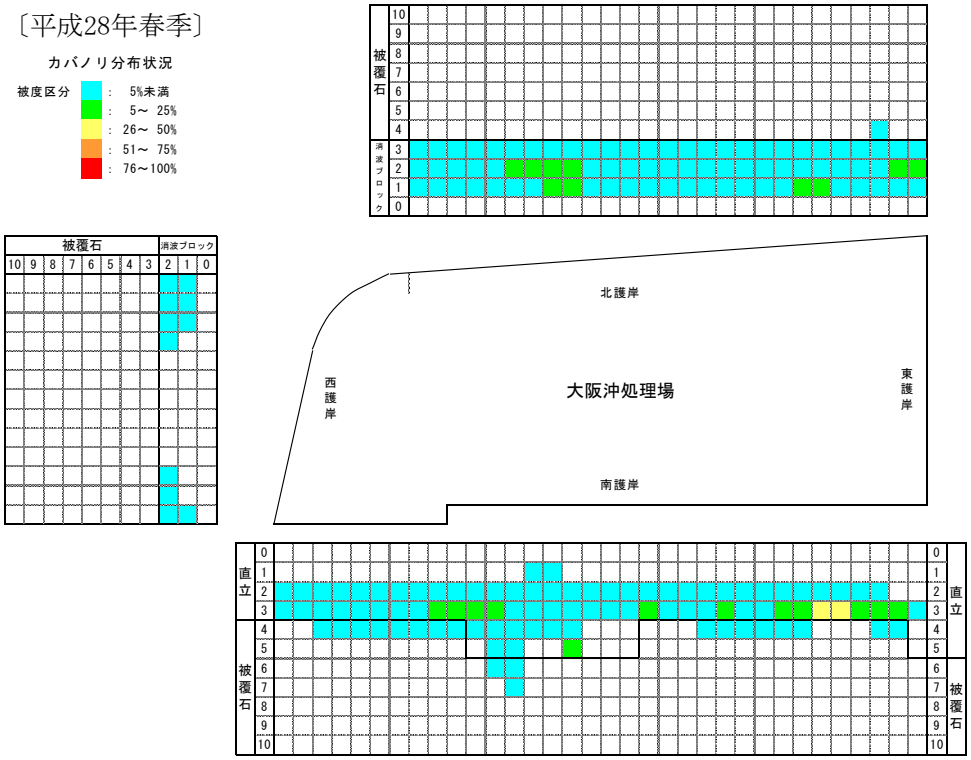


図 3-42（2）分布状況の推移　（カバノリ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



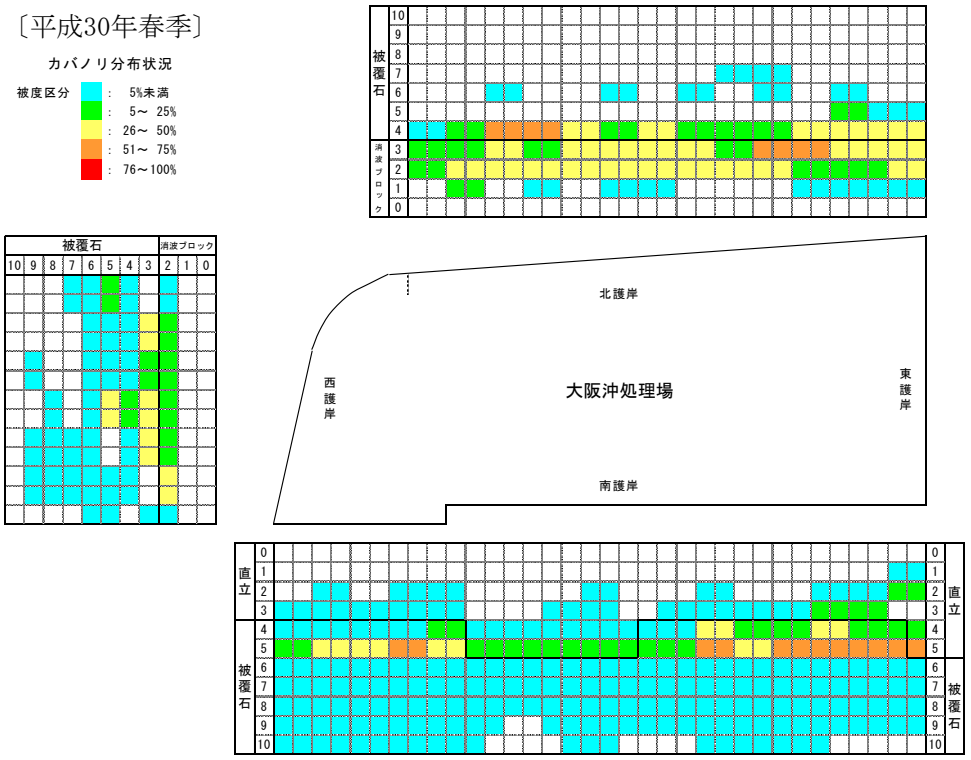
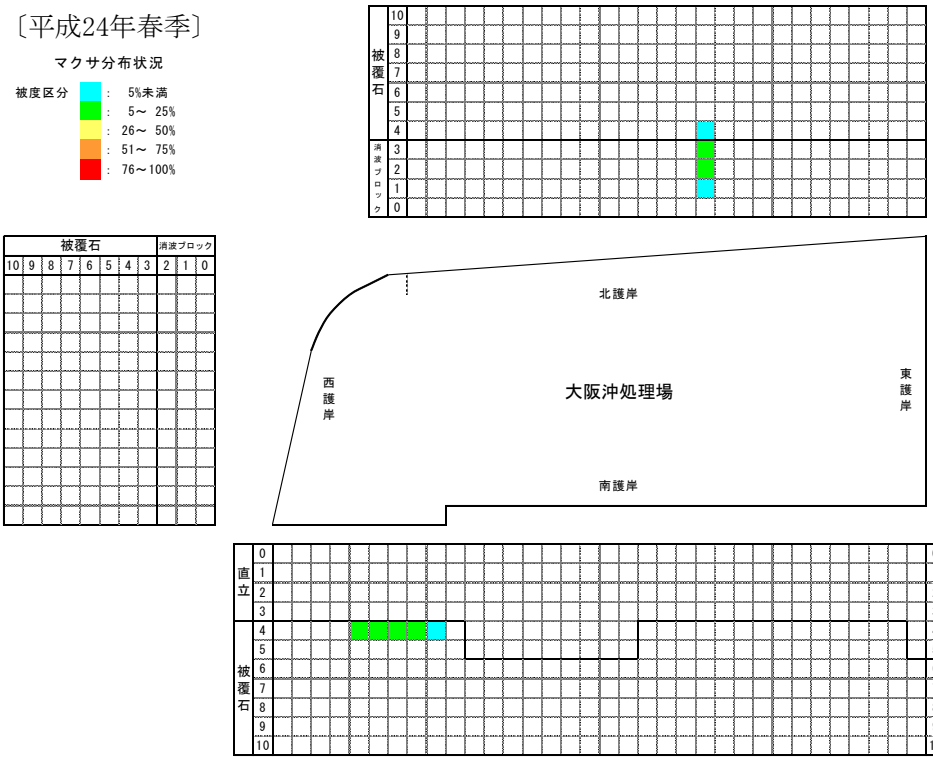
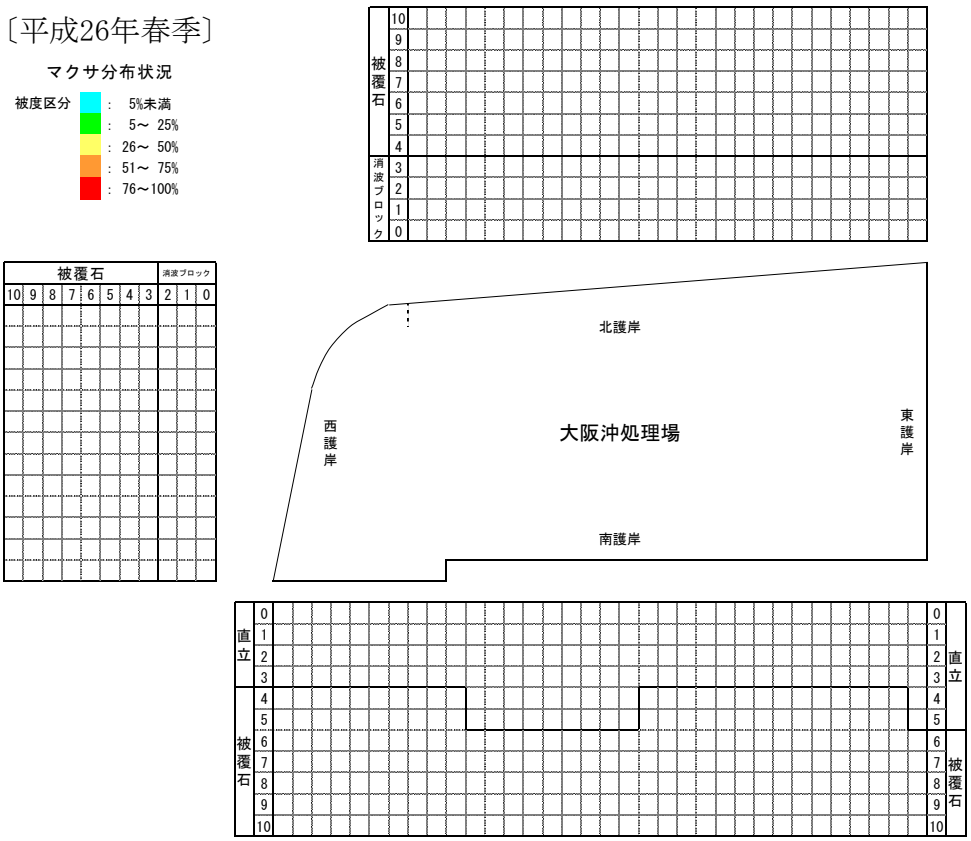


図 3-42（3）分布状況の推移　（カバノリ）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

〔平成24年春季〕

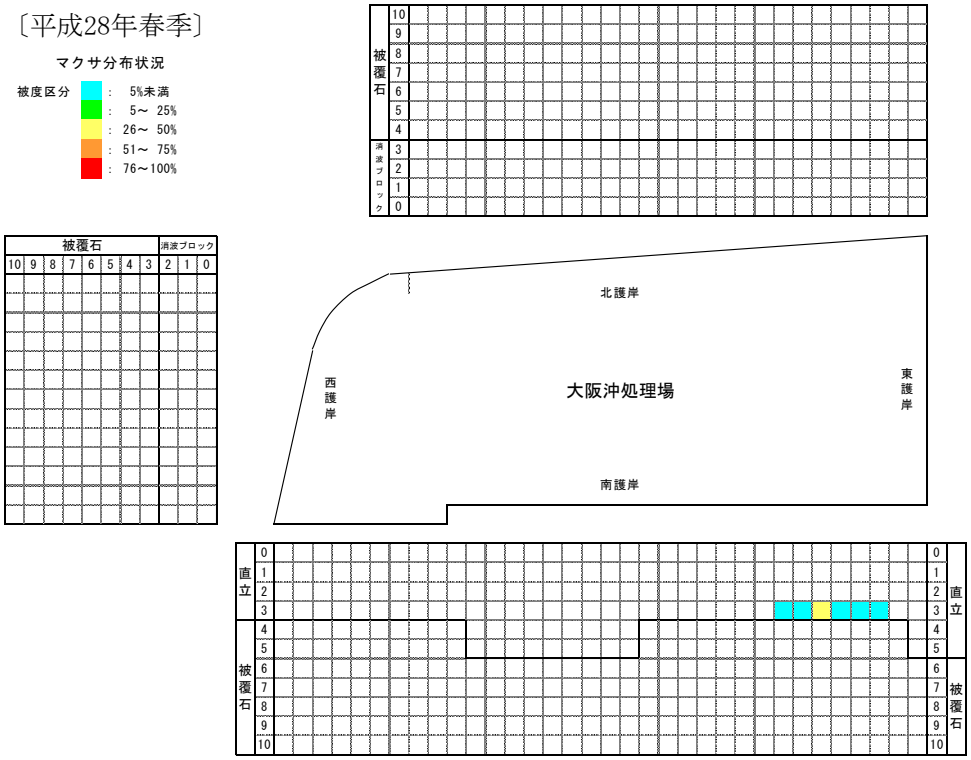


〔平成26年春季〕



※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-43（1）分布状況の推移　（マクサ）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



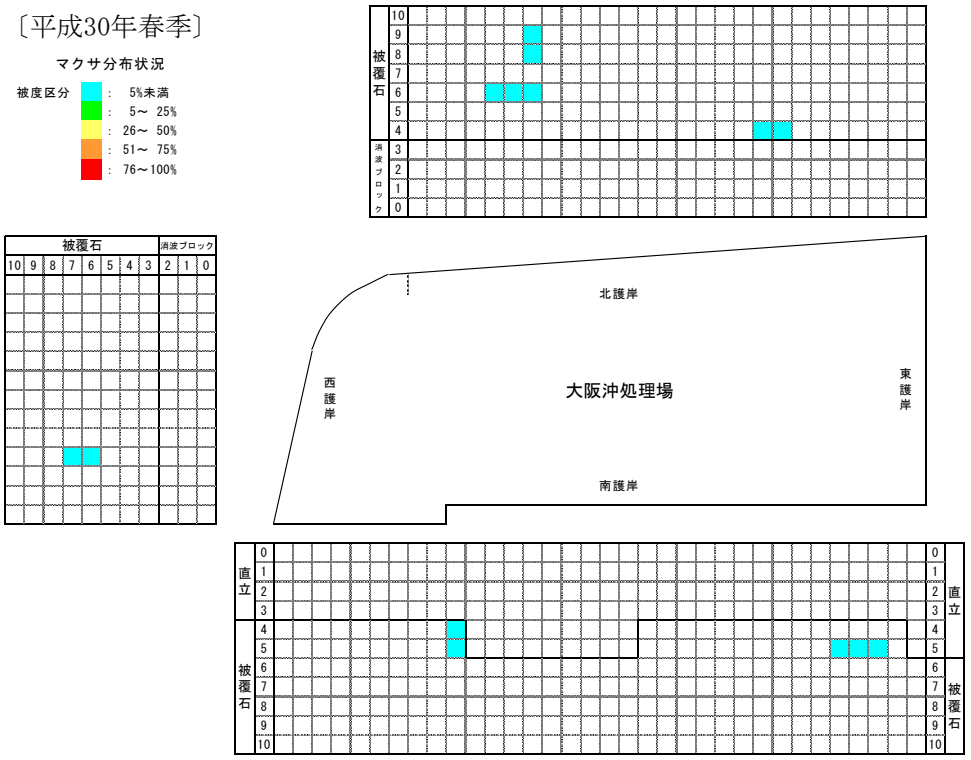
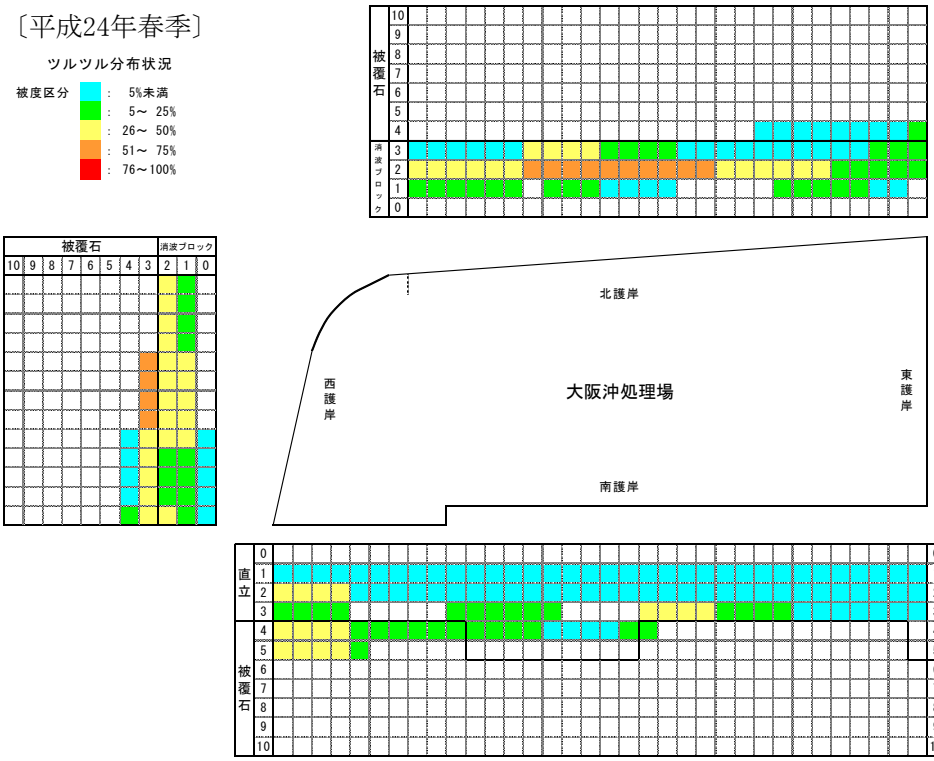
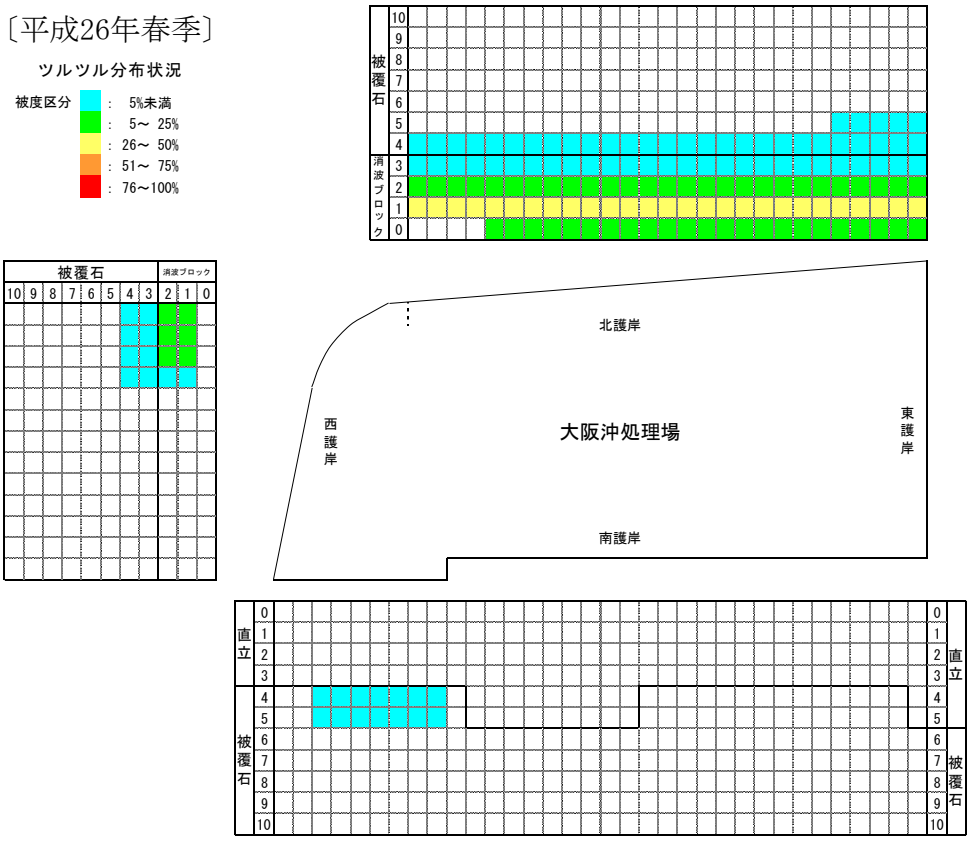


図 3-43（2）分布状況の推移　（マクサ）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

〔平成24年春季〕

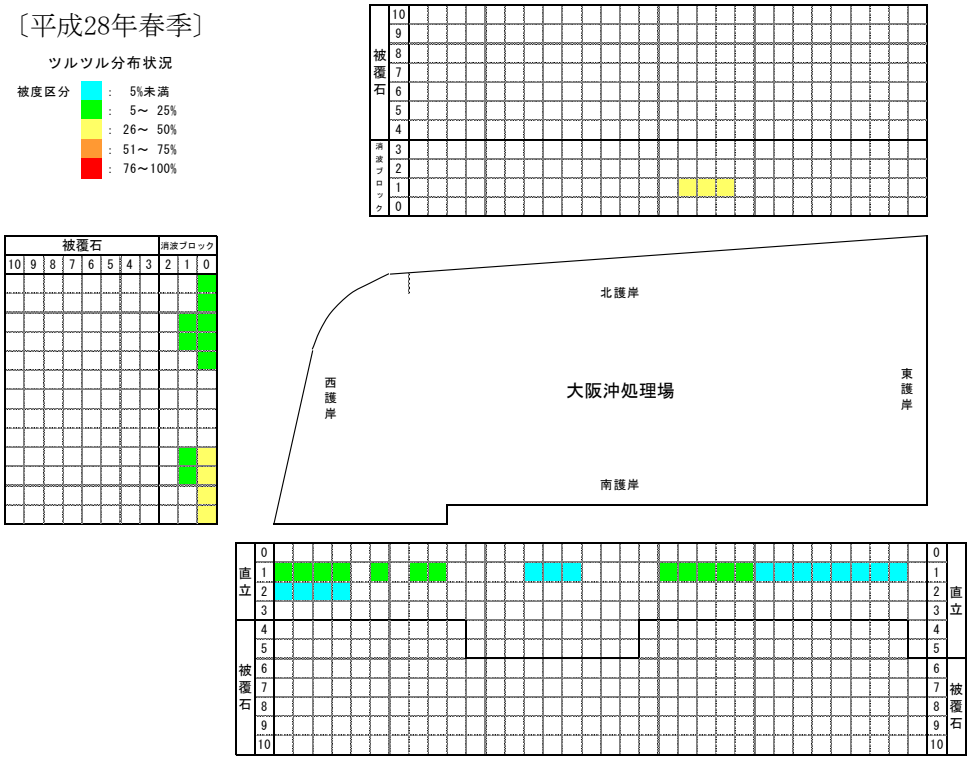


〔平成26年春季〕



※：平成 21～22 年度の調査では、目立った分布は確認されていない。

図 3-44（1）分布状況の推移　（ツルツル）　大阪沖　平成 24～26 年度調査



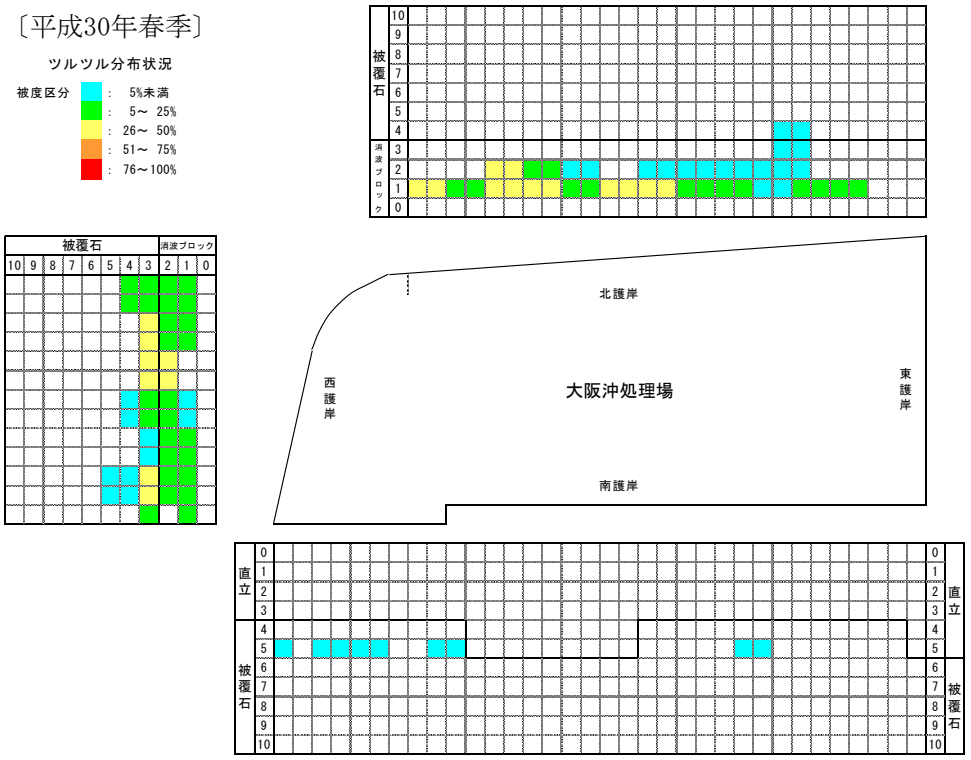


図 3-44（2）分布状況の推移　（ツルツル）　大阪沖　平成 28～30 年度調査

4 結果のまとめ

4-1 付着動植物の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

［ 植 物 ］

表 4-1 に神戸沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で緑藻のアオサ属が湿重量の 94%を占め、中層ではシダモク（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が 94%を占めていた。下層ではムカデノリが 95%を占め、紅藻類が優占する状況であった。

過年度の海藻の出現傾向は、平均水面付近（上層）の波当たりの大きい水深帯で緑藻のシオグサ属、アオサ属等の小型藻類が優占し、中層付近でワカメ、シダモク、タマハハキモク（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が出現し、下層でマクサやススカケベニやムカデノリなどの紅藻類が優占する帯状分布に大きな変化はみられなかった。

表 4-1　坪刈り調査結果概要（植物）　神戸沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
神戸沖 Ａ−２	平成22年 5月30日	出現種類数		11	13	12
		総湿重量 （g/0.25m^2）		28.96	130.83	202.92
		優占種	第1位	シオグサ属　43%	タマハハキモク 84%	マクサ　51%
			第2位	ツノマタ属　36%	イトグサ属　5%	カバノリ　22%
			第3位	アオサ属　18%	フダラク　4%	ススカケベニ　13%
	平成24年 5月26日	出現種類数		4	13	12
		総湿重量 （g/0.25m^2）		254.04	74.91	722.72
		優占種	第1位	アオサ属　99%	ムカデノリ　33%	ススカケベニ　55%
			第2位	シオグサ属　＜0.1%	タマハハキモク 30%	ベニスナゴ　26%
			第3位	アオノリ属　＜0.1%	イトグサ属　22%	マクサ　14%
	平成26年 6月1日	出現種類数		4	17	11
		総湿重量 （g/0.25m^2）		32.53	125.78	71.83
		優占種	第1位	アオサ属　100%	ムカデノリ　60%	マクサ　38%
			第2位	シオグサ属　0.1%	タマハハキモク 30%	ムカデノリ　27%
			第3位	アオノリ属　＜0.1% イソダンツウ　＜0.1%	フダラク　5%	カバノリ　24%
	平成28年 5月28日	出現種類数		6	14	14
		総湿重量 （g/0.25m^2）		93.09	159.32	4.7
		優占種	第1位	アオサ属　100%	ワカメ　87%	マクサ　79%
			第2位	シオグサ属　＜0.1%	マクサ　9%	イギス科　9%
			第3位	藍藻綱　＜0.1% マルバアマノリ　＜0.1% イソダンツウ　＜0.1% イギス科　＜0.1%	カバノリ　4%	カバノリ　7%
	平成30年 6月2日	出現種類数		7	14	10
		総湿重量 （g/0.25m^2）		142.41	58.48	16.44
		優占種	第1位	アオサ属　94%	シダモク　94%	ムカデノリ　95%
			第2位	シオグサ属　5%	フダラク　3%	ツノマタ属　3%
			第3位	アオノリ属　0.5%	ムカデノリ　1%	ヨツガサネ属　0.9%

［ 動 物 ］

表 4-2 に神戸沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）が個体数において 66%、湿重量において 75%で大半を占めていた。中層では、甲殻類のマルエラワレカラ（移動性）が個体数において 44%、湿重量において 18%で最優占していた。下層では、個体数においては環形動物の Cirratulus 属（移動性）が 39%、湿重量においては尋常海綿綱（固着性）が 24%を占め、優占していた。

これまでの調査と比較して、上層ではムラサキイガイの占める割合が高くなっており、中層～下層ではキヌマトイガイ（固着性）、環形動物（移動性）、微小甲殻類（移動性）、ヒトデ類（移動性）が優占している状況に大きな変化はみられないが、下層で尋常海綿綱が湿重量で最優占したことは、今までにない傾向である。

表 4-2　坪刈り調査結果概要（動物）　神戸沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
神戸沖 A−2	平成22年 5月30日	出現種類数		24	63	65
		総個体数 （個体/0.25m^2）		246	13662	3296
		総湿重量 （g/0.25m^2）		2.38	237.47	103.7
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 33%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 49%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 38%
			第2位	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属 18%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ 23%	ｵｻﾃﾜﾚｶﾗ 16%
			第3位	ﾕｽﾘｶ科幼虫 13%	キヌマトイガイ 11%	ムギガイ 13%
		優占種 （湿重量）	第1位	カラマツガイ 35%	イトマキヒトデ 34%	イトマキヒトデ 28%
			第2位	ムラサキイガイ 13%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ 32%	レイシガイ 23%
			第3位	チゴケムシ 13%	ムギガイ 9%	ムギガイ 17%
	平成24年 5月26日	出現種類数		20	37	48
		総個体数 （個体/0.25m^2）		2105	15472	7178
		総湿重量 （g/0.25m^2）		21.13	126.97	95.2
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 41%	キヌマトイガイ 50%	Zeuxo属 17%
			第2位	ﾕｽﾘｶ科幼虫 24%	Zeuxo属 33%	トゲワレカラ 17%
			第3位	タマキビ 7%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 4%	キヌマトイガイ 13%
		優占種 （湿重量）	第1位	カラマツガイ 34%	キヌマトイガイ 29%	イトマキヒトデ 28%
			第2位	マガキ 24%	レイシガイ 17%	キヌマトイガイ 11%
			第3位	ムラサキイガイ 18%	イトマキヒトデ 15%	レイシガイ 10%
	平成26年 6月1日	出現種類数		17	70	92
		総個体数 （個体/0.25m^2）		3401	5434	7175
		総湿重量 （g/0.25m^2）		72.14	45.32	64.2
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 91%	キヌマトイガイ 45%	Caprella属 22%
			第2位	ﾕｽﾘｶ科幼虫 3%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 15%	キヌマトイガイ 18%
			第3位	イワフジツボ 2%	トゲワレカラ 10%	Monocorophium属 11%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 88%	キヌマトイガイ 56%	キヌマトイガイ 27%
			第2位	マガキ 6%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 8%	キヒトデ 10%
			第3位	カラマツガイ 2%	ムギガイ 7%	Cirratulus属 9%
	平成28年 5月28日	出現種類数		24	43	41
		総個体数 （個体/0.25m^2）		21669	3197	503
		総湿重量 （g/0.25m^2）		265.77	117.25	11.47
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 98%	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科 52%	Aoroides属 45%
			第2位	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ 0.5%	Caprella属 15%	キヌマトイガイ 23%
			第3位	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ 0.3%	キヌマトイガイ 7%	ムギガイ 5%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 94%	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科 75%	イトマキヒトデ 40%
			第2位	イボニシ 4%	イトマキヒトデ 8%	イボニシ 13%
			第3位	ヒトツブゴカイ 1%	Thelepus属 4%	キヌマトイガイ 11%
	平成30年 6月2日	出現種類数		25	61	41
		総個体数 （個体/0.25m^2）		22706	5248	309
		総湿重量 （g/0.25m^2）		608.77	35.79	35.68
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 66%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 44%	Cirratulus属 39%
			第2位	イワフジツボ 18%	クマノアシツキ 17%	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科 11%
			第3位	ホトトギスガイ 5%	Caprella属 7%	クマノアシツキ 7%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 75%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 18%	尋常海綿綱 24%
			第2位	イワフジツボ 18%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 11%	Cirratulus属 22%
			第3位	ヒトツブゴカイ 3%	キヒトデ 9%	キヒトデ 16%

・目視観察による調査結果

［ 植 物 ］

表 4-3 に神戸沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

A-2 の地点では、平均水面付近の主要種は経年的にアオサ属、アオノリ属などの小型の緑藻類であった。また、-1m 以深ではマクサ、ススカケベニ、ツルツル、カバノリ、イギス目などの紅藻、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるタマハハキモクが多くみられた。今回の調査では-3m においてシダモク（藻場を構成する一年生の大形褐藻類）が主要種となっていた。

A-4 の地点のこれまでの調査では、平均水面付近の主要種は緑藻のアオサ属やシオグサ属などであった。また、-1m 以深ではススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴ、カバノリ、イギス目などの紅藻、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるワカメやタマハハキモクが多くみられた。今回の調査では、-2～-3m でワカメが主要種となっていた。

A-5 の地点では、これまでの調査では-1m 付近でアオサ属が確認され、-2m 以深でベニスナゴ、サビ亜科、イギス目などの紅藻が多くみられた。今回の調査では、-6m 付近でイギス目が主要種となっていた。

表 4-3　目視調査結果概要（植物）　神戸沖埋立処分場

A－2	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	藍藻綱	アオサ属 珪藻綱	タマハハキモク ツルツル フダラク	ムカデノリ属 イギス科 マクサ ベニスナゴ	シダモク イギス科 マクサ ベニスナゴ	マクサ ベニスナゴ カバノリ	イギス科 マクサ カバノリ ススカケベニ	イギス科 タオヤギソウ ススカケベニ	イギス科 ススカケベニ	−	−	−	−
	平成24年5月26日	アオノリ属	アオサ属	タマハハキモク	ツルツル イギス目	ツルツル	マクサ ススカケベニ ベニスナゴ	マクサ ススカケベニ ベニスナゴ	マクサ タオヤギソウ	−	イギス目	−	−	−
	平成26年6月1日	−	アオサ属	−	タマハハキモク ムカデノリ カバノリ	タマハハキモク マクサ カバノリ	タマハハキモク マクサ	ムカデノリ イトグサ属	イトグサ属	−	−	−	−	−
	平成28年5月28日	−	アオサ属	−	−	イギス目	イギス目	イギス目	イギス目	−	−	−	−	−
	平成30年6月2日	−	アオサ属	−	−	シダモク	−	−	−	−	−	−	−	−
種類数	平成22年5月30日	2	6	8	8	7	8	7	6	3	2	1	0	−
	平成24年5月26日	1	8	11	10	8	6	5	8	7	3	1	2	−
	平成26年6月1日	1	2	7	10	9	7	7	6	4	1	2	1	0
	平成28年5月28日	2	3	6	9	7	8	6	6	4	1	1	1	−
	平成30年6月2日	2	3	8	12	10	6	5	4	4	2	2	1	−

A－4	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ砂泥	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	−	シオグサ属 ツノマタ属 フダラク	シオグサ属 フダラク	アオサ属 タマハハキモク フダラク	アオサ属 フダラク ベニスナゴ イギス科 カバノリ	ベニスナゴ イギス科	ベニスナゴ サンゴモ目 ススカケベニ	サンゴモ目 ススカケベニ	ススカケベニ	−	−	−	−
	平成24年5月26日	−	アオサ属	ツルツル	ツルツル イギス目	ツルツル カバノリ イギス目	フダラク ベニスナゴ カバノリ イギス目	ススカケベニ ベニスナゴ カバノリ イギス目	ススカケベニ カバノリ イギス目	ススカケベニ カバノリ イギス目	ススカケベニ イギス目	−	−	−
	平成26年6月1日	−	−	フダラク	アオサ属 タマハハキモク フダラク ツノマタ	ワカメ タマハハキモク カバノリ	ワカメ タマハハキモク カバノリ	−	マクサ	−	−	−	−	−
	平成28年5月28日	−	アオサ属	−	−	−	カバノリ イギス目	イギス目	イギス目	イギス目	−	−	−	−
	平成30年6月2日	−	−	−	ワカメ	ワカメ	−	−	−	−	−	−	−	−
種類数	平成22年5月30日	0	5	7	11	11	6	6	5	2	2	0	0	−
	平成24年5月26日	0	5	8	9	8	12	6	5	5	5	1	0	−
	平成26年6月1日	0	2	5	9	8	7	11	6	4	4	2	2	1
	平成28年5月28日	0	5	6	7	6	4	3	5	4	4	1	0	−
	平成30年6月2日	0	3	8	6	6	6	5	4	3	3	1	0	−

A－5	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	−	アオノリ属 珪藻綱	アオサ属 珪藻綱	アオサ属 シオグサ属	−	サンゴモ目 イワノカワ科	サンゴモ目	サンゴモ目	サンゴモ目	サンゴモ目	−	−	−
	平成24年5月26日	−	−	アオサ属	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	ベニスナゴ イギス目	ベニスナゴ イギス目	イギス目	イギス目	−	−
	平成26年6月1日	−	−	アオサ属 フダラク	ベニスナゴ	ベニスナゴ	シダモク サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科	サビ亜科	ススカケベニ	−
	平成28年5月28日	−	−	−	イギス目	イギス目	イギス目	−	−	−	−	−	−	−
	平成30年6月2日	−	−	−	−	−	−	−	イギス目	−	−	−	−	−
種類数	平成22年5月30日	0	3	7	5	2	4	3	2	3	2	1	0	−
	平成24年5月26日	0	0	5	6	5	6	6	8	7	4	3	4	0
	平成26年6月1日	0	0	6	3	6	8	8	6	5	3	3	2	0
	平成28年5月28日	0	0	2	4	4	3	4	4	2	2	2	2	0
	平成30年6月2日	0	0	4	7	8	9	5	4	2	2	2	2	0

※主要種：観察時の出現被度が 10%以上の種を抽出

［ 動 物 ］

表 4-4 に神戸沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

A-2 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m で、主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝のタマキビ、アラレタマキビ（移動性）が多くみられた。平均水面以深では二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）や環形動物のカンザシゴカイ科（固着性）が多く出現した。今回の調査も同様の傾向であるが、これまでの調査と比較して、カンザシゴカイ科があまりみられなかった。

A-4 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でタマキビ、アラレタマキビやイワフジツボ（固着性）が多くみられた。平均水面付近では巻貝類のイボニシ、キクノハナガイ（移動性）や二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）が、平均水面以深では巻貝類のレイシガイ（移動性）やカンザシゴカイ科やキヒトデ（移動性）が多く出現した。今回の調査では、アラレタマキビ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向をを示していた。

A-5 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でタマキビ、アラレタマキビが多くみられた。平均水面付近ではイワフジツボやムラサキイガイが、平均水面以深ではレイシガイ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、キヒトデが多くみられた。今回の調査では、アラレタマキビ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向をを示していた。

表 4-4　目視調査結果概要（動物）　神戸沖埋立処分場

A－2	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	アラレタマキビ	−	カンザシゴカイ科 レイシガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ	−	−	−
	平成24年5月26日	タマキビ アラレタマキビ	イボニシ カラマツガイ	イボニシ	イボニシ	イボニシ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	ムギガイ カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	キヒトデ	イトマキヒトデ	−	イトマキヒトデ	−	キヒトデ	−
	平成26年6月1日	アラレタマキビ	カラマツガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	−	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	苔虫綱	−	キヒトデ	−	−	−	−
	平成28年5月28日	タマキビ アラレタマキビ	ムラサキイガイ	−	−	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科	−	−	−	−	−	−	−
	平成30年6月2日	タマキビ アラレタマキビ	ムラサキイガイ	キヒトデ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
種類数	平成22年5月30日	2	7	5	3	4	4	4	5	3	1	2	0	−
	平成24年5月26日	4	4	5	4	4	11	7	11	6	4	4	3	−
	平成26年6月1日	3	5	5	6	7	7	8	6	5	5	4	5	0
	平成28年5月28日	3	5	6	4	5	6	9	9	4	3	2	0	−
	平成30年6月2日	3	5	5	6	7	8	9	5	4	5	2	1	−

A－4	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ砂泥	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	アラレタマキビ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 イボニシ	ﾈｺﾞﾚｲｿﾎﾞﾝﾈｯｸ カンザシゴカイ科 コケムシ綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	−	キヒトデ	キヒトデ	−	−	−	−
	平成24年5月26日	タマキビ アラレタマキビ イワフジツボ	レイシガイ イボニシ キクノハナガイ	レイシガイ ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	カンザシゴカイ科 キヒトデ	カンザシゴカイ科	レイシガイ ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科	−	レイシガイ	−	キヒトデ	イトマキヒトデ	−	−
	平成26年6月1日	タマキビ アラレタマキビ	キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	海綿動物門 カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	−	−	−	−	−	−	−	−
	平成28年5月28日	アラレタマキビ	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ ムラサキイガイ イタボガキ科	レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 キヒトデ	裸鰓目 キヒトデ	−	キヒトデ	−	−	−	−	−
	平成30年6月2日	アラレタマキビ	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ カラマツガイ ムラサキイガイ	ムラサキイガイ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	−	−	−	−	−
種類数	平成22年5月30日	2	8	7	5	3	5	1	2	1	0	0	1	−
	平成24年5月26日	4	5	9	9	6	9	11	7	7	4	4	1	−
	平成26年6月1日	3	8	6	7	8	8	5	4	4	2	2	1	1
	平成28年5月28日	2	7	7	7	11	10	8	7	7	4	4	2	−
	平成30年6月2日	2	8	6	8	9	8	9	7	5	6	4	2	−

A－5	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫小礫	大礫巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月30日	タマキビ アラレタマキビ	−	レイシガイ イトマキヒトデ	レイシガイ ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ イトマキヒトデ	キヒトデ イトマキヒトデ	キヒトデ	−	キヒトデ	−	−	−	−
	平成24年5月26日	−	イワフジツボ クロフジツボ	レイシガイ ｶﾝｻﾞｲｺﾞｶｲ科 イトマキヒトデ	レイシガイ サンカクフジツボ イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 サンカクフジツボ イトマキヒトデ	サンカクフジツボ イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	サンカクフジツボ	カゴメガイ イトマキヒトデ キヒトデ	イトマキヒトデ	キヒトデ	−	−
	平成26年6月1日	アラレタマキビ	ヨメガカサガイ ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ カラマツガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	苔虫綱	カンザシゴカイ科 イトマキヒトデ	−	キヒトデ	−	−	−	−	−
	平成28年5月28日	アラレタマキビ	レイシガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	キヒトデ イトマキヒトデ	マナマコ	−	−	−	−	−	−
	平成30年6月2日	−	アラレタマキビ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムラサキイガイ	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	−	キヒトデ	−	−	−	苔虫綱	−	−
種類数	平成22年5月30日	4	6	5	3	6	6	6	4	5	2	1	0	−
	平成24年5月26日	1	5	7	9	8	5	5	5	8	8	5	6	0
	平成26年6月1日	1	9	8	12	13	13	13	13	10	6	6	6	1
	平成28年5月28日	2	7	8	9	12	9	10	6	6	7	7	5	0
	平成30年6月2日	0	6	5	8	10	8	6	8	7	7	7	4	0

※主要種：観察時の個体数が 3 個体以上または出現被度が 10%以上の種を抽出

(2) 大阪沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

［ 植 物 ］

表 4-5 に大阪沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層ではフダラクが 66%次いでツルツルが 21%と、紅藻類が優占していた。中層ではワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が 76%を占め、下層でもワカメが 67%を占め、最優占していた。

これまでの調査と比較すると、上層では前回以前の緑藻のアオサ属など小型藻類に代わって紅藻類が優占していた。中層では前回調査の藻場を構成するワカメやタマハハキモクといった大型褐藻類、または紅藻類が優占する状況に変化はなかった。また、下層では前回以前の紅藻類や小型褐藻類のフクロノリが優占する状況からワカメが最優占する状況に変化していた。

表 4-5　坪刈り調査結果概要（植物）　大阪沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
大阪沖 C−2	平成22年 5月29日	出現種類数		6	17	16
		総湿重量 （g/0.25m^2）		0.98	132.22	368.18
		優占種	第1位	アオサ属　89%	ススカケベニ　51%	ススカケベニ　93%
			第2位	アオノリ属　8%	ベニスナゴ　15%	フダラク　7%
			第3位	シオグサ属　3%	フダラク　14%	ツノマタ属　<0.1%
	平成24年 6月3日	出現種類数		5	14	16
		総湿重量 （g/0.25m^2）		7.46	1819.04	849.48
		優占種	第1位	アオサ属　95%	フダラク　89%	ベニスナゴ　61%
			第2位	ツノマタ属　2%	オオバツノマタ　8%	ワカメ　21%
			第3位	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ　1%	タマハハキモク 3%	オオバツノマタ　3%
	平成26年 5月31日	出現種類数		3	14	15
		総湿重量 （g/0.25m^2）		1.45	626.89	362.29
		優占種	第1位	アオサ属　98%	ワカメ　42%	ベニスナゴ　81%
			第2位	藍藻綱　2%	タマハハキモク 40%	ツルツル　13%
			第3位	シオグサ属　<0.1%	ムカデノリ属 6%	ワカメ　4%
	平成28年 5月29日	出現種類数		10	12	12
		総湿重量 （g/0.25m^2）		12.6	465.33	4.69
		優占種	第1位	アオサ属　78%	ツノマタ　57%	フクロノリ　61%
			第2位	シオグサ属　16%	オオバツノマタ　15%	アオサ属　14%
			第3位	ツノマタ　4%	フダラク　14%	ワカメ　14%
	平成30年 6月3日	出現種類数		10	19	15
		総湿重量 （g/0.25m^2）		158.89	1210.95	90.94
		優占種	第1位	フダラク　66%	ワカメ　76%	ワカメ　67%
			第2位	ツルツル　21%	フダラク　19%	フダラク　26%
			第3位	カバノリ　11%	カバノリ　2%	カバノリ　4%

［ 動 物 ］

表 4-6 に大阪沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

今回の調査では、上層で二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）が個体数において 89%、湿重量において 98%で大半を占めていた。中層では、二枚貝のキヌマトイガイ（固着性）が個体数において 22%、湿重量において 26%で最優占していた。下層では、環形動物のクマノアシツキ（移動性）が個体数において 52%、シロボヤ科（固着性）が湿重量において 71%を占め、優占していた。

これまでの調査と比較して、上層でムラサキイガイが優占種となっている状況に大きな変化はみられず、中層では平成 22 年度に最優占種となっていたキヌマトイガイが優占していた。また、下層については過去に優占していた尋常海綿綱、シマメノウフネガイやコシダカガンガラなどの小型の巻貝類（移動性）、ワレカラ類（移動性）に変わり個体数についてはクマノアシツキ、湿重量についてはシロボヤ科が最優占していた。

表 4-6　坪刈り調査結果概要（動物）　大阪沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
大阪沖 C−2	平成22年 5月29日	出現種類数		18	60	56
		総個体数 （個体/0.25m^2）		11998	5541	348
		総湿重量 （g/0.25m^2）		201.84	127.1	72.77
		優占種 （個体数）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 99%	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ 16%	ﾑｷﾞｶﾞｲ 14%
			第2位	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ ＜0.1%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 15%	ｵｻﾃﾚﾚｶﾗ 14%
			第3位	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属 ＜0.1%	ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ 14%	Thelepus属 11%
		優占種 （湿重量）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 100%	Thelepus属 38%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 53%
			第2位	ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ ＜0.1%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼ 17%	ｺﾍﾞﾙﾄﾌﾈｶﾞｲ 13%
			第3位	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ ＜0.1% ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ ＜0.1%	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ 8%	Thelepus属 8%
	平成24年 6月3日	出現種類数		15	35	49
		総個体数 （個体/0.25m^2）		788	7094	179
		総湿重量 （g/0.25m^2）		72.06	55.73	7.97
		優占種 （個体数）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 77%	Monocorophium属 42%	Caprella属 20%
			第2位	Ampithoe属 7%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 36%	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ 13%
			第3位	ｲﾎﾞﾆｼ 4%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 9%	ｳｴﾉﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ 4% Melita属 4%
		優占種 （湿重量）	第1位	ｲﾎﾞﾆｼ 62%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 40%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 30%
			第2位	ﾖﾒｶﾞｶｻ 23%	Thelepus属 10%	ﾚｲｼｶﾞｲ 26%
			第3位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 3%	ﾏｻｺﾞｺﾞｶｲ 9%	ﾑｷﾞｶﾞｲ 8%
	平成26年 5月31日	出現種類数		23	59	54
		総個体数 （個体/0.25m^2）		11802	6437	784
		総湿重量 （g/0.25m^2）		653.98	53.08	22.98
		優占種 （個体数）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 94%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 40%	Caprella属 42%
			第2位	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ 5%	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 25%	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ 11%
			第3位	ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ 0.2%	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ 13%	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ科 7%
		優占種 （湿重量）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 96%	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 36%	ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ 52%
			第2位	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ 1%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 16%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 19%
			第3位	ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ 1%	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ 11%	ﾑｷﾞｶﾞｲ 10%
	平成28年 5月29日	出現種類数		26	57	52
		総個体数 （個体/0.25m^2）		14125	5863	1655
		総湿重量 （g/0.25m^2）		6579.56	67.31	56.82
		優占種 （個体数）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 83%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 57%	Aoroides属 37%
			第2位	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 14%	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 11%	Caprella属 22%
			第3位	Hyale属 0.7%	Aoroides属 10%	Syllinae亜科 7%
		優占種 （湿重量）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 91%	ﾏｶﾞｷ 41%	尋常海綿綱 40%
			第2位	ﾏｶﾞｷ 5%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 19%	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ 22%
			第3位	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科 3%	ﾑｷﾞｶﾞｲ 7%	ﾐｽﾞﾋｷｺﾞｶｲ科 10%
	平成30年 6月3日	出現種類数		46	71	68
		総個体数 （個体/0.25m^2）		90351	9489	10194
		総湿重量 （g/0.25m^2）		9252.9	171.06	591.04
		優占種 （個体数）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 89%	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ 22%	ｸﾏﾉｱｼﾂｷ 52%
			第2位	ﾕｽﾘｶ科 4%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 20%	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ 17%
			第3位	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ 4%	Caprella属 15%	Caprella属 5%
		優占種 （湿重量）	第1位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ 98%	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ 26%	ｼﾛﾎﾞﾔ科 71%
			第2位	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ 0.8%	Thelepus属 14%	ｸﾏﾉｱｼﾂｷ 8%
			第3位	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ 0.3%	ﾚｲｼｶﾞｲ 12%	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ 5%

・目視観察による調査結果

［ 植 物 ］

表 4-7 に大阪沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

C-1 の地点のこれまでの調査では、-1m 以深ではススカケベニ、フダラク、ツルツル、ベニスナゴなどの紅藻類、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるワカメやシダモクが多くみられた。今回の調査でも、-2m でワカメ、-6～-7m でベニスナゴが主要種となっていた。

C-2 の地点のこれまでの調査では、±0～-1m で緑藻のアオサ属が、-1m 以深ではサンゴモ科、ススカケベニ、ツノマタ属、フダラク、ベニスナゴなどの紅藻類、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるワカメが多くみられた。今回の調査でも、-1m 以深ではサンゴモ科、ツノマタ属、フダラク、ベニスナゴなどの紅藻類、-2～-3m ではワカメが多くみられた。

C-3 の地点のこれまでの調査では、±0～-3m で緑藻のアオサ属やシオグサ属が、-1m 以深ではサンゴモ科、ススカケベニ、フダラク、ツルツル、イワノカワ科、ベニスナゴ、カバノリなどの紅藻類、藻場を構成する一年生の大形褐藻類であるワカメやシダモクやタマハハキモクが主要種となっていた。今回の調査では、-1m でタマハハキモク、-3m でワカメ、-5～-7m でサンゴモ科、イワノカワ科、ベニスナゴが主要種となっていた。

表 4-7　目視調査結果概要（植物）　大阪沖埋立処分場

C－1	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	−	−	フダラク	フダラク	イギス科 ススカケベニ	シダモク ベニスナゴ	ススカケベニ ベニスナゴ イワノカワ科	イギス科 ススカケベニ イワノカワ科	イギス科 ススカケベニ イワノカワ科	−	−	−
	平成24年6月3日	−	−	イギス目	ムカデノリ	ムカデノリ	シダモク ツルツル	ツルツル ベニスナゴ	ススカケベニ ベニスナゴ	ベニスナゴ	ススカケベニ	ススカケベニ	−
	平成26年5月31日	−	−	フダラク	ワカメ フダラク	ワカメ フダラク	シダモク フダラク ツルツル ベニスナゴ	ワカメ サビ亜科 フダラク ベニスナゴ イトグサ属	ベニスナゴ タオヤギソウ イトグサ属	ベニスナゴ	ススカケベニ	ススカケベニ	−
	平成28年5月29日	−	−	−	−	−	−	ツルツル	サンゴモ科	サンゴモ科 ベニスナゴ	ススカケベニ	−	−
	平成30年6月3日	−	−	−	ワカメ	−	−	−	ベニスナゴ	ベニスナゴ	−	−	−
種類数	平成22年5月30日	0	1	4	4	2	5	5	3	3	2	1	1
	平成24年5月26日	0	2	5	6	5	12	6	5	4	4	1	1
	平成26年5月31日	0	3	3	4	4	8	12	10	10	6	3	3
	平成28年5月29日	0	2	5	5	1	8	8	6	6	3	3	0
	平成30年6月3日	0	1	3	5	4	4	9	8	7	4	3	2

C－2	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	−	アオサ属	フダラク ツノマタ属 ベニスナゴ	フダラク ツノマタ属 ベニスナゴ	ススカケベニ イギス科	ベニスナゴ イワノカワ科	ベニスナゴ イワノカワ科	ベニスナゴ イワノカワ科 ススカケベニ サンゴモ目	イワノカワ科 ススカケベニ	イワノカワ科 ススカケベニ	−	−
	平成24年6月3日	−	−	アオサ属 ツノマタ属 フダラク ツルツル	ツノマタ属 フダラク	ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツルツル ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ カバノリ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ススカケベニ	サンゴモ科
	平成26年5月31日	−	−	ワカメ フダラク オオバツノマタ ツノマタ	ワカメ タマハハキモク フダラク	ワカメ フダラク オオバツノマタ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ カバノリ	シダモク サビ亜科 ベニスナゴ タオヤギソウ イトグサ属	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ススカケベニ	イワノカワ科 サビ亜科 ススカケベニ	イワノカワ科 サビ亜科
	平成28年5月29日	−	−	アオサ属 ツノマタ属 フダラク	ワカメ ツノマタ属	アオサ属	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科	−	−
	平成30年6月3日	−	−	フダラク	ワカメ フダラク	ワカメ ツノマタ属 フダラク	−	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科 ベニスナゴ	サンゴモ科	−	−
種類数	平成22年5月30日	0	1	7	6	5	7	5	5	4	3	1	0
	平成24年5月26日	0	0	6	7	7	8	7	4	3	4	5	2
	平成26年5月31日	0	2	8	9	7	7	7	11	7	5	5	3
	平成28年5月29日	0	1	5	7	5	5	4	1	1	1	3	2
	平成30年6月3日	0	3	7	7	7	7	5	5	5	3	3	1

C－3	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	−	アオサ属	アオサ属 シオグサ属 フダラク	フダラク ベニスナゴ	シダモク	シダモク イワノカワ科 ベニスナゴ	イワノカワ科 ベニスナゴ	イワノカワ科	ススカケベニ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	−
	平成24年6月3日	−	アオサ属	フダラク ツルツル	フダラク ツルツル	フダラク ツルツル カバノリ	ツルツル フダラク ベニスナゴ カバノリ	ベニスナゴ	ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科	サビ亜科 ススカケベニ
	平成26年5月31日	−	アオサ属	フダラク ツルツル	シオグサ属 フダラク ツルツル	タマハハキモク フダラク ツルツル カバノリ	ワカメ シダモク ツルツル ベニスナゴ カバノリ	サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	イワノカワ科 サビ亜科 ベニスナゴ	サビ亜科	−
	平成28年5月29日	−	シオグサ属	シオグサ属 フダラク	シオグサ属	アオサ属	−	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科	サンゴモ科	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科 イワノカワ科	サンゴモ科
	平成30年6月3日	−	−	タマハハキモク	−	ワカメ	−	イワノカワ科 ベニスナゴ	サンゴモ科	サンゴモ科 ベニスナゴ	−	−	−
種類数	平成22年5月30日	0	1	4	6	4	4	2	4	5	4	3	1
	平成24年5月26日	0	2	6	7	9	7	3	3	3	4	4	2
	平成26年5月31日	0	2	5	6	7	10	6	6	5	5	5	3
	平成28年5月29日	0	4	8	7	8	8	3	2	3	3	3	1
	平成30年6月3日	0	2	9	9	10	5	6	4	4	4	4	2

※主要種：観察時の出現被度が 10%以上の種を抽出

［ 動 物 ］

表 4-8 に大阪沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

C-1 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1～±0m で、主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝のアラレタマキビ（移動性）が多くみられた。平均水面付近では巻貝類のイボニシ、カラマツガイ（移動性）や二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）やイワフジツボ（固着性）が、平均水面以深ではムラサキイガイ、環形動物のカンザシゴカイ科（固着性）、ホヤ綱（固着性）などが多く出現した。今回の調査もアラレタマキビ、ムラサキイガイ、イワフジツボなどは同様の出現傾向を示したが、これまでの調査と比較して、カンザシゴカイ科があまりみられず、-4m 以深でキヒトデ（移動性）が連続的に多くみられた。

C-2 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近ではイボニシ、巻貝類のキクノハナガイ（移動性）、ムラサキイガイ、イワフジツボなどが、平均水面以深では尋常海綿綱（固着性）やカンザシゴカイ科が多く出現した。今回の調査でも、アラレタマキビ、キクノハナガイ、ムラサキイガイなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向をを示していた。

C-3 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近ではイボニシ、キクノハナガイ、ムラサキイガイなどが、平均水面以深ではイボニシ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱などが多くみられた。今回の調査でも、アラレタマキビ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱が主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向をを示していた。

表 4-8　目視調査結果概要（動物）　大阪沖埋立処分場

C－1	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ イワフジツボ	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 レイシガイ ホヤ綱	カンザシゴカイ科 コケムシ綱 ホヤ綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	－	－	－	コケムシ綱	コケムシ綱	コケムシ綱
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	アラレタマキビ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	ホヤ綱	－	イトマキヒトデ	－	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ	－
	平成26年5月31日	アラレタマキビ	アラレタマキビ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(群体性)	－	－	－	－	－	キヒトデ	－
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ マガキ	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	－	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	－	－	－	－	－	－	－
	平成30年6月3日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ カラマツガイ ムラサキイガイ イタボガキ科 イワフジツボ	ムラサキイガイ	ムラサキイガイ	－	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ	キヒトデ
種類数	平成22年5月30日	1	3	8	5	8	5	3	3	4	6	2	2
	平成24年5月26日	2	11	8	6	5	7	6	7	4	3	3	3
	平成26年5月31日	3	8	8	8	9	5	6	3	3	4	3	2
	平成28年5月29日	2	8	6	7	9	6	5	4	3	3	2	2
	平成30年6月3日	1	7	4	8	10	8	5	6	5	5	3	4

C－2	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	－	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ホヤ綱	コシダカガンガラ イトマキヒトデ	コシダカガンガラ サンカクフジツボ	－	－	－	－	－
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	イボニシ キクノハナガイ イワフジツボ	イボニシ	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科	－	－	イトマキヒトデ	－	キヒトデ	－	－
	平成26年5月31日	アラレタマキビ	ヨメガカサ ウノアシ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	レイシガイ	ムギガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	－	－	－	－	－	－	－
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ イタボガキ科	－	－	カンザシゴカイ科	－	尋常海綿綱	苔虫綱	－	－	－	－
	平成30年6月3日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ カラマツガイ キクノハナガイ ムラサキイガイ	ムラサキイガイ	－	－	－	－	－	－	－	－	－
種類数	平成22年5月30日	1	2	3	8	5	4	6	4	5	6	5	2
	平成24年5月26日	2	10	4	7	7	6	7	6	4	3	7	4
	平成26年5月31日	3	10	7	7	10	4	4	2	3	2	1	3
	平成28年5月29日	2	10	6	6	6	4	5	5	3	4	3	2
	平成30年6月3日	2	6	4	5	8	8	6	5	3	5	3	2

C－3	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
主要種※	平成22年5月29日	－	ムラサキイガイ	－	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 ヤドカリ科	カンザシゴカイ科	コケムシ綱	－	コケムシ綱	コケムシ綱	－
	平成24年6月3日	アラレタマキビ	イボニシ キクノハナガイ	イボニシ カンザシゴカイ科	イボニシ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	尋常海綿綱 苔虫綱 ムギガイ	コシダカガンガラ	イトマキヒトデ	－	－	－	－
	平成26年5月31日	－	イボニシ ムラサキイガイ	レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科	－	－	－	苔虫綱	苔虫綱	アミコケムシ科
	平成28年5月29日	アラレタマキビ	キクノハナガイ ムラサキイガイ	イボニシ ムラサキイガイ	－	カンザシゴカイ科	－	－	－	－	－	－	－
	平成30年6月3日	アラレタマキビ	ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	－	－	苔虫綱	苔虫綱	－	－	－
種類数	平成22年5月30日	1	5	1	3	5	6	4	6	5	5	3	3
	平成24年5月26日	1	7	3	6	4	5	4	4	3	4	2	3
	平成26年5月31日	3	6	6	9	8	7	7	5	3	3	3	3
	平成28年5月29日	1	4	3	7	7	7	4	4	2	2	1	0
	平成30年6月3日	1	3	3	6	7	6	5	5	4	2	3	3

※主要種：観察時の個体数が 3 個体以上または出現被度が 10%以上の種を抽出

(3) 泉大津沖埋立処分場

・坪刈りによる調査結果

［ 植 物 ］

表 4-9 に泉大津沖埋立処分場における坪刈り調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 では、上層で紅藻のフダラクが 90%を占め、中層ではワカメ（藻場を構成する一年生の大型褐藻類）が 95%を占めていた。下層では紅藻のタオヤギソウが 45%を占め、次いでワカメが 33%を占めていた。これまでの調査と比較すると、上層と下層でフダラク、ムカデノリ属、ベニスナゴ、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻やワカメが優占的であった点、中層については、ワカメが最優占している点で変化がない。

D-3 では、上層で緑藻のミルが 82%を占め、中層ではワカメが 98%を占めていた。下層ではタオヤギソウが 79%を占めていた。これまでの調査では、上層で緑藻のシオグサ属や紅藻のコスジフシツナギ、中層でミルやワカメ、下層でワカメやタオヤギソウが優占する状況であったので、上層のミルについては変化が認められる。

表 4-9　坪刈り調査結果概要（植物）　泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
泉大津沖 D−2	平成22年 5月21日	出現種類数		7	7	13
		総湿重量 (g/0.25m^2)		7.77	4662.46	960.24
		優占種	第1位	ベニスナゴ　40%	ワカメ　100%	タオヤギソウ　65%
			第2位	イトグサ属　26%	ベニスナゴ　<0.1%	ワカメ　25%
			第3位	フダラク　19%	ツノマタ属　<0.1%	ツノマタ属　5%
	平成26年 6月2日	出現種類数		11	17	11
		総湿重量 (g/0.25m^2)		19.88	242.82	475.51
		優占種	第1位	ムカデノリ属　50%	ワカメ　85%	カバノリ　46%
			第2位	フダラク　34%	ムカデノリ　5%	ワカメ　33%
			第3位	アオサ属　12%	アオサ属　3%	タオヤギソウ　17%
	平成28年 6月4日	出現種類数		18	19	11
		総湿重量 (g/0.25m^2)		592.1	1080.39	391.83
		優占種	第1位	ワカメ　74%	ワカメ　99%	ワカメ　85%
			第2位	フダラク　15%	フダラク　0.8%	カバノリ　8%
			第3位	ツルツル　5%	ムカデノリ属　0.2%	タオヤギソウ　6%
	平成30年 5月26日	出現種類数		15	10	14
		総湿重量 (g/0.25m^2)		72.16	856.91	488.27
		優占種	第1位	フダラク　90%	ワカメ　95%	タオヤギソウ　45%
			第2位	カバノリ　4%	カバノリ　4%	ワカメ　33%
			第3位	ツルツル　3%	ムカデノリ　0.9%	カバノリ　12%
泉大津沖 D−3	平成22年 5月21日	出現種類数		3	4	8
		総湿重量 (g/0.25m^2)		0.13	0.4	1.82
		優占種	第1位	シオグサ属　100%	ミル　70%	ワカメ　84%
			第2位	アオノリ属　<0.1% アオサ属　<0.1%	ダジア属　28%	アオサ属　15%
			第3位	出現なし	イトグサ属　3%	アオノリ属　1% タオヤギソウ　1%
	平成26年 6月2日	出現種類数		2	8	6
		総湿重量 (g/0.25m^2)		0.04	475.27	99.13
		優占種	第1位	ｺｽｼﾞﾌｼｯﾅｷﾞ　100%	ワカメ　94%	タオヤギソウ　97%
			第2位	シオグサ属　<0.1%	タオヤギソウ　6%	ススカケベニ　3%
			第3位	出現なし	ススカケベニ　0.2%	イギス科　0.3%
	平成28年 6月4日	出現種類数		2	11	12
		総湿重量 (g/0.25m^2)		0.49	45.8	136.19
		優占種	第1位	シオグサ属　100%	ワカメ　98%	ワカメ　44%
			第2位	アオノリ属　<0.1%	ベニスナゴ　1%	タオヤギソウ　28%
			第3位	出現なし	藍藻綱　1%	ススカケベニ　23%
	平成30年 5月26日	出現種類数		4	9	5
		総湿重量 (g/0.25m^2)		0.45	122.66	89.61
		優占種	第1位	ミル　82%	ワカメ　98%	タオヤギソウ　79%
			第2位	シオグサ属　18%	ミル　1%	ワカメ　13%
			第3位	アオノリ属　<0.1% 藍藻綱　<0.1%	オオバツノマタ　0.8%	ススカケベニ　8%

［ 動 物 ］

表 4-10 に泉大津沖埋立処分場における坪刈り調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点では、上層で個体数においては二枚貝のムラサキイガイ(固着性)が 33%、次いで甲殻類のマルエラワレカラ（移動性）が 23%を占め、湿重量においてはムラサキイガイが 38%を占め、次いで巻貝のコシダカガンガラ（移動性）が 15%を占めていた。中層では個体数においては二枚貝のキヌマトイガイ(固着性)が 24%、環形動物のエゾカサネカンザシゴカイ(固着性)が 10%の順であり、湿重量においてはエゾカサネカンザシゴカイが 19%、コシダカガンガラが 18%の順であった。下層では個体数においてはヨーロッパフジツボ(固着性)が 31%、エゾカサネカンザシゴカイが 27%の順であり、湿重量においてはエゾカサネカンザシゴカイが 25%、巻貝のレイシガイ（移動性）が 11%の順であった。これまでの調査と比較すると、上層でムラサキイガイ、マルエラワレカラ、下層でコシダカガンガラ、キヌマトイガイ、エゾカサネカンザシ、ヨーロッパフジツボが優占的である点は同様であった。中層では各年度で優占種が変化する傾向がみられた。

D-3 の地点では、上層では個体数においてはムラサキイガイが 43%、次いでイワフジツボ(固着性)が 12%を占め、湿重量においてはムラサキイガイが 30%、次いで二枚貝のマガキ(固着性)が 21%を占めていた。中層では、環形動物のクマノアシツキ（移動性）が個体数において 78%と大半を占め、湿重量においてはエゾカサネカンザシゴカイが 28%、クマノアシツキが 18%の順であった。下層では個体数においてキヌマトイガイが 29%、次いでエゾカサネカンザシゴカイが 25%を占め、湿重量においてはウミウシ類のカメノコフシエラガイ科（移動性）が 20%、次いでエゾカサネカンザシゴカイが 17%を占めていた。これまでの調査と比較すると、全体的にはムラサキイガイ、キヌマトイガイ、エゾカサネカンザシゴカイが優占的である点で同様の傾向を示したが、最優占種については中層の個体数におけるクマノアシツキ、下層の湿重量におけるカメノコフシエラガイ科については過去に優占種になったことのない種である。

表 4-10（1）　坪刈り調査結果概要（動物）　泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
泉大津沖 D−2	平成22年 5月21日	出現種類数		22	53	52
		総個体数 （個体/0.25m^2）		18592	1929	1131
		総湿重量 （g/0.25m^2）		807.48	24.63	21.44
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 99%	Zeuxo属 23%	Polydora属 24%
			第2位	マサゴゴカイ 0.3%	Jassa属 20%	ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ 19%
			第3位	ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ 0.2%	ムラサキイガイ 15%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 10%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 97%	ネンエキボヤ 30%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 60%
			第2位	レイシガイ 2%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 20%	コブコケムシ科 6%
			第3位	マサゴゴカイ 0.2%	レイシガイ 16%	ヒラコケムシ科 6%
	平成26年 6月2日	出現種類数		31	53	54
		総個体数 （個体/0.25m^2）		16584	2425	432
		総湿重量 （g/0.25m^2）		1242.48	37.92	30.13
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 99%	ムラサキイガイ 49%	キヌマトイガイ 24%
			第2位	イボニシ 0.3%	キヌマトイガイ 20%	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ 12%
			第3位	Acanthochitona属 0.2%	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ 6%	Jassa属 8%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 94%	ムラサキイガイ 68%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 40%
			第2位	イボニシ 5%	キヌマトイガイ 10%	ヒラコケムシ科 27%
			第3位	Acanthochitona属 1%	レイシガイ 8%	レイシガイ 6%
	平成28年 6月4日	出現種類数		41	59	74
		総個体数 （個体/0.25m^2）		10321	1627	1064
		総湿重量 （g/0.25m^2）		202.8	43.28	31.24
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 92%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 29%	キヌマトイガイ 51%
			第2位	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 5%	キヌマトイガイ 15%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 8%
			第3位	キヌマトイガイ 0.9%	ムラサキイガイ 13%	Zeuxo属 4%
		優占種 （湿重量）	第1位	イボニシ 48%	裸鰓目 53%	キヌマトイガイ 18%
			第2位	ムラサキイガイ 38%	ﾋﾗｺｹﾑｼ科 7%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 12%
			第3位	レイシガイ 5%	尋常海綿綱 5%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 12%
	平成30年 5月26日	出現種類数		29	69	61
		総個体数 （個体/0.25m^2）		334	3833	1182
		総湿重量 （g/0.25m^2）		27.46	119.74	71.6
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 33%	キヌマトイガイ 24%	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ 31%
			第2位	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 23%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 10%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 27%
			第3位	Jassa属 6%	Caprella属 9%	キヌマトイガイ 10%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 34%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 19%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 25%
			第2位	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 15%	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ 18%	レイシガイ 11%
			第3位	ヨメガカサ 12%	キヌマトイガイ 13%	イトマキヒトデ 10%

表 4-10（2）　坪刈り調査結果概要（動物）　泉大津沖埋立処分場

調査地点	調査時期	項　目		上層 （M.W.L ±0m）	中層 （M.W.L −2m）	下層 （M.W.L −4m）
泉大津沖 D−3	平成22年 5月21日	出現種類数		24	60	74
		総個体数 （個体/0.25m^2）		38331	14785	3401
		総湿重量 （g/0.25m^2）		1719.05	972.33	216.93
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 99%	ムラサキイガイ 71%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 23%
			第2位	Typosyllis属 0.2%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 18%	ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ 19%
			第3位	タマキビ 0.2%	キヌマトイガイ 2%	ドロクダムシ属 8%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 98%	ムラサキイガイ 75%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 16%
			第2位	カラマツガイ 1%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 10%	アミコケムシ科 15%
			第3位	マガキ 1%	レイシガイ 3%	キクザル属 14%
	平成26年 6月2日	出現種類数		35	89	92
		総個体数 （個体/0.25m^2）		38999	13938	7910
		総湿重量 （g/0.25m^2）		3736.04	216.08	178.95
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 99%	Phoronis属 58%	Pugettia属 25%
			第2位	キヌマトイガイ 0.4%	キヌマトイガイ 22%	キヌマトイガイ 16%
			第3位	紐形動物門 0.1%	Dodecaceria属 7%	Caprella属 10%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 98%	Phoronis属 20%	フサコケムシ科 33%
			第2位	イボニシ 1%	キヌマトイガイ 18%	ムラサキイガイ 15%
			第3位	Ostrea属 1%	フサコケムシ科 13%	ﾊｸﾞﾁｺｹﾑｼ科 13%
	平成28年 6月4日	出現種類数		30	68	89
		総個体数 （個体/0.25m^2）		60745	17276	2069
		総湿重量 （g/0.25m^2）		5408.33	1332.02	168.55
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 98%	Phoronis属 59%	キヌマトイガイ 25%
			第2位	Syllinae亜科 0.6%	ムラサキイガイ 30%	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ 12%
			第3位	紐形動物門 0.5%	キヌマトイガイ 4%	ムラサキイガイ 7%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 89%	ムラサキイガイ 85%	フサコケムシ科 24%
			第2位	マガキ 10%	Phoronis属 6%	アミコケムシ科 18%
			第3位	紐形動物門 0.2%	キヌマトイガイ 2%	ムラサキイガイ 9%
	平成30年 5月26日	出現種類数		43	50	49
		総個体数 （個体/0.25m^2）		1312	23213	1644
		総湿重量 （g/0.25m^2）		67.69	400.08	191.36
		優占種 （個体数）	第1位	ムラサキイガイ 43%	クマノアシツキ 78%	キヌマトイガイ 29%
			第2位	イワフジツボ 12%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 7%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 25%
			第3位	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ 11%	マサゴゴカイ 5%	ケヤリムシ科 6%
		優占種 （湿重量）	第1位	ムラサキイガイ 30%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 28%	ｶﾒﾉｺﾌｼｴﾗｶﾞｲ科 20%
			第2位	マガキ 21%	クマノアシツキ 18%	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ 17%
			第3位	ヨメガカサ 21%	ムラサキイガイ 15%	キヒトデ 15%

・目視観察による調査結果

［ 植 物 ］

表 4-11 に泉大津沖埋立処分場における目視調査結果（植物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点でのこれまでの調査では、-1～-2m で緑藻類のアオサ属が、±0～-5m では藻場を構成する一年生の大型褐藻類であるワカメが、±0m 以深ではフダラク、ツルツル、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻類が主要種となっていた。今回の調査でも、-1m でアオサ属が、-1～-4m でワカメが、-3～-7m でカバノリ、タオヤギソウなどが多くみられ、同様の出現傾向を示していた。

D-3 の地点でのこれまでの調査では、-1～-5m ではワカメが、-3m 以深ではススカケベニ、タオヤギソウなどの紅藻類が主要種となっていた。今回の調査では、-2m でワカメが主要種となった。

D-5 の地点では、平成 26 年度調査では+1m で藍藻が主要種となっていた。その他の年度では今回の調査も含めて、壁面、遊水室ともに海藻がみられなかった。

D-6 の地点でのこれまでの調査では、壁面の+1～-1m で緑藻類のアオノリ属、アオサ属が、±0～-4m ではワカメが、±0m 以深ではススカケベニ、ムカデノリ、フダラク、ツルツル、タオヤギソウなどの紅藻類が主要種となっていた。遊水室では藻類の生育はわずかであった。今回の調査でも、壁面では-1m でワカメとムカデノリが、-3～-5m でススカケベニ、タオヤギソウなどが多くみられ、遊水室での藻類の繁茂がないなど過年度と同様の出現傾向を示していた。

表 4-11　目視調査結果概要（植物）　泉大津沖埋立処分場

D−2	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11	−12	−13
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
主要種※	平成22年5月21日	−	−	ワカメ フダラク オオバソノマタ	ワカメ ムカデノリ属 ツルツル	ワカメ ムカデノリ属 オオバソノマタ	ワカメ オオバソノマタ ベニスナゴ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ	ワカメ ベニスナゴ カバノリ タオヤギソウ	ススカケベニ カバノリ タオヤギソウ	−	−	−	−	−	−
	平成26年6月2日	−	シオグサ属	ワカメ フダラク	アオサ属 ワカメ ムカデノリ カバノリ	ワカメ カバノリ タオヤギソウ	ワカメ カバノリ タオヤギソウ	カバノリ	カバノリ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ イトグサ属	ススカケベニ カバノリ イトグサ属	イトグサ属	−	−	−	−
	平成28年6月4日	−	ワカメ フダラク	アオサ属 ワカメ フダラク ツルツル	アオサ属 ワカメ	ワカメ	ワカメ カバノリ	ワカメ	カバノリ タオヤギソウ	マクサ カバノリ タオヤギソウ	−	−	−	−	−	−
	平成30年5月26日	−	−	アオサ属 ワカメ	ワカメ	ワカメ ムカデノリ カバノリ	ワカメ カバノリ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ	カバノリ タオヤギソウ	タオヤギソウ	−	−	−	−	−	−
種類数	平成22年5月21日	0	4	9	7	9	8	6	7	4	3	0	0	0	0	0
	平成26年6月2日	0	4	7	7	8	6	4	4	5	4	2	3	2	1	0
	平成28年6月4日	0	2	8	8	8	2	6	7	7	5	3	2	2	0	0
	平成30年5月26日	0	4	10	7	8	5	4	7	4	4	3	2	2	0	0

D−3	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11	−12	−13
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月21日	−	−	ワカメ	−	−	−	−	−	イギス科 ベニスナゴ	イギス科 ススカケベニ	イギス科	−	−	−	−
	平成26年6月2日	−	−	−	ワカメ	タオヤギソウ	タオヤギソウ	タオヤギソウ	−	ススカケベニ カバノリ タオヤギソウ イトグサ属	ススカケベニ イトグサ属	ススカケベニ イトグサ属	イトグサ属	イトグサ属	−	−
	平成28年6月4日	−	−	ワカメ	ワカメ	ワカメ ススカケベニ	ワカメ ススカケベニ タオヤギソウ	ワカメ ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ	−	−	−	−	−
	平成30年5月26日	−	−	−	ワカメ	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
種類数	平成22年5月21日	0	2	3	1	2	0	0	0	5	4	3	1	0	0	0
	平成26年6月2日	0	3	1	1	3	2	2	2	4	4	2	2	1	1	0
	平成28年6月4日	0	0	3	6	2	4	3	3	4	3	2	2	1	1	0
	平成30年5月26日	0	0	4	7	6	6	5	4	5	4	2	2	1	1	0

		エコ岸壁							
		壁面					遊水室		
D−5	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3			
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
主要種※	平成26年6月2日	藍藻網	−	−	−	−	−	−	−
	平成28年6月4日	−	−	−	−	−	−	−	−
	平成30年5月26日	−	−	−	−	−	−	−	−
種類数	平成26年6月2日	1	0	0	0	0	0	0	0
	平成28年6月4日	0	0	0	0	0	0	0	0
	平成30年5月26日	0	0	0	0	0	0	0	0

		エコ岸壁												
		壁面							遊水室					
D−6	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	上室			下室		
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
主要種※	平成22年5月21日	アオノリ属	アオノリ属 アオサ属	アオサ属 ワカメ	アオサ属 ワカメ	ワカメ	−	−	−	−	−	−	−	−
	平成26年6月2日	−	アオサ属	ツルツル	−	ワカメ タオヤギソウ	ワカメ タオヤギソウ	ススカケベニ	−	−	−	−	−	−
	平成28年6月4日	−	ワカメ フダラク	ムカデノリ	−	ワカメ タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	−	−	−	−	−	−
	平成30年5月26日	−	−	ワカメ ムカデノリ	−	タオヤギソウ	タオヤギソウ	ススカケベニ タオヤギソウ	−	−	−	−	−	−
種類数	平成22年5月21日	2	6	6	5	6	6	2	0	0	1	0	0	3
	平成26年6月2日	0	1	4	4	7	3	2	0	0	2	0	0	3
	平成28年6月4日	0	7	5	8	5	2	2	0	0	3	0	2	6
	平成30年5月26日	0	5	7	9	6	4	3	0	0	3	0	1	5

※主要種：観察時の出現被度が 10%以上の種を抽出

［ 動 物 ］

表 4-12 に泉大津沖埋立処分場における目視調査結果（動物）の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

D-2 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m で、主に潮間帯上部から飛沫帯に生息する巻貝のアラレタマキビ（移動性）が多くみられた。平均水面付近では巻貝類のイボニシ（移動性）、二枚貝類のムラサキイガイ（固着性）、イワフジツボ（固着性）が、平均水面以深では環形動物のカンザシゴカイ科（固着性）、苔虫綱（固着性）、キヒトデ（移動性）が多く出現した。今回の調査もアラレタマキビ、イボニシ、イワフジツボ、苔虫綱、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の出現傾向を示していた。

D-3 の地点のこれまでの調査では、平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近では巻貝類のコモレビコガモガイ（移動性）、イボニシ、カラマツガイ（移動性）、ムラサキイガイなどが、平均水面以深では尋常海綿綱（固着性）、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデ（移動性）、キヒトデなどが多く出現した。今回の調査でも、コモレビコガモガイ、アラレタマキビ、イボニシ、カラマツガイ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向をを示していた。

D-5 の地点のこれまでの調査では、壁面の平均水面+1m でアラレタマキビが多くみられた。壁面の平均水面付近ではイボニシ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科などが、平均水面以深では巻貝類のレイシガイ（移動性）、カンザシゴカイ科、苔虫綱が多くみられた。遊水室内ではレイシガイ、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデなどが多く生息していた。今回の調査でも、壁面でアラレタマキビ、レイシガイ、イボニシ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱が、遊水室内でレイシガイ、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の生息状況をを示していた。

D-6 の地点のこれまでの調査では、壁面の平均水面+1m でアラレタマキビやイワフジツボが多くみられた。壁面の平均水面付近ではイボニシ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科などが、平均水面以深ではムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデなどが多く生息していた。遊水室の上室、下室内では巻貝類のシマメノウフネガイ（移動性）、レイシガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、イトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコ（移動性）などが多く生息していた。今回の調査でも、壁面でアラレタマキビ、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、イワフジツボ、苔虫綱が、遊水室内でレイシガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱、キヒトデなどが主要種となり、これまでの調査と同様の分布傾向をを示していた。

表 4-12（1）　目視調査結果概要（動物）　泉大津沖埋立処分場

D－2	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11	−12	−13
	調査日　基質	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	転石	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫転石	巨礫	泥
主要種※	平成22年5月21日	アラレタマキビ カラマツガイ	レイシガイ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	ムギガイ カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科	苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	苔虫綱	－	イトマキヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	－
	平成26年6月2日	アラレタマキビ	ヨメガカサガイ イボニシ ムラサキイガイ	イボニシ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科	苔虫綱	コシダカガンガラ カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱	シマメノウフネガイ	－	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	－
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ ウノアシ イボニシ イワフジツボ	－	尋常海綿綱 ヒドロ虫綱	Phoronis属 苔虫綱	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ科 苔虫綱	コシダカガンガラ サンショウウニ	コシダカガンガラ	－	サンショウウニ	サンショウウニ	サンショウウニ	－	－
	平成30年5月26日	アラレタマキビ	ヨメガカサ コモレビコガモガイ ウノアシ イボニシ カラマツガイ イワフジツボ	イボニシ	ヒドロ虫綱 苔虫綱	尋常海綿綱 カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱 イトマキヒトデ	－	－	キヒトデ	－	－	－	－
種類数	平成22年5月21日	5	5	3	3	3	6	3	4	4	4	3	4	3	2	1
	平成26年6月2日	2	4	8	6	7	9	7	10	6	5	6	8	7	4	0
	平成28年6月4日	3	9	9	7	9	7	7	8	7	6	6	6	5	2	0
	平成30年5月26日	2	13	9	7	8	7	10	9	4	6	6	7	5	0	0

D－3	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	−6	−7	−8	−9	−10	−11	−12	−13
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂泥
主要種※	平成22年5月21日	アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキイガイ	ムラサキイガイ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 アミコケムシ科 キヒトデ ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 泥巣	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ 泥巣	－	アミコケムシ科 キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科	－	－
	平成26年6月2日	アラレタマキビ	タテジマイソガンチャク コモレビコガモガイ イボニシ カラマツガイ キクノハナガイ ムラサキイガイ イワフジツボ	イボニシ ムラサキイガイ	海綿動物門 レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ	フサコケムシ科 ホヤ綱(群体性)	フサコケムシ科 苔虫綱 ホヤ綱(群体性)	カンザシゴカイ科 苔虫綱	イボニシ 苔虫綱 キヒトデ	－	－	キヒトデ	アミコケムシ科	アミコケムシ科	アミコケムシ科	－
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	コモレビコガモガイ アラレタマキビ イボニシ カラマツガイ ムラサキイガイ	尋常海綿綱 ムラサキイガイ	尋常海綿綱 ムラサキイガイ	Phoronis属 苔虫綱 レイシガイ ムラサキイガイ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	サンショウウニ	サンショウウニ	シマメノウフネガイ サンショウウニ	サンショウウニ	苔虫綱 サンショウウニ	－	－
	平成30年5月26日	アラレタマキビ	ヨメガカサ コモレビコガモガイ アラレタマキビ イボニシ カラマツガイ イワフジツボ	ウノアシ ムラサキイガイ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	キヒトデ	－	キヒトデ	苔虫綱	－	苔虫綱	－
種類数	平成22年5月21日	2	4	4	11	7	8	7	8	5	3	4	3	3	1	0
	平成26年6月2日	2	7	7	12	11	12	9	14	5	5	6	6	6	7	0
	平成28年6月4日	1	8	3	8	11	9	7	10	6	5	6	4	4	3	0
	平成30年5月26日	1	9	5	8	11	9	5	6	4	5	6	6	3	4	0

※主要種：観察時の個体数が 3 個体以上または出現被度が 10%以上の種を抽出

表 4-12（2）　目視調査結果概要（動物）　泉大津沖埋立処分場

		エコ岸壁							
		壁面					遊水室		
D－5	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3			
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面
主要種※	平成26年6月2日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	シマメノウフネガイ レイシガイ カンザシゴカイ科 アミコケムシ科 苔虫綱	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ ムラサキイガイ イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ
	平成28年6月4日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ マナマコ	レイシガイ イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ マナマコ
	平成30年5月26日	アラレタマキビ	イボニシ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 Phoronis属 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ	レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ
種類数	平成26年6月2日	1	5	9	11	11	10	8	11
	平成28年6月4日	1	3	8	9	9	10	8	10
	平成30年5月26日	1	3	12	10	9	11	11	10

		エコ岸壁													
		壁面							遊水室						
D－6	平均水面(m)	+1	±0	−1	−2	−3	−4	−5	上室			下室			
	調査日　基質	ｹｰｿﾝ	石網	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	ｹｰｿﾝ	上面	側面	下面	上面	側面	下面
主要種※	平成22年5月21日	イワフジツボ	レイシガイ イボニシ ムラサキイガイ マガキ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ ユウレイボヤ属	カンザシゴカイ科 キヒトデ ユウレイボヤ属	キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ ユウレイボヤ属	カンザシゴカイ科	キヒトデ
	平成26年6月2日	アラレタマキビ イワフジツボ	イボニシ カンザシゴカイ科	ムラサキイガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	シマメノウフネガイ レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ	シマメノウフネガイ レイシガイ 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ マナマコ
	平成28年6月4日	アラレタマキビ イワフジツボ	ムラサキイガイ	ムラサキイガイ 苔虫綱 キヒトデ	カンザシゴカイ科 苔虫綱	サンカクフジツボ 苔虫綱 サンショウウニ ホヤ綱(単体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(単体性)	－	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	レイシガイ 苔虫綱	レイシガイ ムラサキイガイ ヤドカリ上科 苔虫綱 イトマキヒトデ キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ	レイシガイ ウミフクロウ カンザシゴカイ科 苔虫綱 イトマキヒトデ サンショウウニ	コシダカガンガラ シマメノウフネガイ レイシガイ ウミフクロウ ヤドカリ上科 イトマキヒトデ キヒトデ サンショウウニ マナマコ
	平成30年5月26日	アラレタマキビ タマキビ イワフジツボ	ムラサキイガイ	イソギンチャク目 ムラサキイガイ ヨーロッパフジツボ 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱	カンザシゴカイ科 苔虫綱 ホヤ綱(単体性)	カンザシゴカイ科 ホヤ綱(単体性)	－	イソギンチャク目 レイシガイ ムラサキイガイ カンザシゴカイ科 苔虫綱 キヒトデ ホヤ綱(単体性)	イソギンチャク目 レイシガイ ムラサキイガイ Phoronis属 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ カンザシゴカイ科 キヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ 苔虫綱 キヒトデ	レイシガイ キヒトデ
種類数	平成22年5月21日	2	13	12	10	8	8	5	7	6	4	6	3	2
	平成26年6月2日	2	4	7	7	10	8	10	11	11	13	10	10	14
	平成28年6月4日	3	5	8	9	5	8	8	9	12	12	8	11	16
	平成30年5月26日	3	5	9	11	6	7	7	10	12	6	9	7	5

※主要種：観察時の個体数が 3 個体以上または出現被度が 10%以上の種を抽出

4-2 遊泳魚類等の状況

表 4-13 に各処分場における遊泳魚類等の目視観察結果の概要をこれまでの調査結果とあわせて示した。

(1) 神戸沖埋立処分場

今回の調査では、遊泳魚類等としてメバル、カサゴ、アイナメ、クロダイ、メジナ、イシダイ、スズメダイ、コブダイ、キュウセン、ウマヅラハギ、コウイカの計 11 種が目視確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類等のほとんどは、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロックがこれら魚類等の良好な生息環境となっていると考えられる。

なお、過年度の結果と比較すると、種類数については、平成 22 年度以降、同程度からやや増加傾向にあり、個体数については、平成 26 年度調査時に最大であり、その他の年度では同程度で推移していると思われる。

(2) 大阪沖埋立処分場

今回の調査では遊泳魚類としてメバル、カサゴ、アイナメ、クロダイ、メジナ、イシダイ、ウミタナゴ、スズメダイ、コブダイ、ホシササノハベラ、キュウセン、ウマヅラハギ、ヒガンフグ、コモンフグの計 14 種が目視確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類のほとんどは、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロック、石積みの間隙などの空間がこれら魚類の良好な生息環境となっていると考えられる。

なお、これまでの調査と比較すると、種類数については、平成 22 年度は 2 種と少なかったが、平成 24 年度以降は 8～14 種であり、今年度は過去最大となった。個体数については、平成 26 年度以降、増加していると考えられる。

(3) 泉大津沖埋立処分場

今回の調査では遊泳魚類としてメバル、カサゴ、アイナメ、アナハゼ、クロダイ、ウミタナゴ、スズメダイ、ボラ、ボラ科、ホシササノハベラ、キュウセン、ドロメ、ウマヅラハギの計 13 種が確認された。海藻の被度が高い場所で多くみられる傾向があった。

これら確認された魚類のほとんどは（ボラは回遊)、確認された護岸周辺で定住している種であり、藻場やブロック、石積みの間隙などの空間がこれら魚類の良好な生息環境となっており、ボラなど回遊魚にとっても餌場などとして利用されているものと考えられる。

なお、過年度の結果と比較すると、種類数については、平成 28 年度に 17 種類で最大となっているが、今年度調査も含めた他の年度では同程度で推移している。個体数については、平成 22 年度調査および今回の調査では、cc:51 個体以上の出現頻度が高くなっているが、全調査期間を通じて多数の魚類の生息状況がうかがわれる。

表 4-13　遊泳魚類等目視観察結果の概要

場所		神戸沖					大阪沖				
調査年度		H22	H24	H26	H28	H30	H22	H24	H26	H28	H30
個体数概要	c（11～50個体）の出現頻度	0	2	4	1	1	1	3	6	8	7
	cc（51個体以上）の出現頻度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出現種類数		7	8	10	11	11	2	8	11	8	14

場所		泉大津沖			
調査年度		H22	H26	H28	H30
個体数概要	c（11～50個体）の出現頻度	4	6	7	2
	cc（51個体以上）の出現頻度	4	1	1	3
出現種類数		11	12	17	13

注１)個体数概要においては、各魚種ごとの観察水深帯別の c:11～50 個体または cc:51 個体以上の出現頻度を集計したものであり、神戸沖埋立処分場 3 地点(A-2、A-4、A-5)、大阪沖埋立処分場 3 地点（C-1、C-2、C-3)、泉大津沖埋立処分場 4 地点（D-2、D-3、D-5、D-6）の合計である。

注２）個体数の少ない rr:1～2 個体、r:3～10 個体については種類数には集計しているが、個体数の集計は割愛した。

4-3 水質等の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

表 4-14 に神戸沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（ＤＯ）に大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されていない。

相対光量が 1%以下になる水深は 10～13m であり、概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

過年度調査と比較すると、今回の調査では A-2 と A-4 でＤＯの最低値が低くなっていたが、海藻の生育する水深帯では、ほぼ 5mg/L 以上となっており、今年度も過年度同様に海生生物に与える影響は少ないと考えられる。その他の項目については大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-14　水質等調査結果の概要（神戸沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
神戸沖	Ａ－２	平成22年5月30日	3.0	15.7 ～ 17.6	27.1 ～ 32.1	4.6 ～ 10.6	0.1 ～ 62.5
		平成24年5月26日	4.1	15.4 ～ 19.4	25.8 ～ 32.2	3.4 ～ 10.7	0.1 ～ 29.8
		平成26年6月1日	1.8	16.0 ～ 22.0	24.1 ～ 32.2	3.8 ～ 11.7	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.3	16.6 ～ 21.0	23.1 ～ 32.0	2.6 ～ 11.3	0.2 ～ 100.0
		平成30年6月2日	3.7	15.6 ～ 20.5	23.4 ～ 32.3	1.5 ～ 12.0	0.3 ～ 100.0
	Ａ－４	平成22年5月30日	2.8	15.8 ～ 17.3	27.6 ～ 32.1	4.7 ～ 11.2	0.1 ～ 73.3
		平成24年5月26日	3.8	15.6 ～ 19.0	25.5 ～ 32.1	3.6 ～ 10.3	0.1 ～ 31.8
		平成26年6月1日	3.0	16.5 ～ 24.5	25.5 ～ 32.2	4.3 ～ 11.6	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.2	16.8 ～ 20.9	22.8 ～ 32.0	2.9 ～ 10.5	0.3 ～ 100.0
		平成30年6月2日	3.8	16.1 ～ 20.7	21.7 ～ 32.4	2.5 ～ 8.0	0.0 ～ 100.0
	Ａ－５	平成22年5月30日	2.3	16.1 ～ 16.8	29.1 ～ 31.8	5.5 ～ 10.3	0.1 ～ 59.8
		平成24年5月26日	3.5	15.7 ～ 18.2	23.4 ～ 32.1	5.1 ～ 9.6	0.1 ～ 73.5
		平成26年6月1日	5.5	16.8 ～ 21.5	29.4 ～ 32.2	4.7 ～ 9.2	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月28日	2.9	17.1 ～ 20.1	27.7 ～ 32.0	3.3 ～ 8.8	0.3 ～ 100.0
		平成30年6月2日	3.8	16.8 ～ 18.9	27.3 ～ 32.4	3.9 ～ 7.9	0.1 ～ 100.0

(2) 大阪沖埋立処分場

表 4-15 に大阪沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（ＤＯ）に大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。

過年度調査と比較すると、今回の調査では C-1 と C-2 でＤＯの最低値が低くなっていたが、海藻の生育する水深帯ではほぼ 5mg/L 以上となっており、今年度も過年度同様に海生生物に与える影響は少ないと考えられる。その他の項目については大きな傾向の違いはみられなかった。

表 4-15　水質等調査結果の概要（大阪沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
大阪沖	C－1	平成22年5月29日	3.6	15.8 ～ 16.5	27.2 ～ 32.1	4.8 ～ 7.2	0.3 ～ 72.1
		平成24年6月3日	2.8	16.5 ～ 20.4	24.3 ～ 32.2	5.5 ～ 13.5	0.1 ～ 40.6
		平成26年5月31日	2.3	16.3 ～ 23.2	26.2 ～ 32.2	3.9 ～ 11.6	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月29日	4.8	17.1 ～ 20.1	26.5 ～ 32.1	3.5 ～ 8.8	0.6 ～ 100.0
		平成30年6月3日	2.5	16.3 ～ 20.3	24.5 ～ 32.5	2.9 ～ 9.5	1.2 ～ 100.0
	C－2	平成22年5月29日	3.3	16.2 ～ 16.6	28.5 ～ 32.0	5.6 ～ 8.0	0.4 ～ 66.5
		平成24年6月3日	2.8	16.5 ～ 19.4	17.3 ～ 32.4	5.2 ～ 10.9	0.1 ～ 61.7
		平成26年5月31日	2.5	16.5 ～ 24.5	26.5 ～ 32.0	5.0 ～ 12.4	0.2 ～ 100.0
		平成28年5月29日	6.2	18.1 ～ 20.5	22.6 ～ 32.1	5.7 ～ 8.1	4.5 ～ 100.0
		平成30年6月3日	4.8	16.6 ～ 20.7	25.9 ～ 32.5	3.8 ～ 8.8	1.5 ～ 100.0
	C－3	平成22年5月29日	5.3	16.0 ～ 19.0	22.4 ～ 32.1	5.3 ～ 8.6	0.1 ～ 59.9
		平成24年6月3日	5.5	16.7 ～ 18.7	30.1 ～ 32.2	6.4 ～ 9.1	0.5 ～ 67.2
		平成26年5月31日	2.5	16.1 ～ 24.4	26.8 ～ 32.2	3.4 ～ 12.6	0.0 ～ 100.0
		平成28年5月29日	7.1	17.8 ～ 19.7	28.9 ～ 32.2	5.9 ～ 7.2	1.4 ～ 100.0
		平成30年6月3日	2.1	16.6 ～ 22.2	25.9 ～ 32.5	3.8 ～ 11.4	1.2 ～ 100.0

(3) 泉大津沖埋立処分場

表 4-16 に泉大津沖埋立処分場における水質等の調査結果の概要をこれまでの調査結果と合わせて示した。

各地点において透明度、水温、塩分、溶存酸素（ＤＯ）に地点間での大きな傾向の違いはみられず、海生生物の生息に際して影響のある状況は確認されなかった。相対光量が 1%以下になる水深は 8～9m 以下であり、概ね海藻類の生育水深帯と一致していた。

過年度調査と比較すると、今回の調査では D-5 で塩分濃度の最低値が低くなっていること、同じく D-5 でＤＯの最低値が低くなっていることが挙げられるが、塩分濃度については 0m のみ低くなっていること、ＤＯについてはエコ護岸の存在する水深では 5mg/L 以上となっていること等から、海生生物に与える影響は小さいと考えられる。その他の項目については大きな傾向の違いはみられなかった。

なお、平成 22 年度については、透明度が高く、水底近くの相対光量も高くなっている。

表 4-16　水質等調査結果の概要（泉大津沖埋立処分場）

海域	地点	調査年度	透明度(m)	水温(℃)	塩分(－)	DO (mg/L)	相対光量 (%)
泉大津沖	D－2	平成22年5月21日	7.5	14.7 ～ 19.6	29.4 ～ 32.0	3.8 ～ 9.9	1.5 ～ 62.4
		平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	2.2	17.8 ～ 19.9	30.9 ～ 32.1	2.9 ～ 13.1	0.2 ～ 100.0
		平成30年5月26日	4.0	15.6 ～ 21.1	28.5 ～ 32.1	2.9 ～ 10.9	2.4 ～ 100.0
	D－5	平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	2.3	17.0 ～ 20.1	30.6 ～ 32.1	3.0 ～ 11.2	0.2 ～ 100.0
		平成30年5月26日	3.1	15.6 ～ 21.2	22.8 ～ 32.0	2.2 ～ 8.8	1.4 ～ 100.0
	D－6	平成22年5月21日	7.3	14.6 ～ 22.0	24.4 ～ 32.0	2.8 ～ 10.3	1.4 ～ 56.9
		平成26年6月2日	2.8	16.6 ～ 24.3	29.0 ～ 32.1	3.2 ～ 12.5	0.4 ～ 100.0
		平成28年6月4日	3.0	17.8 ～ 20.2	27.2 ～ 32.1	2.8 ～ 9.7	0.7 ～ 100.0
		平成30年5月26日	3.5	16.0 ～ 20.4	29.1 ～ 31.9	4.8 ～ 8.5	3.5 ～ 100.0

4-4 藻場分布の状況

(1) 神戸沖埋立処分場

付着動植物調査、代表地点（6 点）における採取・目視調査、護岸全体の目視調査によって、一年生海藻類のワカメ、シダモク、アカモク、タマハハキモクおよび多年生のヨレモクモドキからなる藻場の分布が確認された。

表 4-17 に確認された藻場構成種および藻場構成種以外の主要海藻ごとに過年度調査からの変化状況について整理した。なお、護岸配置の状況は図 4-1 のとおりである。

前回と比較してワカメ、シダモク、タマハハキモクは藻場が増大する傾向がみられた。ヨレモクモドキは前回と同程度の生育状況であった。アカモクについては、今回初めて確認された。

その他主要海藻については、緑藻のアオサ属で分布域および被度の縮小傾向が、ベニスナゴ、カバノリ、ツルツルなどの紅藻で分布域および被度の増大の傾向がみられた。

表 4-17　確認された藻場構成種等の分布状況の変化　神戸沖埋立処分場

区　分	種　　類	分布域の変化	被度の変化 （生育密度）	備　　考
藻場 構成種	ワカメ	前回より増加	前回より増加	分布域は各護岸とも増加、西護岸では初確認 被度 51%以上の濃密域が出現
	カジメ	今回未確認	今回未確認	H21 年のみ南護岸の 1 箇所で確認
	シダモク	前回より増加	前回より増加	分布域は西護岸、東護岸で増加 被度 51%以上の濃密域が出現
	アカモク	今回初確認	今回初確認	西護岸の 1 箇所で確認
	タマハハキモク	前回より増加	前回よりやや増加	西護岸で再確認、南護岸でやや減少 被度 51%以上の濃密域が出現
	ヒジキ	今回未確認	今回未確認	H21 年のみ西護岸の 1 箇所で確認
	ヨレモクモドキ	前回と同程度	前回と同程度	南護岸では未確認
その他 主要海藻	アオサ属	前回よりやや減少	前回より減少	分布域は西護岸、南護岸で減少 各護岸で被度は減少
	マクサ	前回よりやや増加	前回よりやや減少	分布域は西護岸で増加、南護岸で減少
	ススカケベニ	前回と同程度	前回と同程度	東護岸では未確認
	フダラク	前回よりやや増加	前回と同程度	分布域は東護岸で増加、西護岸では未確認
	ベニスナゴ	前回より増加	前回より増加	各護岸の広い範囲で確認、被度も増加
	カバノリ	前回より増加	前回より増加	分布域は西護岸、東護岸で増加
	ツルツル	前回より増加	前回より増加	各護岸で再確認、前回未確認

※：カジメ、ヨレモクモドキは多年生の藻場構成種（他は 1 年生）

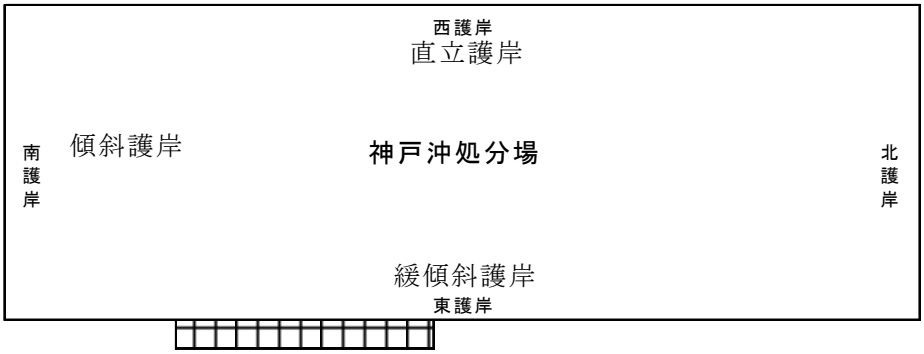


図 4-1　神戸沖埋立処分場　護岸配置

(2) 大阪沖埋立処分場

付着動植物調査、代表地点（6 点）における採取・目視調査、護岸全体の目視調査によって、一年生海藻類のワカメ、シダモク、タマハハキモクからなる藻場の分布が確認された。

表 4-18 に確認された藻場構成種および藻場構成種以外の主要海藻ごとに過年度調査からの変化状況について整理した。なお、護岸配置の状況は図 4-2 のとおりである。

前回と比較してワカメについては分布域および被度の増大が認められ、シダモク、タマハハキモクについては前回同様の藻場の形成状況が確認された。前回確認されたアカモクについては今回、確認できなかった。

その他主要海藻については、紅藻のカバノリ、マクサで分布域および被度の増大が紅藻のツルツルで分布域および被度の縮小の傾向がみられた。

表 4-18　確認された藻場構成種等の分布状況の変化　大阪沖埋立処分場

区　分	種　　類	分布域の変化	被度の変化 （生育密度）	備　　考
藻場 構成種	ワカメ	増加傾向	増加傾向	分布域、被度ともに各護岸で増加
	カジメ	今回未確認	今回未確認	H22、H24 にわずかに確認
	シダモク	前回と同程度	前回と同程度	分布域は北護岸で増加、南護岸で減少
	アカモク	前回より減少	前回より減少	今回未確認
	タマハハキモク	前回と同程度	前回と同程度	H28 と同程度
	ヨレモクモドキ	今回未確認	今回未確認	H22 に 1 箇所でのみ確認
その他 主要海藻	アオサ属	前回と同程度	前回よりやや減少	分布域は H28 と同程度
	ススカケベニ	前回より減少	前回と同程度	分布域は北護岸、西護岸で減少
	フダラク	前回より増加	前回と同程度	分布域は各護岸で増加
	ベニスナゴ	前回と同程度	前回よりやや減少	分布は北護岸で増加、南護岸で減少
	カバノリ	前回より増加	前回より増加	分布域、被度ともに各護岸で増加
	マクサ	前回より増加	前回より増加	南護岸で確認、前回は未確認
	ツルツル	前回より減少	前回より減少	分布域は北護岸で増加、西護岸、南護岸で減少

※：カジメ、ヨレモクモドキは多年生の藻場構成種（他は 1 年生）

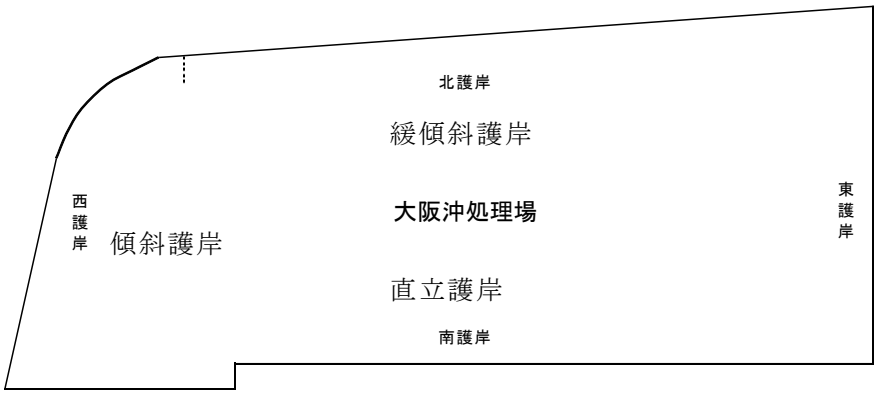


図 4-2　大阪沖埋立処分場　護岸配置

4-5 まとめ(要約)

フェニックス埋立処分場護岸における海生生物の分布状況を把握するとともに、緩傾斜護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を確認することを目的として、神戸沖埋立処分場・大阪沖埋立処分場において、坪刈りと目視による付着動植物調査、遊泳魚類等調査、水質調査、藻場分布調査を平成 30 年春季に実施した。

(1) 神戸沖埋立処分場

神戸沖埋立処分場護岸では、付着植物（海藻）として緩傾斜護岸の平均水面付近では緑藻のアオサ属が多くみられた。藻場構成種となる大型褐藻では-2～-3m 付近の緩傾斜護岸でワカメとシダモクが、傾斜護岸の-1～-5m 付近でワカメが確認された。この他、各護岸の-2m 以深では紅藻のイギス目が連続的に生育していた。

付着動物は平均水面より上部では移動性の貝類であるアラレタマキビが多く確認された。平均水面付近では固着性の二枚貝であるムラサキイガイや固着性のイワフジツボなどが多くみられた。-1～-3m では、ムラサキイガイや固着性のカンザシゴカイ科が多くみられた。-1m 以深では移動性のイトマキヒトデ、キヒトデ、マナマコなどが多くみられた。

魚類ではメバル、カサゴ、アイナメ、クロダイ、メジナ、スズメダイ、キュウセンなどの定住性の魚類が各護岸の-2～-11m 付近で確認された。

水質として、溶存酸素は各護岸の水深帯 4～13m 以浅では何れも 5mg/L 以上であり、5mg/L 以下の水深帯でも生物の生息・生育は確認された。海藻類の生育制限因子となる光量については、護岸の設置されている 10m 以浅の水深帯では相対光量がほぼ 1.0%以上となっていた。以上から、処分場周辺の水質は動植物の生息・生育環境として問題のない状況であると言える。

藻場分布調査では、大型褐藻として一年生のワカメ、シダモク、アカモク、タマハハキモク、多年生のヨレモクモドキの分布が確認された。中でもワカメ、シダモク、タマハハキモクが各護岸で広範囲に確認された。多年生のヨレモクモドキは西護岸と東護岸で小規模に生育しており、アカモクは今年度が初確認であった。

前回平成 28 年度調査と比較すると、ワカメ、シダモク、タマハハキモクのの分布域の拡大、被度の増加など藻場の増大が確認され、特に直立護岸である西護岸での増大が顕著であった。平成 28 年度には藻場の縮小がうかがわれており、今後の継続調査でこうした状況の推移を確認していく必要がある。

(2) 大阪沖埋立処分場

大阪沖埋立処分場護岸では、付着植物（海藻）として、藻場構成種となる大型褐藻類では、各護岸の-1～-5m でワカメ、シダモク、タマハハキモクが確認された。この他、-1～-3m 付近の緩傾斜および傾斜護岸ではフダラク、ツルツルなどの紅藻類が多く、-5m 以深の各護岸ではサンゴモ科、イワノカワ科、ベニスナゴなどの紅藻類が多くみられた。

付着動物は各護岸の平均水面より上部では移動性の巻貝であるアラレタマキビが多くみられた。平均水面付近では固着性二枚貝のムラサキイガイ、イタボガキ科、移動性の巻貝であるコモレビコガモガイ、カラマツガイなどが多く生息していた。-1～-3m のケーソンや護岸ブロック表面ではムラサキイガイや固着性のカンザシゴカイ科などの被度が高かった。-4m 以深では固着性の苔虫綱や移動性のキヒトデが多くみられた。

魚類ではメバル、クロダイ、メジナ、ウミタナゴ、スズメダイなどの定住性の魚類が各護岸の-2～-9m 付近で多く確認された。

水質として､溶存酸素は各護岸の水深帯 5～11m 以浅では何れも 5mg/L 以上であり、5mg/L 以下の水深帯でも生物の生息・生育は確認された。海藻類の生育制限因子となる光量については、護岸の設置されている 10m 以浅の水深帯では相対光量が 1.0%以上となっていた。以上から、処分場周辺の水質は動植物の生息・生育環境として問題のない状況であると言える。

藻場分布調査では、大型褐藻として一年生のワカメ、シダモク、タマハハキモクの分布が確認された。ワカメ､シダモク､タマハハキモクが各護岸で広範囲に確認され、前回調査と比較して、ワカメについては分布域、被度の増加傾向がみられた。また、今回調査では前回確認されたアカモクは確認されていない。

大阪沖埋立処分場は、平成 21 年 7 月の護岸概成以降 9 年近くが経過した。藻場の増大、遊泳魚類等の個体数の増加傾向が認められ、海域環境、生物の生息基盤としての護岸環境の安定化が進んでいると考えられる。本調査を通じて、今後の推移を確認しておく必要がある。

(3) 泉大津沖埋立処分場

泉大津沖埋立処分場護岸では、付着植物（海藻）として、藻場構成種となる大型褐藻では-1～-5m でワカメが多く確認された。この他、傾斜護岸の-1m 付近では緑藻のアオサ属が、-3m 以深ではムカデノリ、カバノリ、タオヤギソウなどの紅藻が多くみられ、エコ岸壁のケーソン部分の-3～-5m ではタオヤギソウが繁茂していた。

付着動物は各護岸の平均水面より上部では移動性の巻貝であるアラレタマキビが多く確認された他、固着性のイワフジツボも部分的に多かった。平均水面付近では固着性の二枚貝であるムラサキイガイ、移動性の巻貝であるヨメガカサ、コモレビコガモガイ、アラレタマキビ、イボニシなどが多く確認された。-1m 以深ののケーソンや護岸ブロック表面ではムラサキイガイ、固着性のカンザシゴカイ科、苔虫綱などが多くみられ、-2m 以深では、移動性のイトマキヒトデ、キヒトデなどが多くみられた。遊水室内では、固着性のイソギンチャク目、ムラサキイガイ、カンザシゴカイ科、苔虫綱や移動性の巻貝であるレイシガイ、移動性のイトマキヒトデ、キヒトデ、サンショウウニなどが多く生息していた。

魚類ではメバル、クロダイなどの定住性の魚類が各護岸の-2～-11m 付近及び遊水室内で多く確認された。その他、ボラ科やドロメの稚仔魚がエコ岸壁周辺で多数確認されており、これら魚類の生育場としてエコ岸壁が機能していると考えられる。

水質として、溶存酸素は各護岸が設置されている水深 7m 以浅では何れも 5mg/L 以上であり、海藻類の生育制限因子となる光量について、護岸の設置されている 12m 以浅の水深帯において相対光量が 1.0%以上となっていた。また、河川の影響等による塩分の低下した地点もみられたが、動植物の生息・生育環境として問題のない状況であった。